東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告

— 平成14年度 —

2003. 3

東大阪市教育委員会

東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告

— 平成14年度 —

2003. 3

東大阪市教育委員会

例　言

1.　本書は、東大阪市教育委員会文化財課が、東大阪市建設局下水道部の委託を受け、平成14年1月～12月末日まで実施した公共下水道管きょ築造工事及び雨水貯留工事に伴う埋蔵文化財調査の概要報告である。

2.　本書には額田山古墳群、山畑古墳群・遺跡、日下遺跡、法通寺跡、辻子谷遺跡、皿池遺跡、河内寺跡、出雲井遺跡群、芝ヶ丘遺跡、段上遺跡、久宝寺遺跡、五合田遺跡、西ノ辻遺跡、縄手遺跡、芝坊主山遺跡、鬼塚遺跡、鬼虎川遺跡、貝花遺跡、馬場川遺跡、浄土寺谷古墳群、善根寺遺跡、上六万寺遺跡、神並遺跡、正興寺山遺跡、池島東遺跡、岩滝山遺跡、桜井古墳群、六万寺古墳群、北鳥池遺跡、中垣内遺跡、市尻遺跡、弥刀遺跡、若宮古墳群、植附遺跡の概要を収録した。

3.　現場は才原金弘・木村健明・岩間俊之・吉田綾子・吉岡賢吾、横山佐夜子、遺物整理は現場担当者がおこない、報告の分担は各章の表に記した。

4.　本書に収録した現場写真は、各担当者が撮影し、遺物は株式会社コミュニカに委託して実施した。

5.　土色名に数字が入っているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じている。

6.　調査の実施にあたっては、東大阪市建設局下水道部のご協力のもと、施工業者ならびに近隣市民の方々のご協力を賜った他、現場作業および整理作業には井上成、上本洋、内藤隆、森山太一、中谷勇介、永田純一、安部賢治、吉川和成、石松直、大西健吾、松本始、渡邊角好、藤本留美、大山えりか、松原愛、小野まゆみ、佐々木里美、西川奈央子、川田純子、奥山太佳子、北野晴香、山本笑那、杉本淳子、畑中愛、吉崎麻里子が従事した。これらの方々に記して感謝いたします。

目　次

第 1 章　平成 14 年度の下水道関係調査について ---- 1
第 2 章　額田山古墳群の調査 ---- 4
第 3 章　額田山古墳群の調査 ---- 6
第 4 章　山畑古墳群の調査 ---- 8
第 5 章　日下遺跡の調査 ---- 12
第 6 章　法通寺跡（第 2 次）・辻子谷遺跡の調査 ---- 14
第 7 章　山畑古墳群の調査 ---- 25
第 8 章　皿池遺跡・河内寺跡の調査 ---- 27
第 9 章　出雲井遺跡群の調査 ---- 32
第 10 章　芝ヶ丘遺跡の調査 ---- 34
第 11 章　日下遺跡の調査 ---- 36
第 12 章　段上遺跡の第 14 次調査 ---- 38
第 13 章　久宝寺遺跡の調査 ---- 42
第 14 章　五合田遺跡の第 4 次調査 ---- 45
第 15 章　西ノ辻遺跡の調査 ---- 50
第 16 章　芝ヶ丘遺跡の調査 ---- 52
第 17 章　芝ヶ丘遺跡の調査 ---- 54
第 18 章　縄手遺跡の調査 ---- 59
第 19 章　芝坊主山遺跡の調査 ---- 64
第 20 章　鬼塚・鬼虎川遺跡の調査 ---- 66
第 21 章　貝花・馬場川遺跡（第 14 次）、浄土寺谷古墳群の調査 ---- 68
第 22 章　善根寺遺跡の調査 ---- 74
第 23 章　上六万寺遺跡の第 7 次調査 ---- 76
第 24 章　神並・正興寺山遺跡の調査 ---- 83
第 25 章　池島東遺跡の調査 ---- 85
第 26 章　岩滝山遺跡、桜井・六万寺古墳群の調査 ---- 87
第 27 章　久宝寺遺跡の第 2 次調査 ---- 89
第 28 章　山畑遺跡・古墳群の調査 ---- 96
第 29 章　鬼塚遺跡の調査 ---- 98
第 30 章　北鳥池遺跡の調査 ---- 100
第 31 章　中垣内遺跡の調査 ---- 102
第 32 章　市尻遺跡・東高野街道の調査 ---- 104
第 33 章　弥刀遺跡の第 9 次調査 ---- 106
第 34 章　神並遺跡・若宮古墳群の調査 ---- 129
第 35 章　植附遺跡の調査 ---- 131
第 36 章　鬼塚遺跡の調査 ---- 135

第１章　平成14年度の下水道関係調査について

下水道管埋設工事に伴う発掘調査を平成11年度より東大阪市教育委員会が実施しており、５年が経過した。下水道工事はほとんどが東地区を中心におこなわれた。

今年度の調査件数及び調査内容の概略は下記の調査一覧表に記した。調査にあたり下水道部と文化財課で協議したが、今年も工事は道幅の狭い旧集落内や道路の迂回路が確保できない場所が多く立会調査が中心になった。弥刀遺跡は部分的ではあるが発掘調査を実施することができた。また、交通量の問題から夜間工事になり、調査を断念した遺跡もある。

今年度の調査成果は弥刀遺跡で平安～鎌倉時代の集落跡を確認したことや調査例の少ない久宝寺遺跡で古墳時代の遺物を検出したことなどが上げられる。

今回の収録した調査は平成14年１月１日より12月31日までに実施したものを対象とし、それ以後のものは次年度に報告することにした。

平成 14 年度下水道工事に伴う埋蔵文化財の調査一覧表

平成 14 年 12 月 31 日

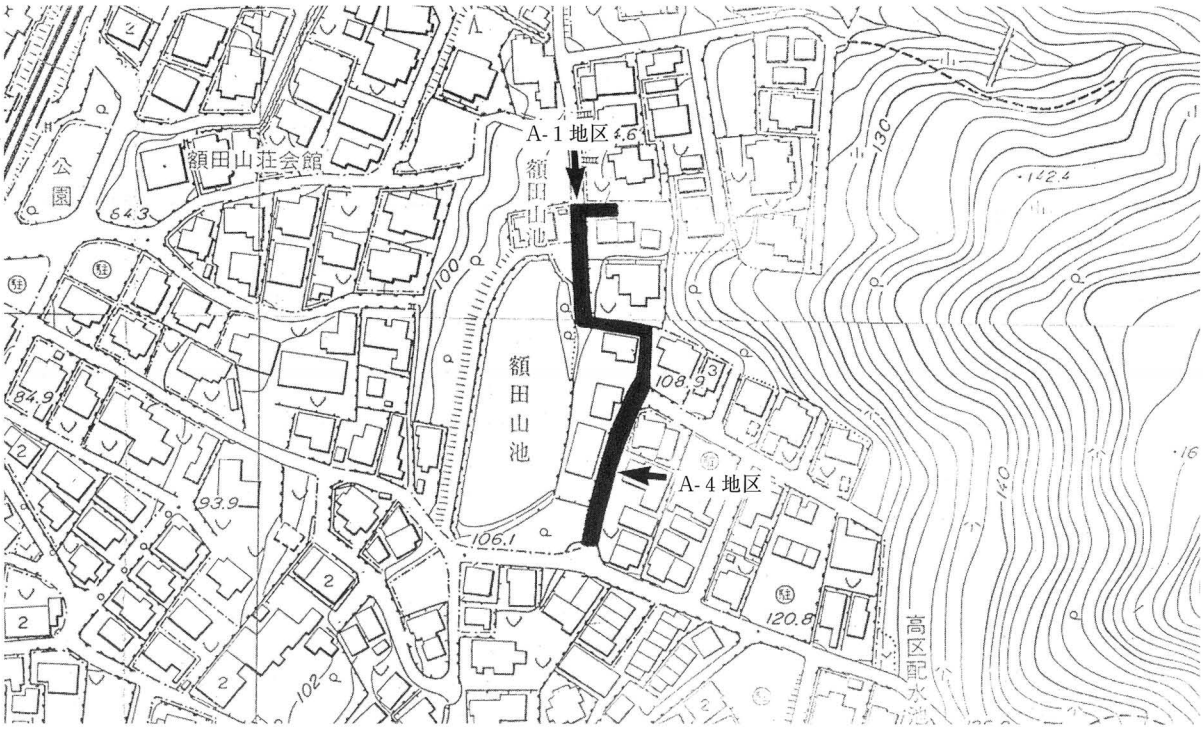
	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
1	13－115	下事68	出雲井遺跡群	平成 12 年度公共下水道第 12－３工区管きょ築造工事	出雲井町	立会	13.9.26～	調査中。
2	13－227	下事130	額田山古墳群	平成 12 年度公共下水道第 12－4 工区管きょ築造工事	山手町 1954～2142	立会	14.3.4～14.3.28	第２章で報告。
3	13－228	下事131	額田山古墳群	平成 12 年度公共下水道第 12－５工区管きょ築造工事	山手町 2142－4～2141	立会	14.5.13～14.6.21	第３章で報告。
4	13－449	下事201	水走氏館跡	平成 12 年度公共下水道第 12－3 工区管きょ築造工事	五条町 1319、1213	立会	14.3.14～	調査中
5	13－450	下事217	河内寺跡	平成 12 年度公共下水道第 12－3 工区管きょ築造工事	客坊町 700 地先	立会	同上	同上
6	13－451	下事216	客坊山古墳群	平成 12 年度公共下水道第 12－3 工区管きょ築造工事	客坊町 1570 地先	立会	同上	同上
7	13－452	下事218	山畑古墳群	平成13年度公共下水道第３工区管きょ築造工事	瓢箪山町	立会	13.8.29～14.7.9	第４章で報告。
8	13－487	下事228	日下遺跡	平成12年度公共下水道第212工区管きょ築造工事	日下町 1163 3 丁目 1169 他	立会	14.1.28～14.3.14	第５章で報告。
9	13－575	下事259	法通寺跡・辻子谷遺跡	平成 13 年度公共下水道第 22 工区管きょ築造工事	中石切町 1 丁目 641～596 地先	立会	14.2.25～14.4.18	第６章で報告。
10	13－576	下事253	山畑古墳群	平成 13 年度公共下水道第５工区管きょ築造工事	上四条町 380～371 地先	立会	13.11.19～14.3.18	第７章で報告。
11	13－577	下事245	皿池遺跡・河内寺跡	平成 13 年度公共下水道第 21 工区管きょ築造工事	河内町 334、336、438～434 地先	立会	13.12.4～14.6.12	第８章で報告。
12	13－659	下事309	出雲井遺跡群	平成 12 年度公共下水道第 12－３追加工区管きょ築造工事	出雲井町 267～262	立会	13.11.29～14.8.2	第９章で報告。
13	14－23	下事11	芝ヶ丘遺跡	平成 13 年度公共下水道第 13 工区管きょ築造工事	中石切町 4 丁目 2175～2137 他	立会	14.1.7～14.1.11	第 10 章で報告。
14	14－24	下事12	日下遺跡	平成 13 年度公共下水道第 19 工区管きょ築造工事	日下町 3 丁目 1175～1153	立会	14.2.1～14.4.8	第 11 章で報告。
15	14－25	下事9	段上遺跡	平成13年度公共下水道第210工区管きょ築造工事	下六万寺町３丁目 1145～1128	立会	14.4.8～14.6.3	第 12 章で報告。
16	14－69	下事30	久宝寺遺跡	平成 14 年度公共下水道大蓮東小学校貯留浸透工事	大蓮南 2 丁目 325～337	確認	14.2.14	第 13 章で報告。

	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
17	14－70	下事28	東高野街道・西代・コモ田遺跡	平成13年度公共下水道第33工区管きょ築造工事	六万寺町2丁目413～横小路町4丁目765	慎重		夜間工事のため慎重工事に変更。工事実施。
18	14－71	下事29	五合田遺跡	平成13年度公共下水道第204工区管きょ築造工事	御幸町715地先	立会	14.7.22～14.10.11	第14章で報告。
19	14－72	下事27	西ノ辻遺跡	平成13年度公共下水道第26工区管きょ築造工事	弥生町1275他、東山町1444他	立会	14.2.13～14.4.8	第15章で報告。
20	14－88	下事38	鬼塚遺跡	平成13年度公共下水道第59工区管きょ築造工事	箱殿町・豊浦町	立会	14.6.19～	調査中
21	14－138	下事50	芝ヶ丘遺跡	平成13年度公共下水道第31工区管きょ築造工事	北石切町1872-44他	立会	14.3.4～14.6.7	第16章で報告。
22	14－139	下事49	芝ヶ丘遺跡	平成13年度公共下水道第20工区管きょ築造工事	日下町2・3丁目、北石切町1413-31他	立会	14.3.25～14.5.30	第17章で報告。
23	14－169	下事59	東高野街道	平成13年度公共下水道第1工区管きょ築造工事	六万寺町3丁目1093-2,1126-2、577-1	慎重		工事実施。
24	14－170	下事60	縄手遺跡	平成13年度公共下水道第6工区管きょ築造工事	南四条町～六万寺町3丁目742-1他	立会	14.4.2～14.11.12	第18章で報告。
25	14－199	下事74	和泉遺跡	平成13年度公共下水道第66工区管きょ築造工事	中石切町5丁目2881、2880-1・2	慎重		夜間工事のため慎重工事に変更。工事実施。
26	14－200	下事75	芝坊主山遺跡	平成13年度公共下水道第50工区管きょ築造工事	東石切町4丁目1672-53他	立会	14.7.25～14.10.25	第19章で報告。
27	14－201	下事73	和泉遺跡	平成13年度公共下水道第56工区管きょ築造工事	布市町2丁目567-1他	発掘	14.8.19～	調査中
28	14－218	下事79	植附遺跡	平成13年度公共下水道第209工区管きょ築造工事	西石切町2・3丁目283-1他	立会	14.5.14～14.12.19	第35章で報告。
29	14－305	下事109	鬼虎川・鬼塚遺跡	平成13年度公共下水道第13－2工区管きょ築造工事	宝町1192-8～1811-3	慎重		工事実施。
30	14－306	下事107	船山遺跡	平成13年度公共下水道第46工区管きょ築造工事	六万寺町3丁目610-1～1040-1	立会	14.7.12～14.10.16	延べ16日の立会調査を実施。地表下1.5mまで確認したが遺構・遺物は検出できなかった。
31	14－307	下事106	鬼塚・鬼虎川遺跡	平成13年度公共下水道第52工区管きょ築造工事	新町433他	立会	14.6.3～14.8.6	第20章で報告。
32	14－308	下事108	貝花・馬場川遺跡・浄土寺谷古墳群	平成13年度公共下水道第67工区管きょ築造工事	横小路町2・3丁目437他	立会	14.5.22～14.11.14	第21章で報告。
33	14－324	下事112	善根寺遺跡	平成13年度公共下水道第34工区管きょ築造工事	善根寺町1丁目	立会	14.7.15～14.8.8	第22章で報告。
34	14－325	下事113	上六万寺遺跡	平成13年度公共下水道第43工区管きょ築造工事	南四条町	立会	14.7.5～14.8.26	第23章で報告。
35	14－368	下事117	東高野街道	平成13年度公共下水道第72工区管きょ築造工事	日下町1349-2～1356-4	慎重		工事実施。
36	14－375	下事122	神並・正興寺山遺跡	平成13年度公共下水道第41区管きょ築造工事	東石切町1～2丁目893-2他	立会	14.7.19～14.11.6	第24章で報告。
37	14－428	下事131	池島東遺跡	平成13年度公共下水道第207工区管きょ築造工事	池島町4丁目2045-2他	立会	14.9.10～14.11.9	第25章で報告。

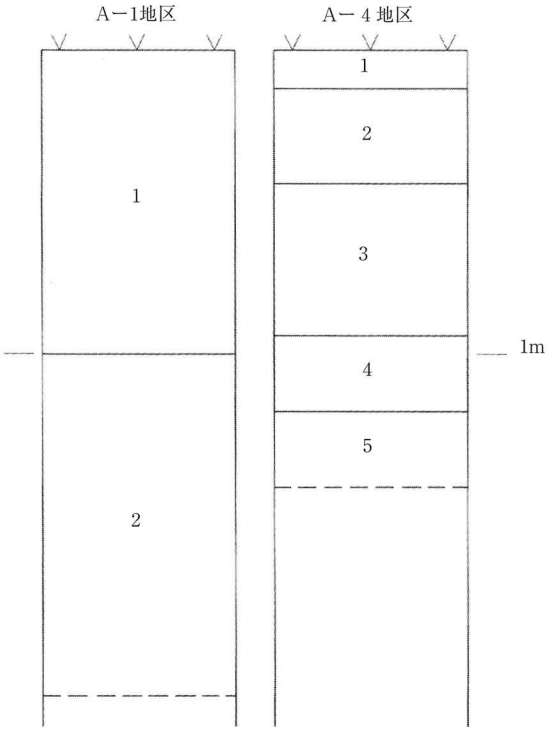
	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
38	14－429	下事132	池島東遺跡	平成13年度公共下水道第208工区管きょ築造工事	池島町1丁目2053-1～2053-9	立会		業者の事前着工により、調査できなかった。
39	14－430	下事130	市尻遺跡・東高野街道	平成13年度公共下水道第57工区管きょ築造工事	四条町602-2他	立会	14.11.26～14.12.7	第32章で報告。
40	14－431	下事129	岩滝山遺跡・桜井・六万寺古墳群	平成13年度公共下水道第44工区管きょ築造工事	六万寺町1丁目927他	立会	14.7.4～14.9.9	第26章で報告。
41	14－457	下事145	足立氏館跡	平成13年度公共下水道第71工区管きょ築造工事	善根寺町6丁目26・27	立会		平成14年7月24日受付
42	14－458	下事146	弥刀遺跡	平成14年度弥刀小学校雨水貯留事業	友井1丁目64他	発掘	14.7.22～14.12.9	第33章で報告。
43	14－459	下事147	久宝寺遺跡	平成14年度大連東小学校雨水貯留事業	大連南2丁目326他	立会	14.7.23～14.11.8	第27章で報告。
44	14－512	下事164	鶴立遺跡	平成14年度公共下水道第102工区管きょ築造工事	鷹殿町86	立会	14.9.12～14.9.18	延べ2日の立会調査を実施。地表下、1.5mまで盛土なので埋蔵文化財への影響はない。
45	14－513	下事165	縄手・五合田遺跡	平成13年度公共下水道第211工区管きょ築造工事	末広町800-7～814-20、931-9～931-11他	慎重		工事は既設管の入替で夜間。工事実施。
46	14－531	下事172	神並遺跡・若宮古墳群	平成14年度公共下水道第6工区管きょ築造工事	東山町1113-1他	立会	14.11.27～14.12.17	第34章で報告
47	14－532	下事167	山畑遺跡・古墳群	平成13年度公共下水道第68工区管きょ築造工事	上四条町1727～2043	立会	14.9.13～14.11.18	第28章で報告。
48	14－564	下事174	花草山古墳群	平成13年度公共下水道第69工区管きょ築造工事	上四条町1202-7～1415-3	立会	14.11.26～	調査中
49	14－565	下事178	鬼塚遺跡	平成13年度公共下水道第13－6工区管きょ築造工事	南荘町～立花町1806-7～293-4	立会	14.12.27	第36章で報告。
50	14－566	下事179	鬼塚遺跡	平成13年度公共下水道第13－7工区管きょ築造工事	新町～箱殿町、豊浦町	立会	14.10.4～14.10.7	第29章で報告。
51	14－567	下事180	コモ田遺跡	平成13年度公共下水道第工区管きょ築造工事	下六万寺1丁目420-4他	立会	14.9.26～	調査中
52	14－649	下事198	北島池遺跡	平成14年度公共下水道第13工区管きょ築造工事	下六万寺町3丁目1213-8～1239-2	立会	14.10.28	第30章で報告。
53	14－650	下事196	日下遺跡	平成14年度公共下水道第8工区管きょ築造工事	日下町2丁目1122-2～1421-1	立会	14.11.19～	調査中
54	14－651	下事197	中垣内遺跡	平成14年度公共下水道第5工区管きょ築造工事	善根寺町4丁目310-2他	立会	14.10.17～14.11.14	第31章で報告。
55	14－674	下事201	芝ヶ丘遺跡	平成13年度公共下水道第20工区管きょ築造工事	中石切町4丁目1413-9～1413-31他	立会	14.11.29～	調査中
56	14－675	下事203	孤塚・皿池遺跡	平成14年度公共下水道第21工区管きょ築造工事	喜里川町85-1～101-9	立会		平成14年10月24日受付
57	14－684	下事205	半堂遺跡	平成14年度公共下水道第12工区管きょ築造工事	六万寺町1丁目172-2他	立会		平成14年10月29日受付
58	14－722	下事217	西ノ辻・額田寺跡	平成14年度公共下水道第11工区管きょ築造工事	東山町728他	立会		平成14年11月21日受付
59	14－765	下事237	瓜生堂遺跡	平成14年度公共下水道第109工区管きょ築造工事	瓜生堂3丁目、若江西新町1丁目	慎重		平成14年12月10日受付

第２章　額田山（ぬかたやま）古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成12年度公共下水道第12－４工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市山手町 1954～2142
3	調査面積	125㎡
4	調査期間	平成14年３月４日～３月28日（延べ８日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の北東である。当地点は額田山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ147ｍの間であり、開削工法である。



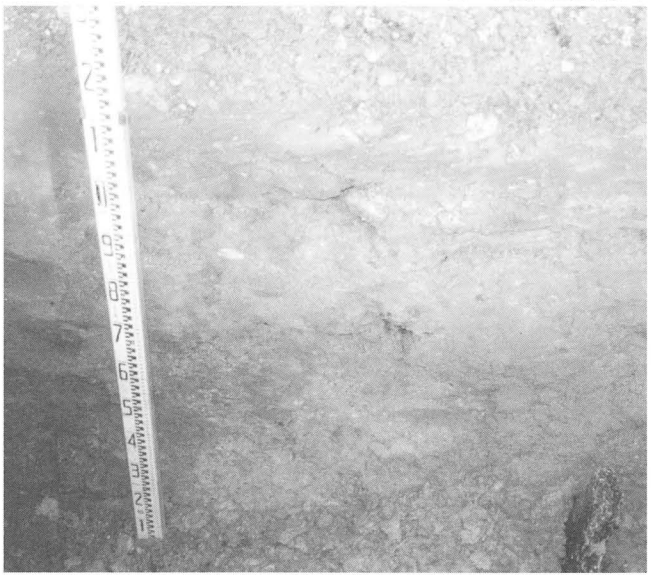
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地近景

A－1地区土層断面


A－4地区土層断面

1．調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄褐色(10YR5/6)粗粒砂混じりシルト。

A－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y3/2)シルト～粘土。

第3層　褐色(10YR4/6)細粒砂混じりシルト。

第4層　オリーブ黒色(10Y3/2) 細粒砂混じりシルト。

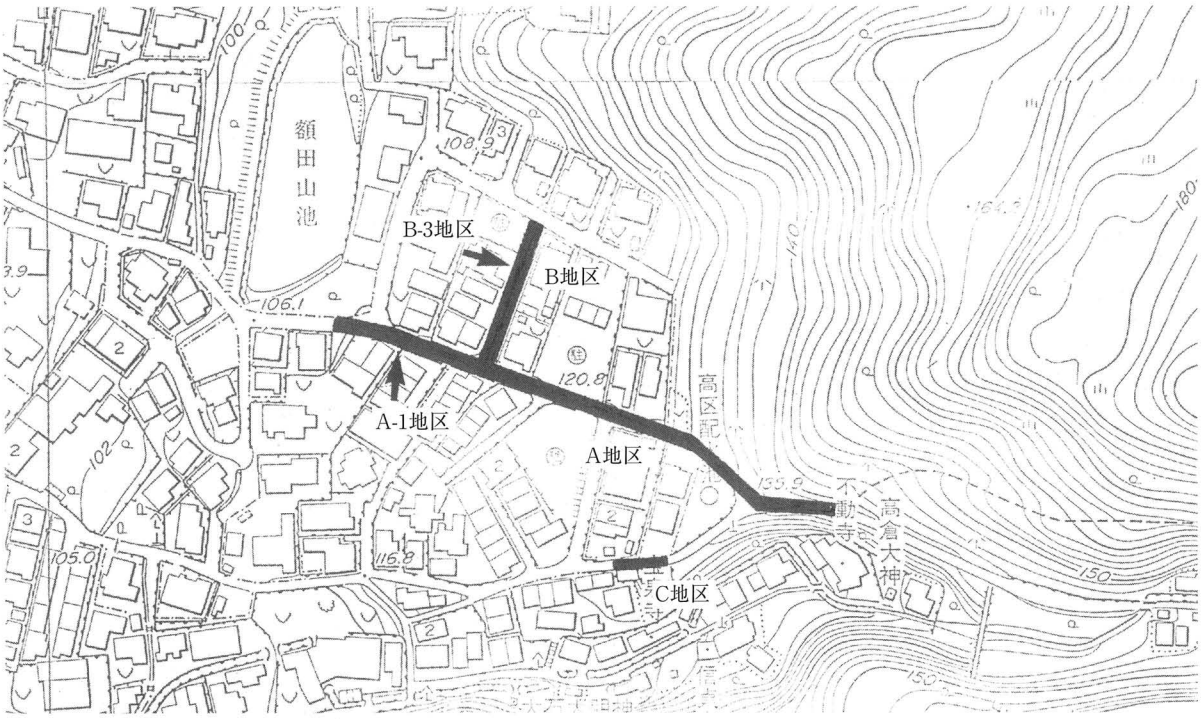
第5層　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じりシルト。

2．まとめ

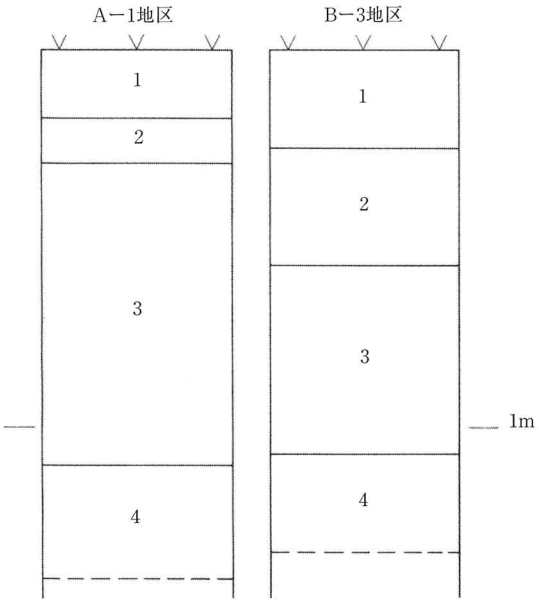
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第３章　額田山（ぬかたやま）古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成12年度公共下水道第12－５工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市山手町 2142－4～2141
3	調査面積	207㎡
4	調査期間	平成14年５月13日～６月21日（延べ９日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は12－12－４工区（第２章）の西である。当地点は額田山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ243mの間であり、開削工法である。

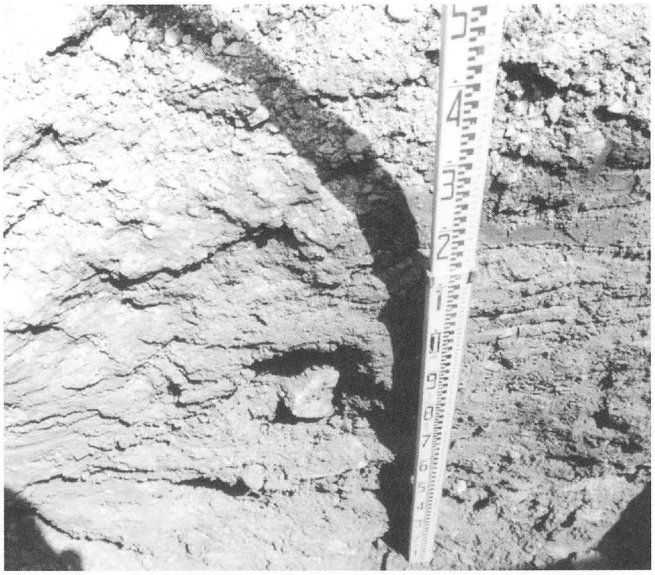


調査地点位置図（1/2500）

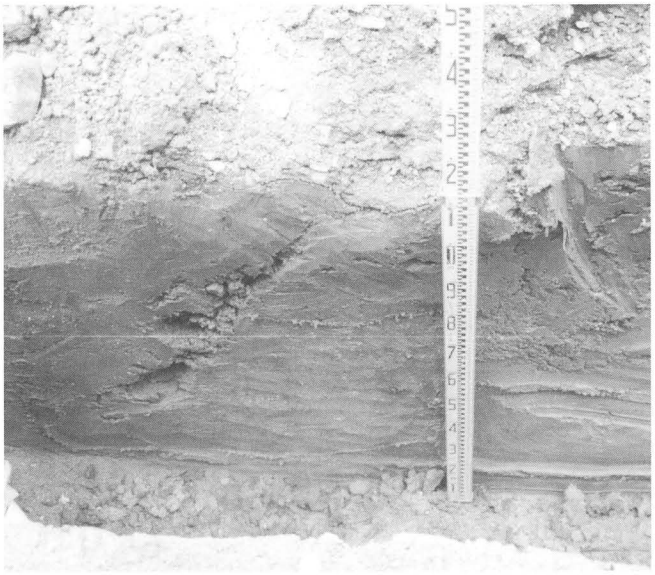


土層断面柱状図

調査地遠景



A－1地区土層断面



B－3地区土層断面

1．調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)シルト。

第3層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト～粘土。

第4層　褐色(10YR4/4)シルト混じり粗粒砂。

B－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗緑灰色(7.5GY3/1)シルト。

第3層　暗緑灰色(7.5GY3/1)細礫混じりシルト。

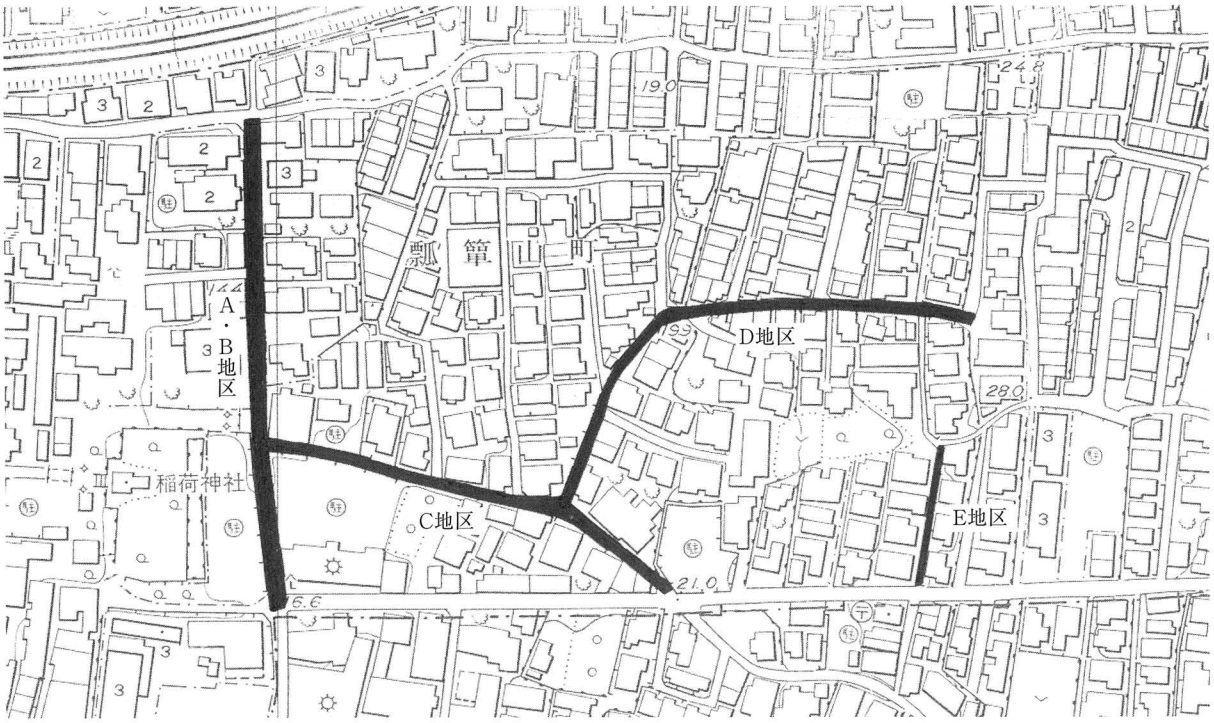
第4層　にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト。

2．まとめ

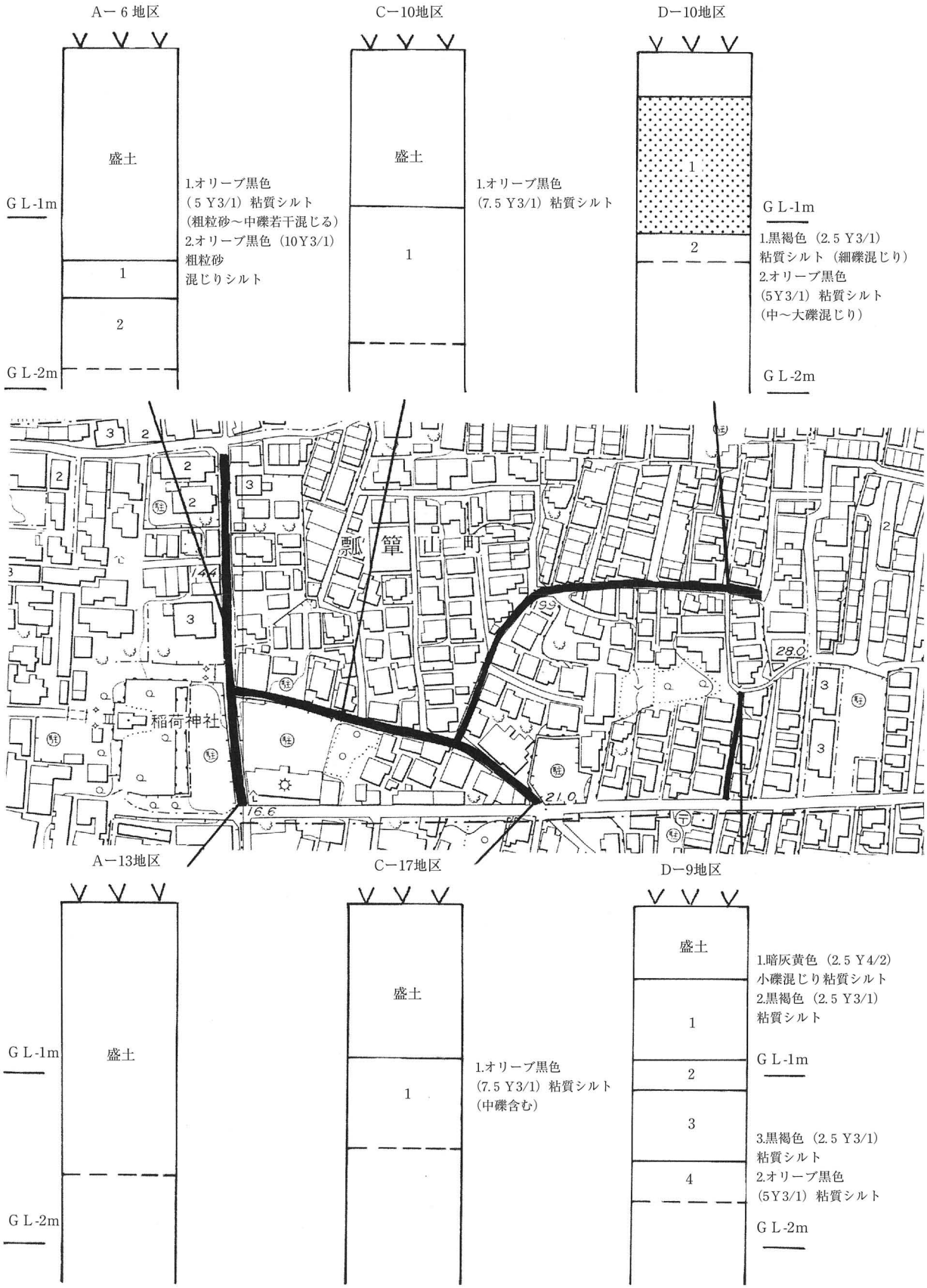
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第４章　山畑（やまはた）古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第３工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市瓢箪山町
3	調査面積	826㎡
4	調査期間	平成13年８月29日～平成14年７月９日（延べ81日）
5	報告担当	木村
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は瓢箪山稲荷神社の東と北である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.1mで長さ932mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）


A－6地区
C－10地区
D－10地区
盛土
1.オリーブ黒色
（5Y3/1）粘質シルト
（粗粒砂～中礫若干混じる）
2.オリーブ黒色（10Y3/1）
粗粒砂
混じりシルト
1.オリーブ黒色
（7.5Y3/1）粘質シルト
1.黒褐色（2.5Y3/1）
粘質シルト（細礫混じり）
2.オリーブ黒色
（5Y3/1）粘質シルト
（中～大礫混じり）
GL-1m
GL-2m
稲荷神社
A－13地区
C－17地区
D－9地区
1.オリーブ黒色
（7.5Y3/1）粘質シルト
（中礫含む）
1.暗灰黄色（2.5Y4/2）
小礫混じり粘質シルト
2.黒褐色（2.5Y3/1）
粘質シルト
3.黒褐色（2.5Y3/1）
粘質シルト
2.オリーブ黒色
（5Y3/1）粘質シルト

土層断面柱状図

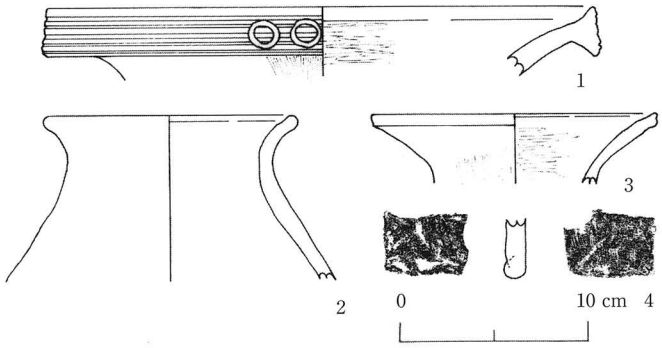
1．調査の概要

調査地は瓢箪山稲荷神社の東側に位置する。調査は便宜上Ａ～Ｅ地区と呼称して行った。Ａ地区とＢ地区は同じ道路の両端に管を入れているため位置図では同一道路に二つの地区名がつけられている。全体として地表から１ｍほどで地山である礫混じり粘質シルト層に到達する。遺物はほとんどの地区で確認できなかったが、Ｄ－10地区では弥生時代後期の遺物包含層を確認することができ、遺物もまとまって出土した。

2．出土遺物

弥生土器、埴輪の計４点を図示した。

弥生土器（１～３）　胎土中に角閃石を多く含むものについては「生駒西麓の胎土」とし、それ以外については「非生駒西麓の胎土」と記述する。いずれも壷である。１は口径28.6cm、残存器高3.8cm。口縁端部は上下に拡張して面をなし、５条の凹線文を施したのち竹管文を施す。外面調整タテハケ、内面調整ミガキ。生駒西麓の胎土。２は口径12.6cm、残存器高8.8cm。口縁端部は丸くおさめ、やや上方につまみ上げる。摩滅が著しいため調整は不明である。長石を非常に多く含む非生駒西麓の胎土。３は口径15.0cm、残存器高3.6cm。口縁短部は面をなし、やや上方につまみ上げる。外面調整ハケ、内面調整ミガキ。生駒西麓の胎土。



出土遺物実測図

埴輪（４）　４は基底部である。外面調整タテハケ、内面調整ナデ。

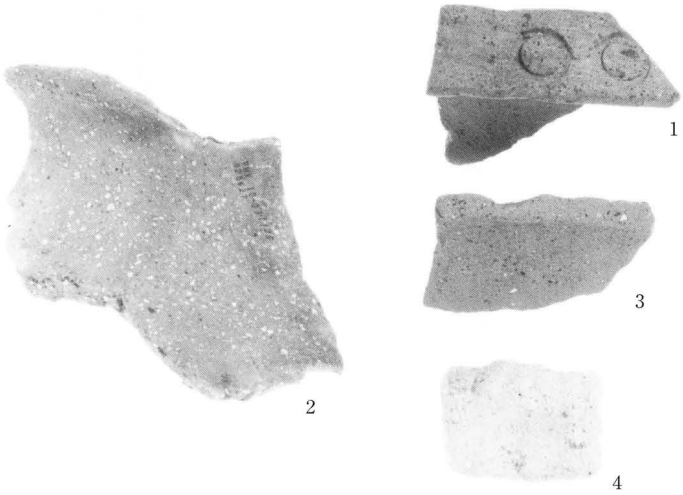
3．まとめ

ほとんどの地点では遺物や遺構を確認することが出来なかったが、調査範囲での最も標高の高い所で遺物が出土した。弥生土器は後期のものであり、調査地点上方（東側）に位置する山畑遺跡からの遺物であろう。山畑遺跡は弥生時代のいわゆる高地性集落でこれまでに竪穴住居などの遺構が検出されている。埴輪は１点だけの出土であり、小片のため時期などは確定できない。周囲に存在する古墳から流出したものであろう。

Ａ―６地区土層断面

調査地遠景

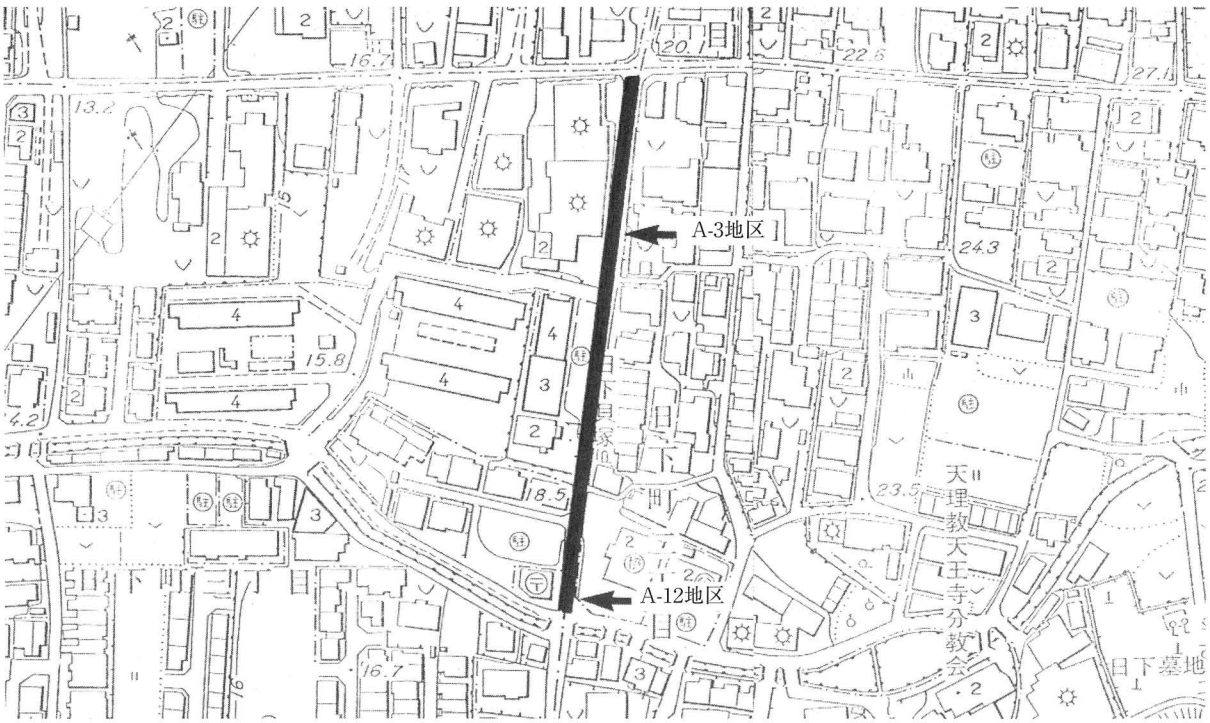
D—8地区土層断面



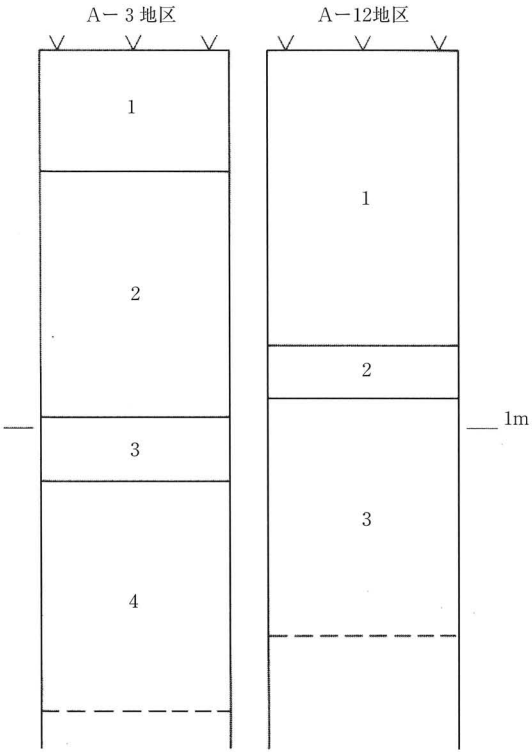
出土遺物（弥生土器・埴輪）

第５章　日下（くさか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成12年度公共下水道第 212工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町２丁目 1163、３丁目1169他
3	調 査 面 積	265㎡
4	調 査 期 間	平成14年１月28日～３月14日（延べ18日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は日下郵便局の東に面する。当地点は日下遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ210ｍの間であり、開削工法である。



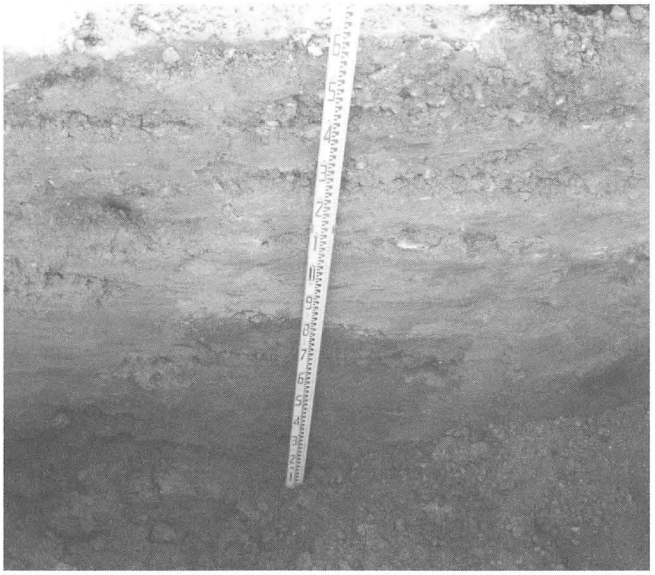
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

A－3地区土層断面



A－12地区土層断面

1．調査の概要

A－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗褐色(10YR3/3)細～粗粒砂。

第3層　黒色(7.5Y2/1)シルト混じり細粒砂。

第4層　黒褐色(10YR3/2)シルト混じり細～中粒砂。

A－12地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)シルト～粗粒砂。

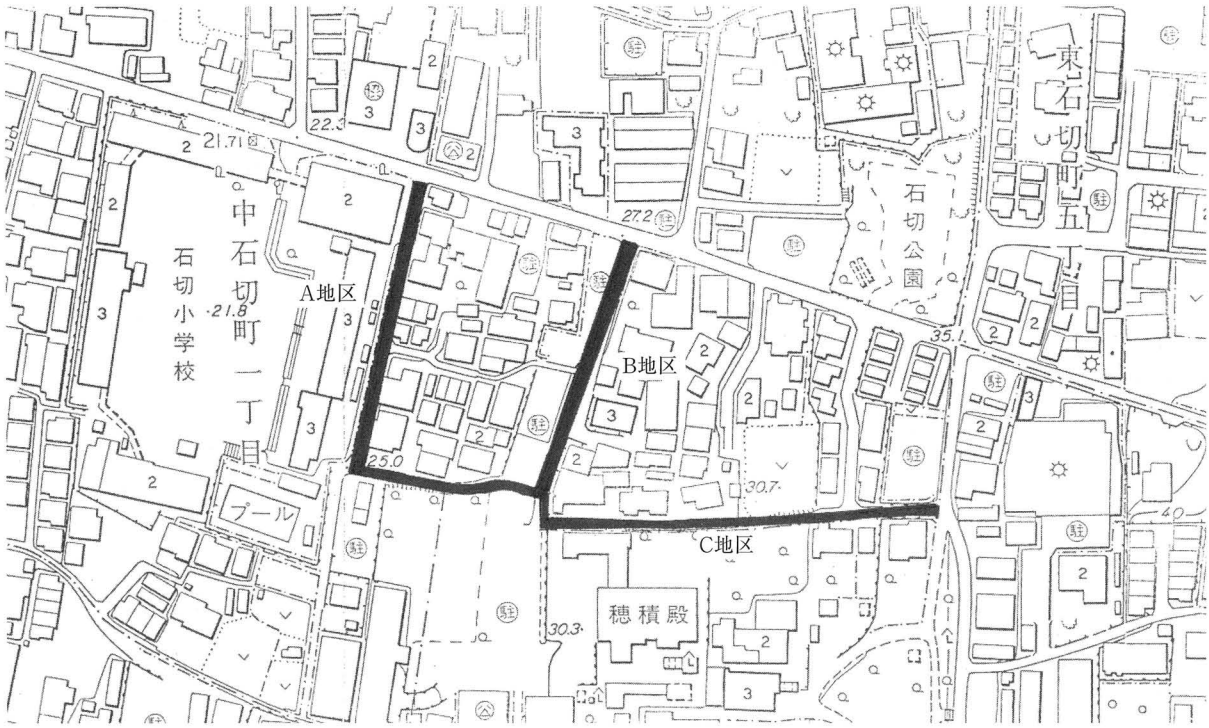
第3層　黒褐色(2.5Y3/2)シルト～粗粒砂。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第６章　法通寺跡（第２次）・辻子谷遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第 22工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町１丁目 641～596地先
3	調 査 面 積	320㎡
4	調 査 期 間	平成14年２月25日～４月18日（延べ31日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切神社の北である。当地点は法通寺跡・辻子谷遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ376mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1．調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂～中礫混じり粘土質シルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)細礫混じり粘土質シルト。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)中～粗粒砂混じり粘土質シルト。

第5層　灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂。

第6層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)細～中礫混じりシルト質粘土。

第7層　暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)細礫混じりシルト質粘土。

A－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/1)シルト混じり細～中粒砂。

第3層　黒褐色(10YR3/1)シルト混じり細～粗粒砂。

第4層　黒褐色(10YR3/2)シルト～中粒砂。

第5層　黒褐色(10YR3/1)細～中粒砂混じりシルト。炭化物を若干含む。

第6層　黒褐色(2.5Y3/1)シルト～細粒砂と暗褐色(7.5YR3/4)シルト～細粒砂の混合土。

第7層　灰色(10Y4/1)シルト～細粒砂。

B－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂混じり粘質土。

第3層　黒色(2.5GY2/1)小礫混じり砂質シルト。須恵器が出土。

第4層　黒色(10Y2/1)粗粒砂混じり粘土質シルト。

第5層　黒色(10Y2/1)中～粗粒砂。

第6層　オリーブ黒色(10Y3/1)細粒砂。

第7層　オリーブ黒色(7.5Y3/2)細～中粒砂。

B－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(7.5Y4/1)小礫混じり粘質土。

第3層　オリーブ黒色(10Y3/1)粗粒砂混じり粘土質シルト。土師器・瓦が出土。

第4層　オリーブ黒色(10Y3/1)細粒砂～小礫混じり粘土質シルト。土師器・瓦が出土。

第5層　灰色(10Y4/1)粗粒砂混じりシルト。

第6層　オリーブ黒色(10Y3/2)粗粒砂混じりシルト。

B－8地区の層序

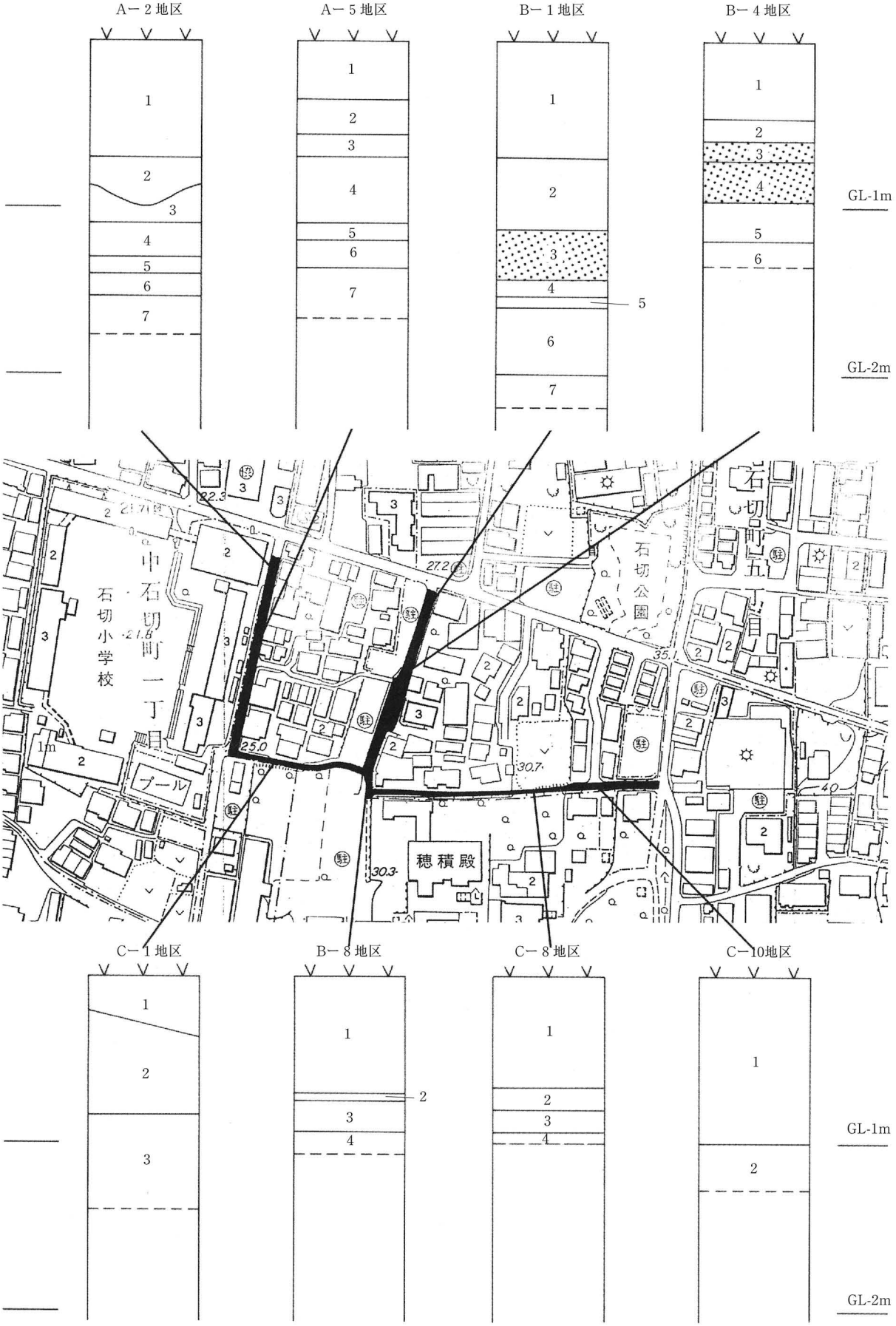
第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂～細礫混じり粘土質シルト。

第3層　黒褐色(10YR2/2)シルト～細粒砂。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂～細礫混じり粘土質シルト。

C－1地区の層序


A－2地区
A－5地区
B－1地区
B－4地区
GL-1m
GL-2m
石切小学校
中石切町一丁目
プール
穂積殿
石切公園
石切町五丁目
C－1地区
B－8地区
C－8地区
C－10地区
GL-1m
GL-2m

土層断面柱状図

第１層　盛土。

第２層　黒色(7.5YR1.7/1)粗粒砂混じり土。褐色(7.5YR4/4)粘質土のブロックが混じる。

第３層　黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり土。

Ｃ－８地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR3/2)細～中粒砂。

第３層　灰黄褐色(10YR4/2)細～粗粒砂。

第４層　黒褐色(10YR3/1)細粒砂～細礫。

Ｃ－10地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR3/1)粗粒砂～細礫混じり粘土質シルト。

２．出土遺物

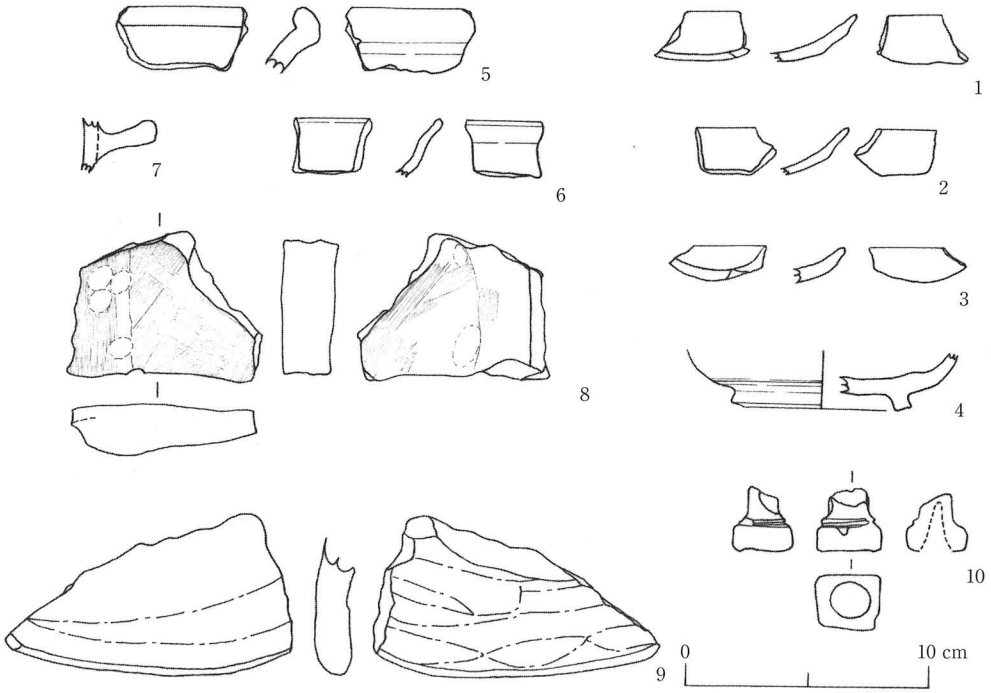
今回の調査では、Ｂ・Ｃ地区で古墳時代～中世期の遺物が出土した。遺物は土師器、須恵器、土製品、瓦などがある。

土師器　１～３、６～９は土師器である。１～３は皿である。口縁部の破片である、口縁端部が丸く終わる。内外面はヨコナデ調整する。６は杯の口縁部である。口縁端部がやや内側へ肥厚する。内外面をヨコナデ調整する。７は羽釜の鍔である。８・９は竈の庇である。１～３は中世期、６・７は奈良時代、８・９は古墳時代である。

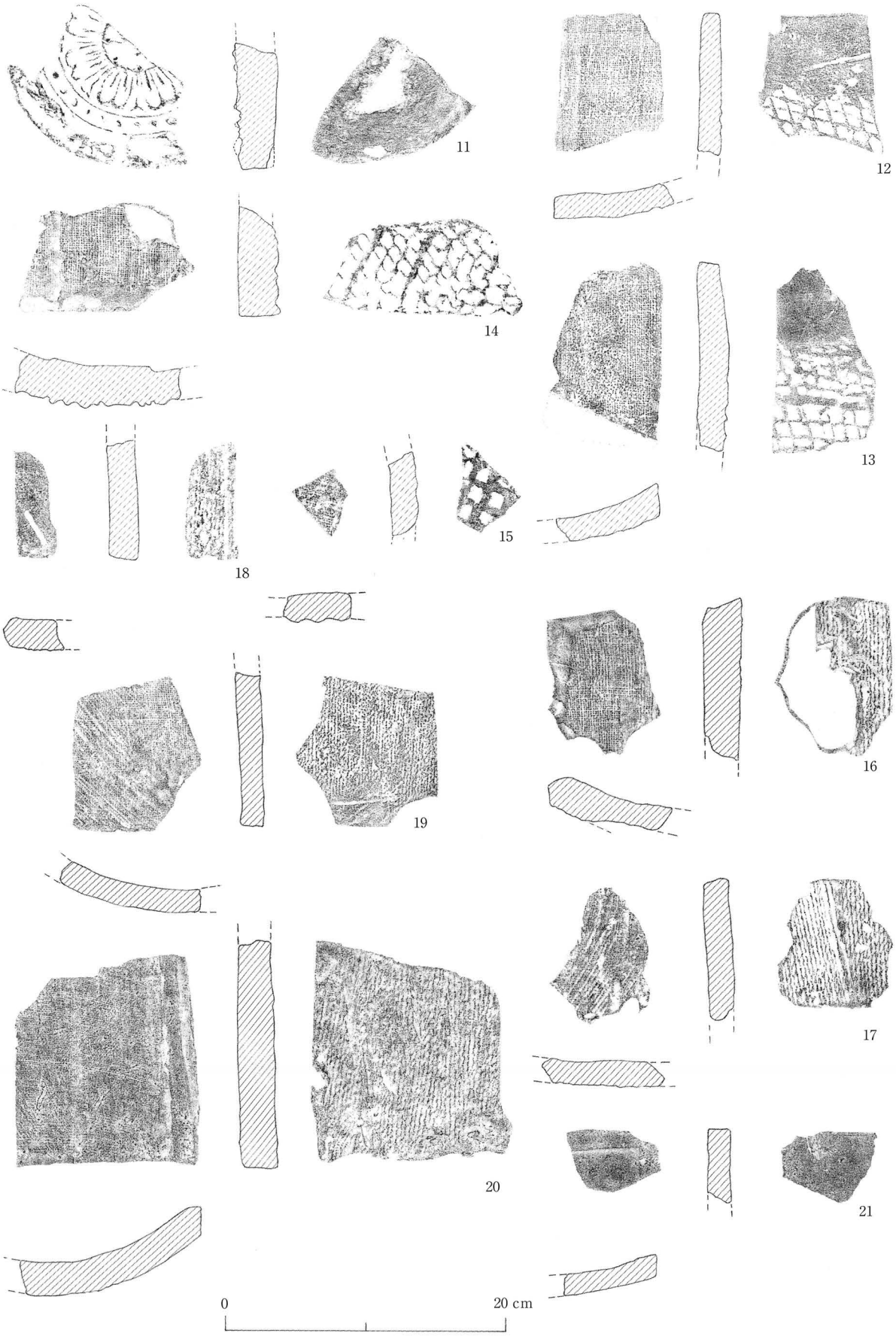
須恵器　４・５は須恵器である。４は杯の底部である。断面が台形を呈する高台を削りだす。内外面は回転ナデ調整する。５はいわゆる東播系の捏鉢である。口縁端部が内側へ肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。４は奈良時代、５は中世期である。

土製品　10は底が方形を呈する土製品である。形状は上部を欠損するので不明。近世である。

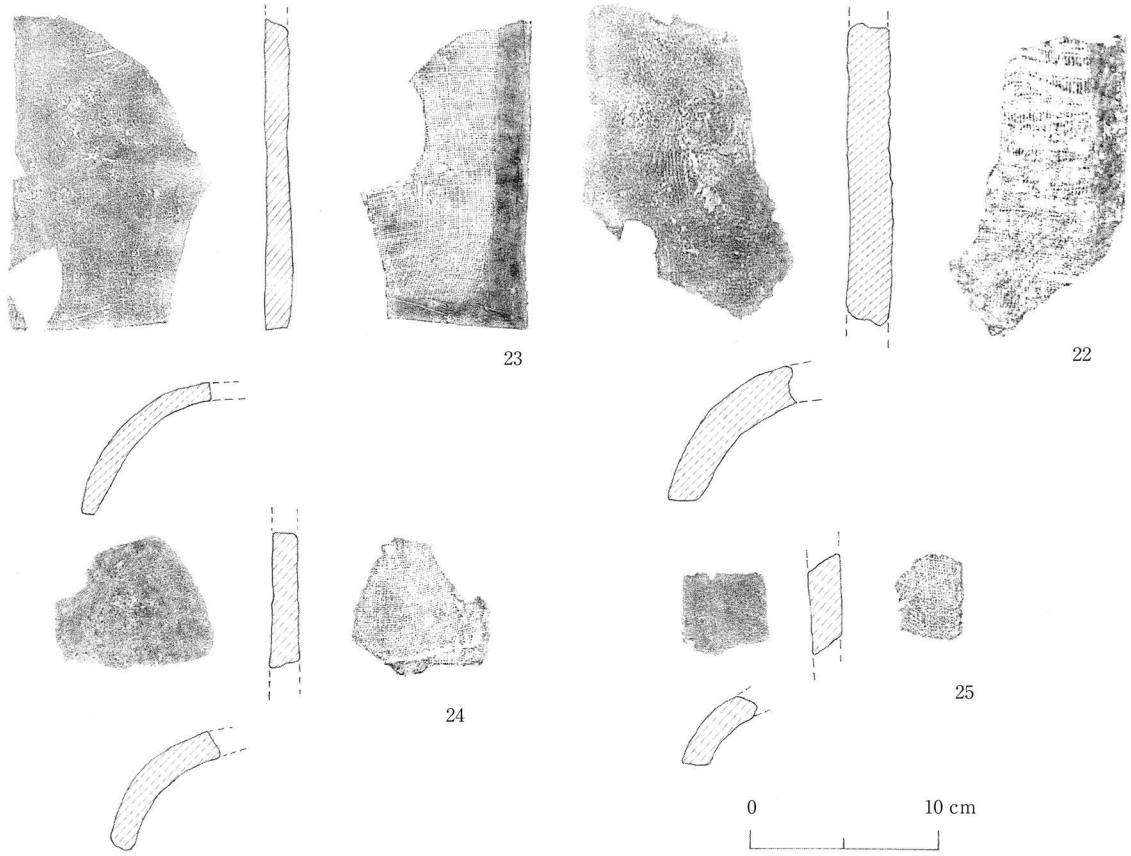
瓦　11～25は瓦である。11は軒丸瓦である。法通寺跡第１次調査ではＩ類に分類されている複弁８弁蓮華文軒丸瓦である。中房に１＋４＋８の蓮子を配する。外区内縁に珠文、外縁に鋸歯文を施すが、鋸歯文は剥離のため不明である。白鳳時代である。12～21は平瓦である。12～15は凸面を格子のタタ



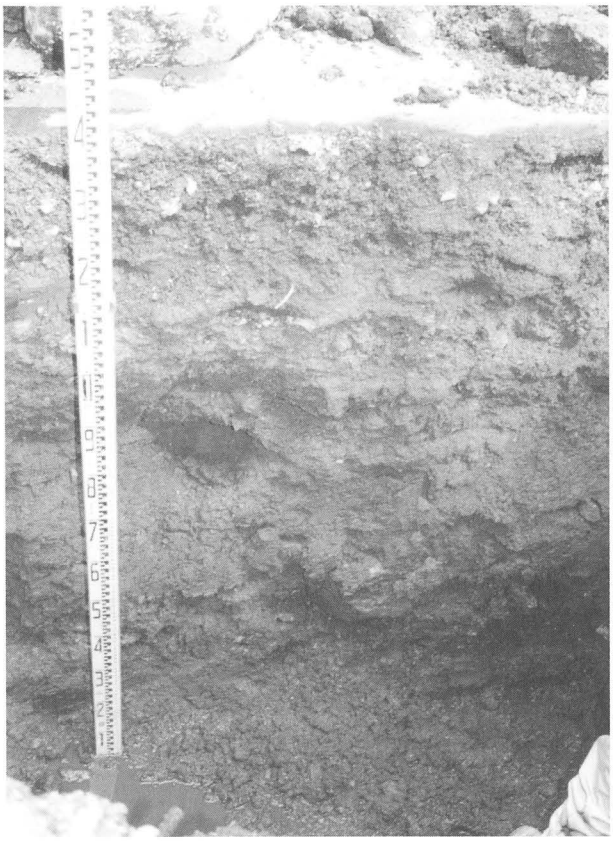
出土遺物実測図



出土遺物実測図



出土遺物実測図



B－4地区土層断面

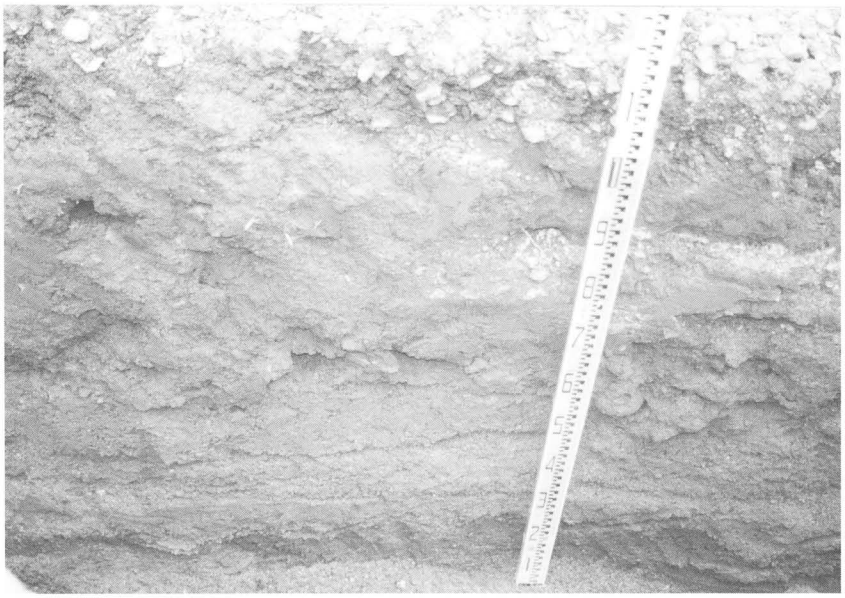
キ調整し、凹面に布圧痕を残す。16～20は凸面を縄目のタタキ調整し、凹面に布圧痕を残す。21は凹凸面をナデ調整する。22～25は丸瓦である。22は凸面を縄目のタタキの後ナデ調整し、凹面に布圧痕を残す。23～25は凸面をナデ調整し、凹面に布圧痕を残す。

3．まとめ

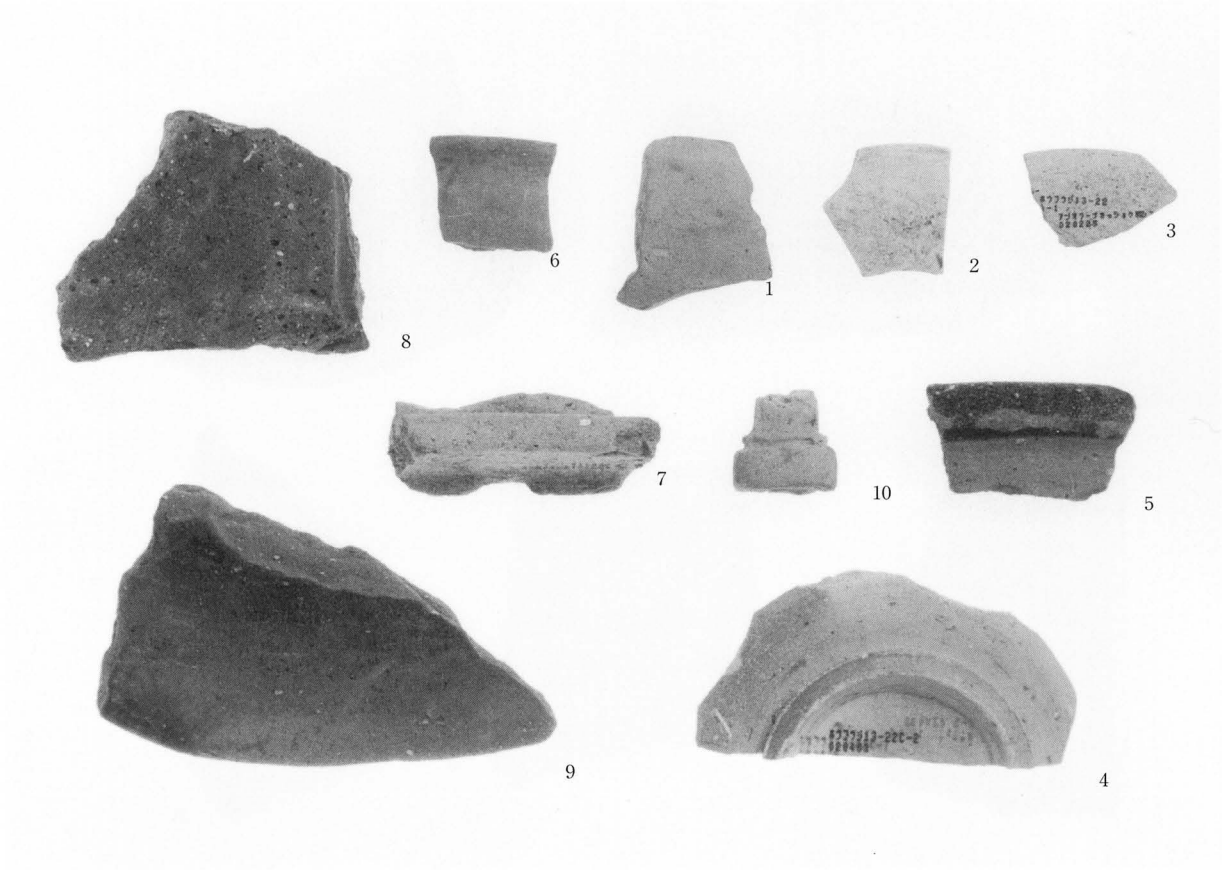
今回の調査地は第1次調査地の北と東に近接している。立会調査では、明確な遺構を確認することはできなかった。瓦などの遺物出土状況からみて法通寺関係の遺構が今回の調査地点まで広がっている可能性が高い。

調査地遠景

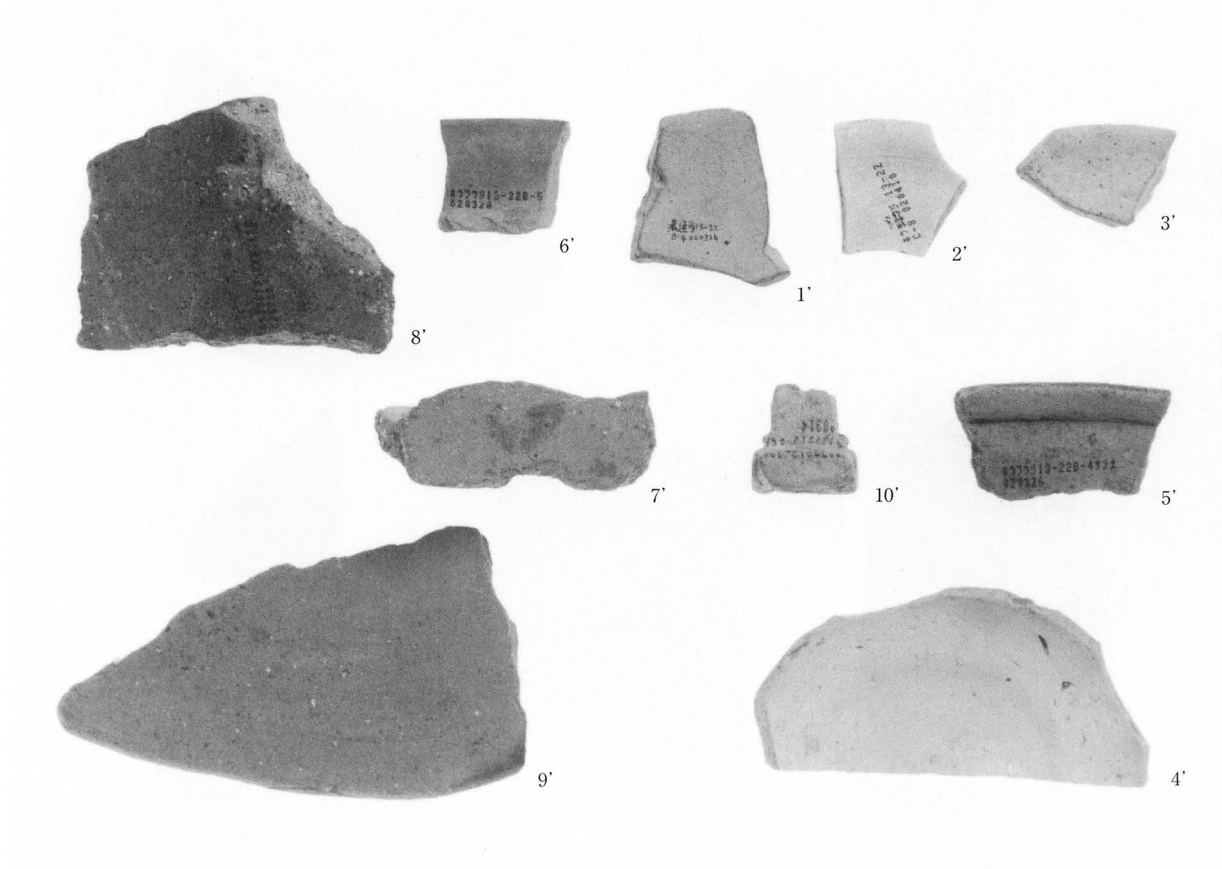
B—8地区土層断面



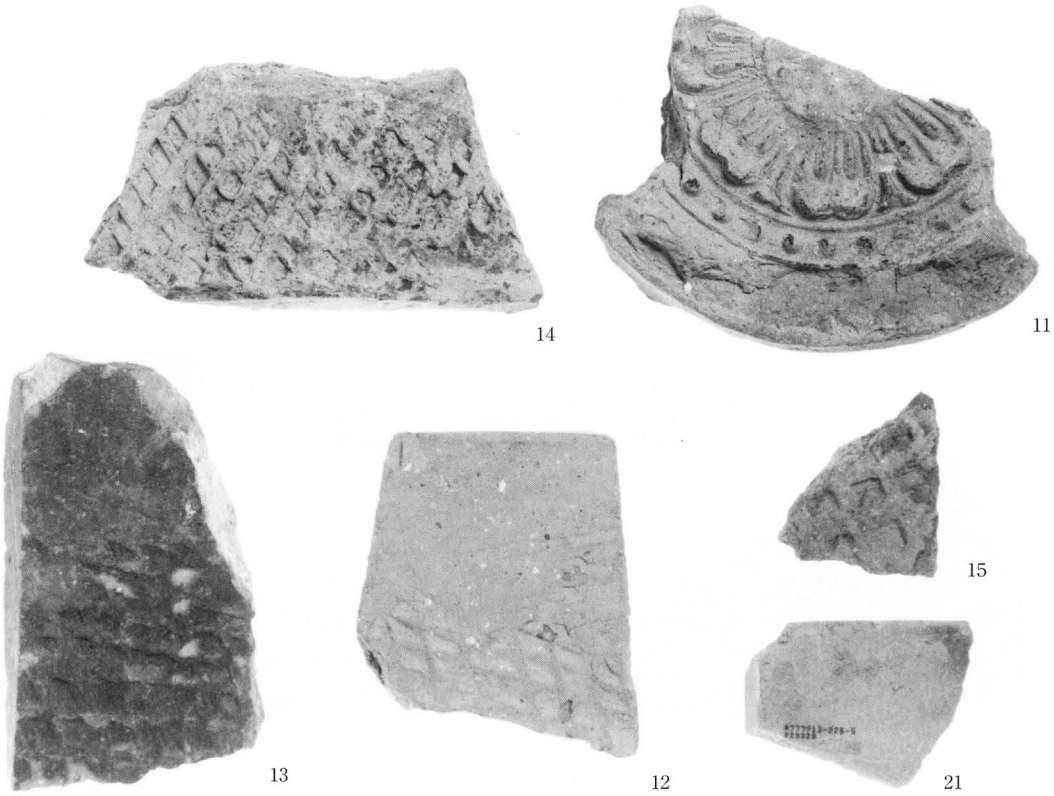
C—8地区土層断面



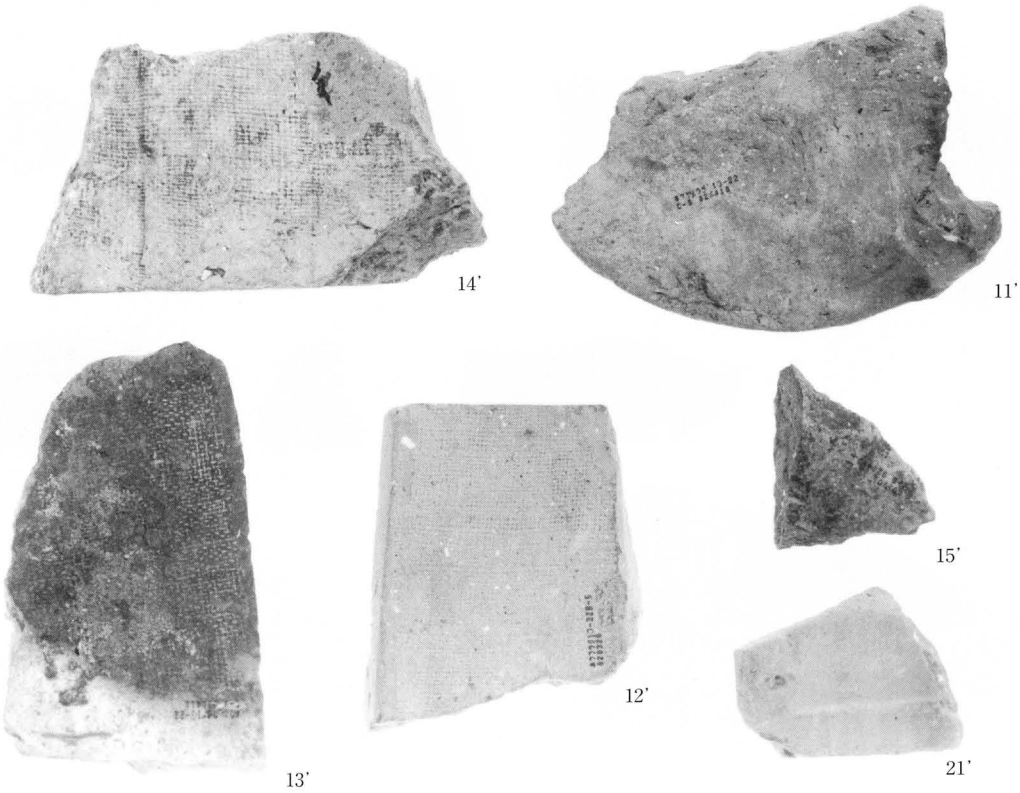
出土遺物（土師器・土製器）（表）



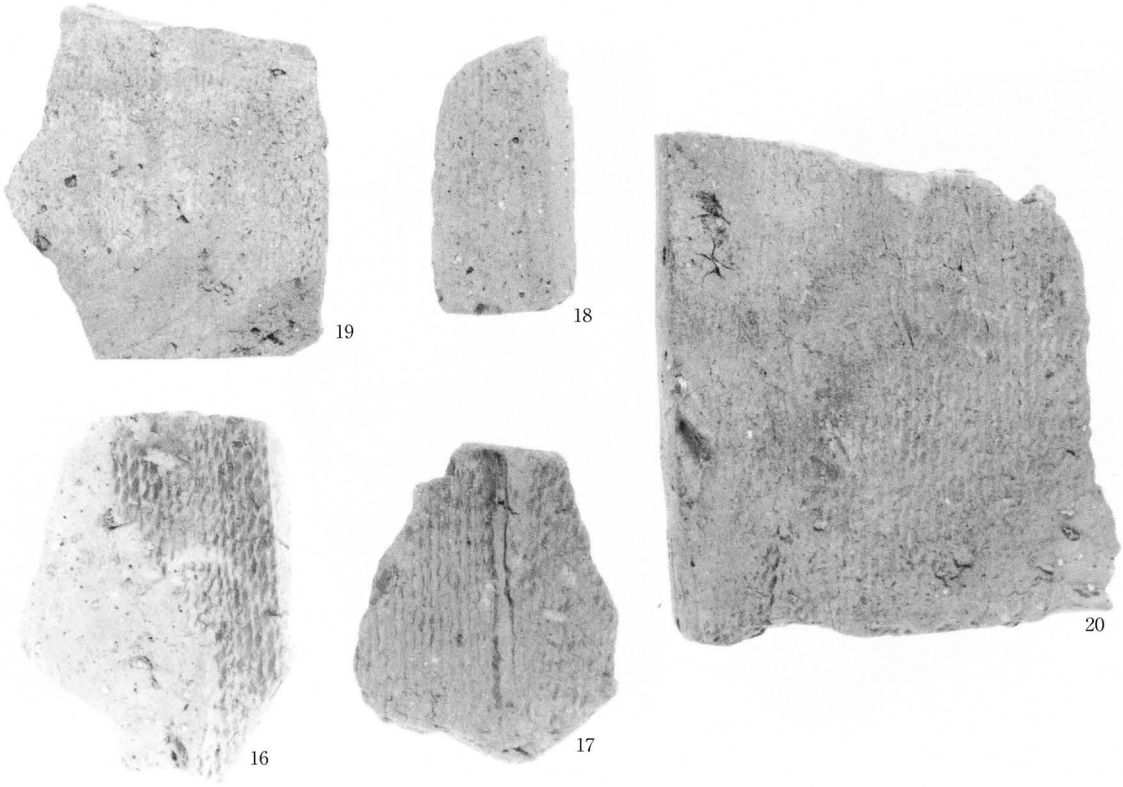
出土遺物（土師器・須恵器・土製器）（裏）



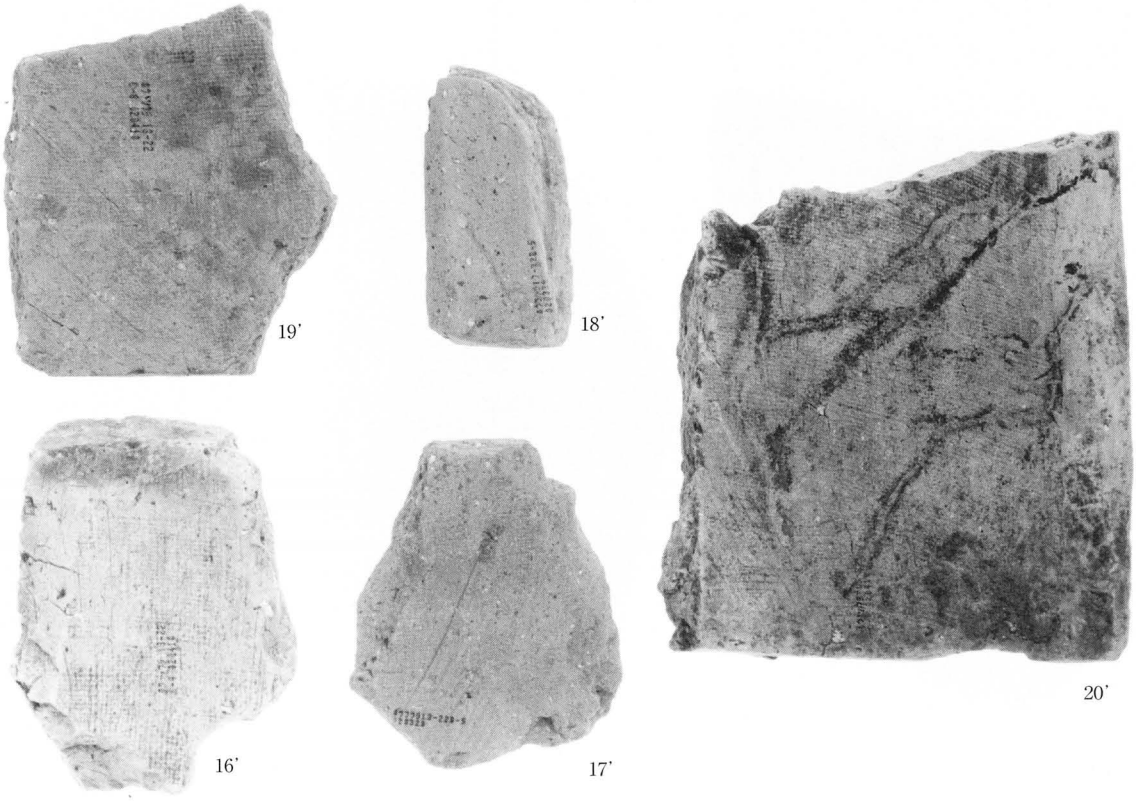
出土遺物（軒丸瓦・平瓦）（表）



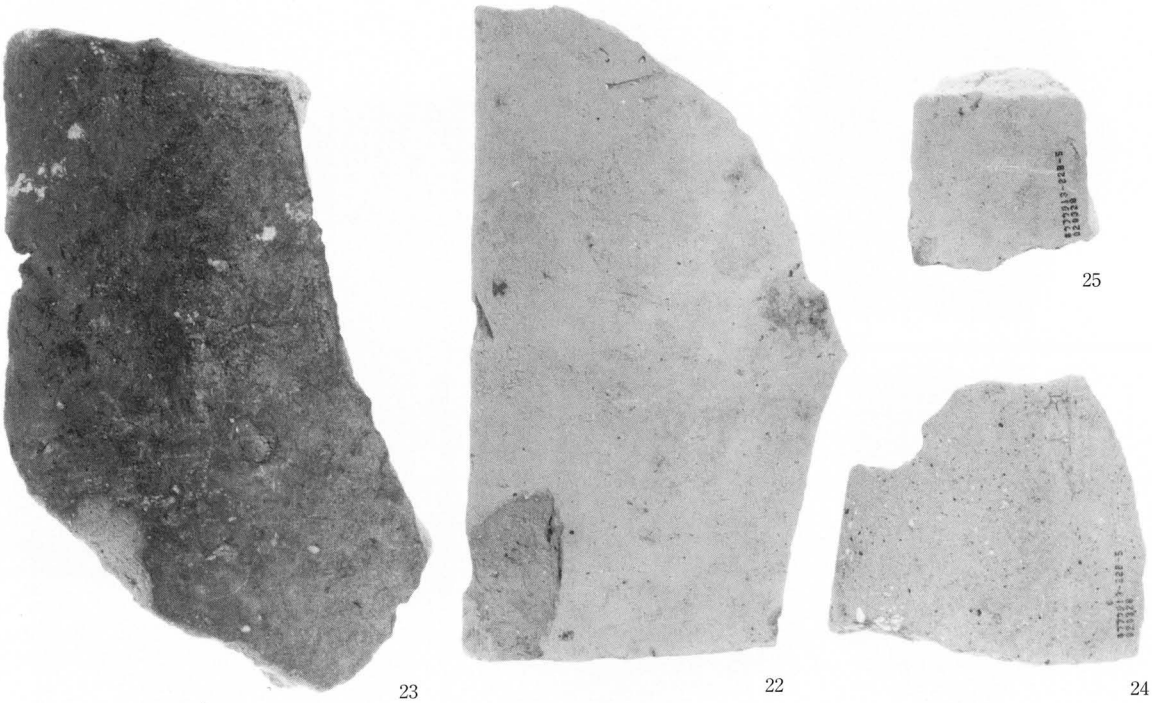
出土遺物（軒丸瓦・平瓦）（裏）



出土遺物（平瓦）（表）



出土遺物（平瓦）（裏）

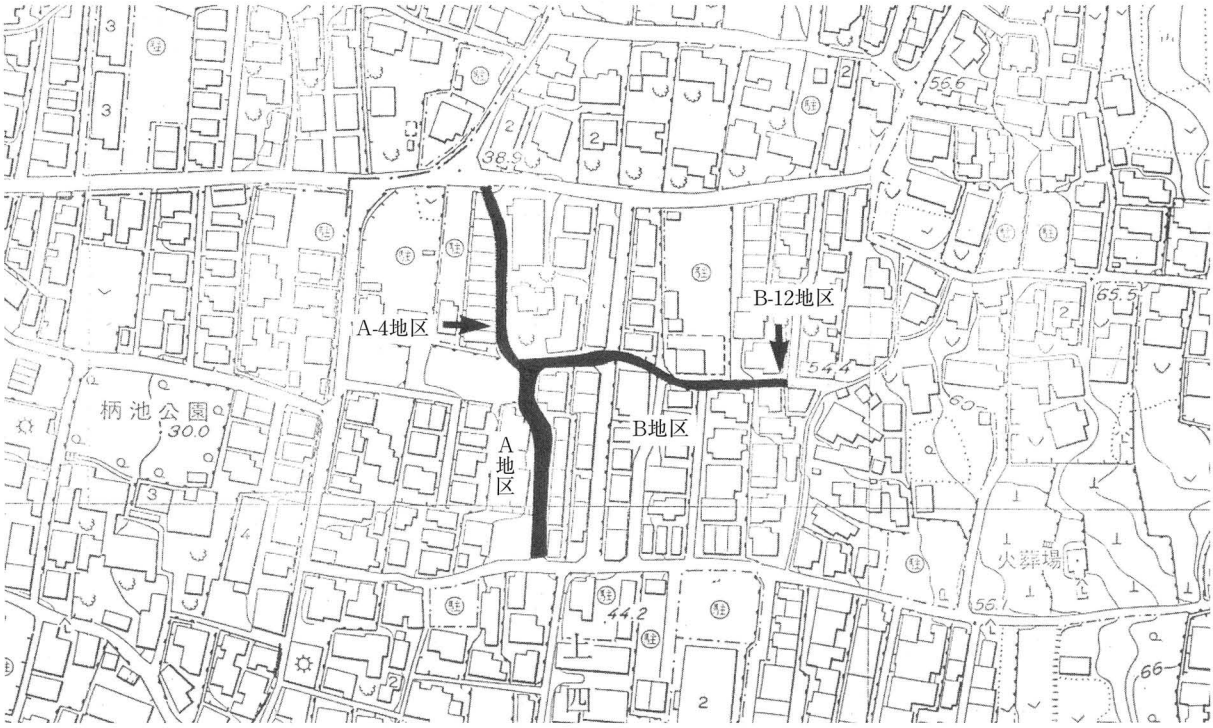


出土遺物（平瓦）（表）

出土遺物（平瓦）（裏）

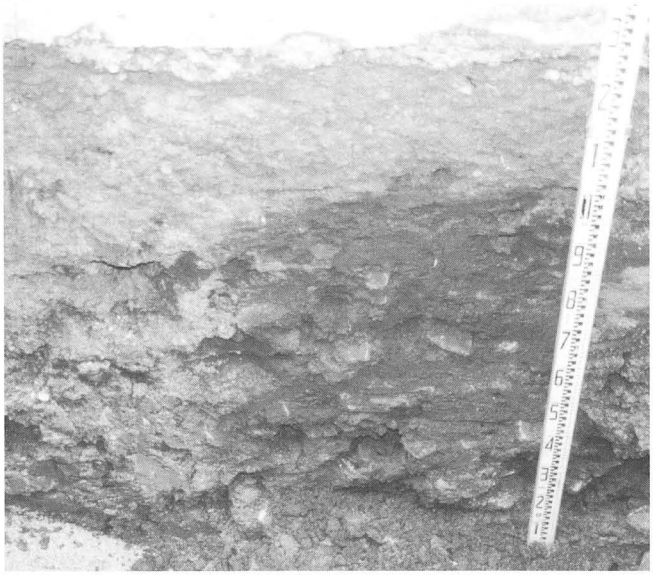
第７章　山畑（やまはた）古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第５工区管きょ築造工
2	調 査 地 点	東大阪市上四条町 380～371地先
3	調 査 面 積	317㎡
4	調 査 期 間	平成13年11月19日～平成14年３月18日（延べ32日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の北西である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ373ｍの間であり、開削工法である。



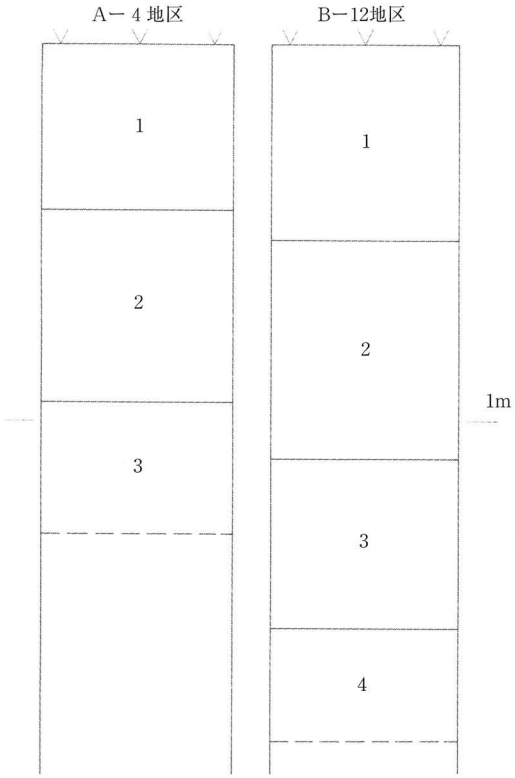
調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景



A－4地区土層断面

B－6地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細～粗粒砂混じり粘土質シルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)粘土質シルト。

B－12地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒色(10YR2/2)細～巨礫混じり粘土質シルト。

第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)細～中礫混じりシルト。

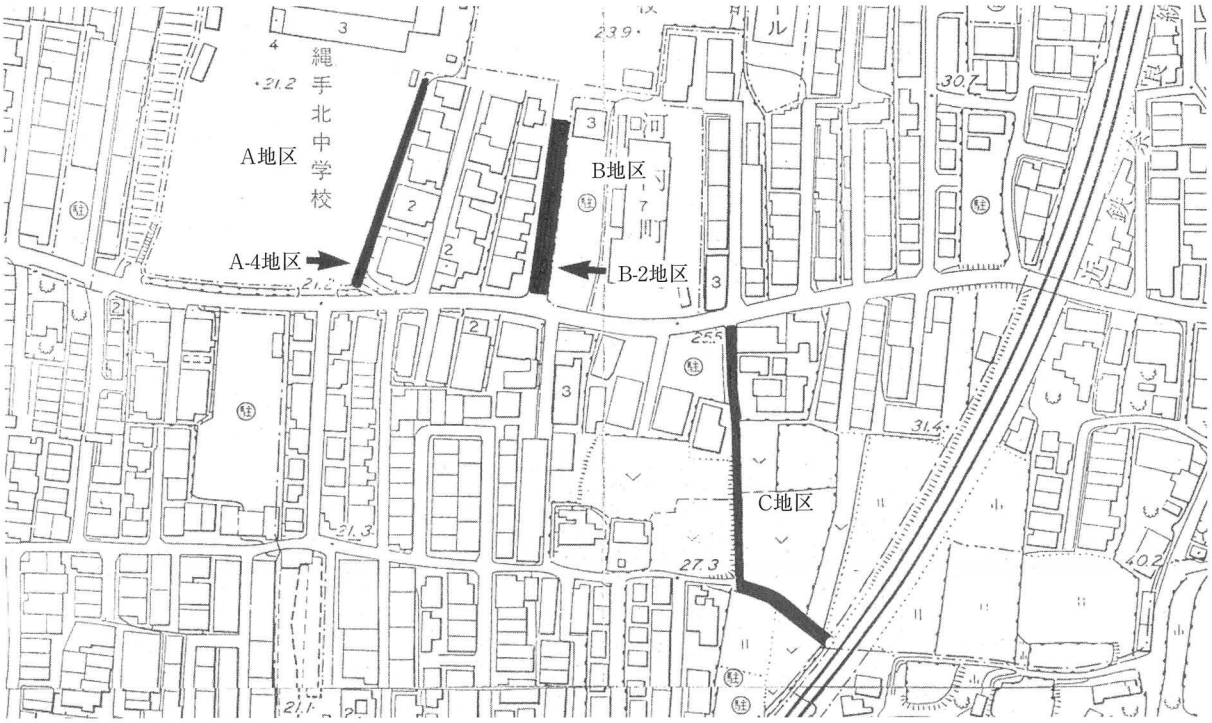
第4層　にぶい黄色(2.5Y6/3)細粒砂～中礫混じりシルト。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第８章　皿池（さらいけ）遺跡・河内（かわち）寺（でら）跡の調査

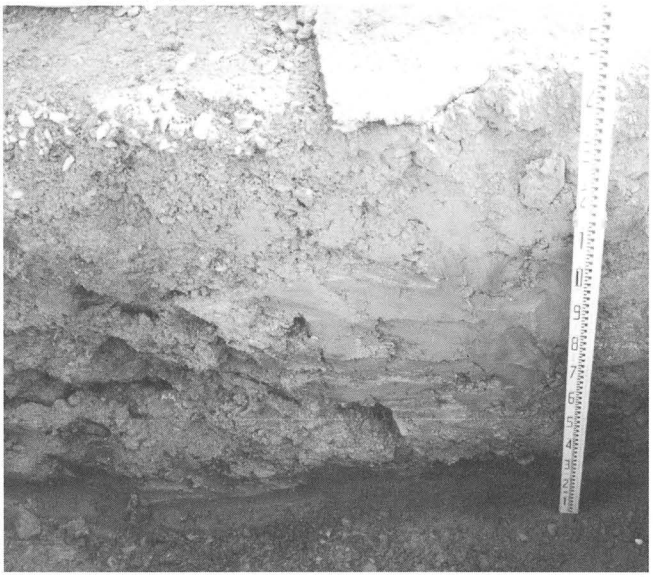
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第 21工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市河内町 334、336、438～434地先
3	調 査 面 積	218㎡
4	調 査 期 間	平成13年12月４日～平成14年６月12日（延べ45日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手北中学校の東である。当地点は皿池遺跡・河内寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ256ｍの間であり、開削工法である。



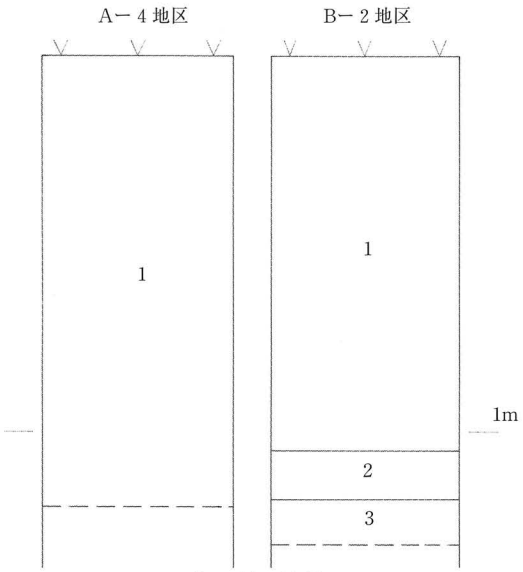
調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景

A－4地区土層断面



B－6地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－4地区の層序

第1層　盛土。

B－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒色(10Y2/1)シルト。

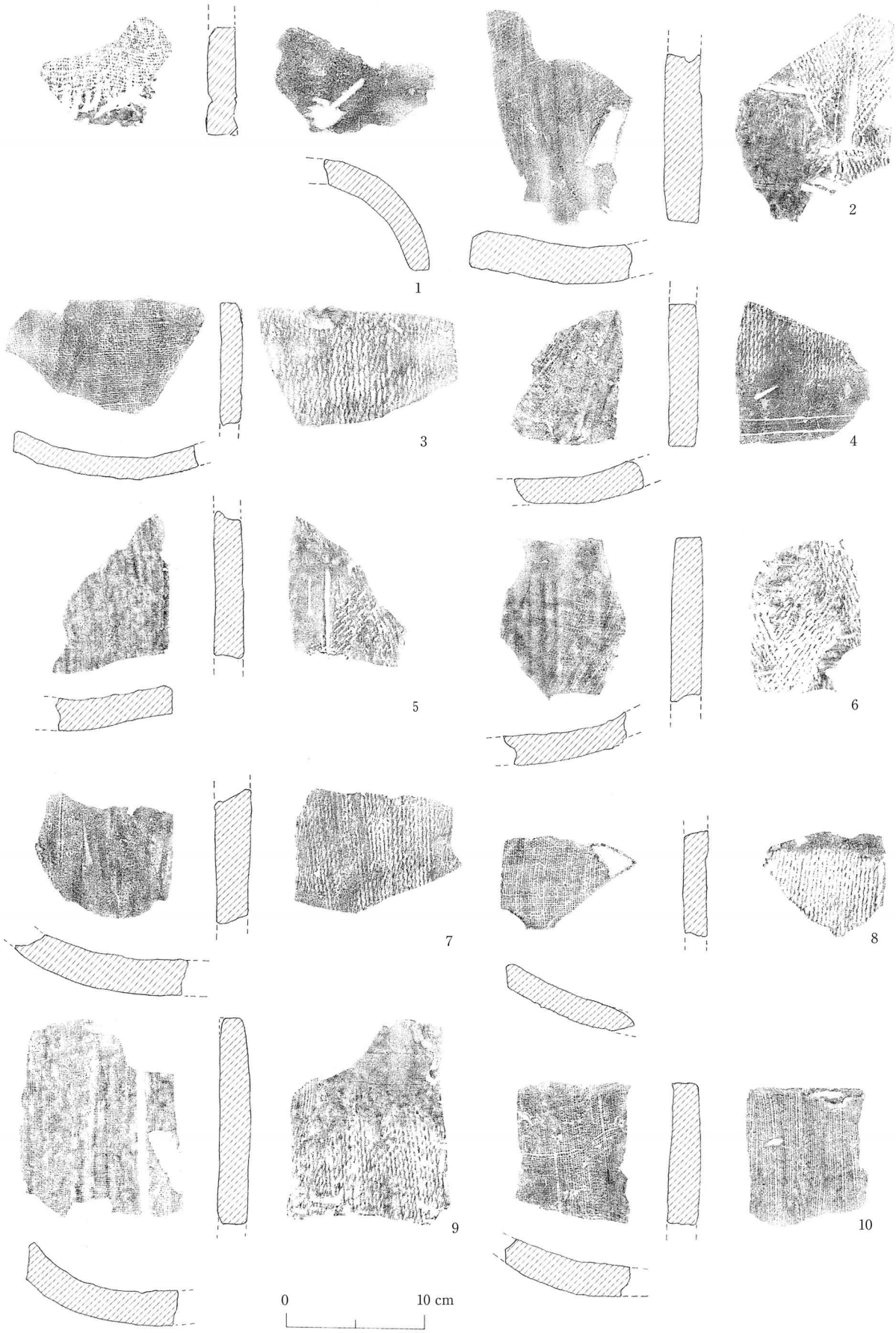
第3層　オリーブ黒色(5GY2/1)細粒砂混じりシルト。

2．出土遺物

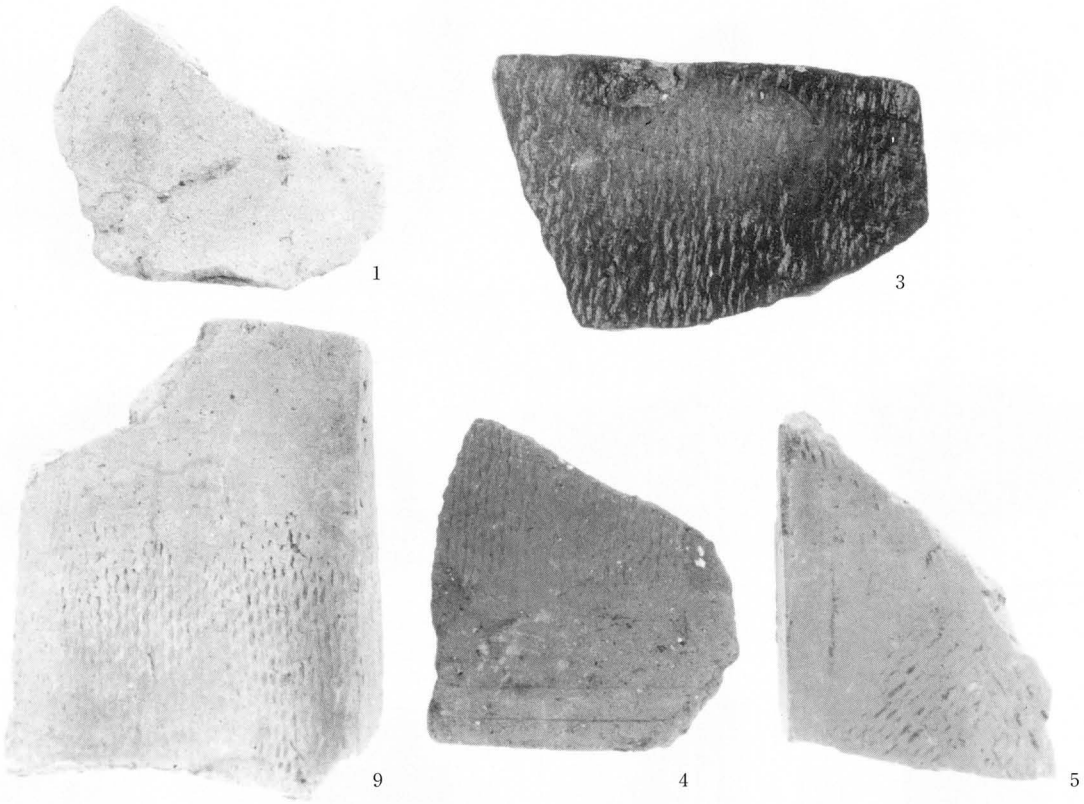
今回の調査では奈良時代以降の瓦が多量に出土した。すべてC地区からである。工事の都合により、土層観察はできなかったので層序は不明である。1は丸瓦である。凸面はナデ調整し、凹面に布圧痕を残す。2～9は平瓦である。凸面は縄目のタタキ調整し、凹面に布圧痕を残す。10は凸面をハケメ調整し、凹面に布圧痕を残す。

3．まとめ

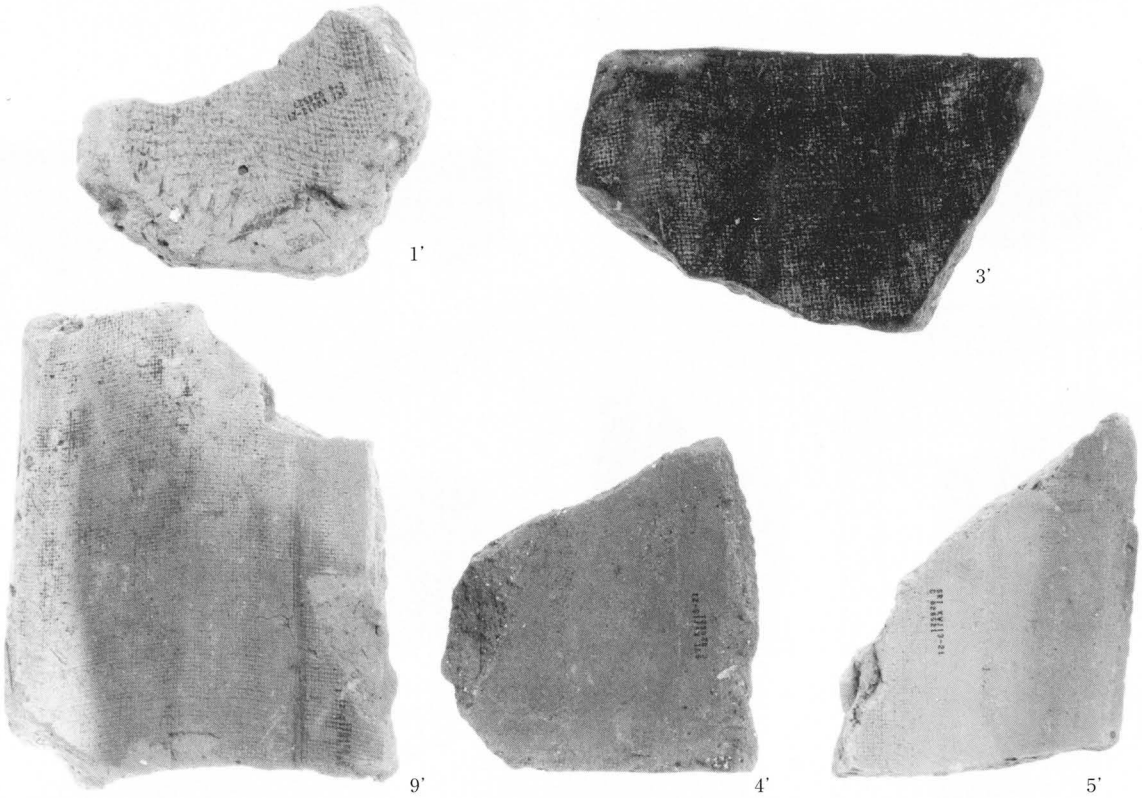
今回、瓦が出土したC地区は第9次調査地の東に位置する。第9次調査では整地土より多量の瓦が出土している。今回の調査地では土層観察をすることはできなかったが、出土遺物からみて河内寺関係の遺構が広がっている可能性が高い。



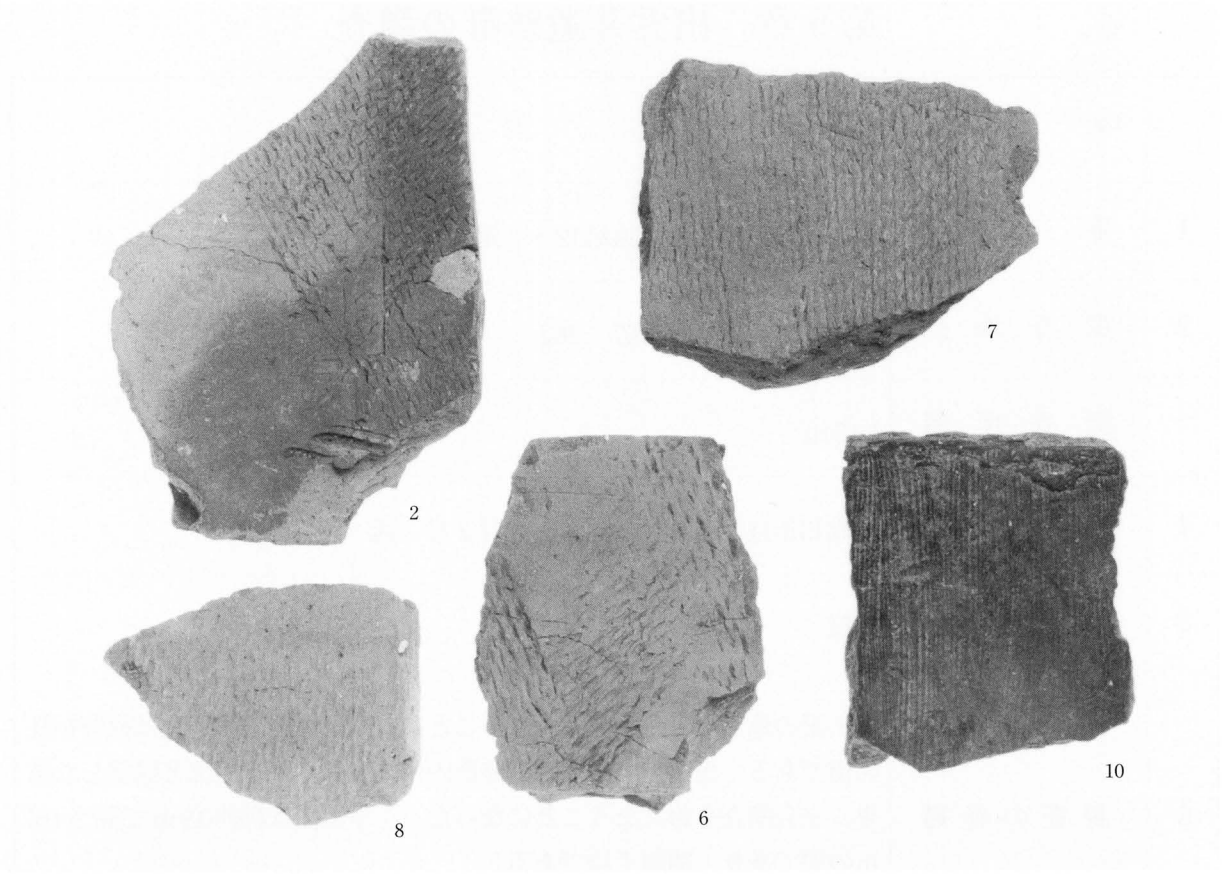
出土遺物実測図



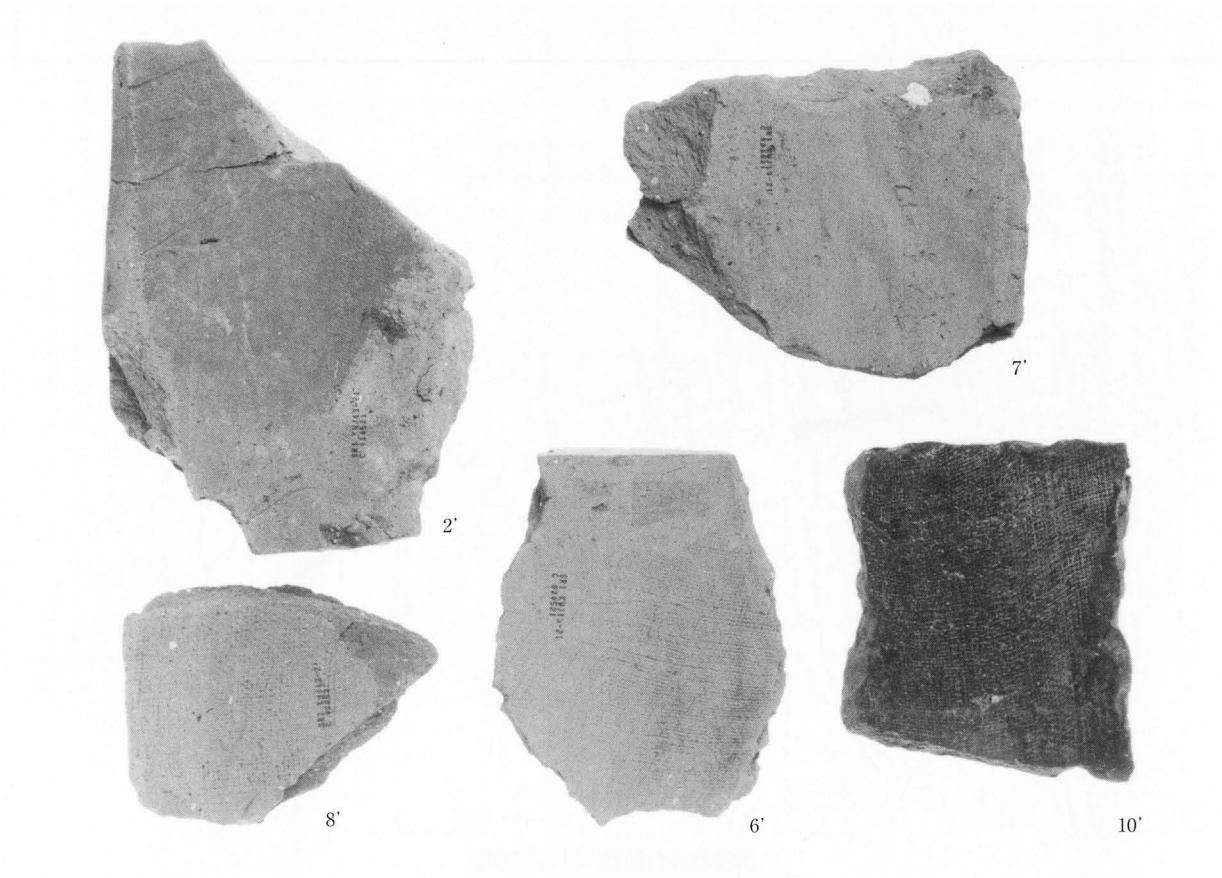
出土遺物（丸瓦・平瓦）（表）



出土遺物（丸瓦・平瓦）（裏）



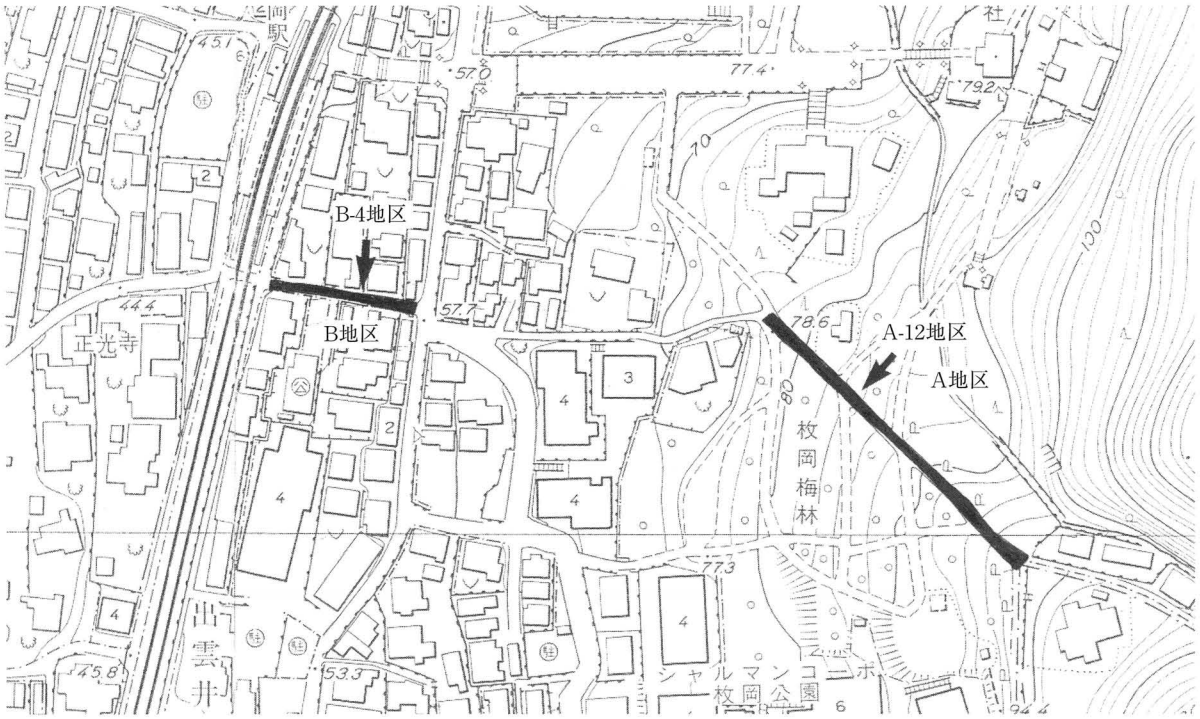
出土遺物（平瓦）（表）



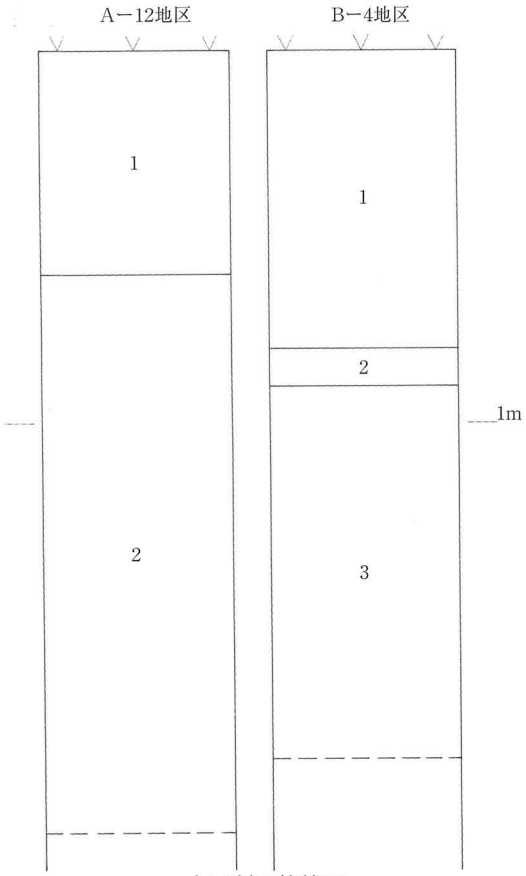
出土遺物（平瓦）（裏）

第９章　出雲井（いずもい）遺跡群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成12年度公共下水道第12－３追加工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市出雲井町 267～262
3	調査面積	145㎡
4	調査期間	平成13年11月29日～平成14年８月２日（延べ20日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡神社の南である。当地点は出雲井遺跡群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ167mの間であり、開削工法である。

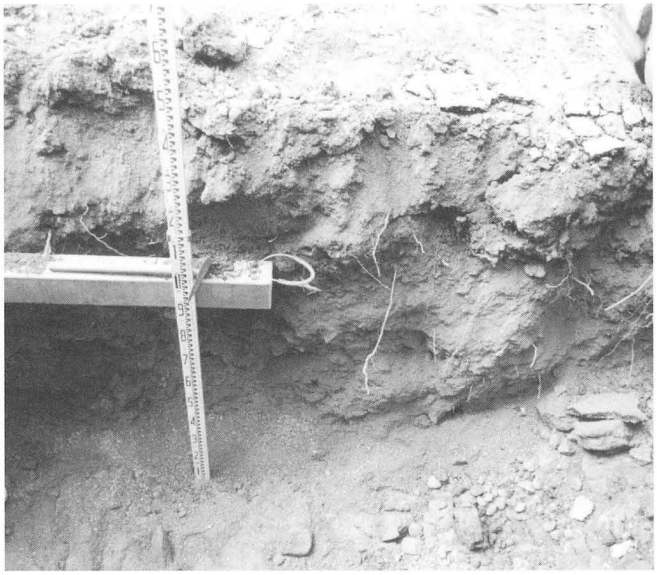


調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景


A－3地区土層断面

A－12地区土層断面

1．調査の概要

A－12地区の層序

第1層　盛土。

第2層　褐色(7.5YR4/3)細礫混じりシルト。

B－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(7.5YR3/1)粘質シルト。

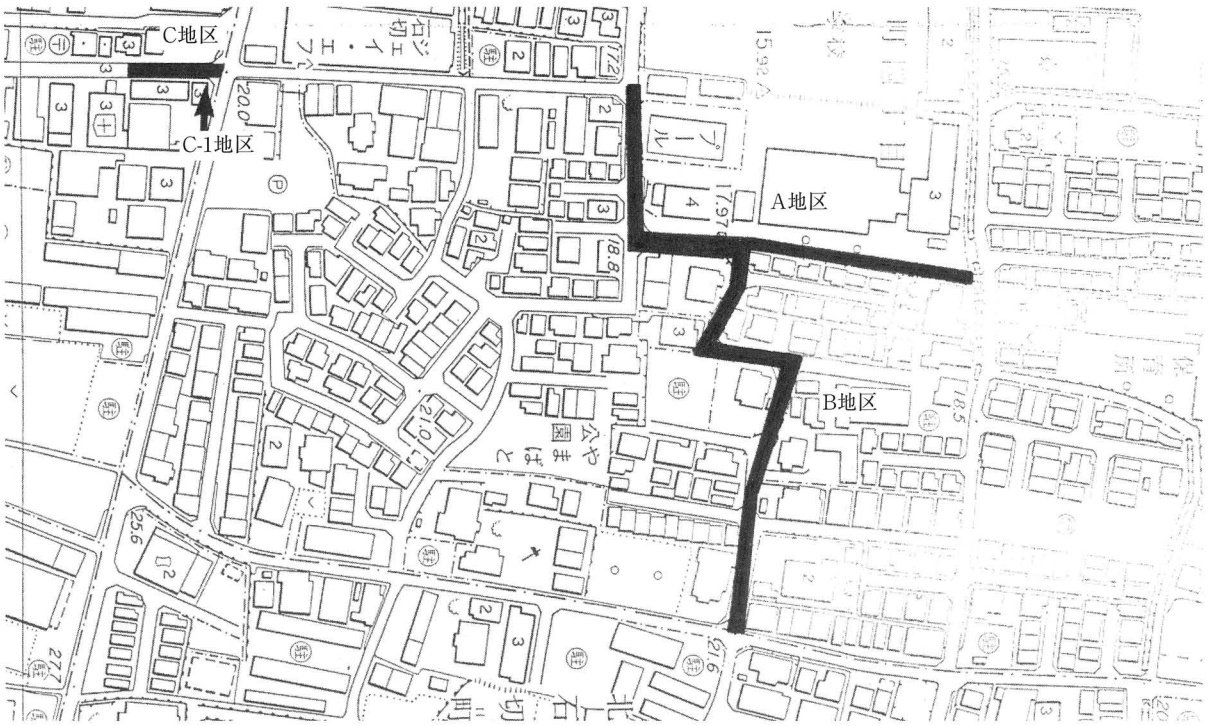
第3層　オリーブ黒色(5Y3/2)粘質シルト。

2．まとめ

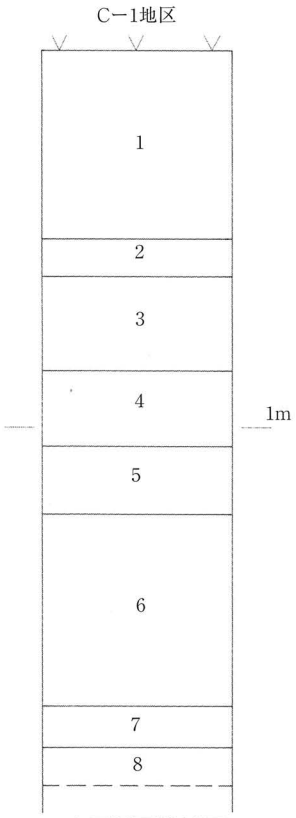
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第10章　芝ヶ丘（しばがおか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第13工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町4丁目 2175～2137地先
3	調 査 面 積	280㎡
4	調 査 期 間	平成14年１月７日～１月11日（延べ５日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の東（A・B地区）と南（C地区）である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。 工事範囲は幅約0.9mで長さ329mの間であり、開削工法である。A・B地区は業者からの連絡漏れによって立会調査を実施できなかった。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

C－1地区土層断面

C－4地区土層断面

1．調査の概要

C－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(7.5Y3/2)小礫混じり砂質土。

第3層　オリーブ黒色(10Y3/1)小～中礫混じり粘質土。

第4層　暗灰黄色(2.5Y4/2)小礫混じり粘土質シルト。

第5層　黒褐色(10YR2/2) 小礫混じり粘土質シルト。

第6層　黒褐色(10YR3/2) 小礫混じり粘土質シルト。

第7層　黒褐色(10YR3/2) 粘土質シルトに灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルトが混じる。

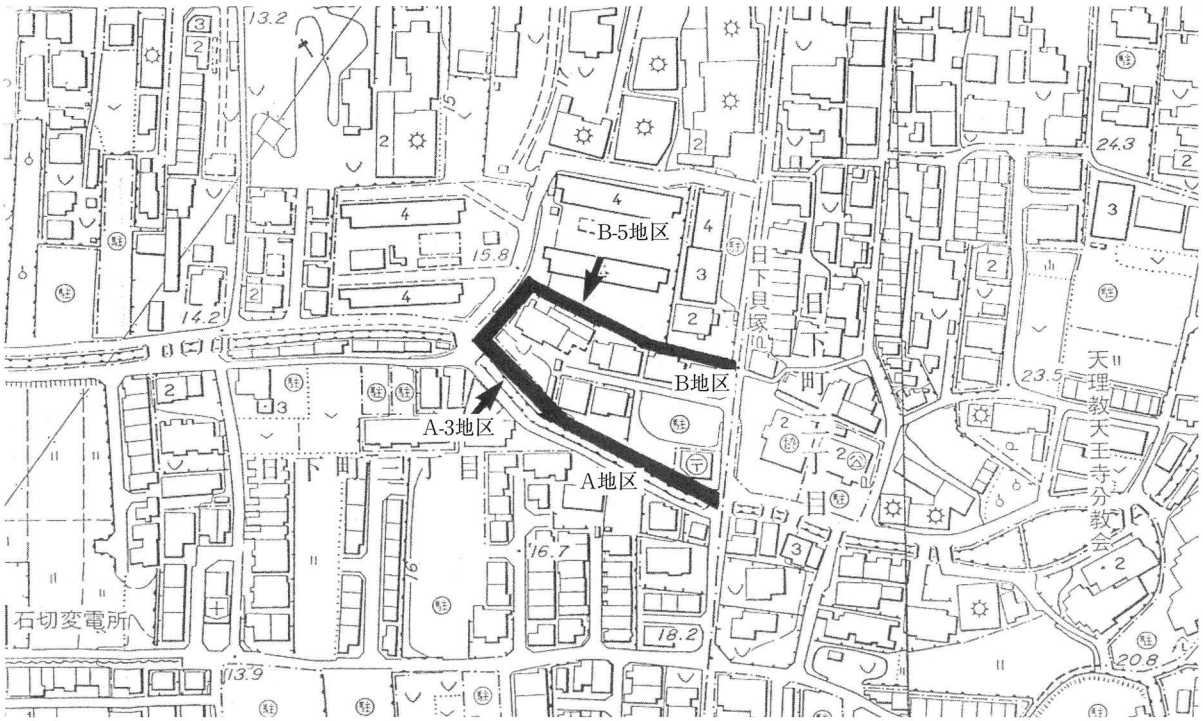
第8層　暗褐色(10YR3/3)シルト～粗粒砂。

2．まとめ

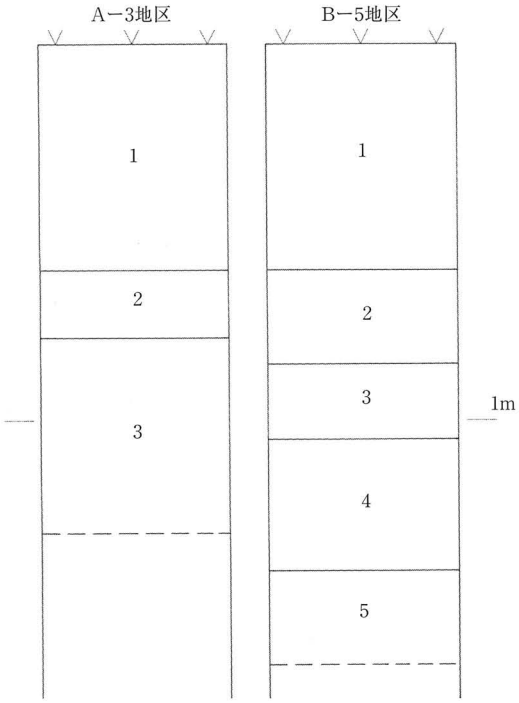
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第11章　日下（くさか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第19工区管きょ築工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町3丁目 1175～1153
3	調 査 面 積	155㎡
4	調 査 期 間	平成14年２月１日～４月８日（延べ24日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切保育所の北である。当地点は日下遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ182ｍの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/2)中粒砂～細礫。

第3層　褐色(10YR4/4) 中粒砂～細礫。

B－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり砂質土。

第3層　黄灰色(2.5Y5/1)粗粒砂～細礫混じり砂質土。

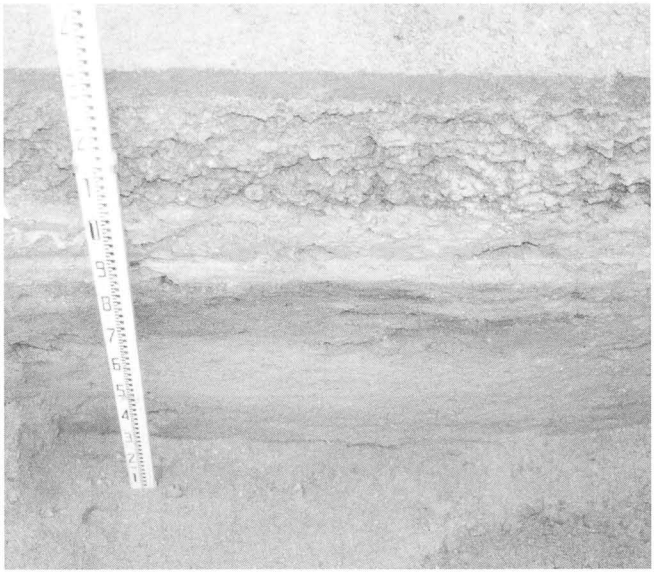
第4層　暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂～小礫。

第5層　灰色(5Y4/1)粗粒砂～細礫。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

調査地遠景



A－3地区土層断面

B－5地区土層断面

第12章　段上（だんのうえ）遺跡の第14次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第210工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町３丁目 1145～1128
3	調 査 面 積	175㎡
4	調 査 期 間	平成14年４月８日～６月３日（延べ19日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手中学校の西である。当地点は段上跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ202ｍの間であり、開削工法である。

調査地点位置図（1/2500）

1．調査の概要

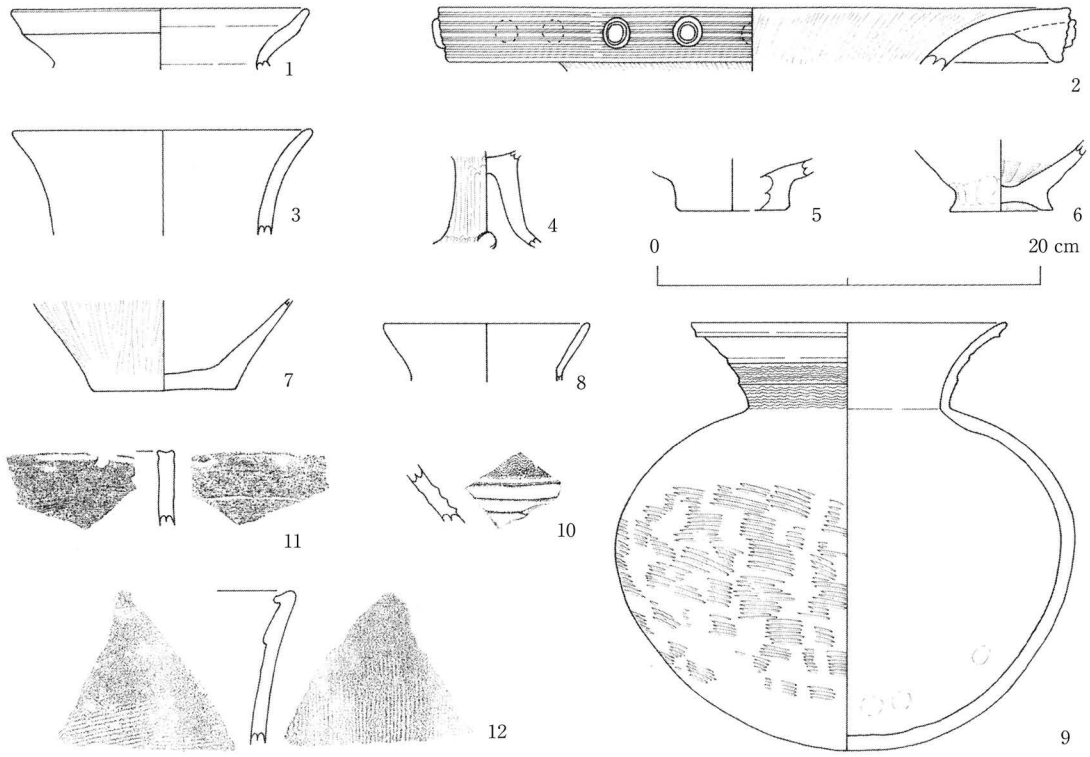
工事は平成13～14年度に実施された、大阪東大阪線道路改良工事に伴う第12・13次調査地内に管埋設がおこなわれることになった。予定地は調査終了部分が大部分であったが、一部未調査地にも広がることがわかったので、立会調査を実施することになった。未調査部分は第12・13次調査地に隣接するため壁面が軟弱になっており、崩壊の危険があったので断面図の実測は作成することはできなかった。

調査地遠景

2．出土遺物

今回の調査では弥生～古墳時代の遺物が出土した。弥生土器、土師器、須恵器、埴輪がある。弥生土器はＢ地区(×地点)、土師器、須恵器、埴輪はＡ地区（×地点）より主に出土した。

弥生土器　１～７は弥生土器である。１は口縁部が二段に外反する甕である。口縁端部は丸く終わる。２は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する壺である。口縁端部には６条の擬凹線を



出土遺物実測図

施した後、円形浮文を貼り付ける。円形浮文の上にさらに竹管文を施す。外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。口縁端部の下端外面には、接合時の指頭圧痕が顕著に残る。３はいわゆる長頸壺である。筒状を呈する頸部より口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。風化が著しく調整法は不明。４は高杯の脚部である。裾部を欠損するがゆるく下方に伸びる。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。小円孔を４孔穿つ。５～７は平底の底部である。器種は不明。１～６は後期、７は中期である。すべて生駒西麓産である。

土師器　８は体部を欠損するが球形を呈すると考えられる甕である。口縁部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。内外面はヨコナデ調整する。生駒西麓産である。古墳時代。

須恵器　９・10は須恵器である。９は完形の甕である。体部は球形を呈し、口縁部が大きく外反する。口縁端部は尖り気味に終わる。体部外面は平行線のタタキを施した後、部分的なナデ調整、内面はナデ調整する。口縁端部に１帯、頸部に２条の凸帯がめぐる。頸部凸帯間に原体数８本の櫛描波状文を２帯施す。10は器台の脚部片である。外面に3条の凸帯をめぐらし、櫛描波状文を施す。古墳時代。

埴輪　11・12は円筒埴輪である。口縁端部は面をもつが、12は内傾する。11は内外面を横のハケメ調整する。12は外面を縦のハケメ調整、内面を横のハケメ調整する。古墳時代。

9

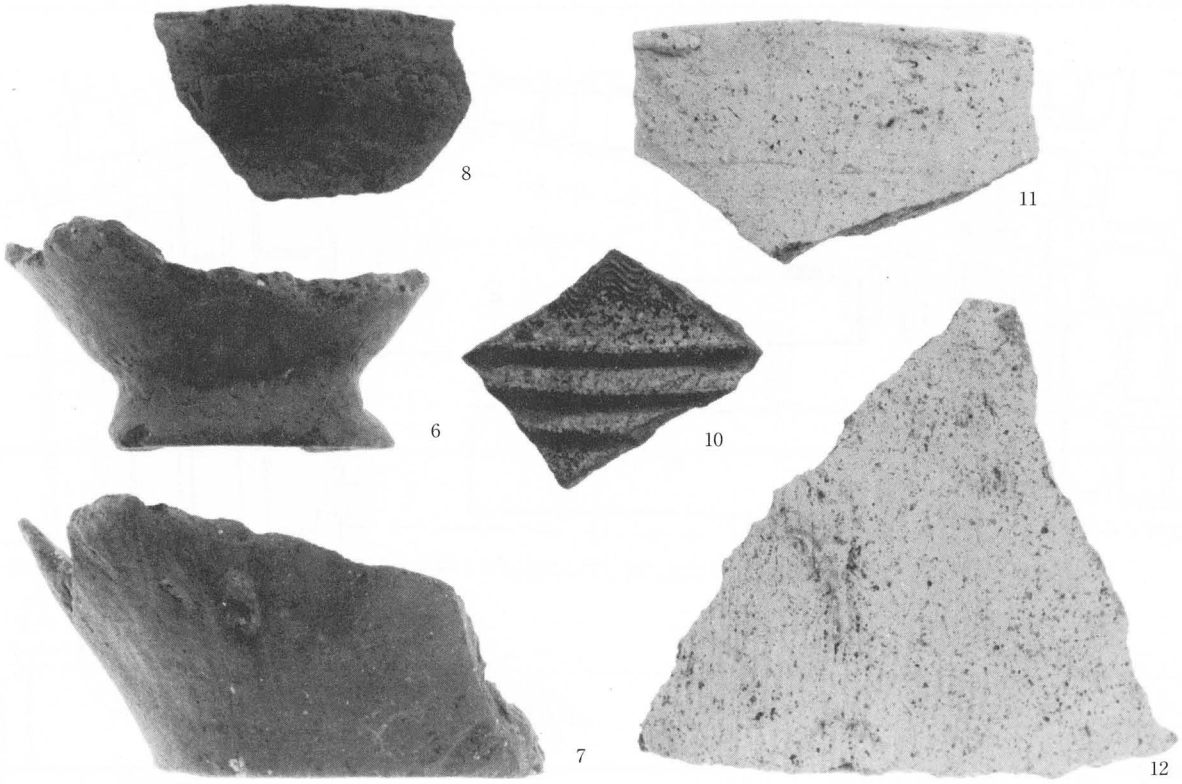
出土遺物（須恵器甕）

参考資料　第13次調査出土遺物（須恵器器台）

３．まとめ

今回の調査では、弥生～古墳時代の遺物が出土した。立会調査という性格上、遺構の確認をすることはできなかったが、第12・13次調査地との位置関係から推測することができる。１～７の弥生土器は溝100内、９・10の須恵器と11・12の埴輪は第３号墳の周溝内出土と考えられる。また、12の器台は出土地点や土器の特徴から第13次調査で出土したものと同一個体である。第12・13次調査の成果を追認することができた。

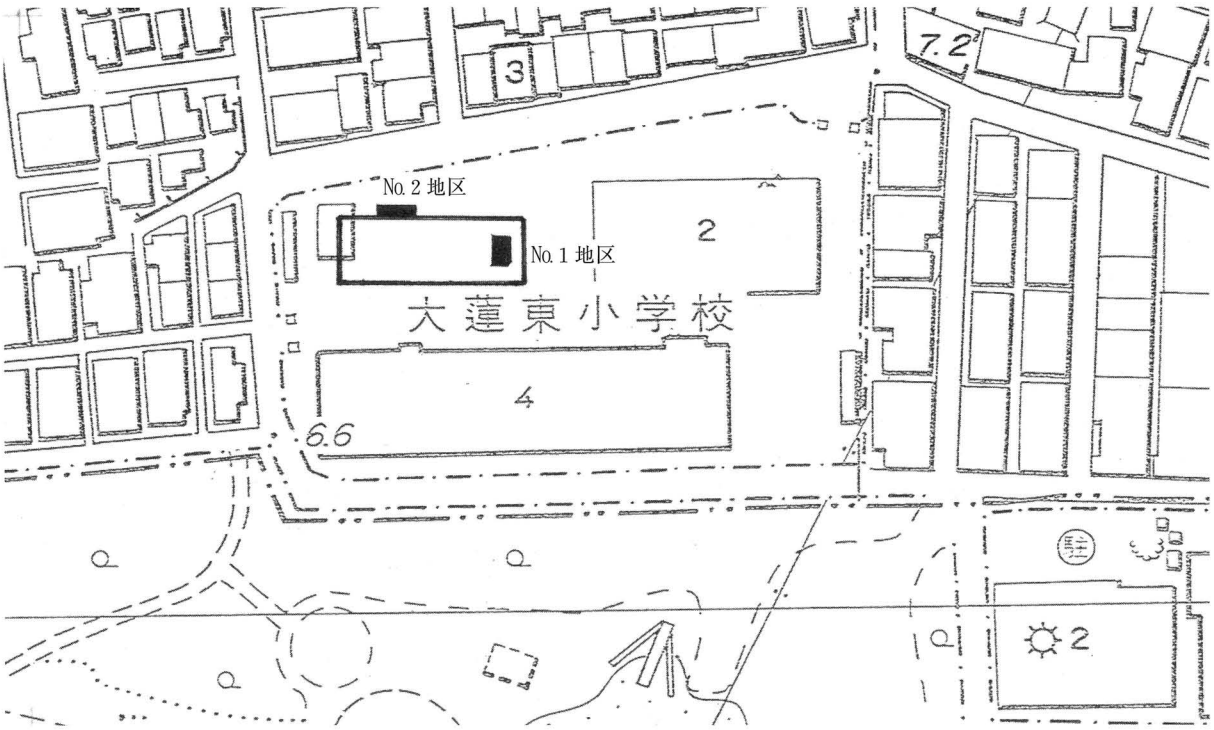
出土遺物（弥生土器）



出土遺物（弥生土器・土師器・須恵器・埴輪）

第13章　久宝寺（きゅうほうじ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道大蓮東小学校貯留浸透工事
2	調 査 地 点	東大阪市大蓮南 2丁目325～337地先
3	調 査 面 積	4 ㎡
4	調 査 期 間	平成14年 2 月14日（延べ 1 日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で貯留浸透工事が実施されることになった。工事予定地は大蓮東小学校内である。当地点は久宝寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、確認調査をおこなうことになった。工事面積は653㎡あり、確認トレンチを2ヶ所設定した。



調査地点位置図（1/1250）

1．調査の概要

工事予定地の東（No.1地区）と西（No.2地区）に1ヶ所づつトレンチを設定して、確認調査を実施した。調査は機械掘削と人力掘削を併用した。

No.1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細～中粒砂。

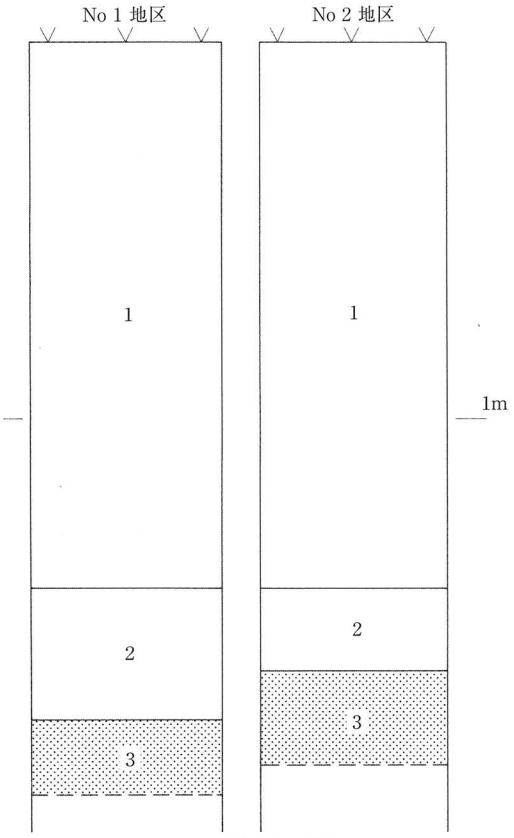
第3層　褐色(10YR4/4)粘質土。須恵器・土師器が出土。奈良時代以降の整地土と考えられる。

No.2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　褐色(7.5YR4/6)細～粗粒砂。

第3層　褐色(10YR4/4)細粒砂混じり粘質シルト。須恵器・土師器が出土。奈良時代以降の整地土と考えられる。

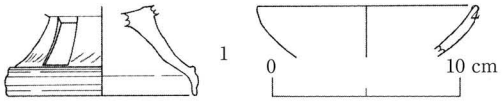


土層断面柱状図

2．出土遺物

古墳～奈良時代の土器が出土した。須恵器と土師器がある。

須恵器　1・3・4は須恵器である。1は高坏の脚部である。脚部は八字形に開き、裾端部がつまみ上気味に終わる。裾端部と脚柱部の境に凸帯をめぐらす。内外面は回転ナデ調整する。外面に列点文を施す。3は杯身、4は甕の破片である。



出土遺物実測図

土師器　2・5は土師器である。2は体部が外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる杯である。内外面はナデ調整する。5は鍋の把手である。

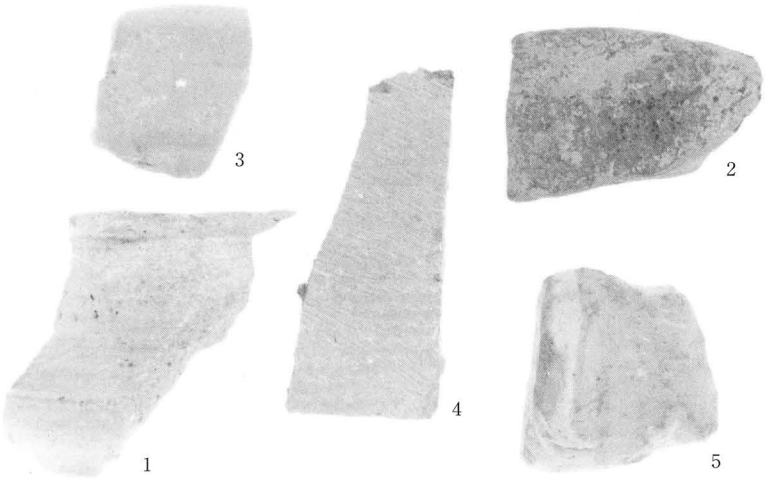
調査状況

3．まとめ

調査予定地でトレンチを2ヶ所設定して、確認調査を実施した。調査の結果、第3層は奈良時代以降の整地土ではあるが、古墳～奈良時代の遺物を多く含んでいることが確認できた。地表下1.7m以上を掘削するときは発掘調査が必要である。

調査地遠景

No2地区土層断面

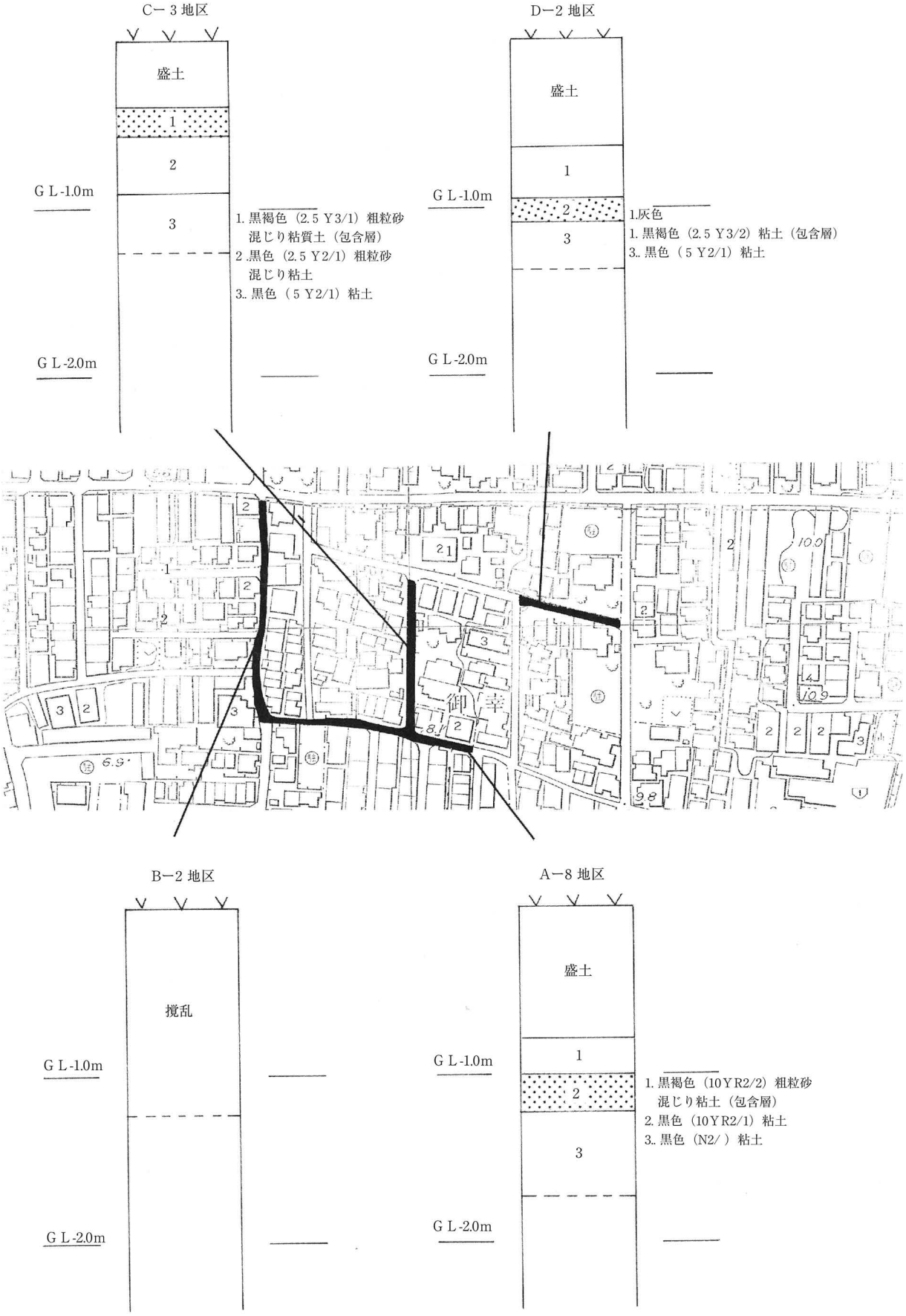


出土遺物（須恵器・土師器）

第14章　五合田（ごごうでん）遺跡の第４次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第204工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市御幸町715番地先
3	調 査 面 積	276㎡
4	調 査 期 間	平成14年７月22日～10月11日（延べ24日）
5	報 告 担 当	木村
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手小学校の北西である。当地点は五合田遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ325ｍの間であり、開削工法である。

調査地点位置図（1/2500）


C－3 地区
盛土
1
2
3
G L -1.0m
G L -2.0m
1. 黒褐色（2.5 Y3/1）粗粒砂
混じり粘質土（包含層）
2 .黒色（2.5 Y2/1）粗粒砂
混じり粘土
3.. 黒色（5 Y2/1）粘土
D－2 地区
盛土
1
2
3
G L -1.0m
G L -2.0m
1.灰色
1. 黒褐色（2.5 Y3/2）粘土（包含層）
3.. 黒色（5 Y2/1）粘土
御幸
B－2 地区
撹乱
G L -1.0m
G L -2.0m
A－8 地区
盛土
1
2
3
G L -1.0m
G L -2.0m
1. 黒褐色（10YR2/2）粗粒砂
混じり粘土（包含層）
2. 黒色（10YR2/1）粘土
3.. 黒色（N2/ ）粘土

土層断面柱状図

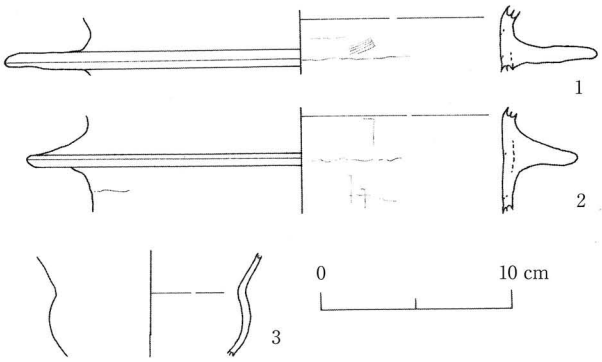
1．調査の概要

調査地は近鉄瓢箪山駅の西南側に位置する。従来の遺跡指定範囲はA地区の一部のみであったが、A地区の南側では今回と同様の公共下水道に伴う調査が行われた際（東大阪市教育委員会　1999)、古墳時代前期の遺物がまとまって出土している。そのため、隣接した地点においても遺物が出土する可能性があるので、他の地点においても調査を実施することになった。それらの地点はB～D地区として調査を行った。

2．出土遺物

古墳時代前期および古代に属すると考えられる遺物が出土しているが、図化できたのは3点のみである。1・2は土師器の羽釜である。いずれも鍔部分のみが残存している。鍔の上で外側に広がるので、菅原分類における河内A型であろう（菅原1983)。1は鍔部径31.2cm、残存器高3.6cmで、鍔の下面に煤が付着している。2は鍔部径29.0cm、残存器高5.6cmで、内面に炭化物が付着している。3は土師器の小型丸底壺で体部のみの残存であるが残存器高5.4cmである。内外面とも調整が不明であり時期を限定することはできない。4～8は写真のみ掲載している遺物である。4は土師質の移動式カマドの体部で両面にハケが施される。5は土師器の体部で外面にハケが施されており、古代の甕であろうと思われる。6は須恵器甕の体部で外面にタタキが施される。7は土師器壺の体部で一部頸部が残る。調整は摩滅が著しく不明である。8は土師器の底部、器形は不明であるが非常に分厚いものである。内面にシボリメのようなものが見られる。

調査地遠景



出土遺物実測図

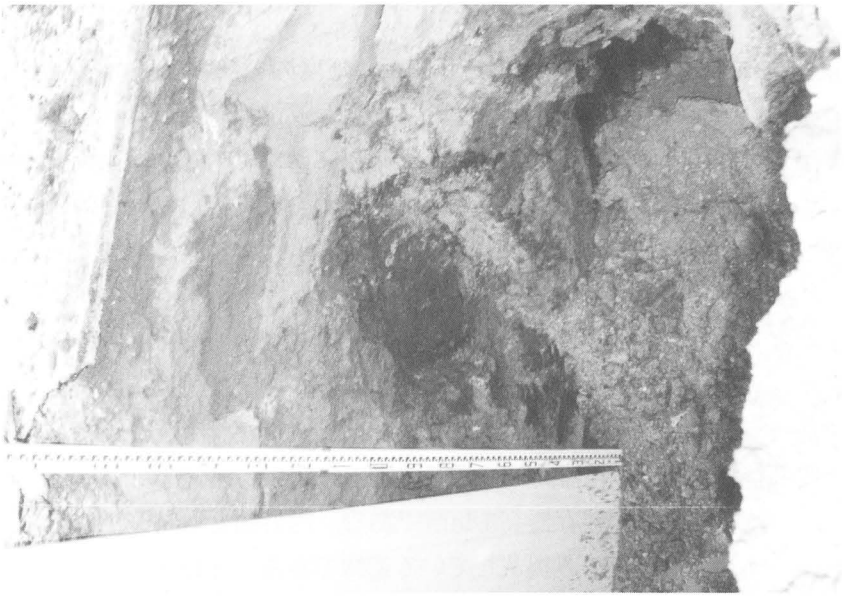
3．まとめ

従来の遺跡の範囲はA地区の一部のみであったが、今回の調査では、既設管によって撹乱されていたB地区以外のC・D地区において包含層及び遺物の出土を確認することができた。これによって五合田遺跡の範囲は北に大きく広がることになる。今後更に北及び西に広がる可能性も考えられることから、注意が必要である。図化することのできた遺物は少なかったが、古墳時代及び古代の遺物が出土したことから、周囲にこの時期の遺構が存在するものと思われる。

参考文献

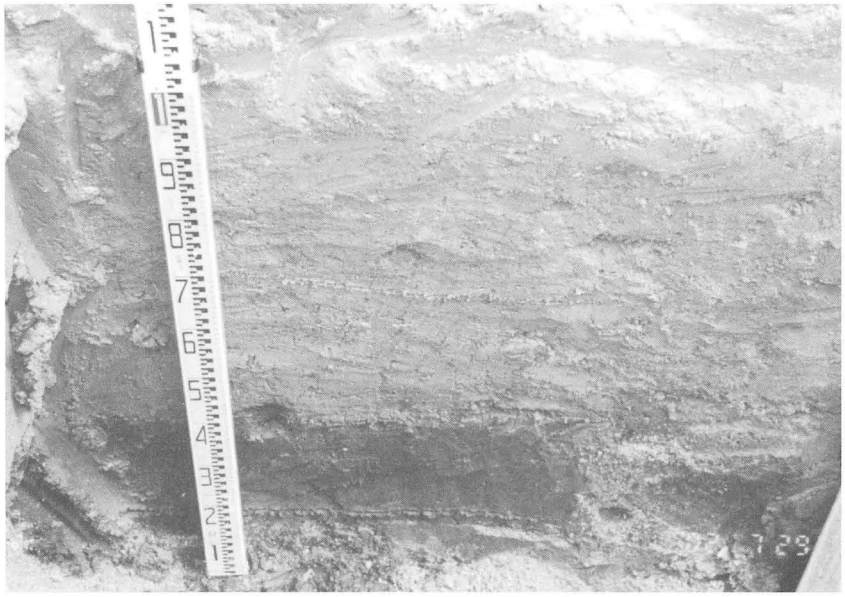
東大阪市教育委員会　1999　『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告　1998年度』

菅原正明　1983　「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所

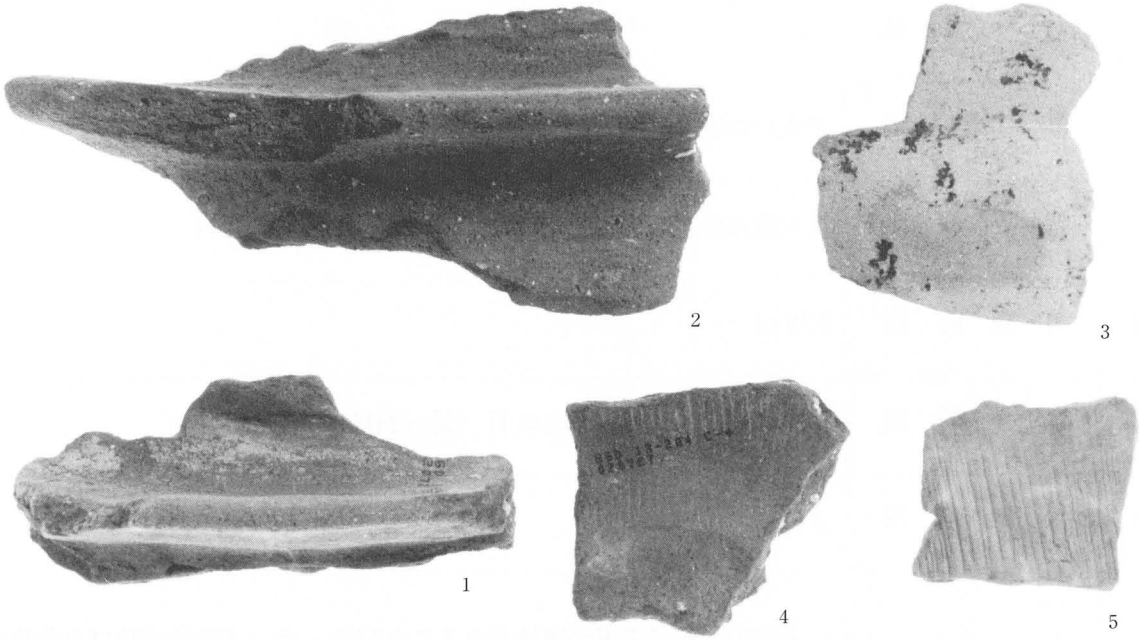


A－8 地区土層断面

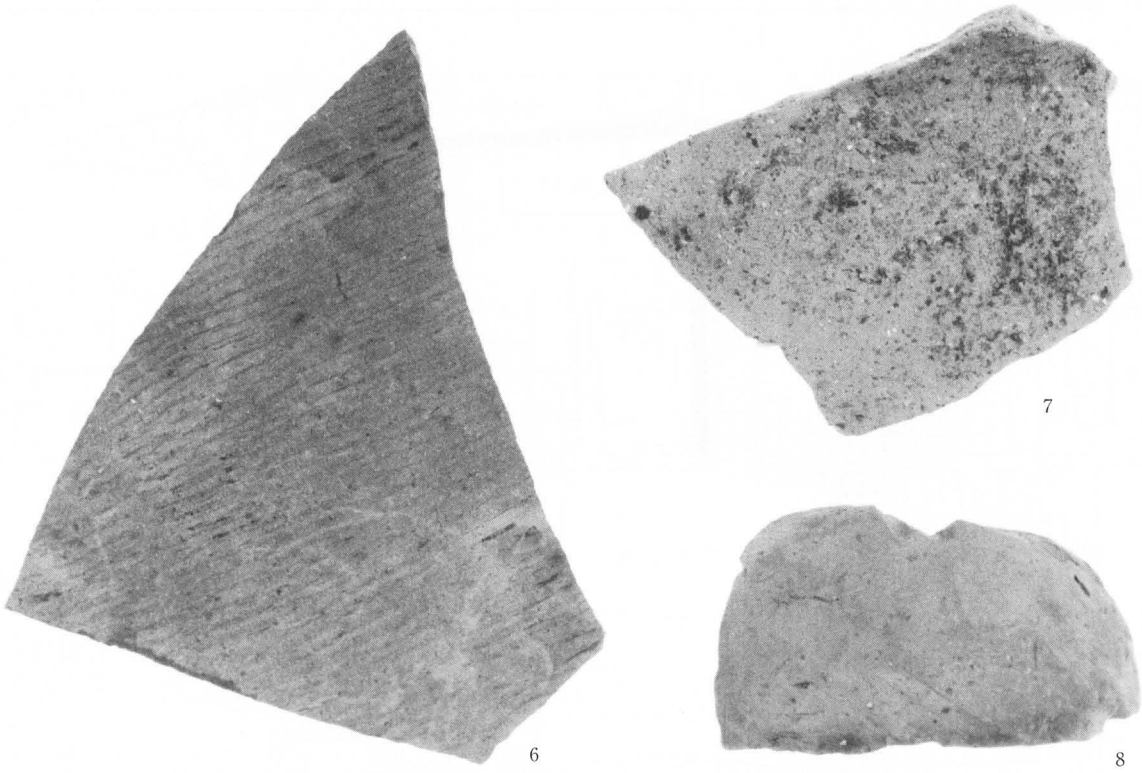
B－2地区土層断面



D－1地区土層断面



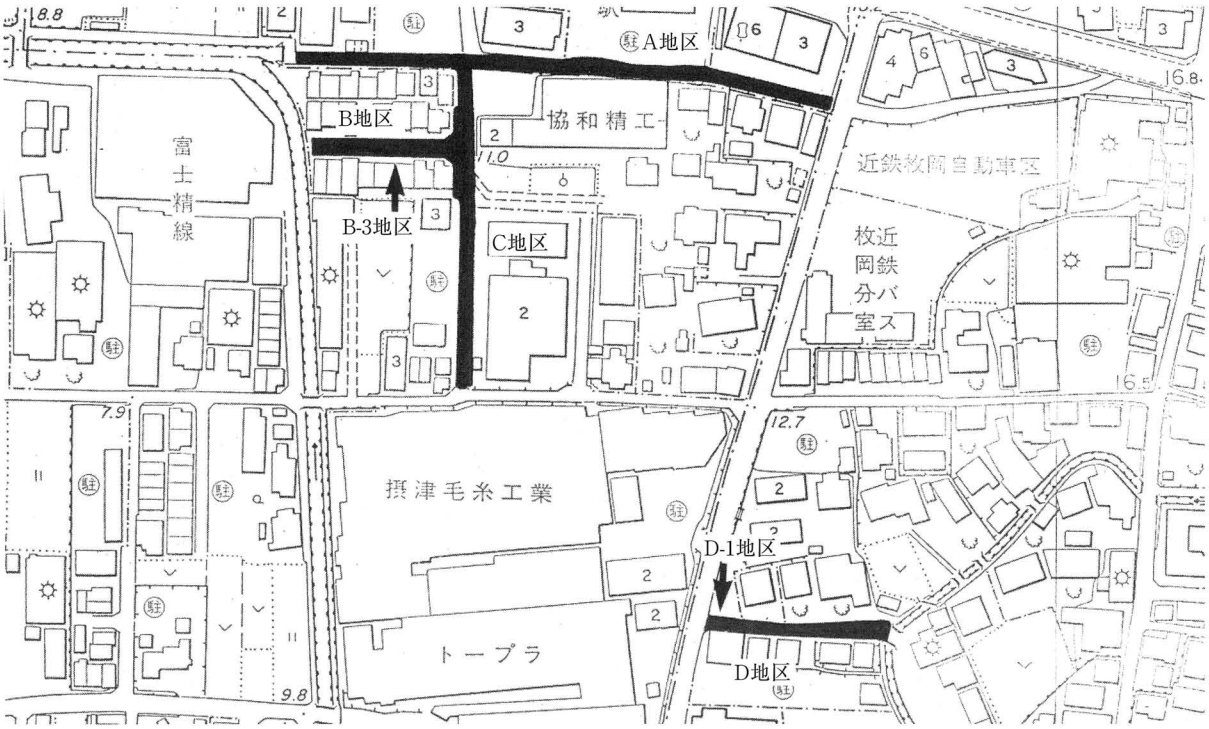
出土遺物（土師器）



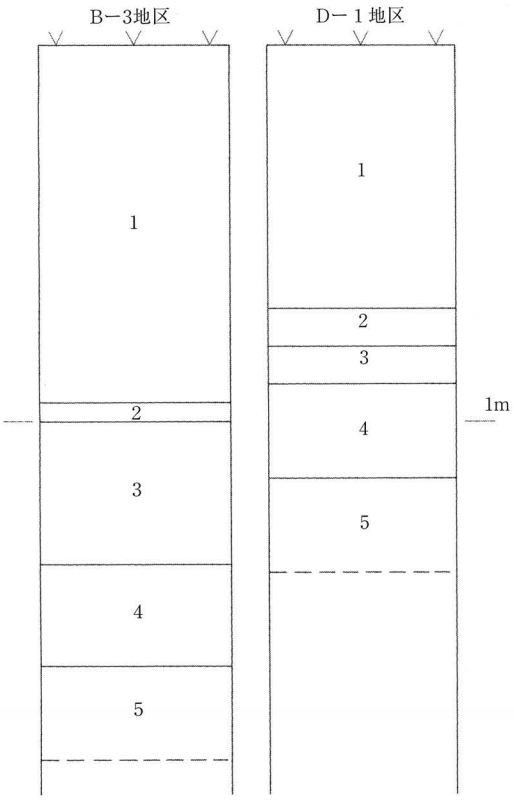
出土遺物（土師器・須恵器）

第15章　西ノ辻（にしのつじ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第26工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市弥生町1275～1294、東山町1443・1444
3	調査面積	232㎡
4	調査期間	平成14年2月13日～4月8日（延べ23日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の南である。当地点は西ノ辻遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ270mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

B－3地区土層断面

C－3地区土層断面

1．調査の概要

B－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)小礫混じりシルト。

第3層　にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト。

第4層　褐色(10YR4/6)粘土質シルト。

第5層　灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じりシルト。

D－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)細礫混じりシルト。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/1)細～中粒砂。

第4層　オリーブ黒色(10Y3/1)粗粒砂。

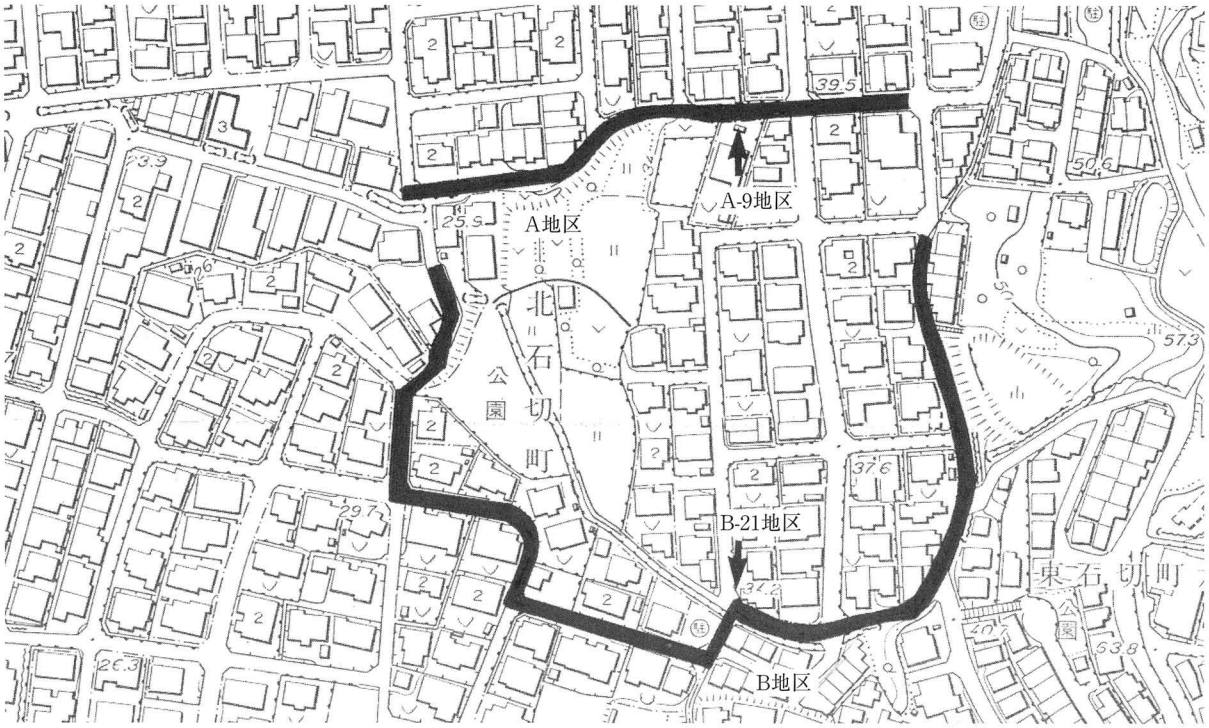
第5層　黒色(10Y2/1)粗粒砂混じりシルト～粘土。

2．まとめ

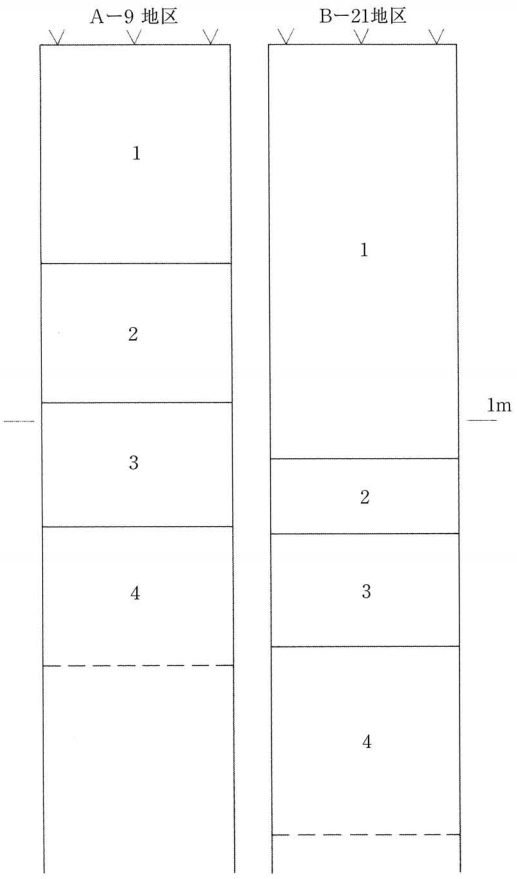
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第16章　芝ヶ丘（しばがおか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第31工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市北石切町 1872-44～1850-4、2252-8～1790-72
3	調 査 面 積	556㎡
4	調 査 期 間	平成14年３月４日～６月７日（延べ44日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切公民館の東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ644mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－9地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(10Y3/1)粗粒砂混じり粘質土。

第3層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)細～中礫混じり粘質土。

第4層　灰色(7.5Y4/1)細礫混じり粘質土。

B－21地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト。

第3層　暗緑灰色(10GY4/1)シルト～粗粒砂。

第4層　暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト～粗粒砂。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

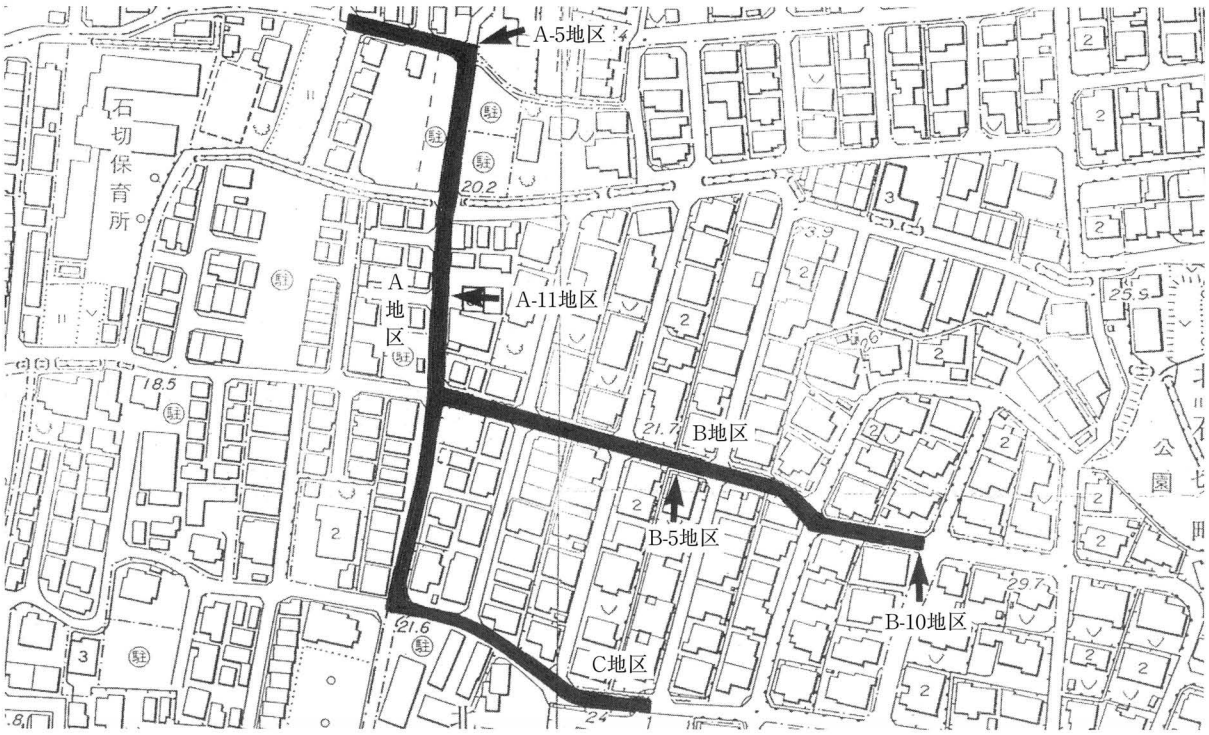
調査地遠景

A－9 地区土層断面

B－21地区土層断面

第17章　芝ヶ丘（しばがおか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第20工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市日下町２・３丁目、北石切町1413-31～2145-4、2297-13～2243-17、2182-1～2195
3	調査面積	422㎡
4	調査期間	平成14年３月25日～５月30日（延べ37日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切保育所の東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ422mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1．調査の概要

A－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒色(2.5GY2/1)粗粒砂～細礫混じり粘土質シルト。

第3層　黒色(7.5Y2/1)中粒砂～細礫混じりシルト。平安時代～中世期の遺物を含む。

第4層　オリーブ黒色(5Y3/1)中～粗粒砂混じりシルト。

第5層　灰色(7.5Y4/1)細～中粒砂混じり粘土質シルト。

A－11地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト混じり細～中粒砂。

第3層　暗緑灰色(7.5GY4/1)細礫混じり粘土質シルト。

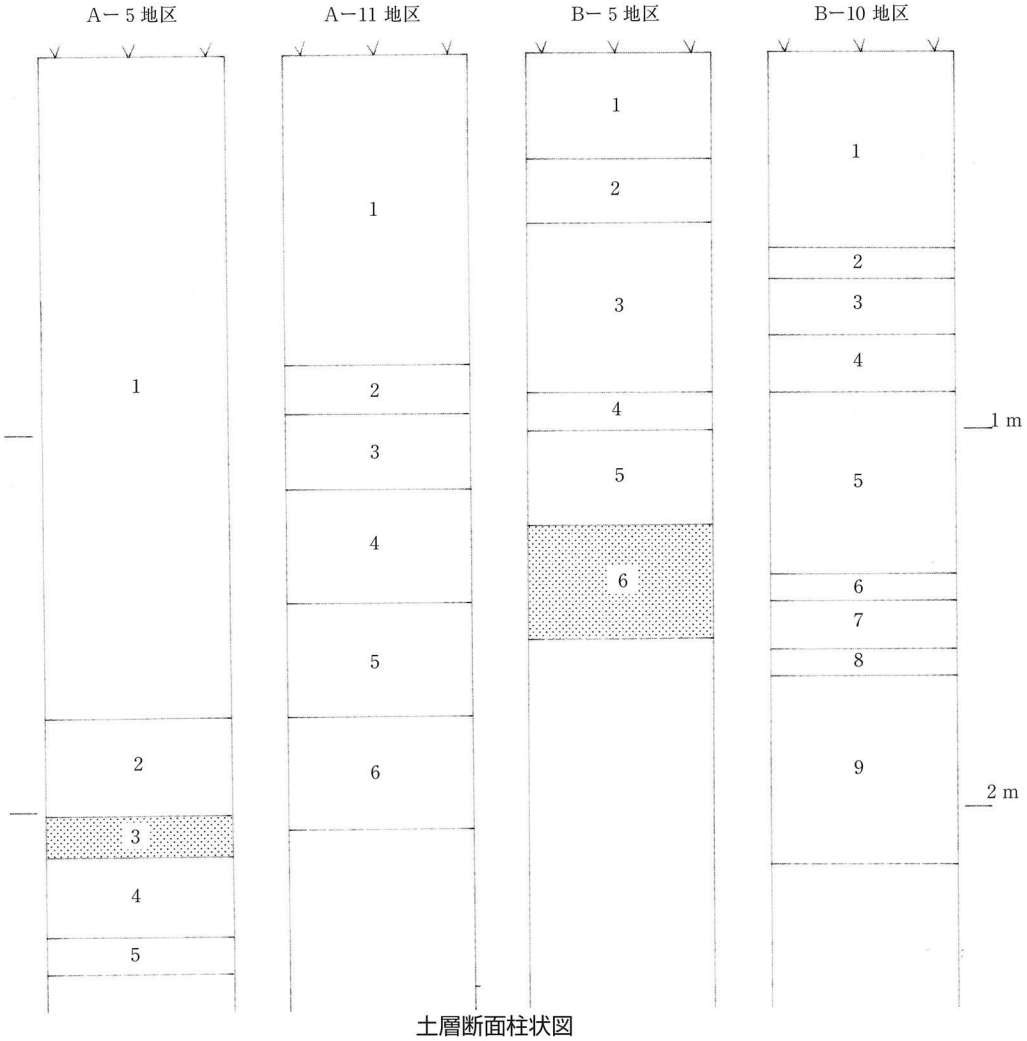
第4層　暗緑灰色(7.5GY4/1)中～粗粒砂混じり粘土質シルト。

第5層　灰色(7.5Y4/1)細礫混じり粘土質シルト。

第6層　灰色(7.5Y4/1)シルト質粘土。

B－5地区の層序

第1層　盛土。



土層断面柱状図

第２層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細～粗粒砂。
第３層　黄褐色(10YR5/8)細粒砂～細礫。
第４層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)中～粗粒砂。
第５層　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)シルト～中粒砂。
第６層　暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト～細粒砂。平安時代～中世期の遺物を含む。

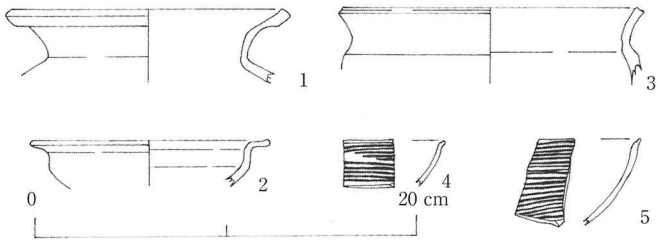
Ｂ－10地区の層序

第１層　盛土。
第２層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト。
第３層　黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト。
第４層　灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト。
第５層　黒色(5Y2/1)粘土。
第６層　灰黄褐色(10YR4/2)砂混じり粘土質シルト。
第７層　暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂。
第８層　黄褐色(10YR5/6)シルト～細粒砂。
第９層　暗灰色(N3/)粘土。

２．出土遺物

平安時代～中世期の須恵器・土師器・瓦器が出土した。

須恵器　１・２は須恵器である。１は甕である。口縁部が強く外反し、口縁端部が下方へ肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。２は鉢である。浅い椀状を呈する体部より口縁部が強く外反する。口縁端部は内側へやや肥厚する。内外面は回転ナデ調整する。焼成は悪く、瓦質に近い。平安時代である。



出土遺物実測図

土師器　３・６は土師器である。３は甕である。口縁部が強く外反し、体部と口縁部の境に明瞭な稜がつく。口縁端部は面をもつ。体部外面は指オサエ、内面はナデ調整する。６は高坏の脚部である。３は平安時代、４は時期不明である。

瓦器　４・５は瓦器である。いわゆる大和型とよばれる椀であり、口縁端部の内面に沈線を施す。内面は密なヘラミガキ調整し、外面は指オサエする。中世期である。

３．まとめ

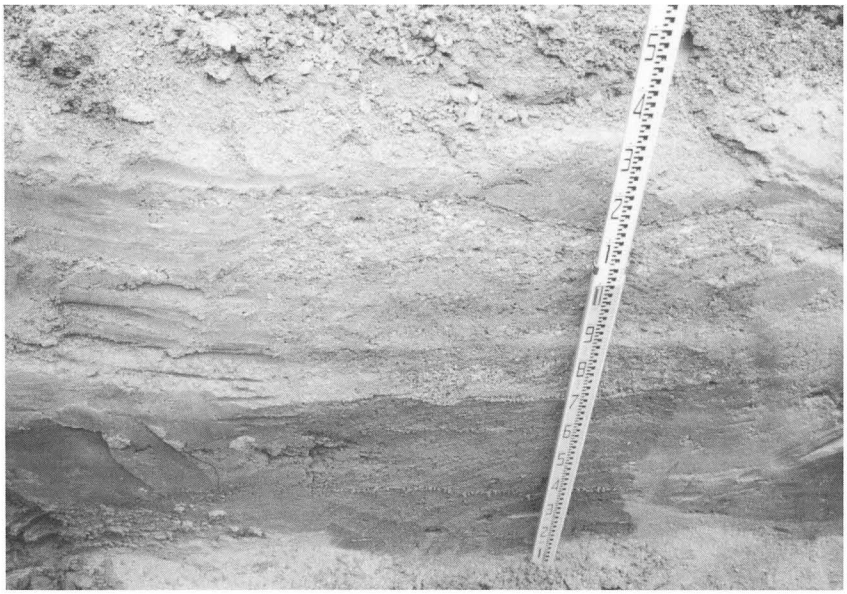
今回、平安時代～中世期の遺物が出土した。遺物はＡ－５地区周辺で多く見つかっているが調査範囲が狭いので遺構などは不明である。周辺に同時期の遺構が存在する可能性はある。

調査地遠景

調査状況

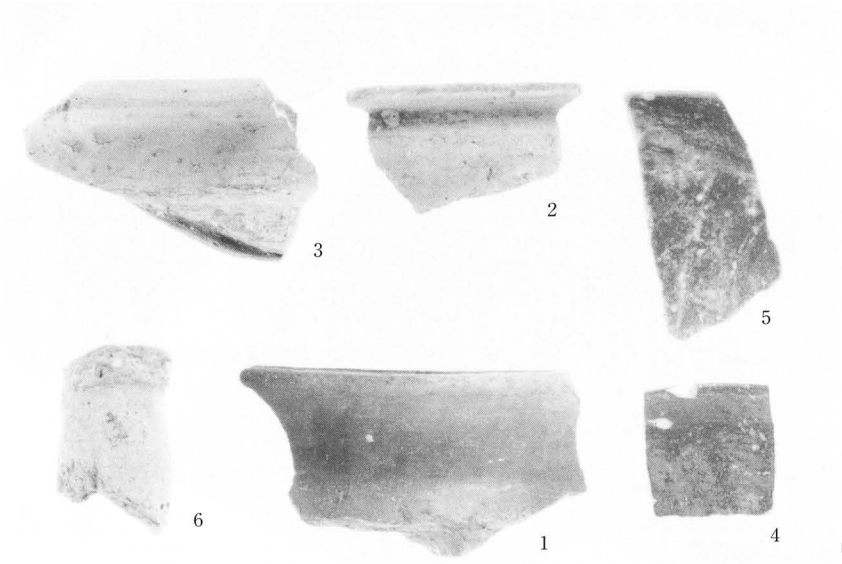
A—5地区土層断面

A—11地区土層断面



B—5地区土層断面

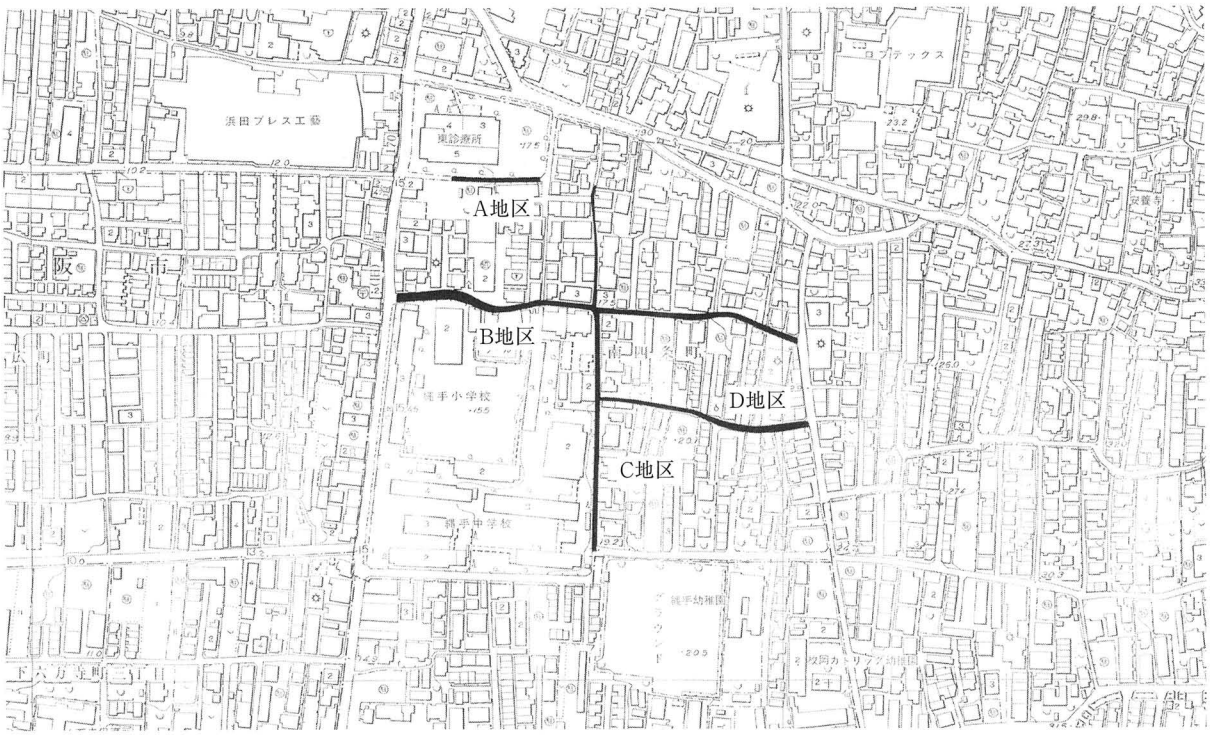
B—10地区土層断面



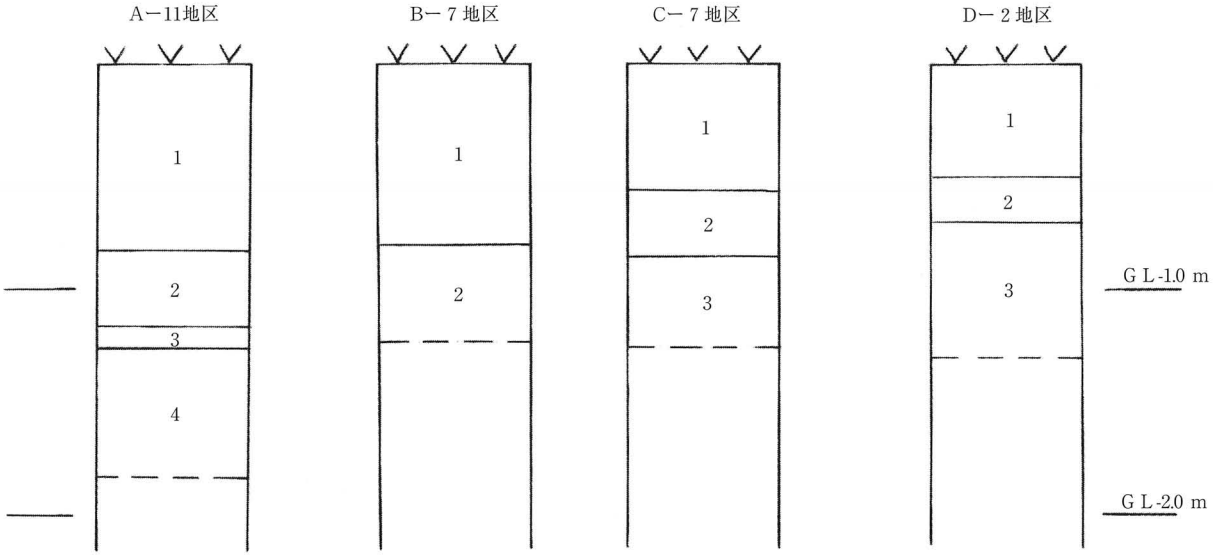
出土遺物
（須恵器・土師器・瓦器）

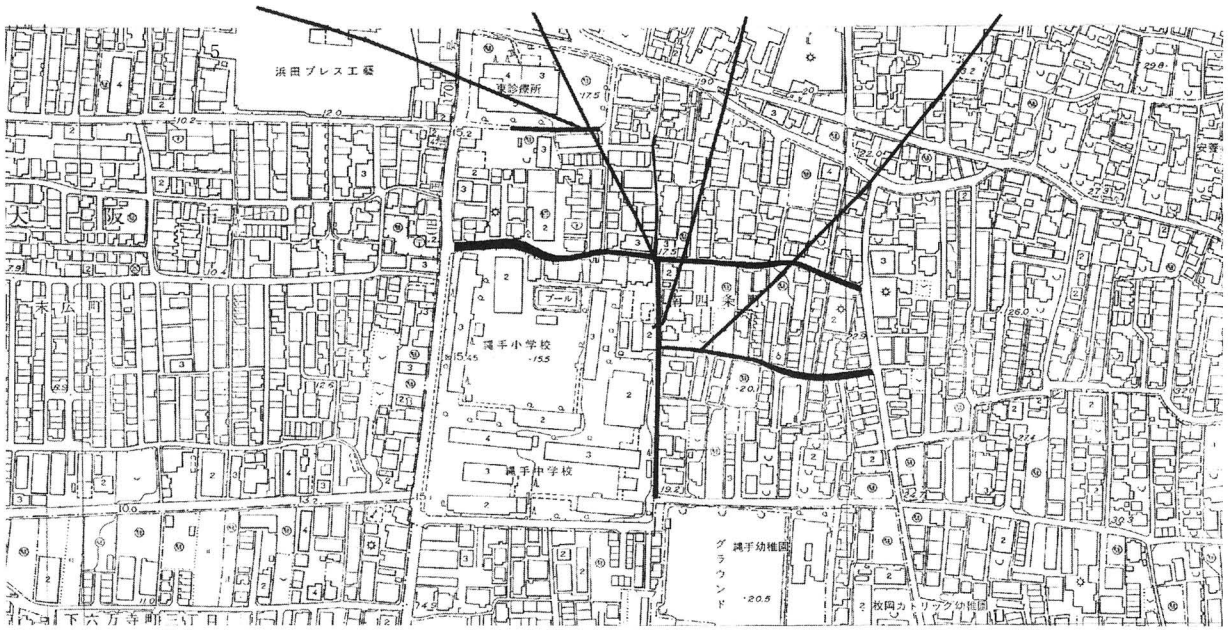
第18章　縄手（なわて）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第６工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市南四条町～上六万寺町3丁目742-1～742-4、799-1～771-1、970～991-1、757-1～968
3	調査面積	710㎡
4	調査期間	平成14年４月２日～11月12日（延べ73日）
5	報告担当	吉岡
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手小学校の北と東である。当地点は縄手遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.0ｍで長さ831mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/5000）





A－５地区
　第１層　盛土。
　第２層　黒褐色(2.5Y3/1)中～細礫混じりシルト質細粒砂。
　第３層　黒褐色(2.5Y3/1)シルト～粘土。
　第４層　黄褐色(2.5Y5/3)細礫混じり細粒砂～シルト。

B－７地区
　第１層　盛土。
　第２層　黒色(7.5Y2/1)粗粒砂混じり粘土質シルト青灰色粗粒砂含む。

C－７地区
　第１層　盛土。
　第２層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)細礫混じりシルト～細粒砂。
　第３層　黒色(7.5Y2/1)細礫～粗粒砂混じり粘土質シルト。

D－２地区
　第１層　盛土。
　第２層　黒色(5Y2/1)粗粒砂～大礫混じり粘質シルト。

土層断面柱状図

1．調査の概要

調査地は縄手小学校の東にA・B・D地区が位置する。北にC地区が位置する。調査は便宜上A～D地区に分割して行った。A・B地区からは遺物を確認できなかったが、C・D地区からは縄文～古墳時代の土器が出土した。

2．出土遺物

今回の調査では縄文土器、弥生土器、土師器がある。図化しえたものは縄文土器2点である。弥生土器は円形透かし孔をもつ器台の体部などがある。土師器は甕の体部であると推測される。以下、掲載したものの概要を述べる。

縄文土器

縄文土器は同一個体である。全体は接合することができなかったが、復原すると浅鉢になるものと推測される。

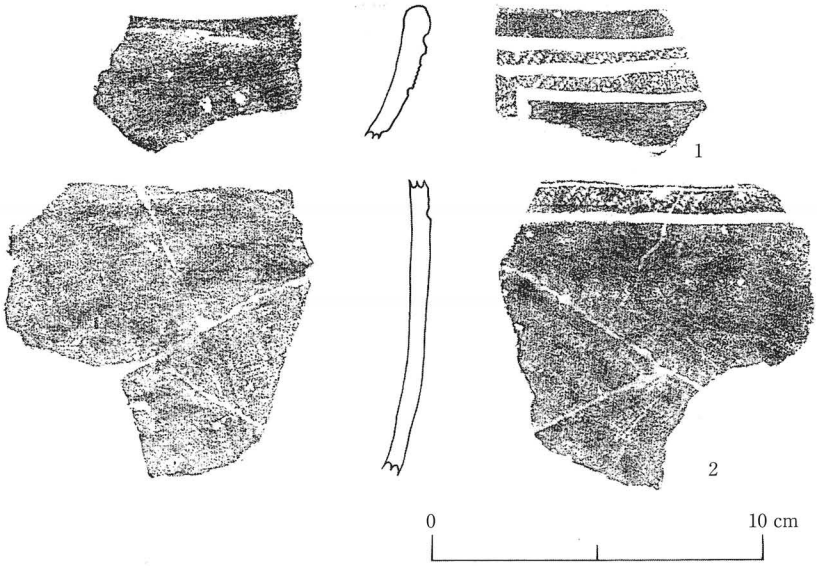
浅鉢　1は口縁部であり、内側に肥厚している。外面は3本の沈線で区画し、沈線間に磨消縄文を施している。内面は磨いている。沈線は細く直線的であり磨消部が広く、縄文の残る部分がせまくなっている。2は体部上半部から中部にあたる。外面は上半に1本の沈線が残っており、沈線間に縄文を施している。3～6は体部になる。調整はケズリである。1～6の胎土中は長石、角閃石、雲母を含んでいる。生駒西麓産の土器である。

調査地遠景

3．まとめ

今回の調査地は縄手遺跡の第1、3、6、8次の調査地に近かった。第1、3、6、8次調査では多量の縄文土器が発見されている。今回、遺物はあまり見つかっていない。出土した磨消縄文土器は、いわゆる福田KⅡ式である。福田KⅡ式は、第1次調査からも出土している。

第1次の縄文時代の遺物包含層は、黒色の有機質分を含んだ粘土層である。今回少量ではあるが縄文土器が出土した層は、黒色の有機物を含んだ粘土層であり、第1次調査で検出された層と同一の可能性が考えられる。今回の調査で得られた知見から縄手遺跡の後期の集落は縄手小、中学校の北東にも広がっていると推測される。

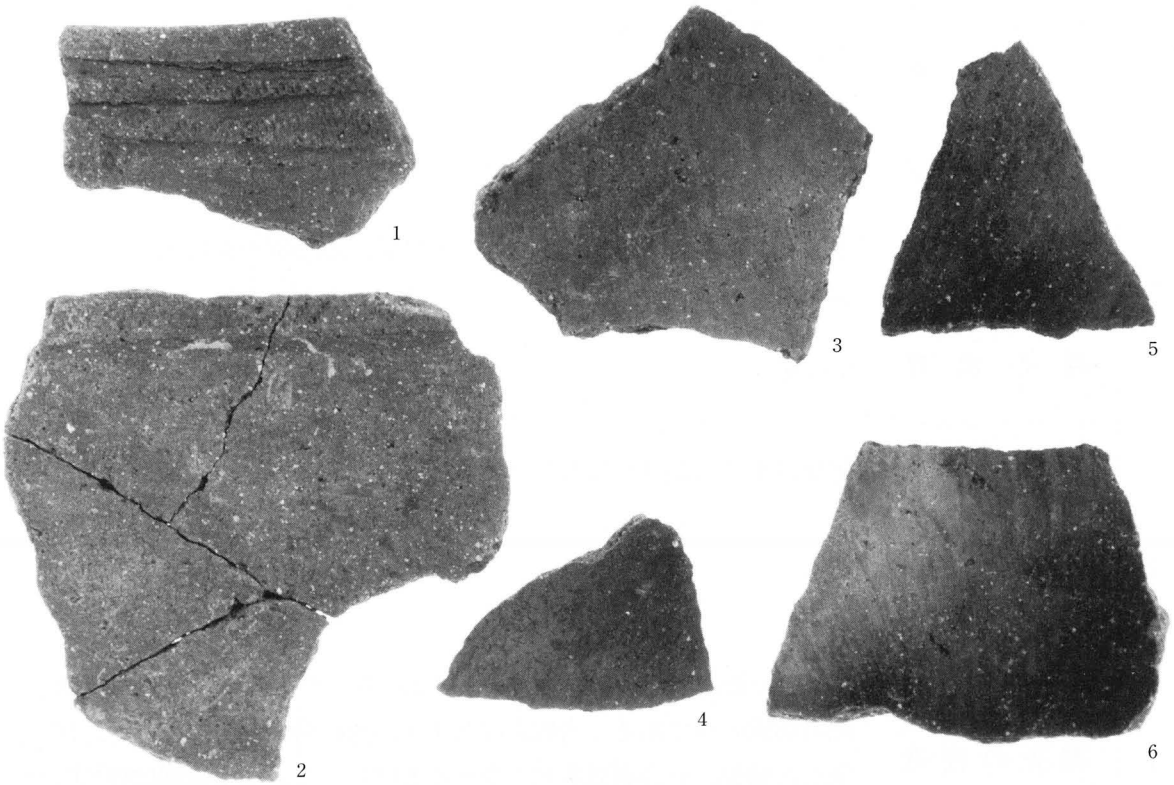


出土遺物実測図

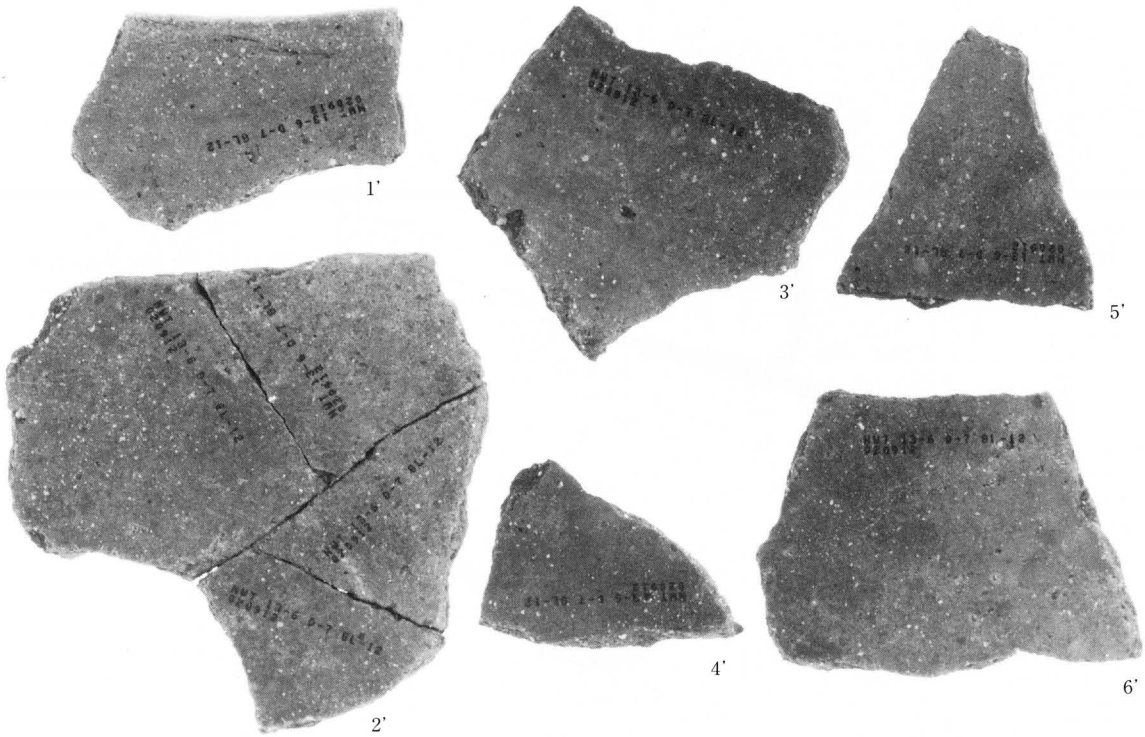
A－2地区土層断面

D－2地区土層断面

D－12地区土層断面



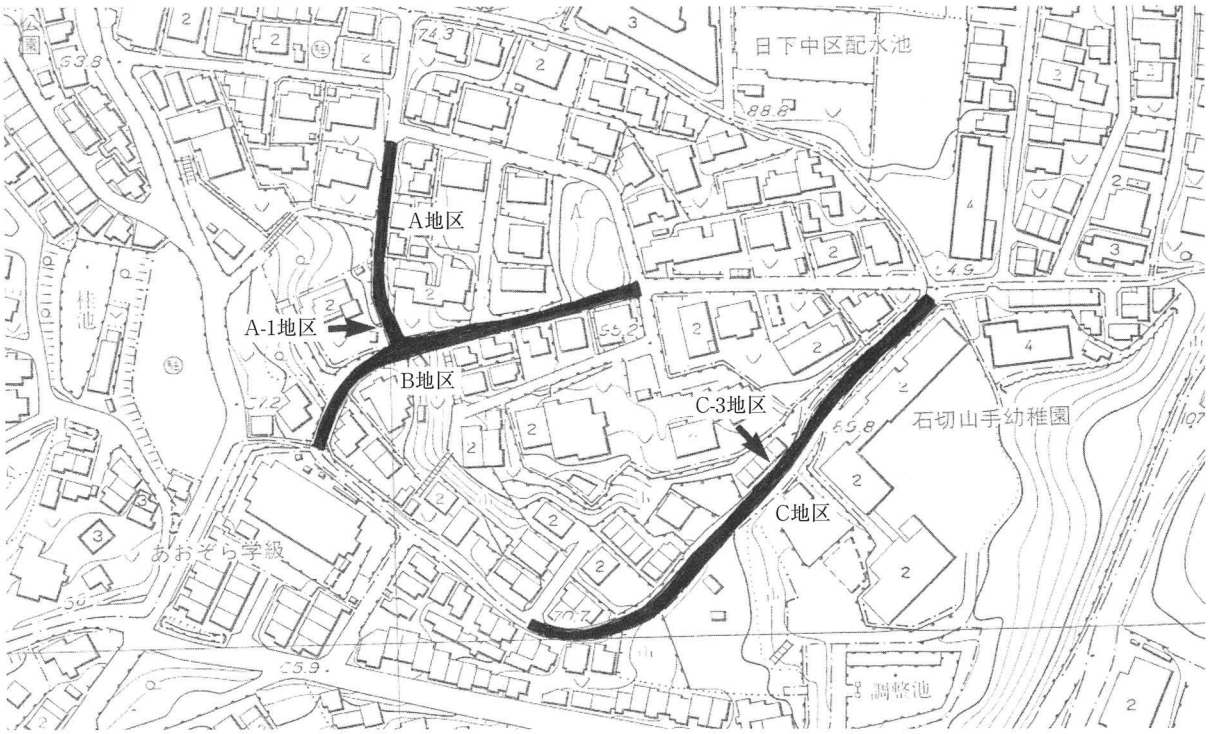
出土遺物（縄文土器）（表）



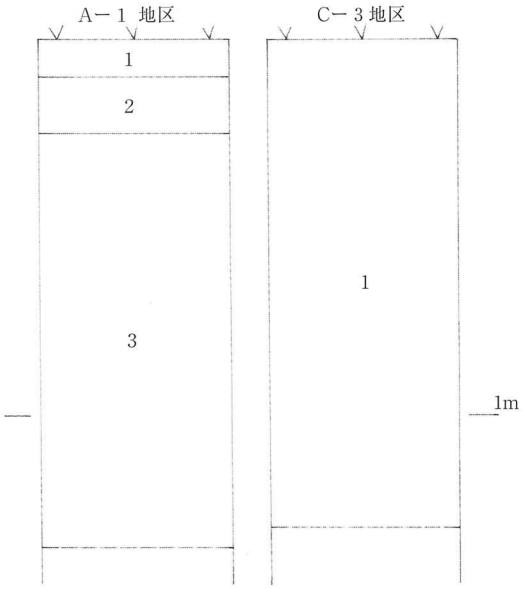
出土遺物（縄文土器）（裏）

第19章　芝坊主山（しばぼうずやま）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第 50工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町4丁目1672-53～1672-37、1672-31～1672-41、1659-24～1672-215
3	調 査 面 積	341㎡
4	調 査 期 間	平成14年７月25日～10月25日（延べ17日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の西である。当地点は芝坊主山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9ｍで長さ401ｍの間であり、開削工法である。



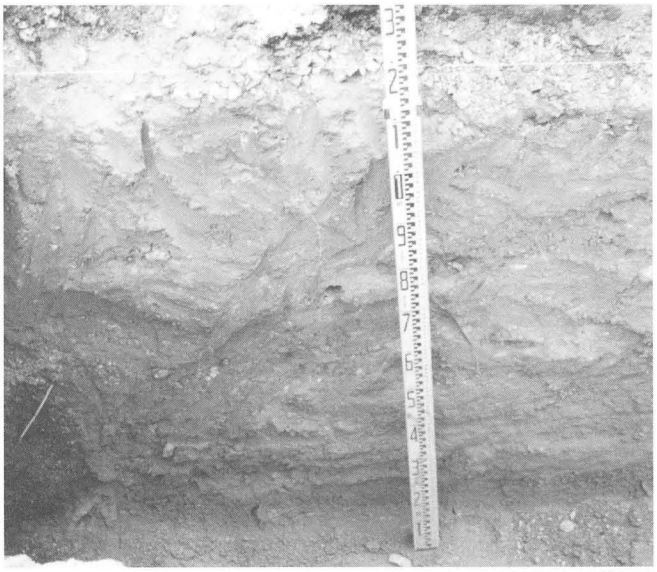
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

A－1 地区土層断面



C－3地区土層断面

1．調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂混じりシルト。

第3層　オリーブ黄色(5Y6/4)粘質シルト。

C－3地区の層序

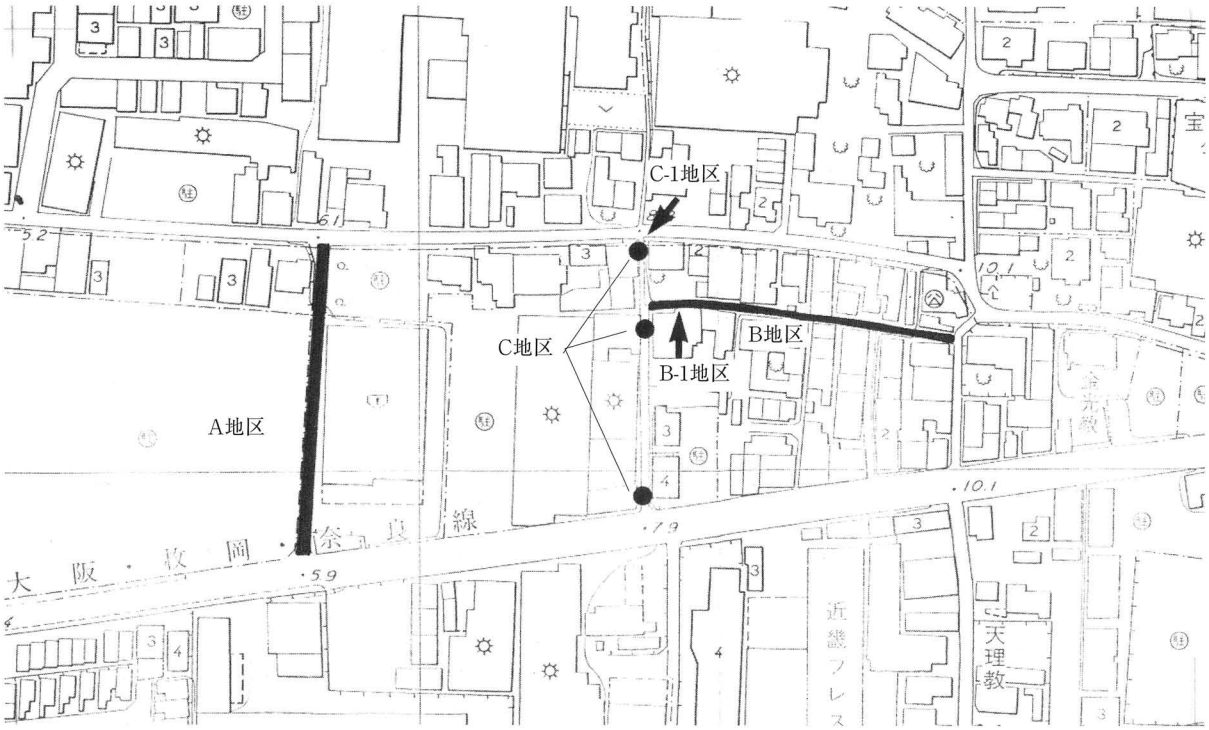
第1層　盛土。

2．まとめ

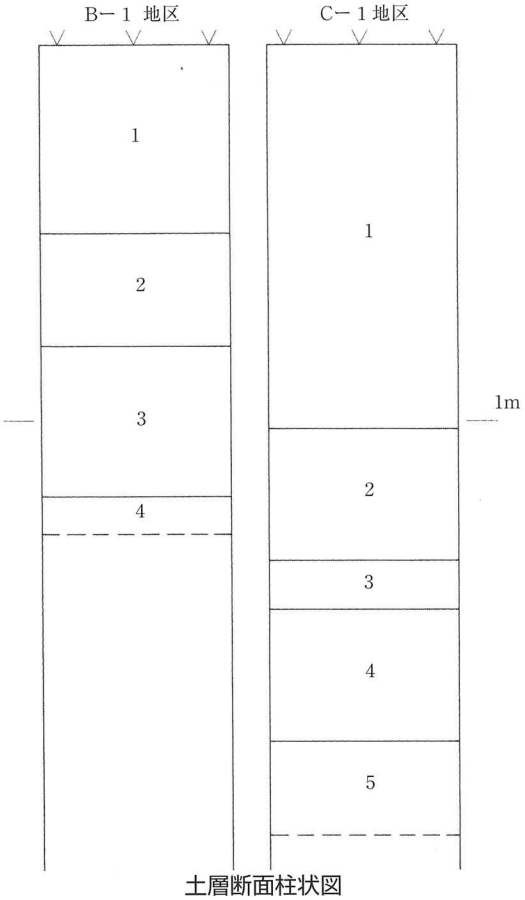
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第20章　鬼塚（おにづか）・鬼虎川（きとらがわ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第 52 工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市新町 433～347-6、402-3～447-2、439-4、402-3、401-3
3	調 査 面 積	220㎡
4	調 査 期 間	平成14年６月３日～８月６日（延べ17日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は府道大阪枚岡奈良線の北で大阪外環状線（国道170号線）の東である。当地点は鬼塚・鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.0ｍで長さ246ｍの間であり、開削工法である。Ａ地区は夜間工事のため立会調査を実施することはできなかった。



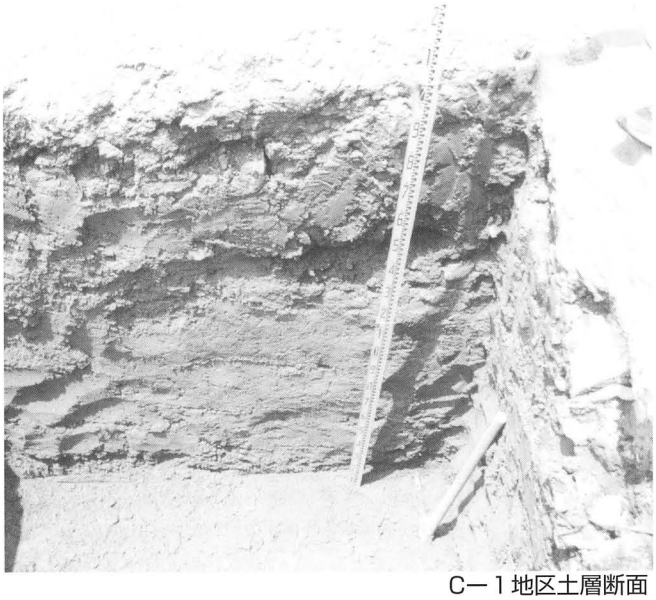
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

B－8 地区土層断面


C－1 地区土層断面

1．調査の概要

B－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　緑灰色(5G5/1)砂。

第3層　暗緑灰色(10G3/1)粘土。

第4層　明黄褐色(10YR6/8)粘土。

C－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～中粒砂。

第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～粗粒砂。

第4層　灰黄褐色(10YR4/2)細～中粒砂。

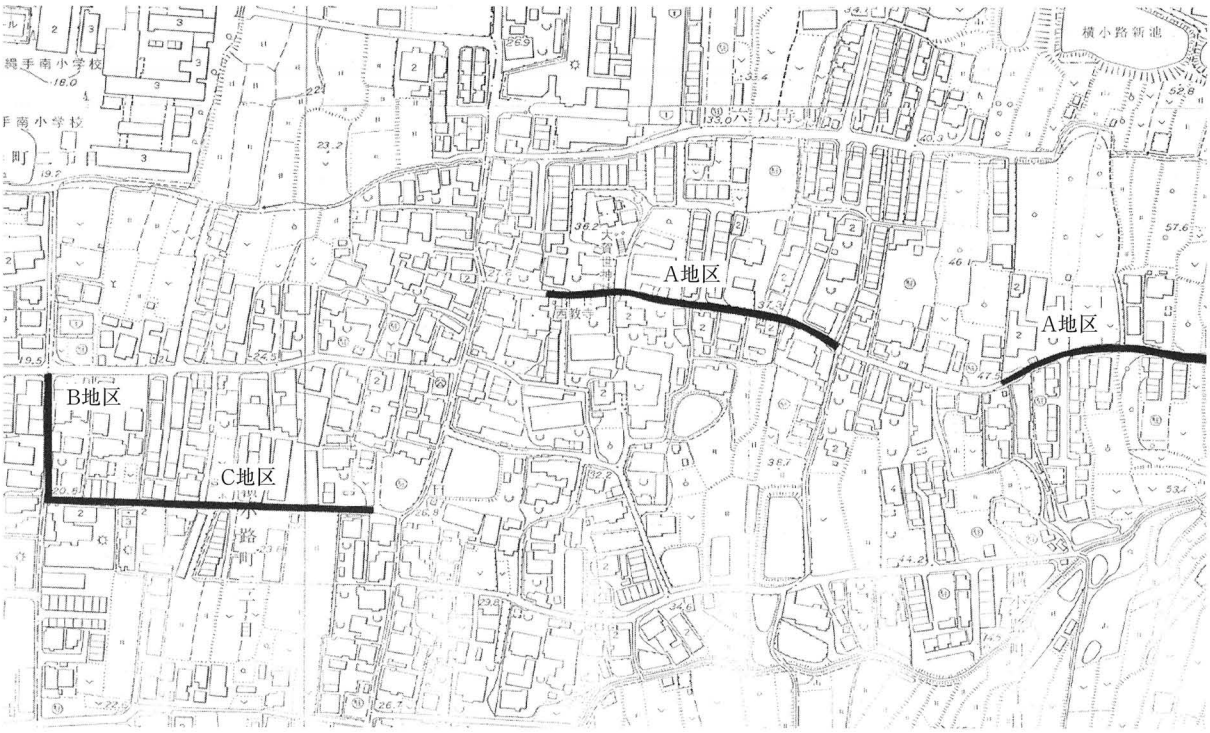
第5層　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂～中礫。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第21章　貝花（かいばな）・馬場川（ばばがわ）遺跡(第14次)、浄土寺谷古墳群（じょうどじだに）の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第67工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市横小路町2・3丁目437～476-4、490～546、582-3～604
3	調査面積	341㎡
4	調査期間	平成14年5月22日～11月14日（延べ47日）
5	報告担当	吉岡
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南小学校の南と南東である。当地点は貝花・馬場川遺跡、浄土寺谷古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ401mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/5000）

土層断面柱状図

1．調査の概要

調査地は2地点に分かれ、浄土寺谷古墳群、貝花遺跡をA地区，馬場川遺跡をB～C地区と呼称した。馬場川遺跡B地区で遺物包含層を確認した。以下層序を記す。

2．層位

A－17地区の層序(浄土寺谷古墳群)

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト～粘土。

第3層　暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト。細礫を含む。

A－26地区の層序(浄土寺谷古墳群)

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/2)中粒砂～シルト。細礫を含む。

A－2地区の層序(貝花遺跡)

第1層　盛土。

第2層　灰オリーブ色(7.5Y4/2)粘土。粗粒砂を含む。

B－2地区の層序(馬場川遺跡)

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)シルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/1)シルト。粗粒砂を含む。(縄文時代の遺物包含層)

第4層　黄灰色(2.5Y4/1)シルト。粗粒砂を含む。

第5層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土。

C－6地区の層序(馬場川遺跡)

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y3/2)シルト～粘土。

第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト。粗粒砂を含む。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)シルト。微粒砂を含む。

第5層　緑黒色(5G2/1)シルト。微粒砂を含む。

第6層　オリーブ黒色(5Y3/2)粘土。

C－11地区の層序(馬場川遺跡)

第1層　盛土。

第2層　暗緑灰色(5G4/1)粗粒砂。

第3層　暗緑灰色(7.5GY4/1)粗粒砂。

第4層　黒色(5Y2/1)粘土。

3．出土遺物

出土遺物には縄文土器、石器の剥片、土師器が出土した。図化しえたものは口縁部と比較的大きい体部破片の縄文土器9点である。胎土中に角閃石を多く含むものを「生駒西麓産」、含まないものを「非生駒西麓産」とする。以下概要を記す。

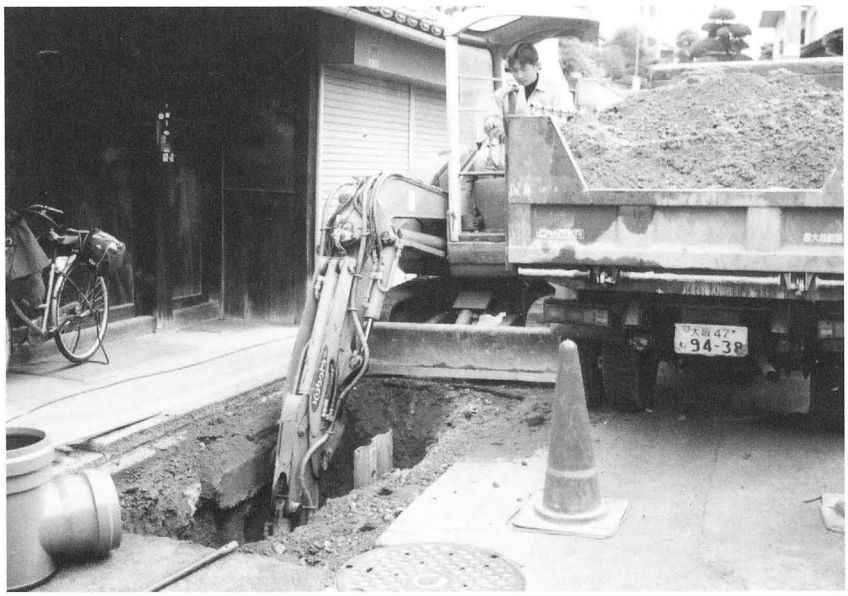
縄文土器

今回出土した土器は深鉢と浅鉢がある。晩期前半～中頃のものが中心である。

深鉢　2は口縁部が緩やかに外反し、内外面共にナデによって調整されている。4は2条の沈線を施している。5は1条の沈線を施し、二枚貝条痕で調整している。6～12はケズリ調整である。すべ

て粗製土器であり生駒西麓産である。

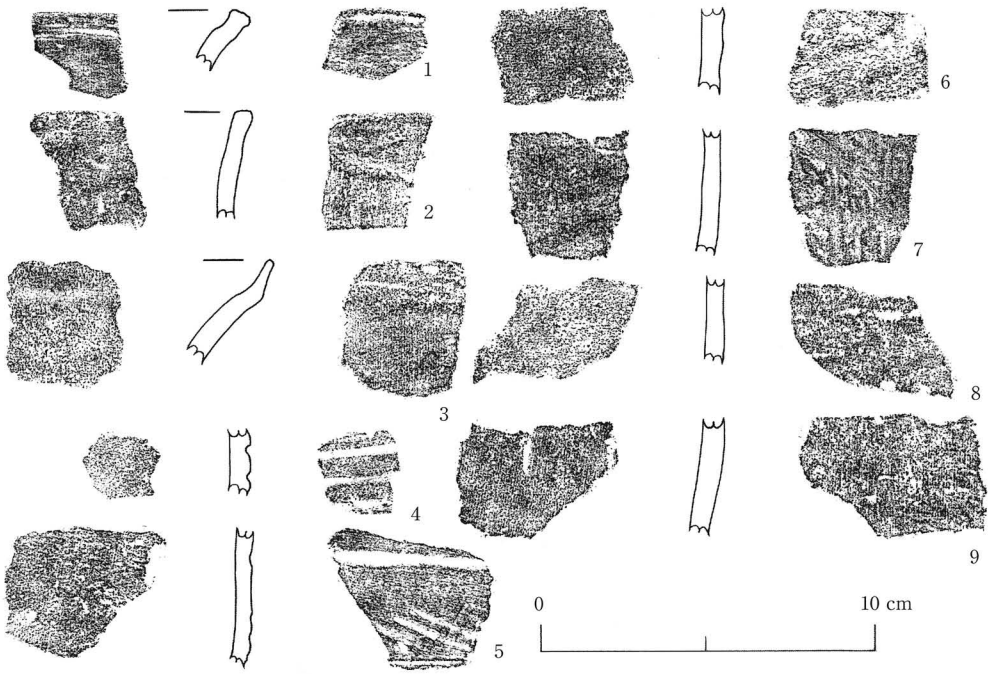
浅鉢　1、３は口縁部になる。1は口縁部が外傾し、口縁端部は面をもち内側へ肥厚する。内外面共にナデ調整である。非生駒西麓産で搬入品の可能性がある。３は口縁部が外傾し、口縁端部は内側へ肥厚している。外面は上半部がケズリ、下半部がナデ調整であり、内面はナデ調整である。生駒西麓産である。



調査状況

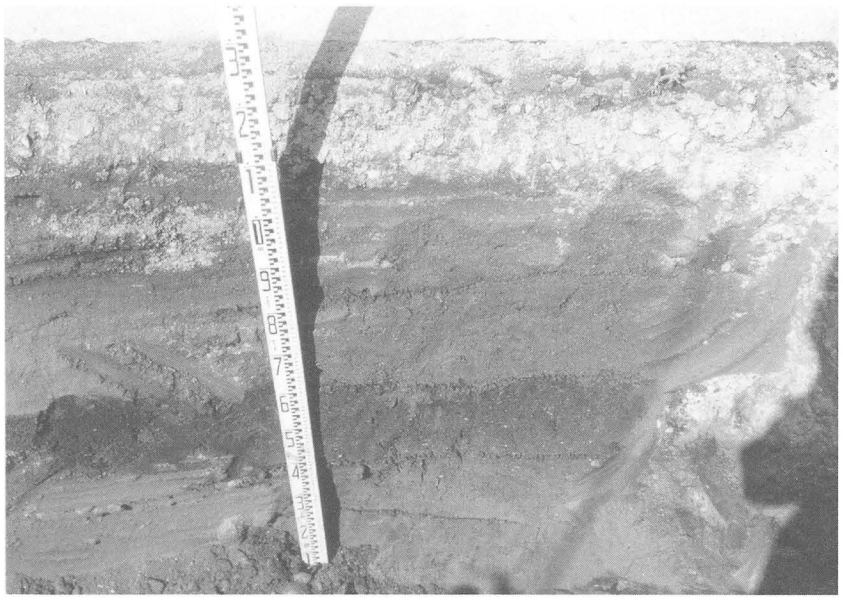
４．まとめ

今回の調査では浄土寺古墳群、貝花遺跡の範囲では遺構、遺物は確認できなかった。馬場川遺跡のＢ地区で縄文時代晩期の遺物包含層が確認された。C地区は撹乱をうけており包含層は確認できなかった。このことから第12次のＡ地区と第14次のＢ地区の南北ラインに、縄文時代晩期の遺物包含層が広がっていることがわかった。今回の遺物包含層も第12次と同様に、深鉢のケズリ調整と二枚貝条痕の特徴から、縄文晩期滋賀里Ⅲｂ式に該当するとおもわれる。今回の調査で周辺に縄文時代晩期の遺物包含層が広がっていることがわかった。



出土遺物実測図

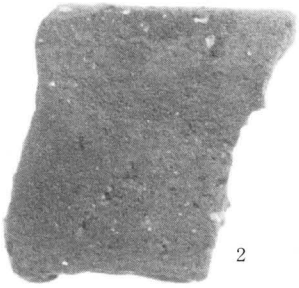
調査地遠景

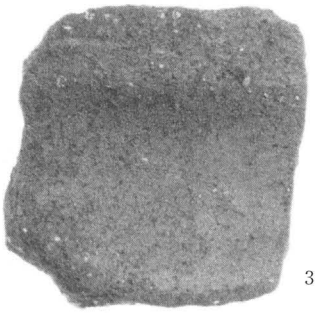


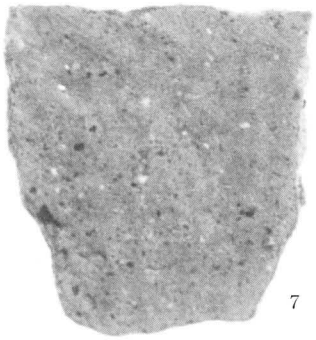
B－2 地区土層断面

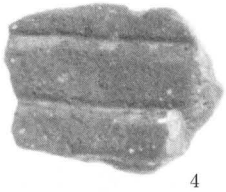
C－6 地区土層断面

1


2

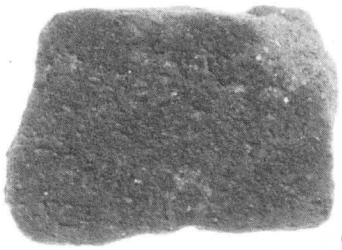

3

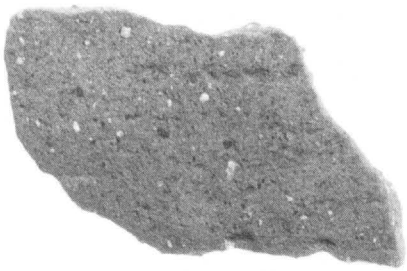

7


4

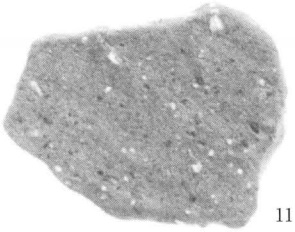
5

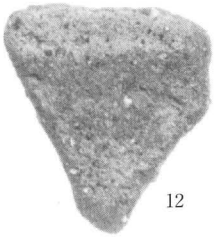
出土遺物（縄文土器）


6


8

10


11

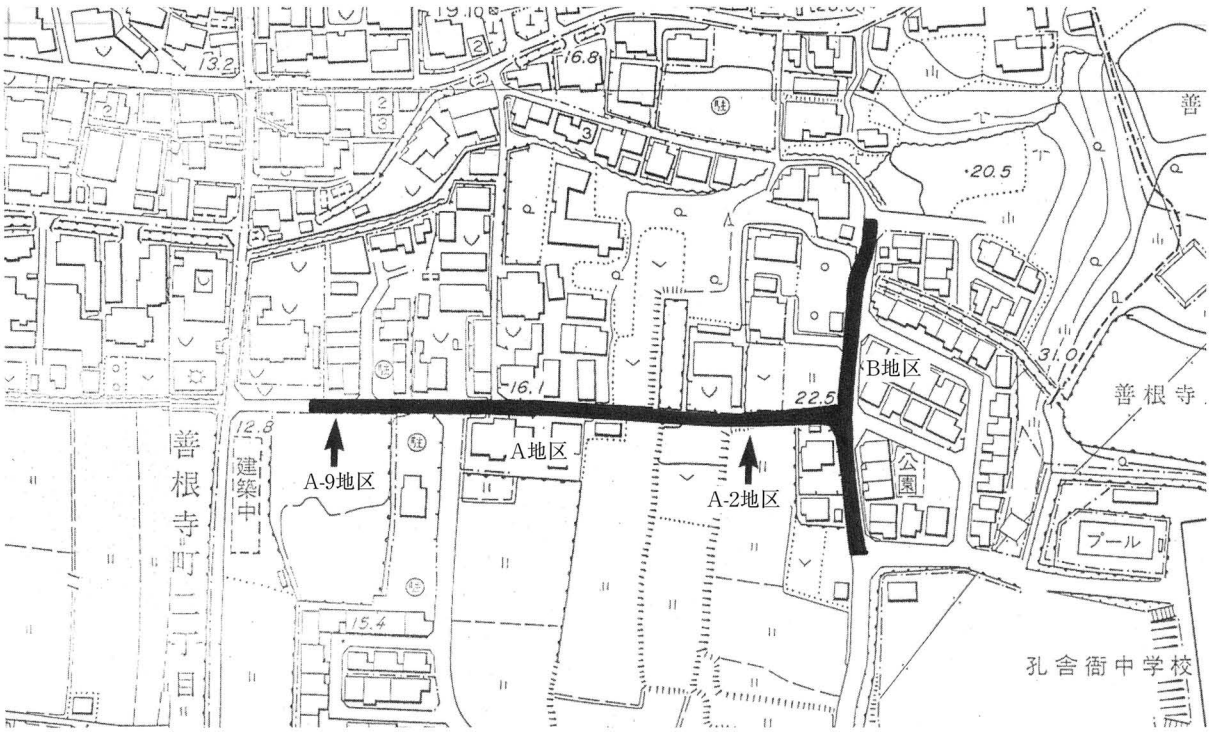

12

9

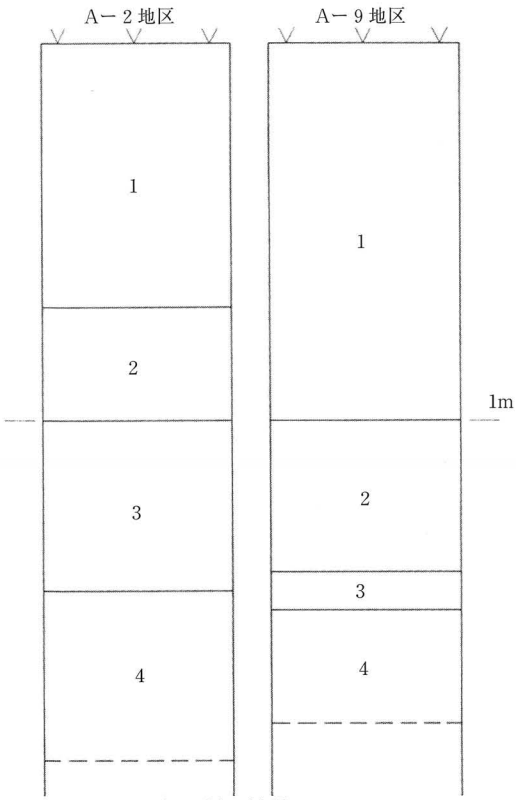
出土遺物（縄文土器）

第22章　善根寺（ぜんごんじ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第34工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市善根寺町１丁目
3	調査面積	382㎡
4	調査期間	平成14年７月15日～８月８日（延べ11日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衙中学校の西である。当地点は善根寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.4mで長さ374mの間であり、開削工法である。

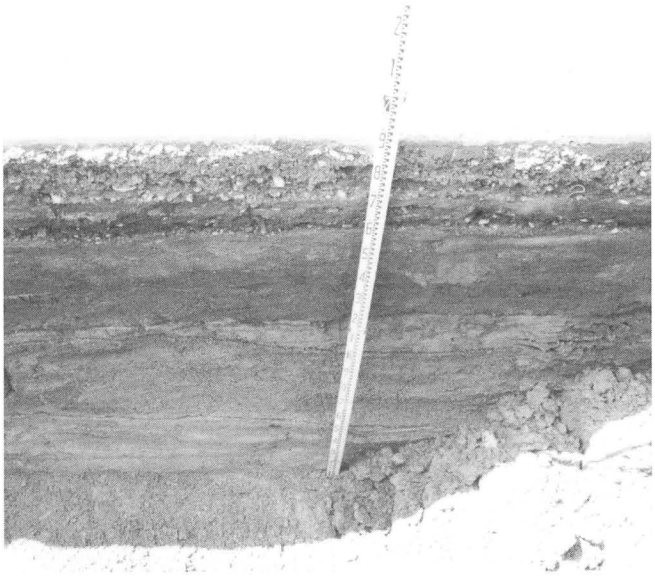


調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景



A－2地区土層断面

A－9地区土層断面

1．調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　青灰色(10BG6/1)砂混じり粘土。

第3層　灰黄褐色(10YR6/2)粗粒砂。

第4層　灰オリーブ色(5Y5/2)シルト質粘土。

A－9地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗青灰色(5BG4/1)粗粒砂。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)粘土。

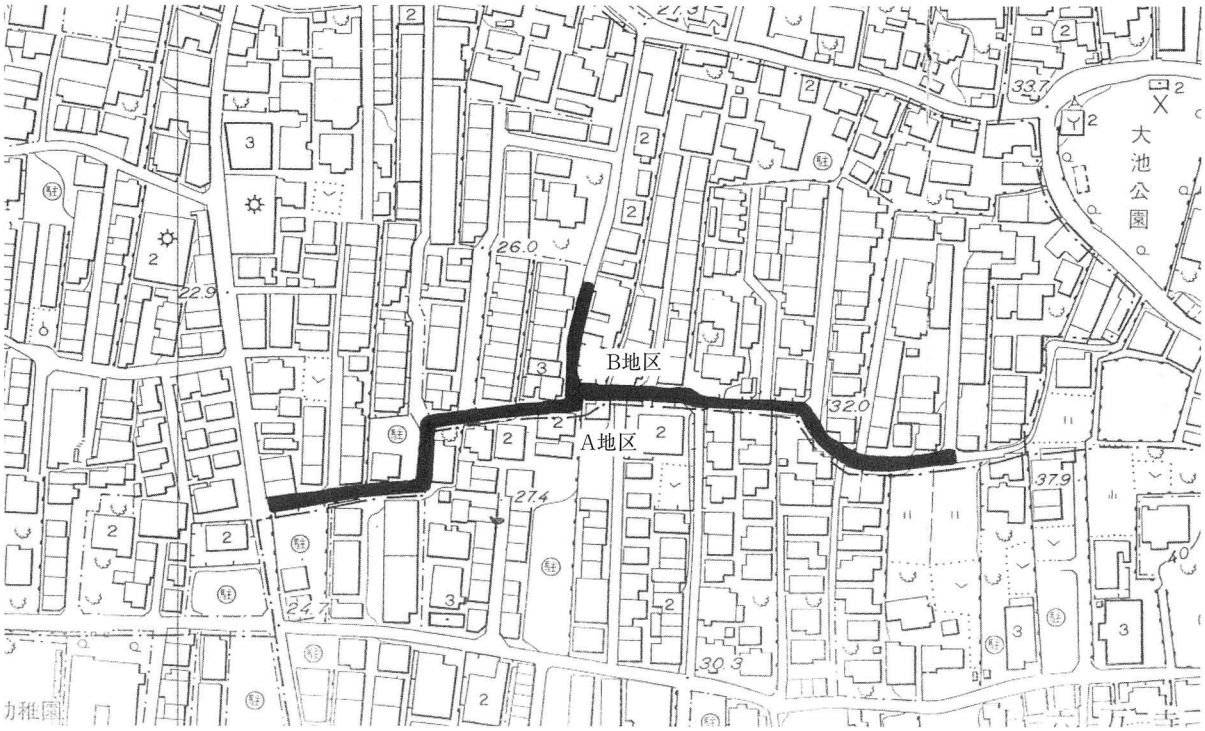
第4層　暗緑灰色(10G4/1)砂混じり粘質シルト。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

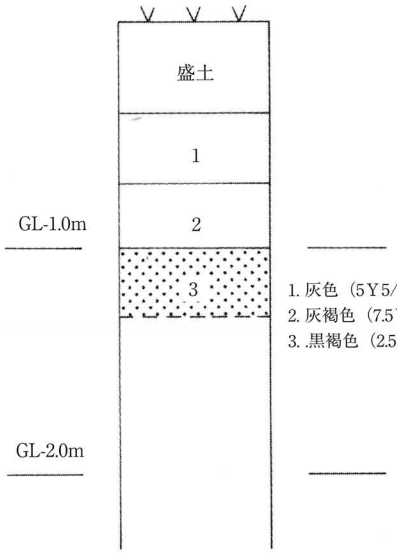
第23章　上六万寺（かみろくまんじ）遺跡の第７次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第43工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市南四条町
3	調査面積	253㎡
4	調査期間	平成14年７月５日～８月26日（延べ28日）
5	報告担当	木村
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手小学校の東である。当地点は上六万寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ297mの間であり、開削工法である。



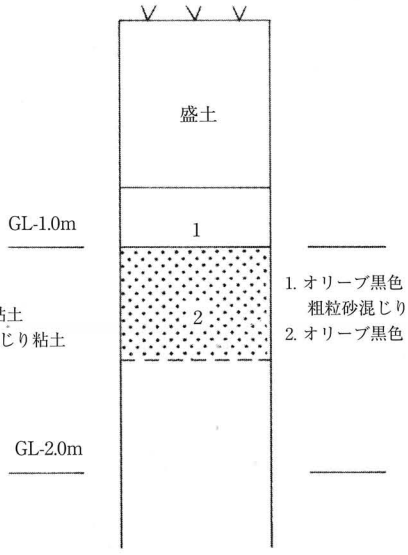
調査地点位置図（1/2500）

A－2地区

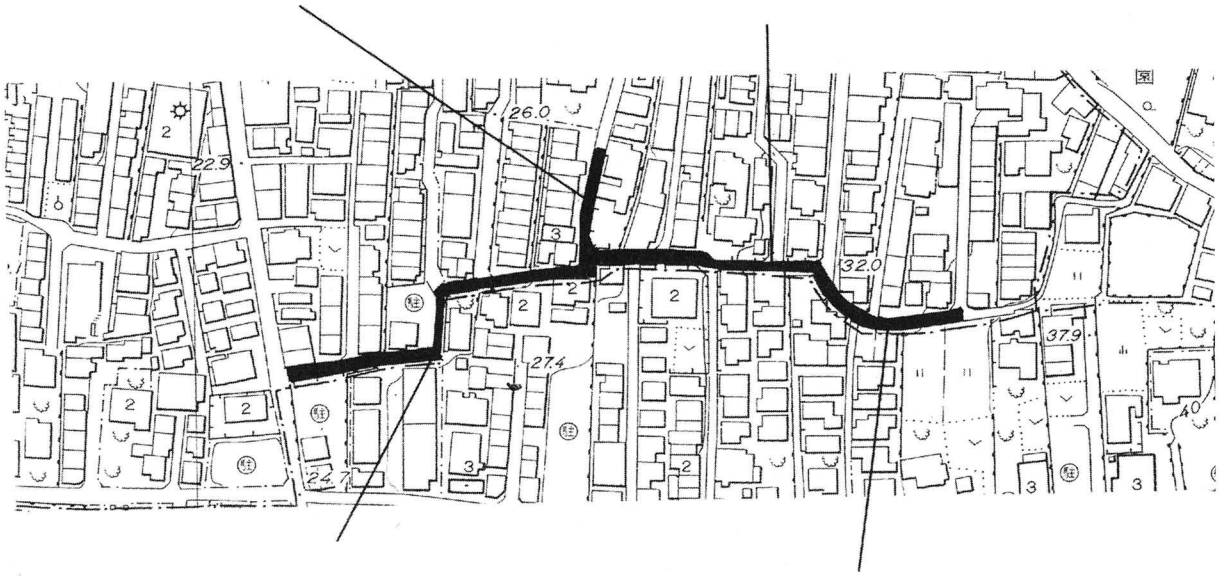


1. 灰色（5Y5/1）シルト
2. 灰褐色（7.5YR5/2）混じり粘土
3. 黒褐色（2.5Y3/1）砂～礫混じり粘土

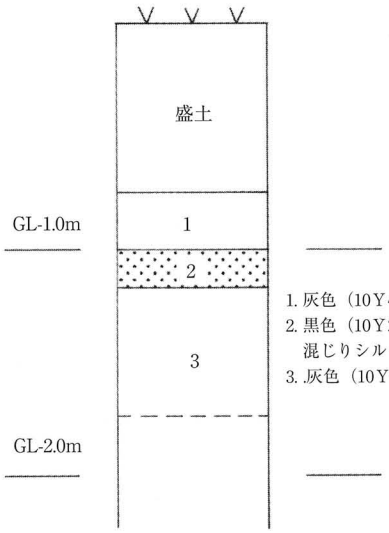
A－9地区



1. オリーブ黒色（10Y3/1）
粗粒砂混じりシルト
2. オリーブ黒色（5GY2/1）粘土

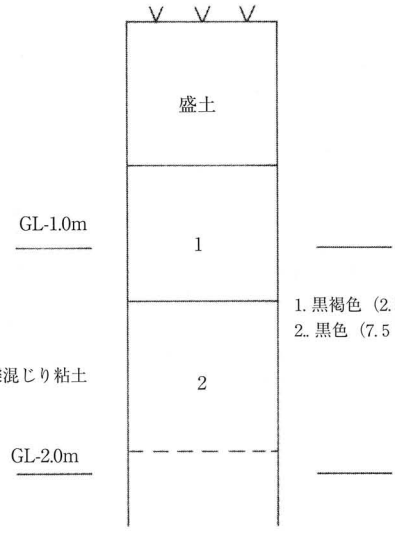


A－4地区



1. 灰色（10Y4/1）シルト
2. 黒色（10Y2/1）粗粒砂
混じりシルト（包含層）
3. 灰色（10Y4/1）粗粒砂～礫混じり粘土

A－19地区



1. 黒褐色（2.5Y3/1）黒褐色粗粒砂
2. 黒色（7.5Y2/1）粘質シルト

土層断面柱状図

1．調査の概要

調査地は縄手中学校の北東に位置する。調査区は生駒山地の麓で、西から東に向けて高くなる地形である。調査は便宜上A・B区に分割して行った。途中既設管の撹乱によって確認できない部分もあったが、撹乱されていない部分ではほぼ深さ1mの地点で包含層を確認することができた。遺物は弥生時代・古墳時代・中世の土器が出土している。

2．出土遺物

弥生時代・古墳時代・中世の遺物が出土した。

弥生時代の遺物（1～10）いずれも後期の土器である。全て胎土中に角閃石を多く含むいわゆる「生駒西麓の胎土」であるが、含まれる角閃石の粒が非常に細かくなっている。

壷（1）　1は口径12.4cm、残存器高3.6cm。外面口縁下に凹線を一条施す。内外面調整タテハケ後ヨコナデ。

甕（2）　2は口径10.3cm、残存器高3.2cm。口縁端部は面をなし、凹線を一条施す。口縁部の内外面調整ヨコナデ、体部内面の調整はヨコハケ。外面には煤が付着する。

鉢（3）　3は口径18.0cm、残存器高5.2cm。外面調整は上半部がタタキ後ナナメハケ、下半部はケズリ、内面調整ヨコハケ後ミガキ。口縁外面には煤が付着する。

高杯（4・6・7）　4は口径38.6cm、残存器高3.5cm。口縁は外反し、端部は丸くおさめる。外面調整ジグザグ状のミガキ、内面調整タテミガキ。6は残存器高7.4cm。中実の脚部で円形透かし孔が一部残存する。外面調整は脚部タテミガキ、杯部ヨコハケ、内面調整はヨコハケ。7は口径11.6cm、残存器高3.0cm。口縁端部は下方に拡張して面をなす。端面には擬凹線を4条、縦方向に沈線を6本と9本施し、赤色顔料が塗布されている。内外面調整タテミガキ。

蓋（5）　5は口径15.8cm、残存器高2.0cm。外面調整ヨコナデ後ジグザグのミガキを施し、紐孔が一部残存している。

底部（8～10）　8は底径3.0cm、残存器高3.1cm。外面調整タテハケ、内面調整ナデ。9は底径4.8cm、残存器高3.8cm。内外面調整タテハケ。10は底径6.0cm、残存器高3.5cm。外面調整タタキ、内面調整タテハケ。

古墳時代の遺物（11・24・25）　土師器と須恵器が出土した。図示したのは1点であるが、写真のみの掲載（2点）のものもある。

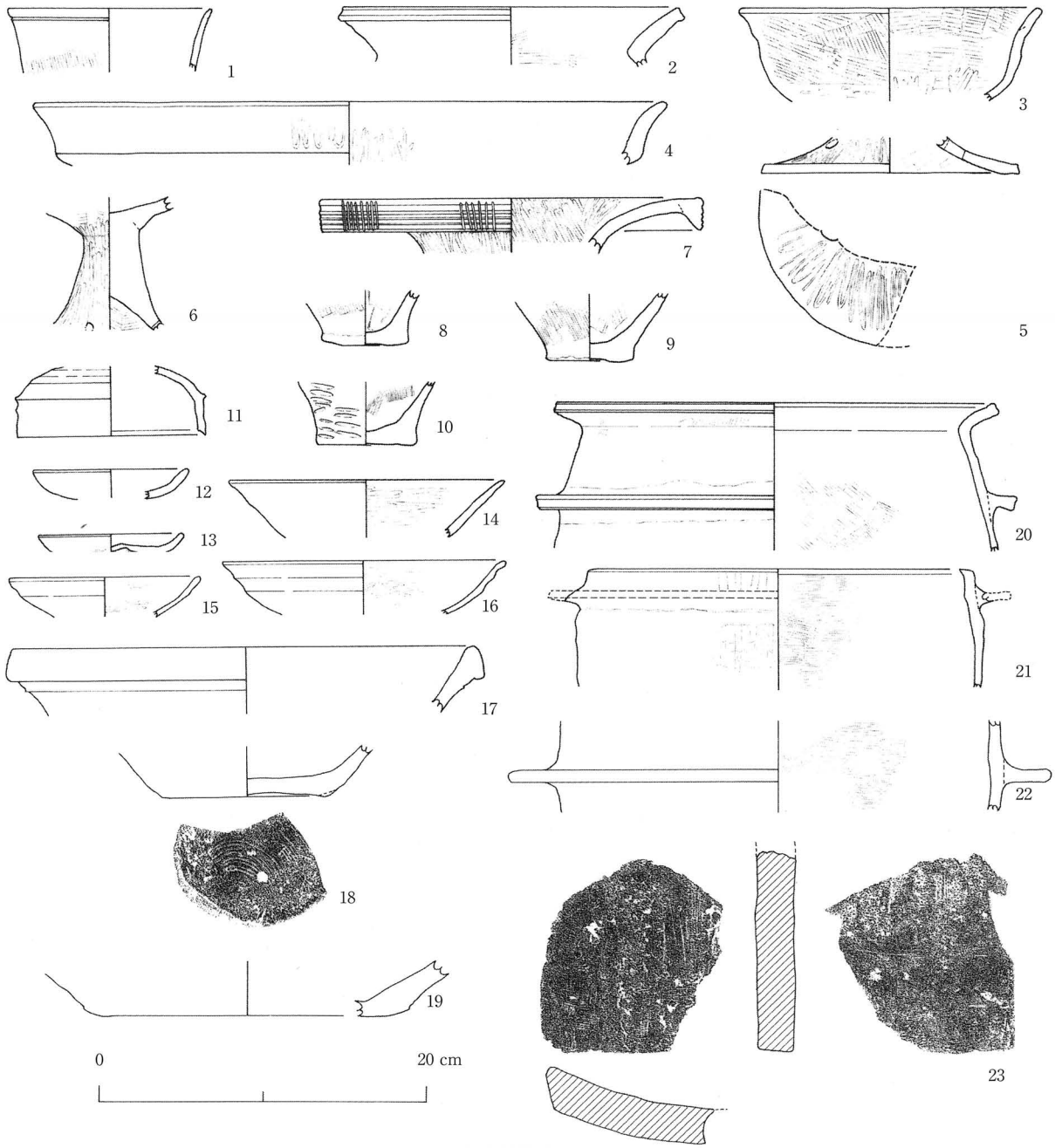
土師器甕（24）　24は外面に波状の文様が一条施される。また外面には煤が多量に付着している。外面調整タテハケ、内面調整ケズリ。布留式の甕と思われる。

須恵器杯蓋（11・25）　11は口径11.6cm、残存器高3.9cm。稜はややにぶく、口縁部は凹面をなす。25は上面の破片で外面調整回転ケズリ、内面調整ナデ。

中世の遺物（12～23）　中世の遺物については（中世土器研究会編　1995『概説　中世の土器・陶磁器』）を羽釜については（菅原正明　1983　「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所）を参考にした。時期は12世紀末～13世紀にかけてのもののようである。

土師器（12～14）　12・13は皿である。口縁端部はともに丸くおさめる。12は口径9.4cm、残存器高2.1cm。内外面調整ヨコナデ。13は口径8.6cm、器高1.2cm。底部中央が若干へそ皿状になっている。14は椀で口径16.8cm、残存器高3.2cm。外面調整ヨコナデ、内面調整ミガキ。口縁外面が若干いぶされて黒くなっている。

瓦器（15・16）　15は皿で口径11.4cm、残存器高2.5cm。16は椀で口径17.0cm、残存器高3.4cm。15・16ともに外面調整ナデ、内面調整ミガキであり、和泉型Ⅲ－2期である。



出土遺物実測図

須恵器（17・18）　いずれも東播系鉢である。17は口径14.0cm、残存器高4.2cm。口縁端部は上下に拡張される。森田編年の第Ⅱ期第２段階にあたる。18は底径4.6cm、残存器高3.2cm。底面に回転糸切り痕跡が残る。

陶器（19）　19は甕で底径16.4cm、残存器高3.5cm。底面には砂粒が付着している。

土師質土器（20～22）　いずれも羽釜であり、外面調整は20・21には部分的にタテハケが認められる。内面調整はヨコハケ。20は口径26.8cm、残存器高8.3cm。口縁が外に大きく開き、鍔は若干下がり気味である。菅原分類の大和Ｂ1型。21は口径21.8cm、残存器高7.5cm。口縁部はまっすぐたちあがり、内側につまみ出される。鍔の先端は欠損している。22は鍔径33.0cm、残存器高5.8cm。鍔部のみの残存であるが鍔は長く水平にのびるものである。菅原分類の河内Ｊ型と思われる。

瓦（23）　23は平瓦で残存長12.8cm、最大厚3.0cm。凸面ナデ、凹面布目痕跡が残るが、ナデ調

調査地遠景

A－2地区土層断面

B－2地区土層断面

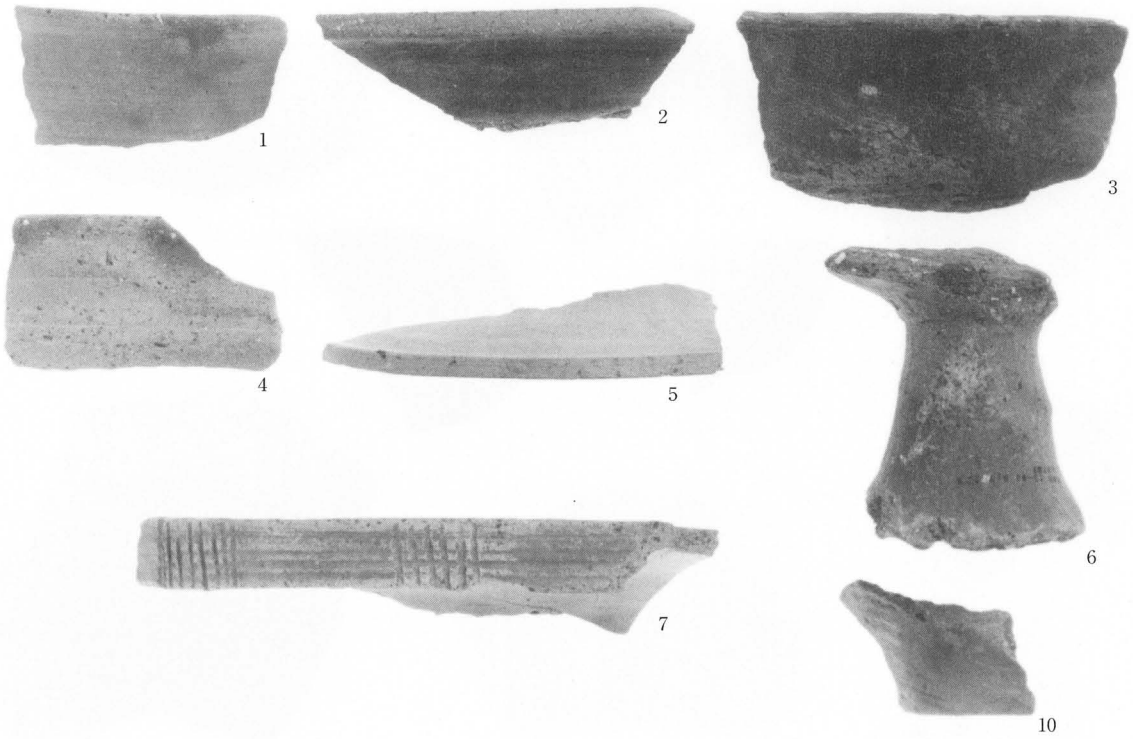
整もなされている。

3．まとめ

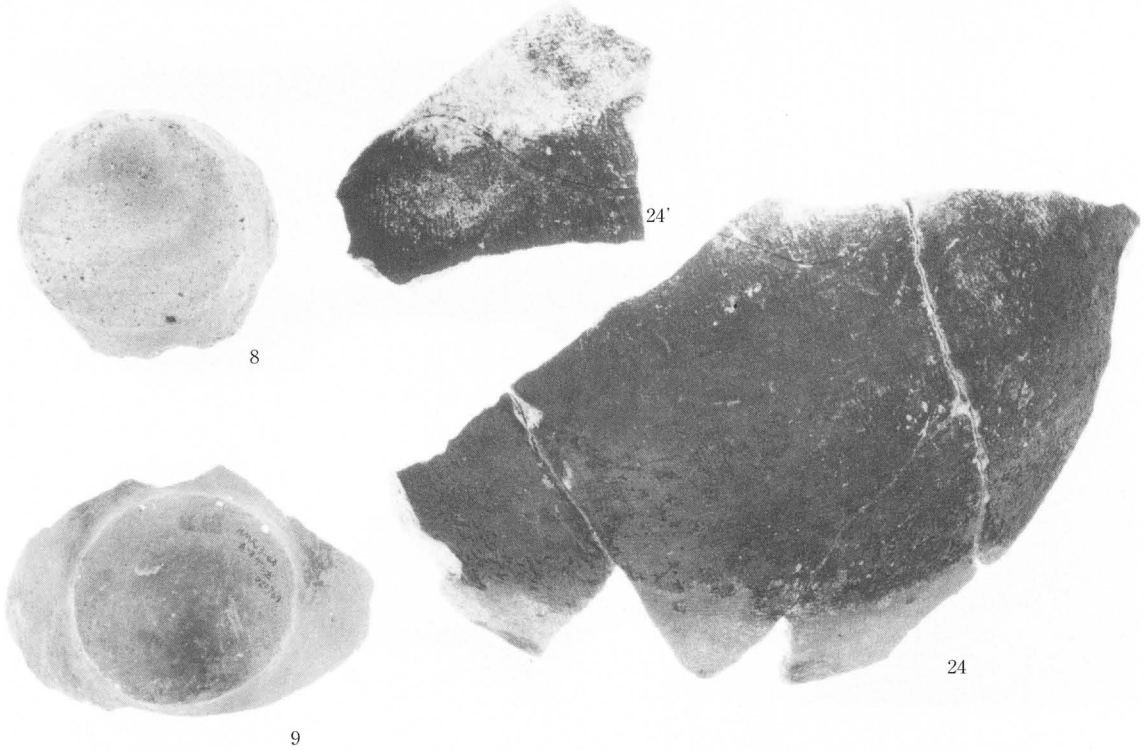
調査は上六万寺遺跡の北端を東西に縦断する形で行われた。その結果、遺構を確認することはできなかったが、包含層は部分的に確認することができた。

また弥生時代・古墳時代・中世に及ぶ遺物が出土した。出土地点は調査区の全般に散らばるが、西側の方が量的には多い。遺物の割合としては弥生時代及び中世の遺物が量的には多数をしめている。しかし体部のみではあるが古墳時代前期の土師器甕が出土していることは注目される。この時期の遺物は量が少なく、出土地点も極めてまばらな状態であり、遺構の確認もされていない。上六万寺遺跡内では第3次調査において確認されている程度である（(財）東大阪市文化財協会1992『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1991年度』）。今回出土の甕には煤がびっしりとこびりついており、周辺のさほど離れていない場所に遺構が存在することが考えられる。

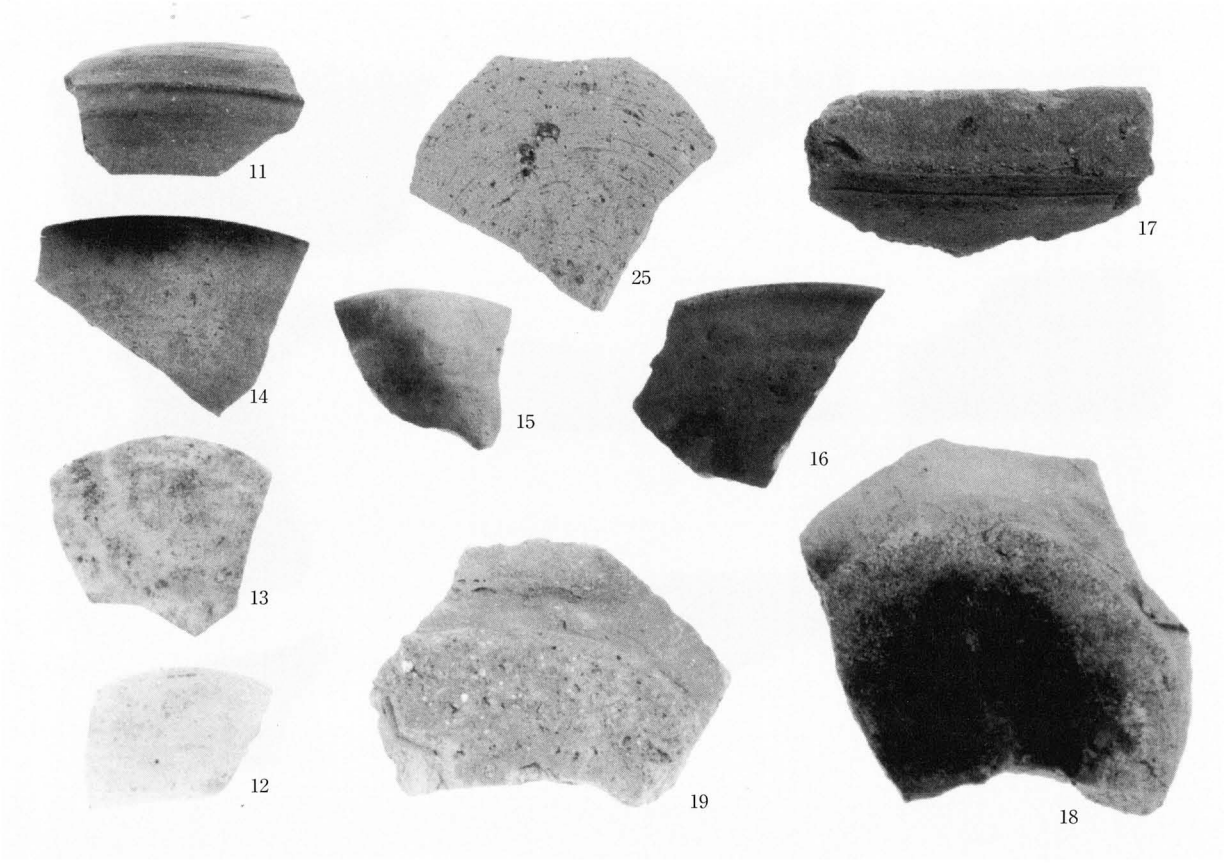
弥生時代後期及び中世については従来から遺跡内のほぼ全域で出土が確認されているものであり、これまでの調査では弥生時代の住居跡や中世の井戸などの遺構が確認されている。調査地周辺にも同様にこの時期の遺構が分布していると考えられる。



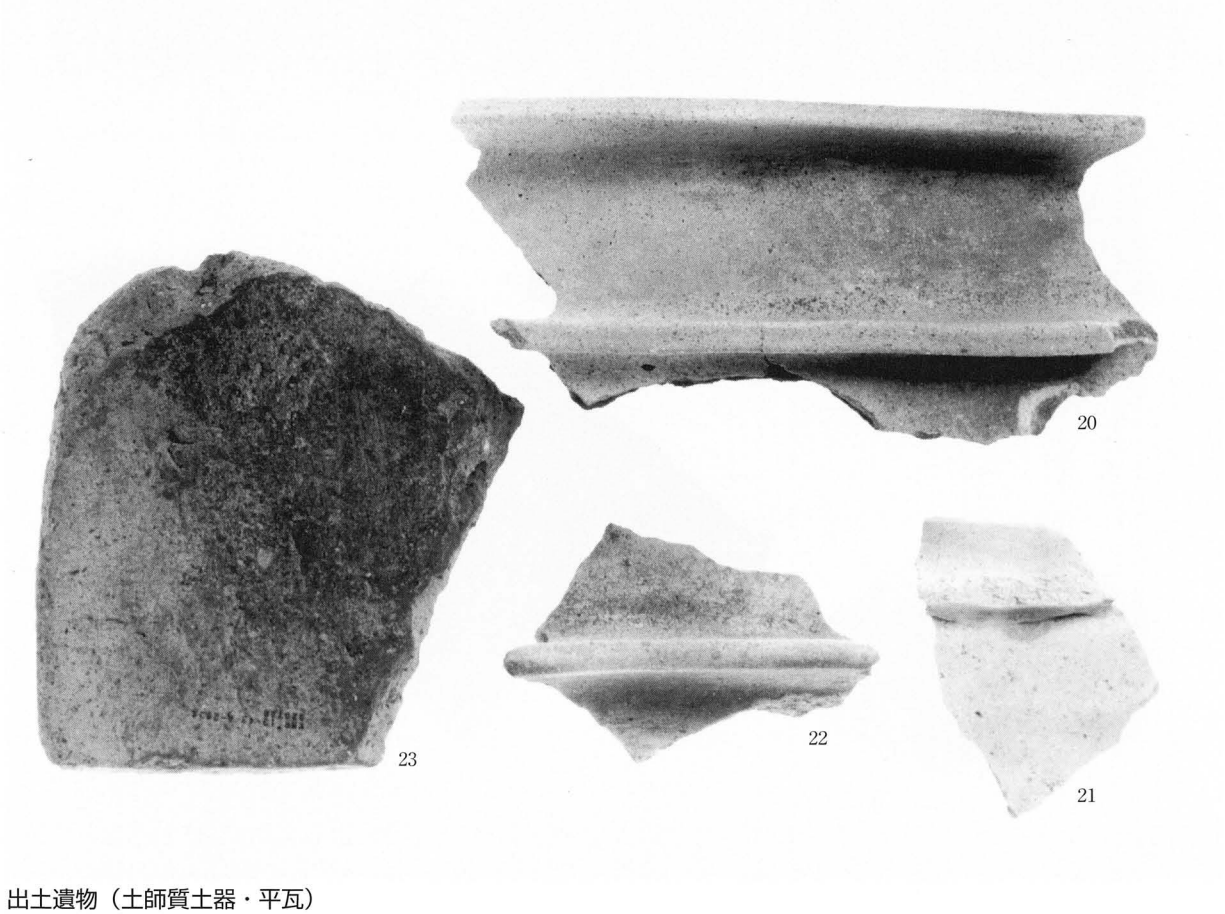
出土遺物（弥生土器）



出土遺物（弥生土器・土師器）



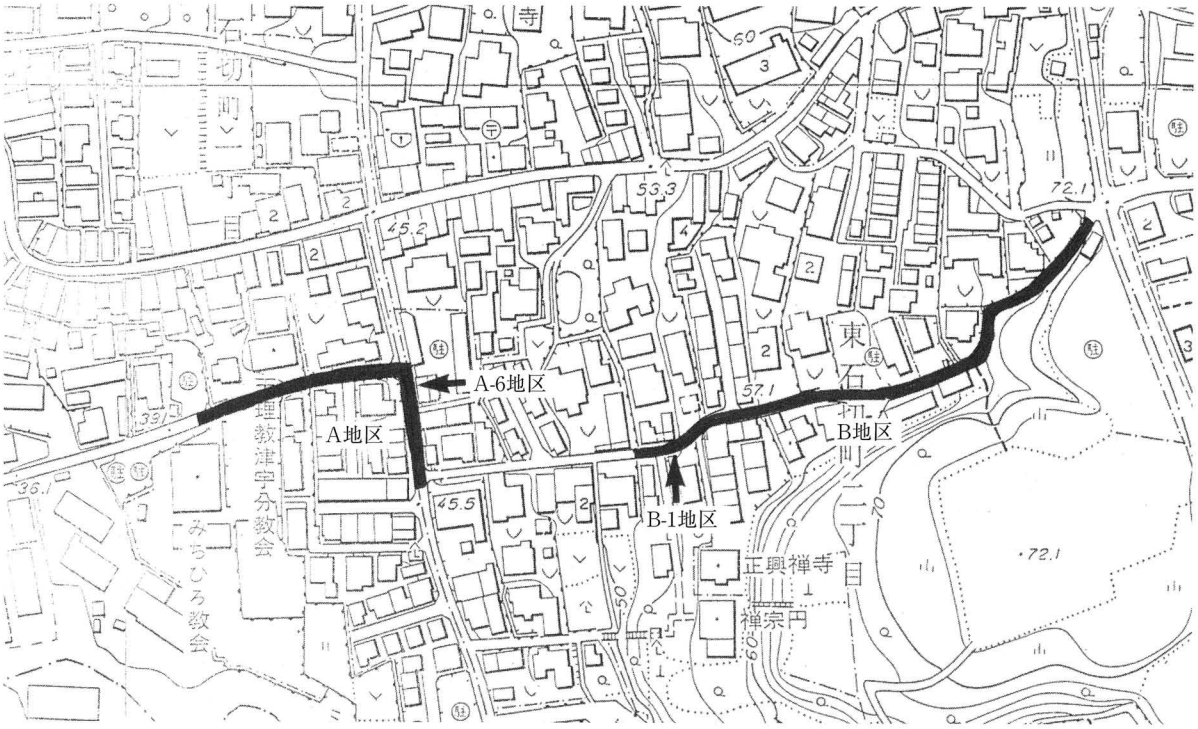
出土遺物（弥生土器）



出土遺物（土師質土器・平瓦）

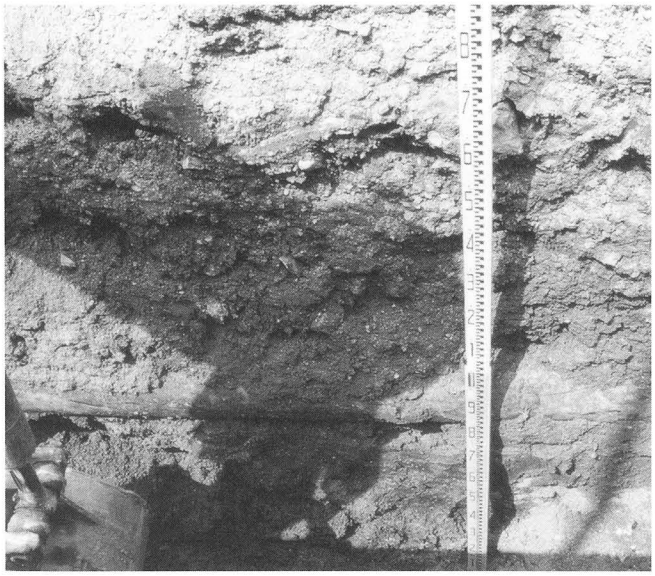
第24章　神並（こうなみ）・正興寺山（しょうこうじやま）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第41工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町１～2丁目 893-2～977、1002～1045-1
3	調 査 面 積	233㎡
4	調 査 期 間	平成14年７月19日～11月６日（延べ14日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切神社の南東である。当地点は神並・正興寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ272mの間であり、開削工法である。



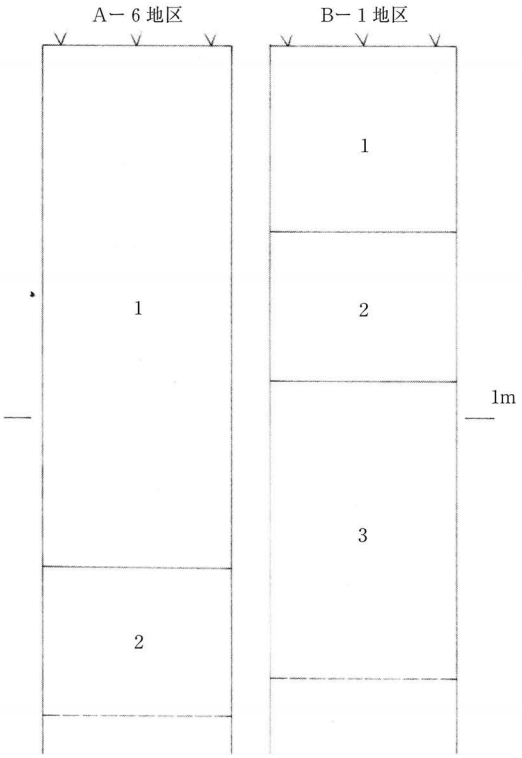
調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景



A－6地区土層断面

B－1地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－6地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(N4/1)小～巨礫。

B－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y3/2)粘土。

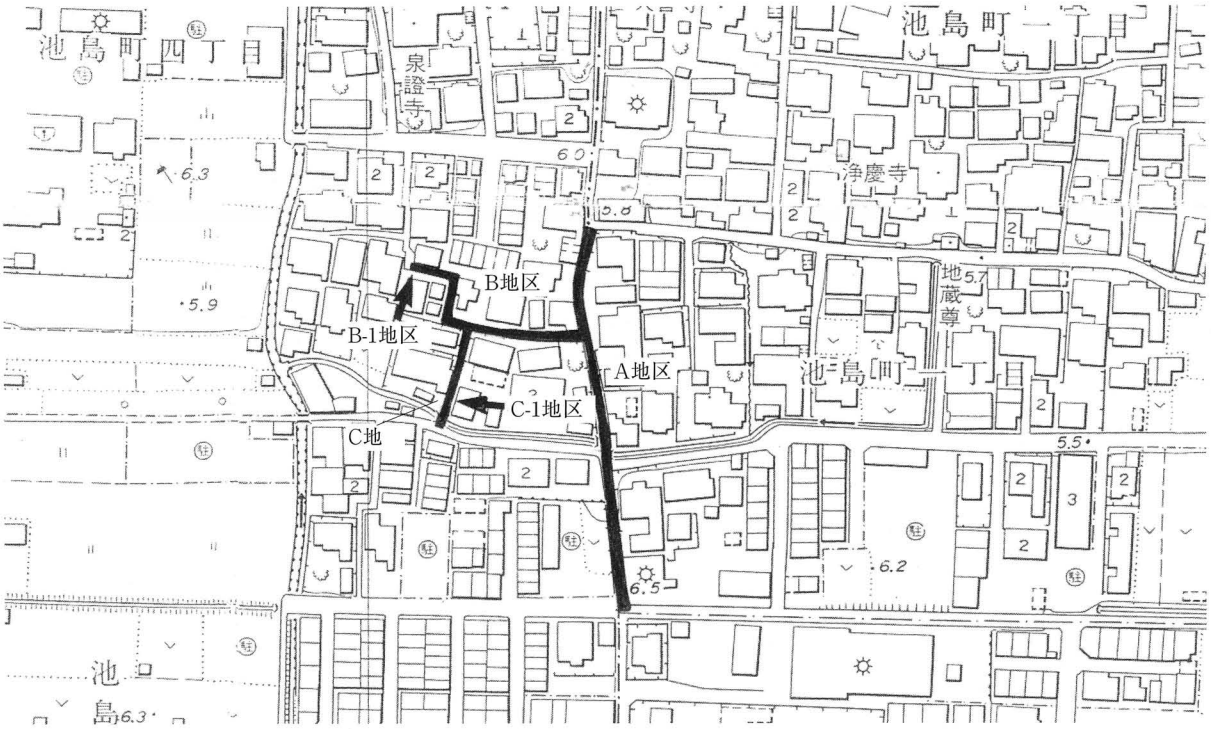
第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第25章　池島東遺跡（いけしまひがし）の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第207工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市池島町4丁目 2045-2～2052、2049～2050、2028-2～634-33
3	調 査 面 積	175㎡
4	調 査 期 間	平成14年９月10日～11月９日（延べ16日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は池島高等学校の北東である。当地点は池島東遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ206mの間であり、開削工法である。

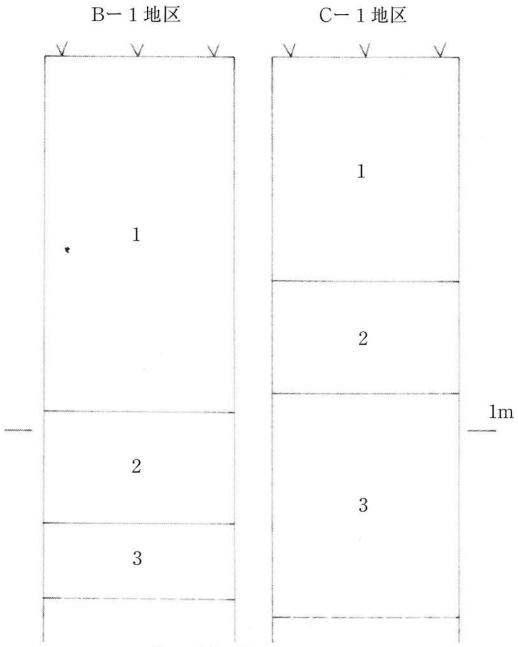


調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景

B－6地区土層断面

C－1地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

B－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰色(N3/)粘土。

第3層　暗灰黄色(2.5Y5/2)粗粒砂。

C－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(10Y3/1)粘質シルト。

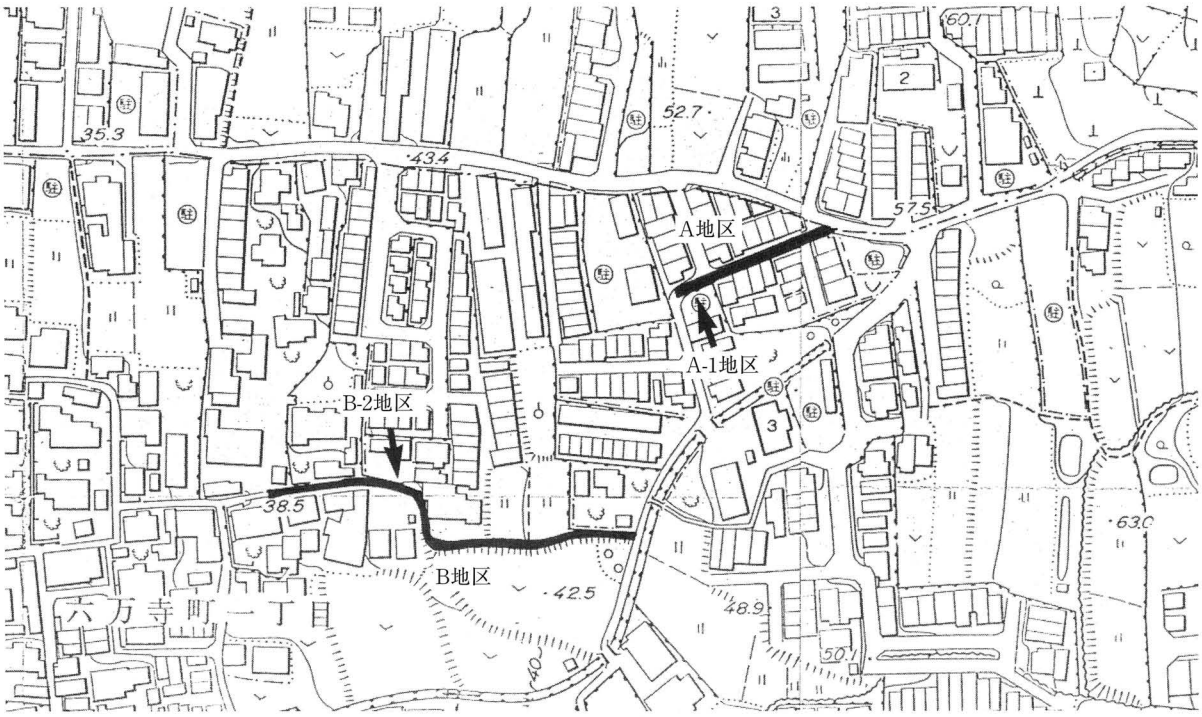
第3層　暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘土。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第26章　岩滝山遺跡、桜井・六万寺古墳群の調査

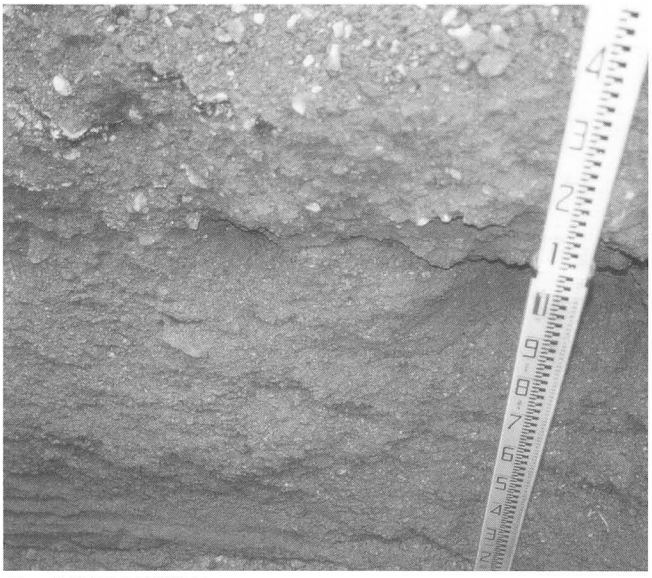
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第44工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目 927～928-10、922～958
3	調 査 面 積	160㎡
4	調 査 期 間	平成14年7月4日～9月9日（延べ12日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は半堂池の東である。当地点は岩滝山遺跡、桜井・六万寺古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ188mの間であり、開削工法である。



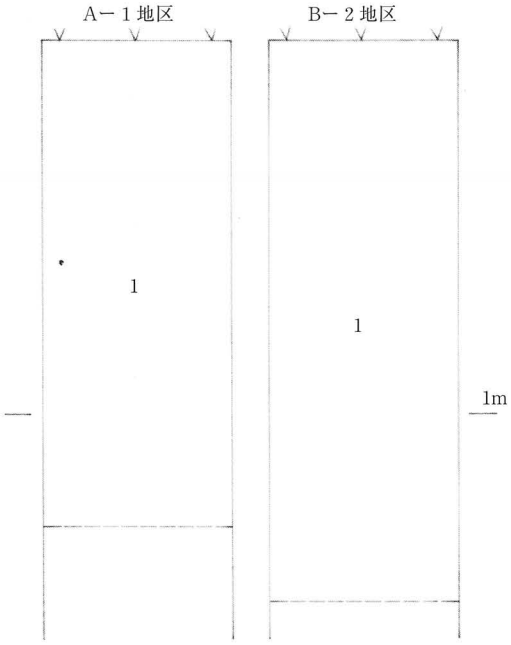
調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景

A－1地区土層断面



B－2地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

B－2地区の層序

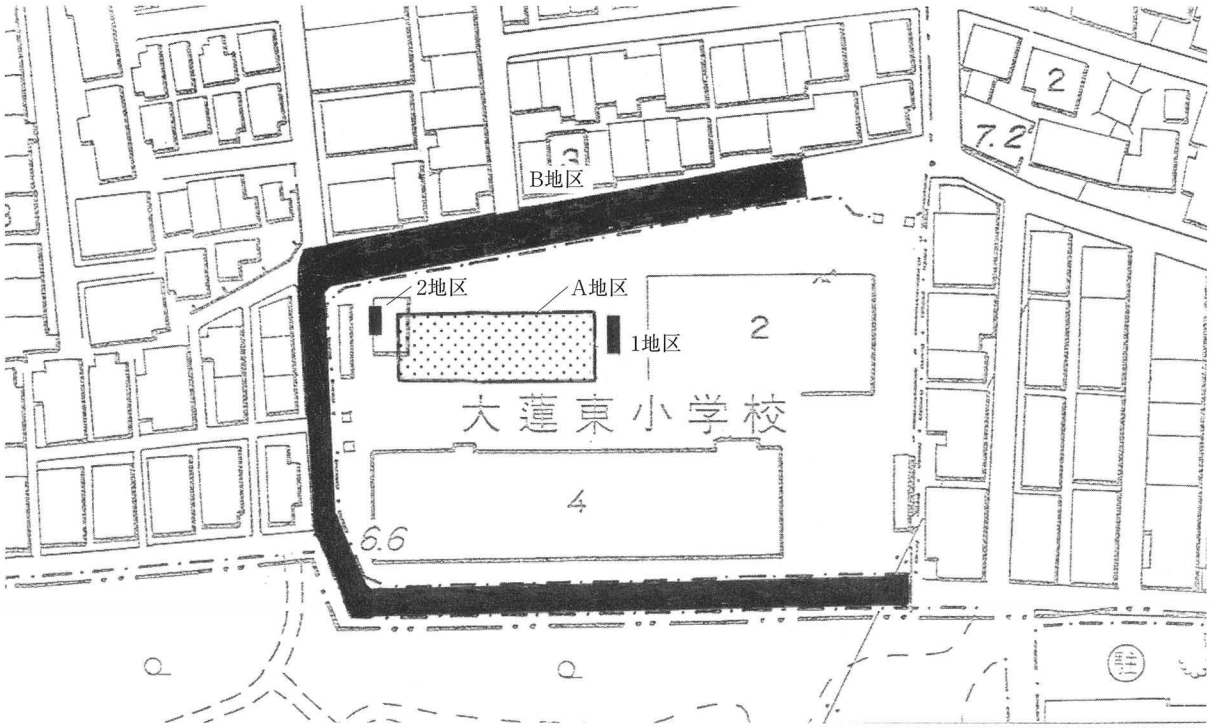
第1層　盛土。

2．まとめ

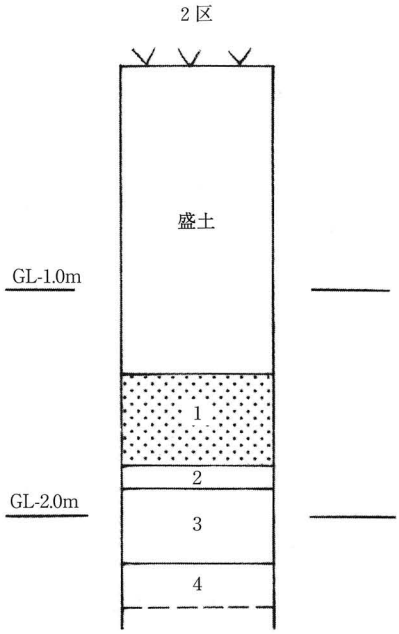
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

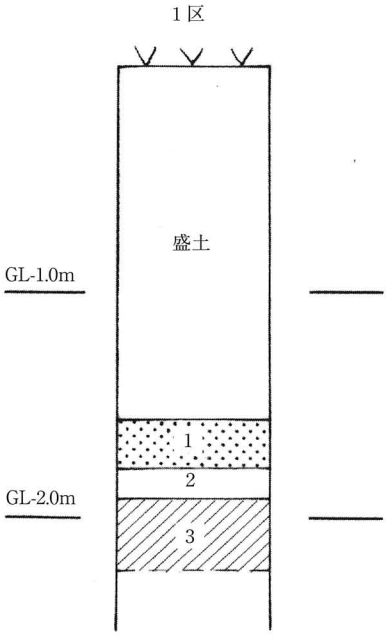
第27章　久宝寺（きゅうほうじ）遺跡の第２次調査

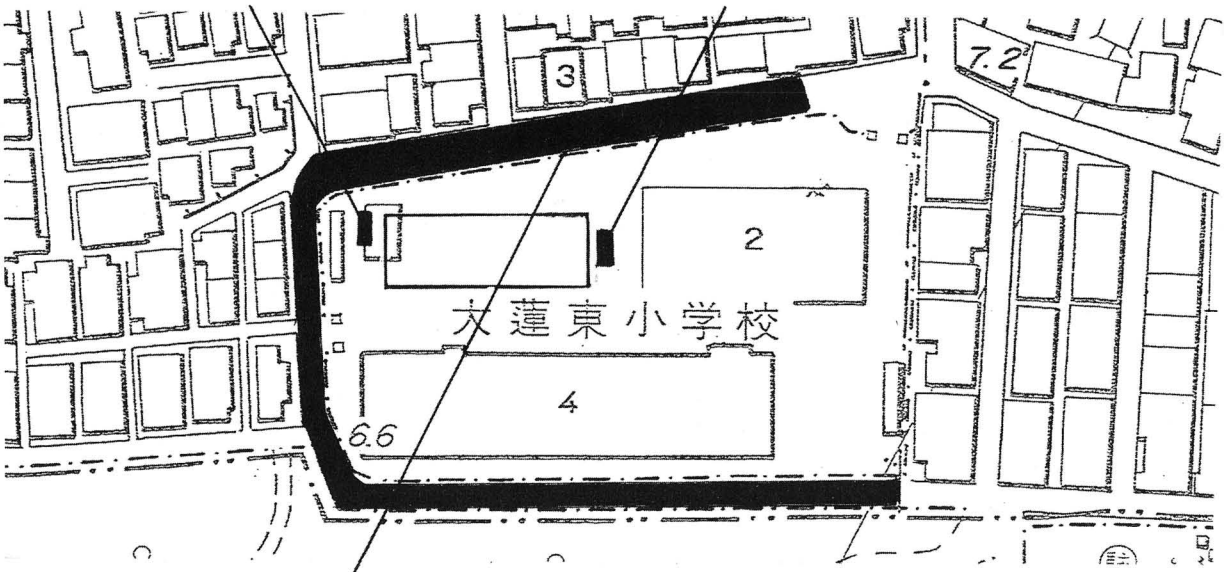
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度大蓮東小学校雨水貯留事業
2	調 査 地 点	東大阪市大蓮南2丁目 326、327-1-2、328～330
3	調 査 面 積	518㎡
4	調 査 期 間	平成14年７月23日～11月８日（延べ８日）
5	報 告 担 当	木村
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は大蓮東小学校とその周辺である。当地点は久宝寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ310mの間であり、開削工法である。

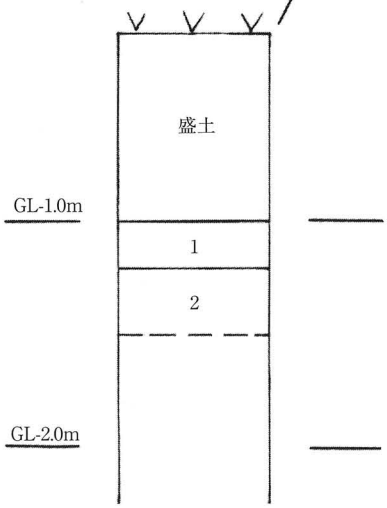


調査地点位置図（1/1250）









1区　1. 灰色（5Y6/1）粗粒砂混じりシルト（遺物を若干含む）
　　2. 橙色（7.5YR6/6）粘土
　　3. 黄灰色（2.5Y6/1）シルト（遺物を多量に含む）

2区　1. 暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質シルト（遺物を若干含む）
　　2. 黄褐色（10YR5/6）粘土
　　3. 黄.灰色（2.5Y5/1）シルト
　　4. 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質シルト

3区　1. 黄褐色（2.5Y5/3）粘土
　　2. 褐色（7.5YR4/4））粘土

土層断面柱状図

1．調査の概要

久宝寺遺跡は東大阪市から八尾市にかけて広がる大規模な遺跡である。東大阪市では今回が第２次調査である。八尾市側では近畿自動車道建設や竜華操車場跡地整備などに伴う調査がなされ多大な成果をあげている。これらの成果については（財）大阪府文化財センターや（財）八尾市文化財調査研究会より刊行されている各報告書を参照していただきたい。

今回の調査は大蓮東小学校内とその周辺道路で行った。事前に試掘調査が行われ（第13章）、その結果貯留施設部分については包含層まで掘削が及ばないため立会調査（Ａ地区）を行い、その東西に存在する接続管部分については包含層まで掘削が及ぶため発掘調査を行うことになった。東側を１区、西側を２区として発掘調査を行った。校外の道路部分については立会調査（Ｂ地区）を行った。遺物はほとんどが１区からの出土で、その他の地点からはほとんど出土していない。

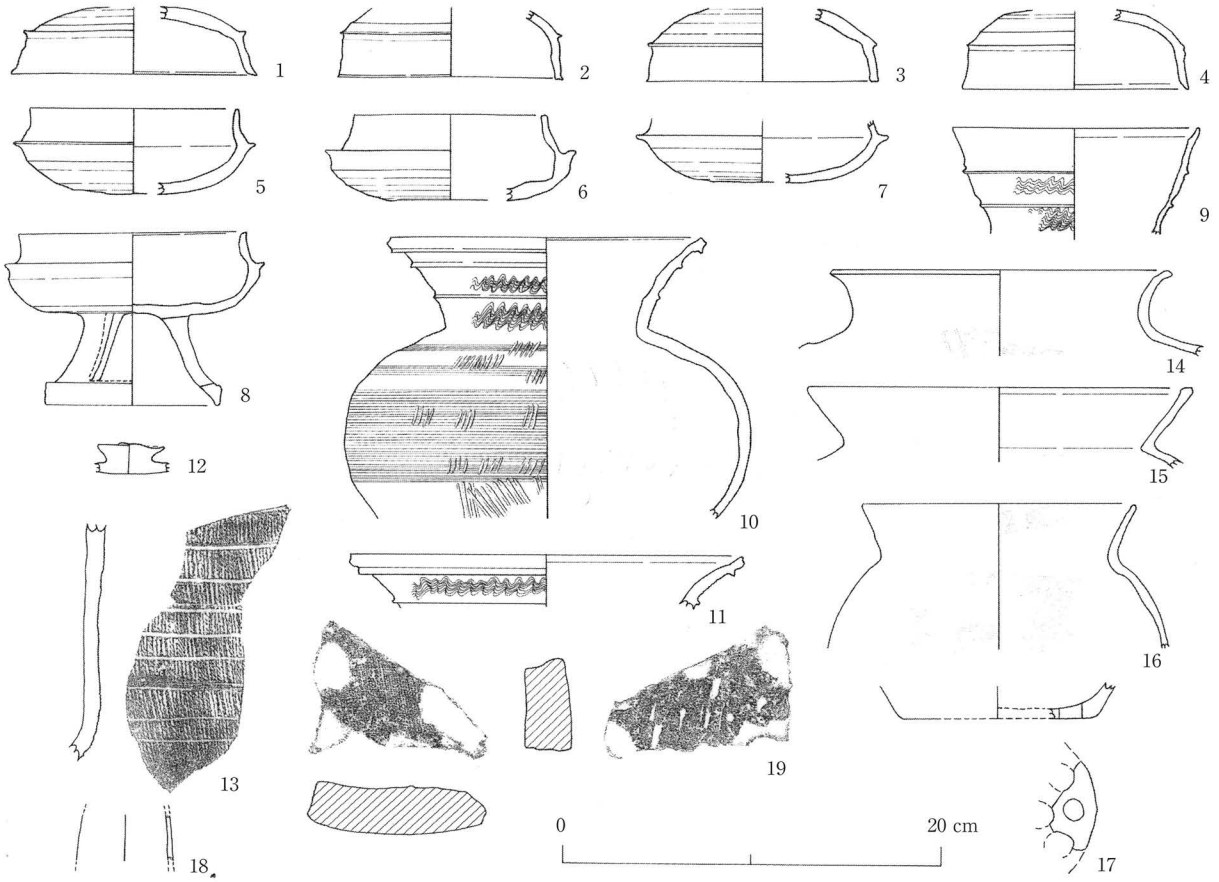
2．出土遺物

古墳時代及び古代の遺物が出土した。

須恵器（1～11・12）　１～６・８～11は中村編年のⅠ型式後半に、７・12はⅡ型式後半になると考えられる。

杯蓋（１～４）　いずれも口縁部と天井部の境の稜は鋭い。２・３は口縁部が凹面をなす。１は口径13.0cm、残存器高3.6cm、２は口径12.0cm、残存器高3.8cm、３は口径12.2cm、残存器高4.0cm、４は口径12.0cm、残存器高4.2cmである。

杯身（５～７）　５は口径11.0cm、器高4.6cm、６は口径10.2cm、残存器高4.6cmである。５・６はともに底部が深く、口縁のたちあがりは高く内傾して上方にのびる。７は体部最大径13.2cm、



出土遺物実測図

残存器高3.2cmで口縁のたちあがりが内傾している。浅い器形である。

有蓋高杯（８）　８は口径12.0cm、器高9.4cm、底径9.1cm。杯部は底が平らで口縁のたちあがりは高く、内傾して上方にのびる。受部は短く水平である。脚部は三方向に方形の透かし孔を穿孔し、透かし孔の外側は削られ面取りが施されている。

壷（９～11）　いずれも頸部に鋭い稜を二段もち、その間に波状文を施す（11以外は二条認められる）。９は口径13.0cm、残存器高5.6cm。上段の波状文は５本、下段は10本でそれぞれ本数が異なっている。10は口径16.6cm、残存器高15.2cm。口縁端部は下方に拡張されている。体部調整は平行タタキで行われ、頸部から体部中程にかけてはカキメが施されるが、下半部にはタタキが残る。内面には工具痕跡が認められる。11は口径20.8cm、残存器高2.6cm。口縁端部は上方につまみあげられる。12は蓋で、つまみ部分のみが残存している。つまみ径3.5cm、残存器高1.6cm。

韓式系土器（13）　13は甕で残存器高12.6cm、硬質焼成のいわゆる陶質土器である。外面調整は縄蓆文タタキで、浅いヘラ描き沈線が８条残存する。

土師器（14～17）　いずれもかなり摩滅しており、調整などはほとんど認められなかった。

甕（14～16）　14は口径17.8cm、残存器高4.6cm、外面調整タテハケ。15は　口径20.2cm、残存器高3.8cm、内外面調整ナデ。頸部と体部の境が明瞭に屈曲する。口縁端部は面をなす。16は口径14.4cm、残存器高7.6cm、内外面調整ヨコハケ、頸部外面ヨコナデ。口縁端部は丸くおさめる。

甑（17）　17は底径10.0cm、残存器高1.8cm、底部に穿孔が４カ所認められる。

製塩土器（18）　18は体部残存最大径5.2cm、内外面調整ナデ。

瓦（19）　19は平瓦で凸面はケズリ調整、凹面は布目痕が認められる。

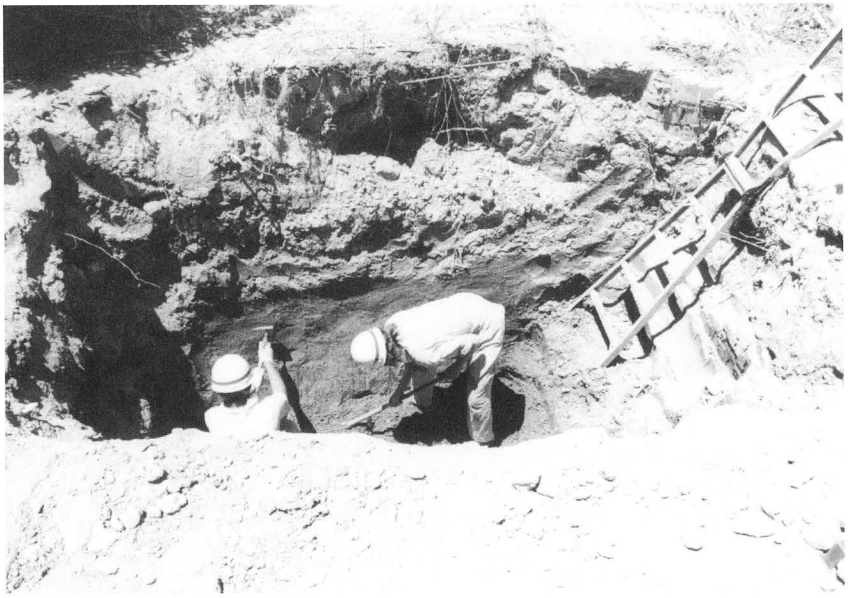
３．まとめ

今回の調査は面積こそ狭かったが、古墳時代を中心とする遺物の出土が確認できた。遺構を確認することはできなかったが、西側の１区では多くの遺物が出土している。土師器はかなり摩滅しているが、須恵器は良好な状態であり、中には完形に近い遺物も存在する。一方、２区では遺物がほとんど出土していないことから、１区の西側周辺にこの時期の遺構が広がっていることが考えられる。

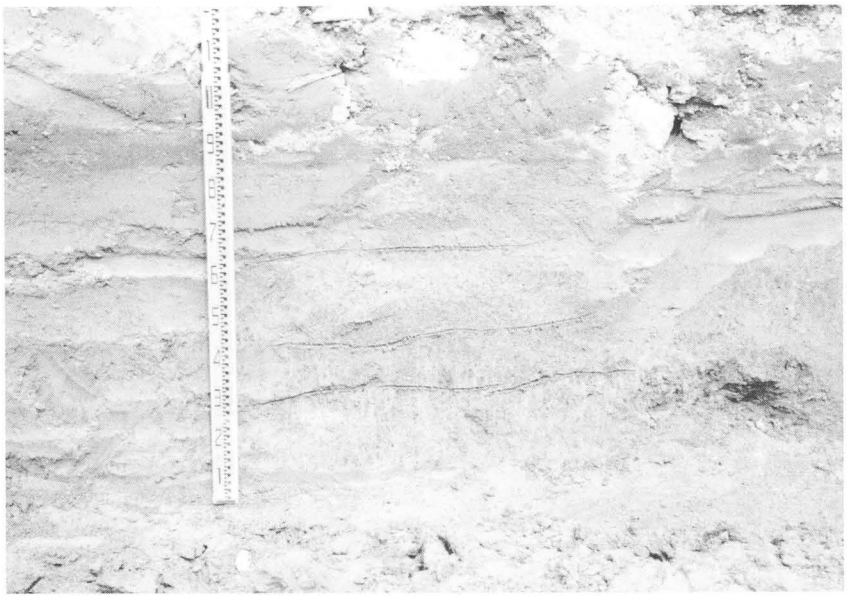
また１点ではあるが韓式系土器が出土していることから、当時のこの地域と朝鮮半島との交流を示しているものと考えられる。

調査地遠景

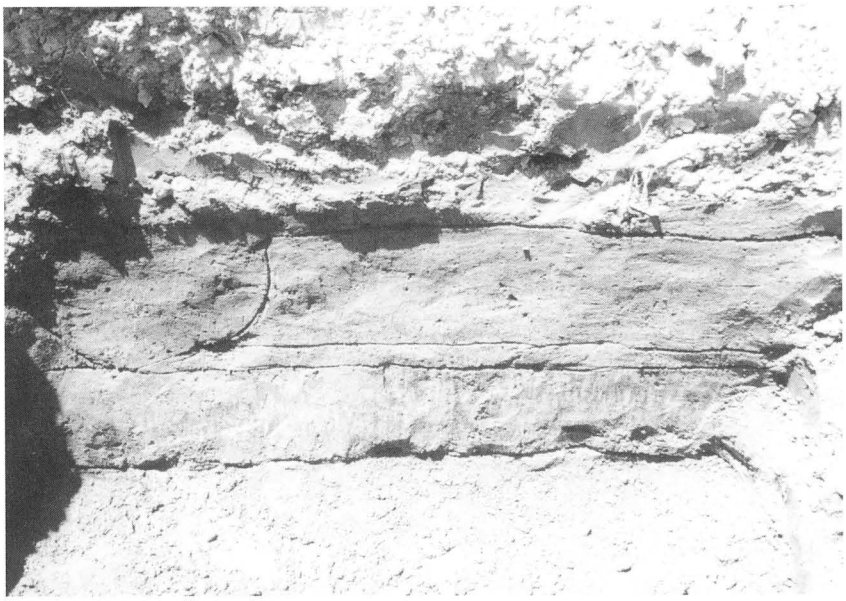
参考文献　『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』　中村　浩　2001　芙蓉書房出版



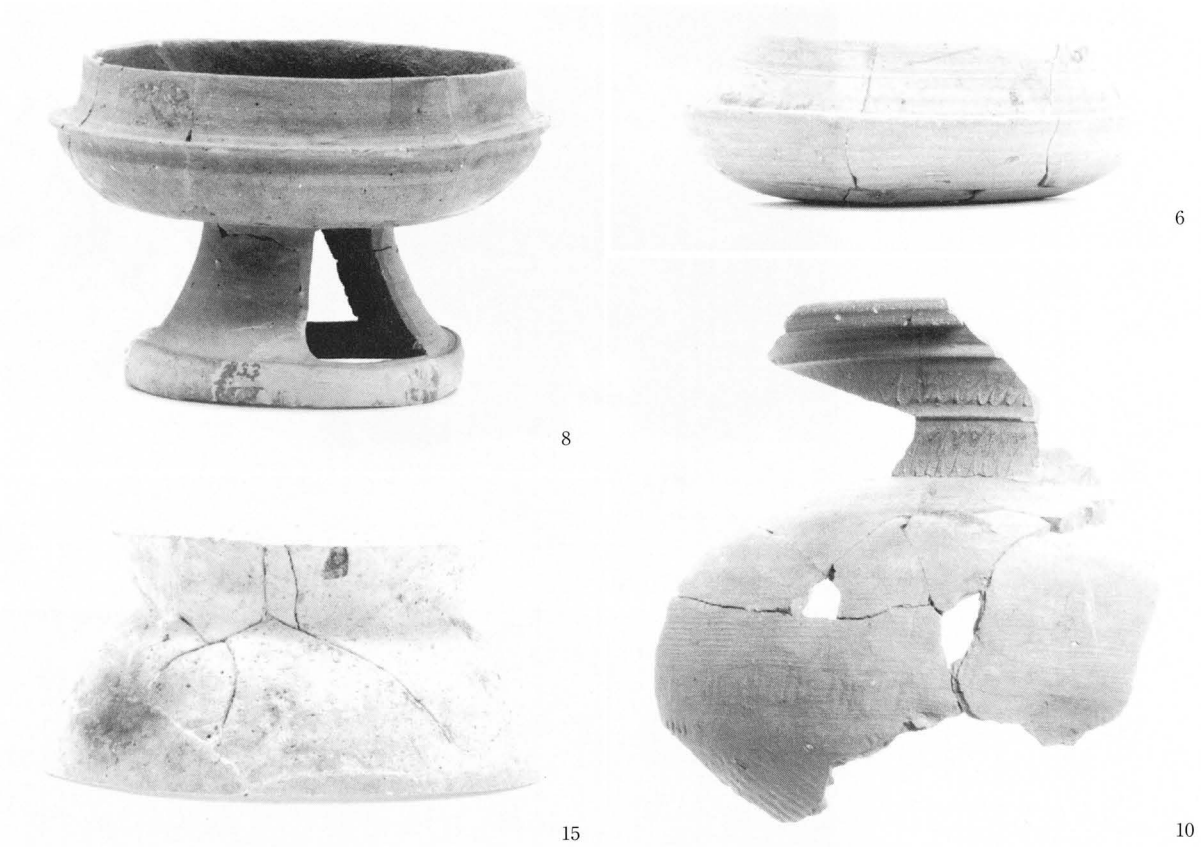
調査地状況



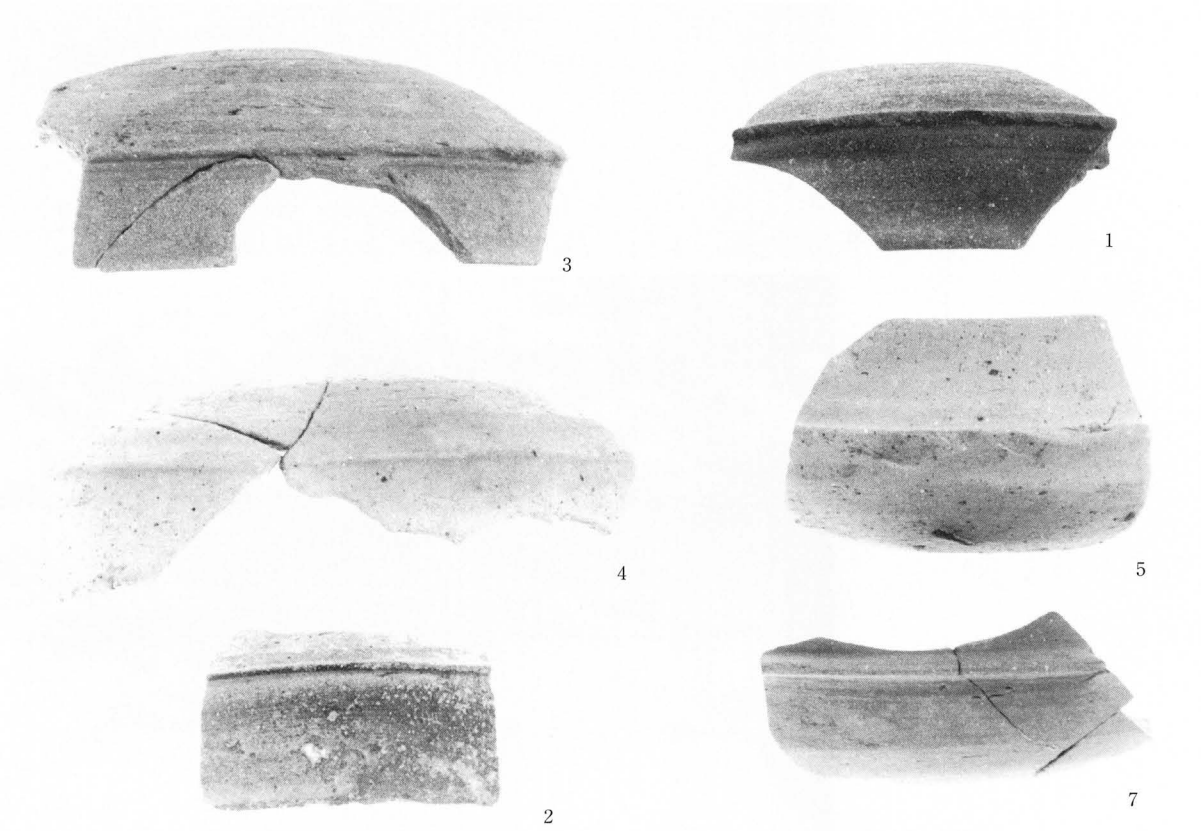
1区土層断面



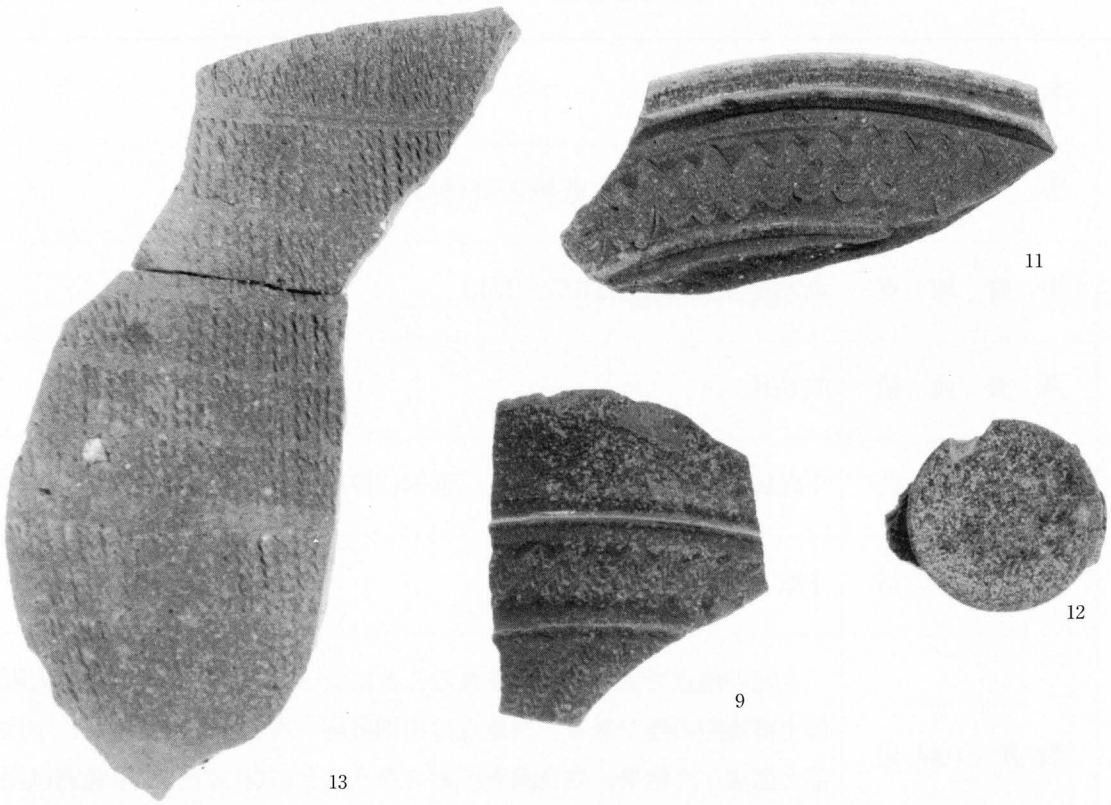
2区土層断面



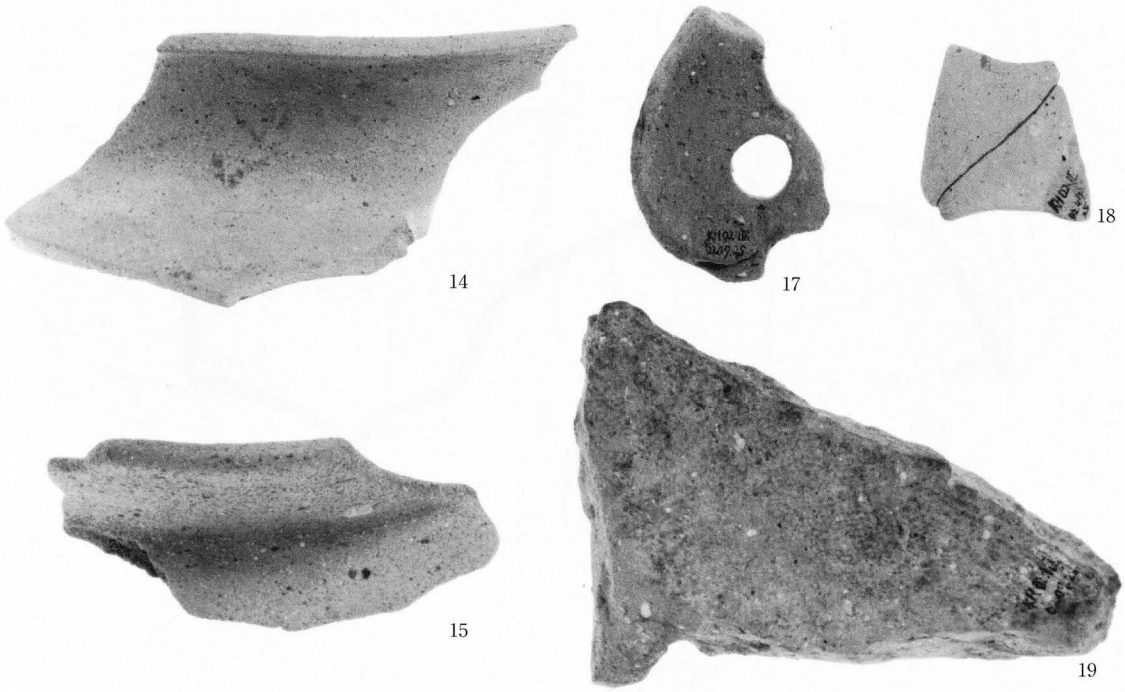
出土遺物（須恵器・土師器）



出土遺物（須恵器）



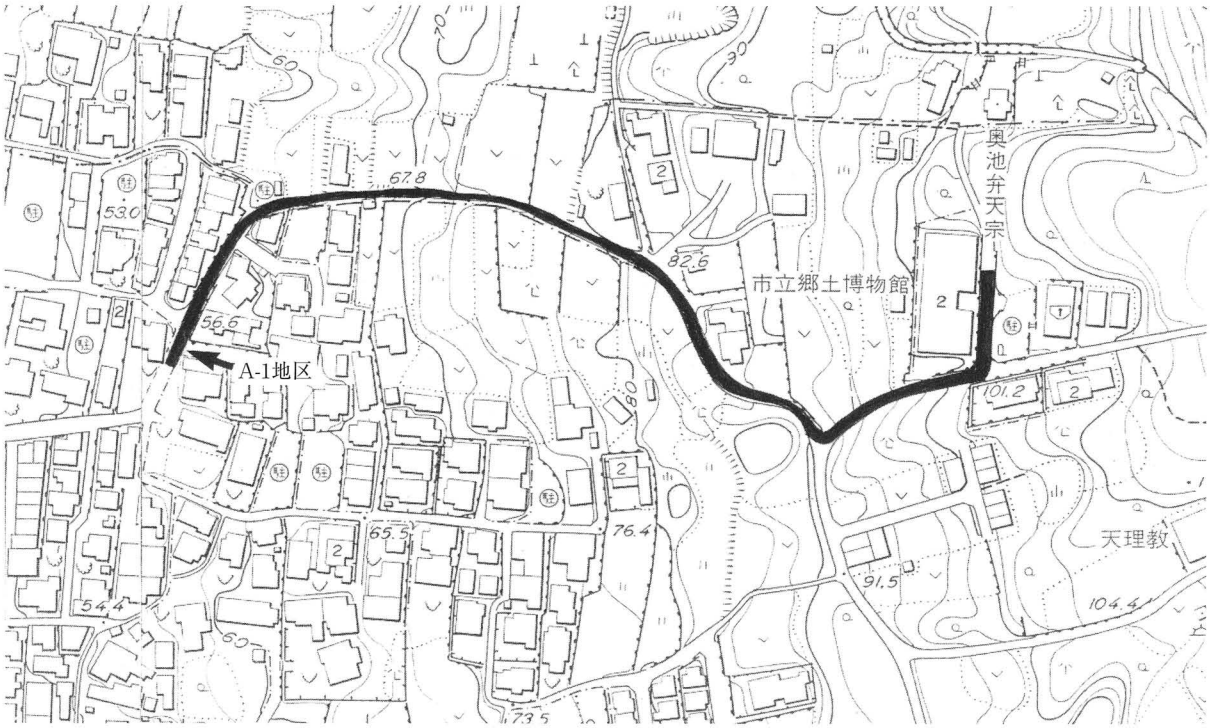
出土遺物（須恵器・韓式系土器）



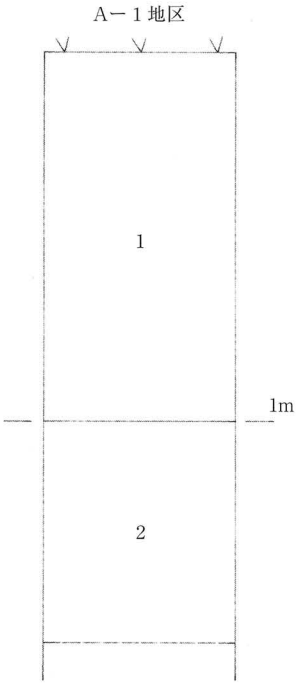
出土遺物（土師器・平瓦）

第28章　山畑（やまはた）遺跡・古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第68工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市上四条町 1727～2043
3	調査面積	316㎡
4	調査期間	平成14年９月13日～11月18日（延べ17日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は東大阪市郷土博物館の西である。当地点は山畑遺跡・古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ371mの間であり、開削工法である。

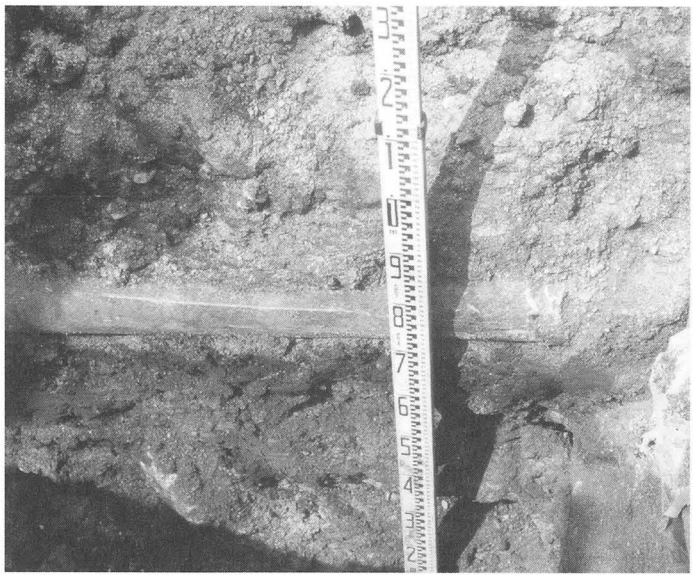


調査地点位置図（1/2500）

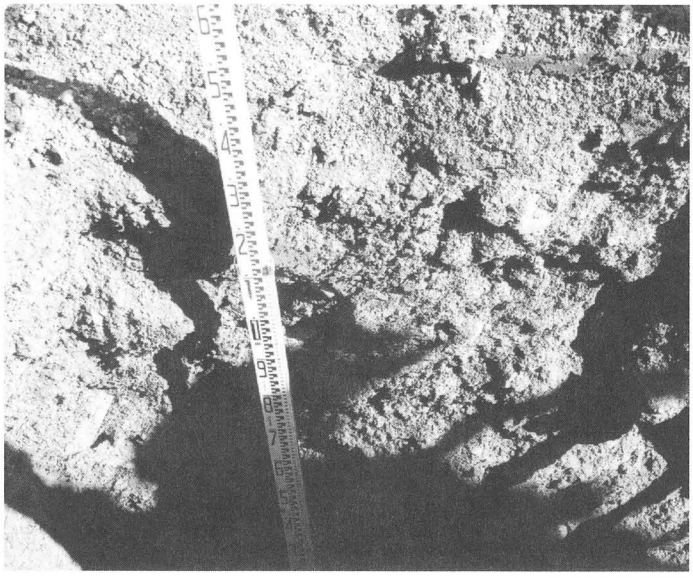


土層断面柱状図

調査地遠景



A－1区土層断面



A－３区土層断面

A－１地区の層序

第１層　盛土。

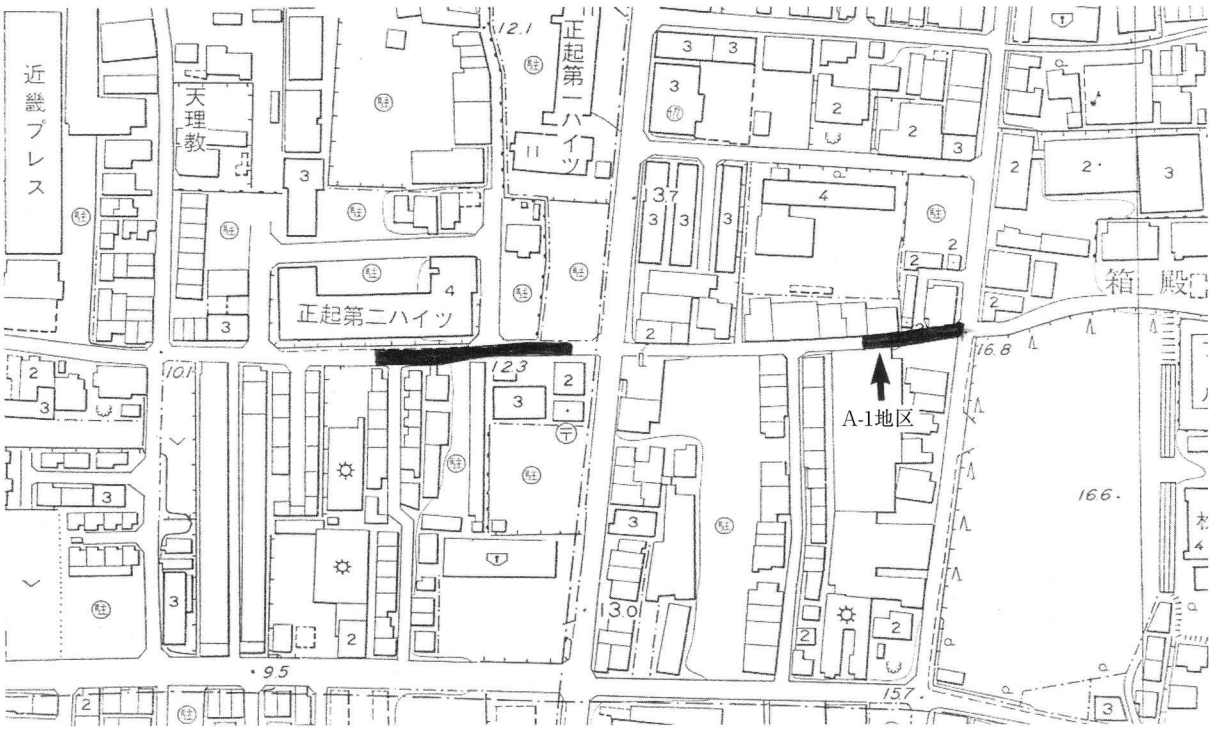
第２層　浅黄色(2.5Y7/4)礫混じりシルト。

２．まとめ

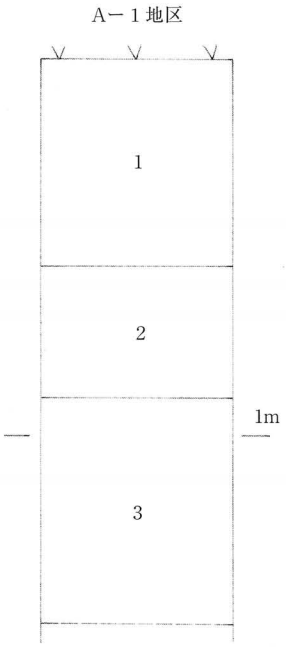
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第29章　鬼塚（おにづか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第13－７工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市新町～箱殿町、豊浦町
3	調 査 面 積	124㎡
4	調 査 期 間	平成14年10月４日～10月７日（延べ２日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の西である。当地点は鬼塚遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事の大部分は既設管のランニングであり、立会調査の対象範囲は幅約0.9mで長さ146mの間である。開削工法である。



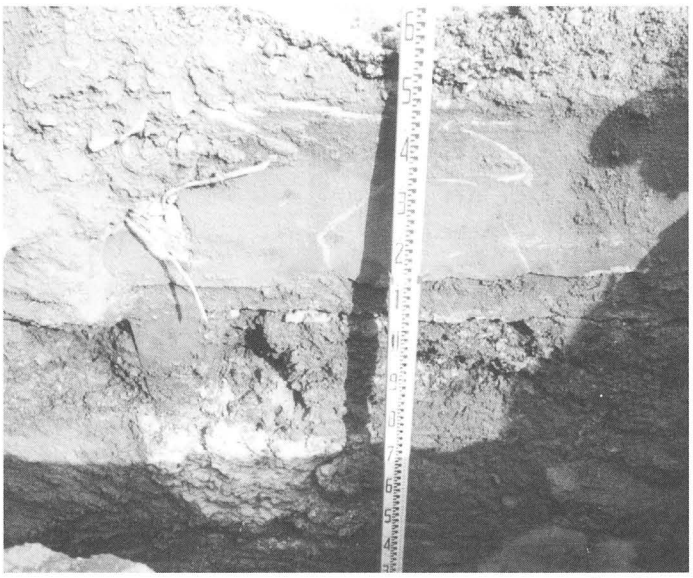
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

調査状況



A－1区土層断面

１．調査の概要

Ａ－１地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。

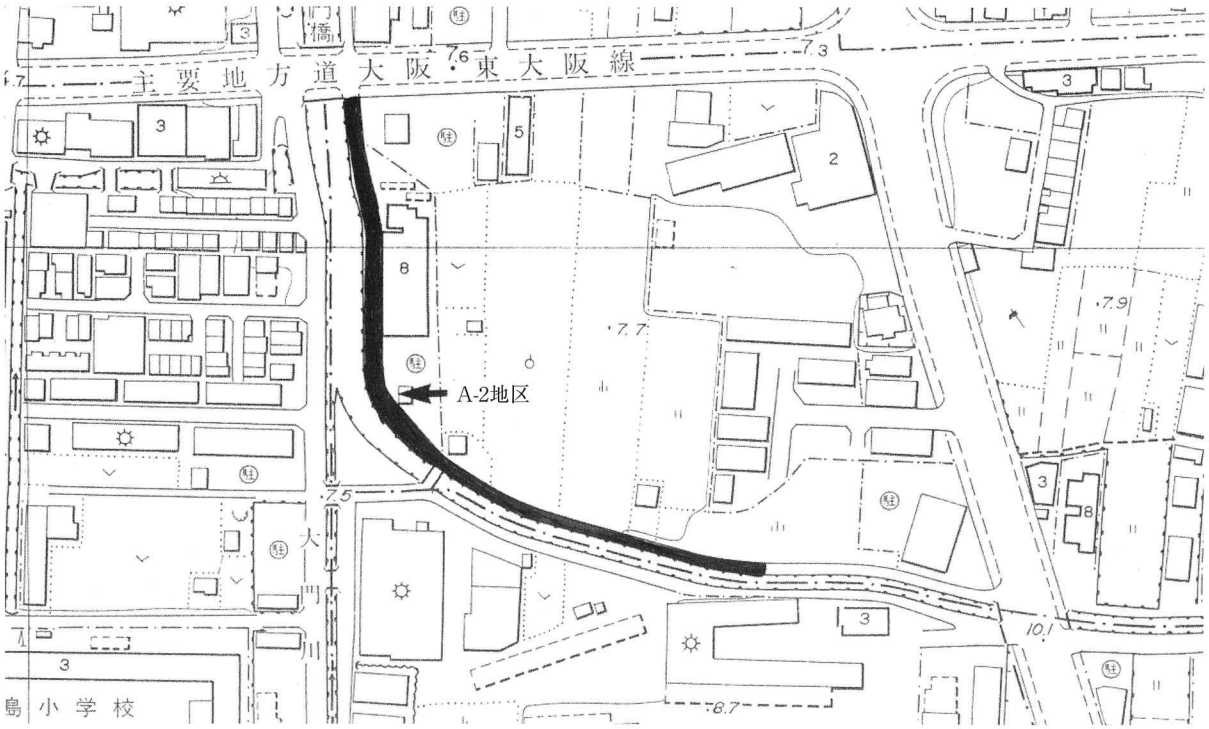
第３層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト。

２．まとめ

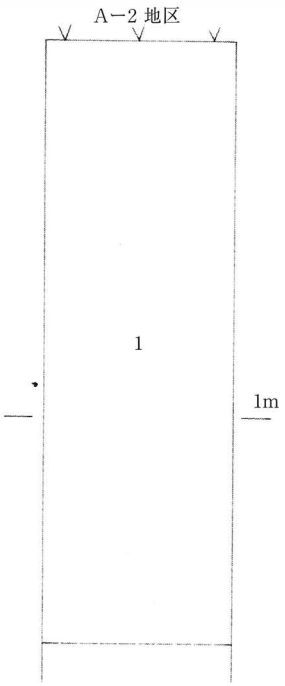
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第30章　北鳥池（きたとんのいけ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第 13工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市下六万寺町3丁目 1213-8～1239-2
3	調 査 面 積	223㎡
4	調 査 期 間	平成14年10月28日（延べ１日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は大阪東大阪線の南で大阪外環状線（国道170号線）の西である。当地点は北鳥池遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ226mの間であり、開削工法である。



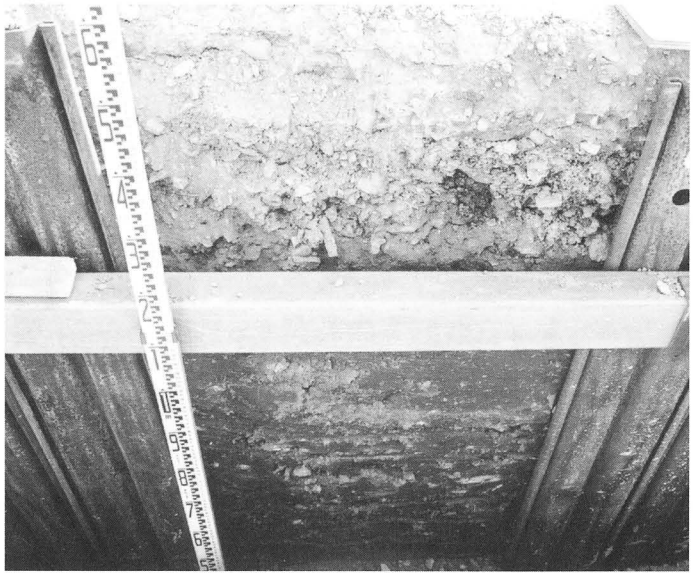
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

調査状況



A－2区土層断面

1．調査の概要

A－2地区の層序

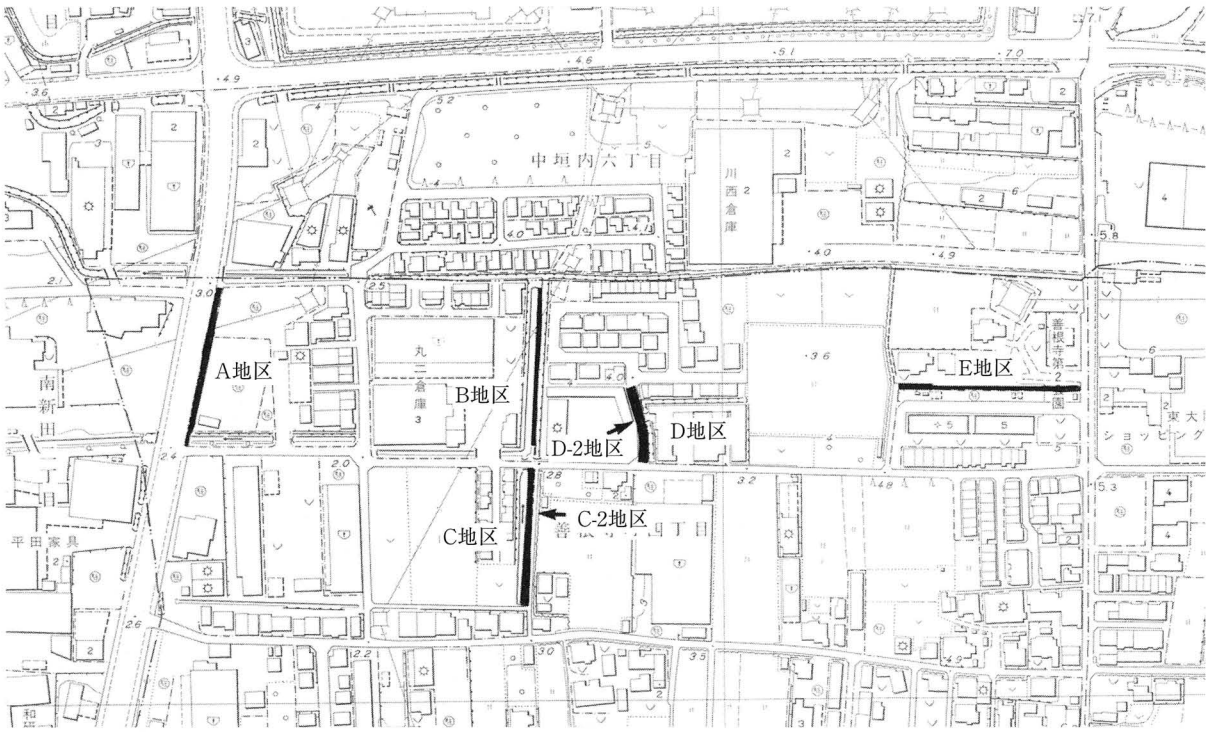
第1層　盛土。

2．まとめ

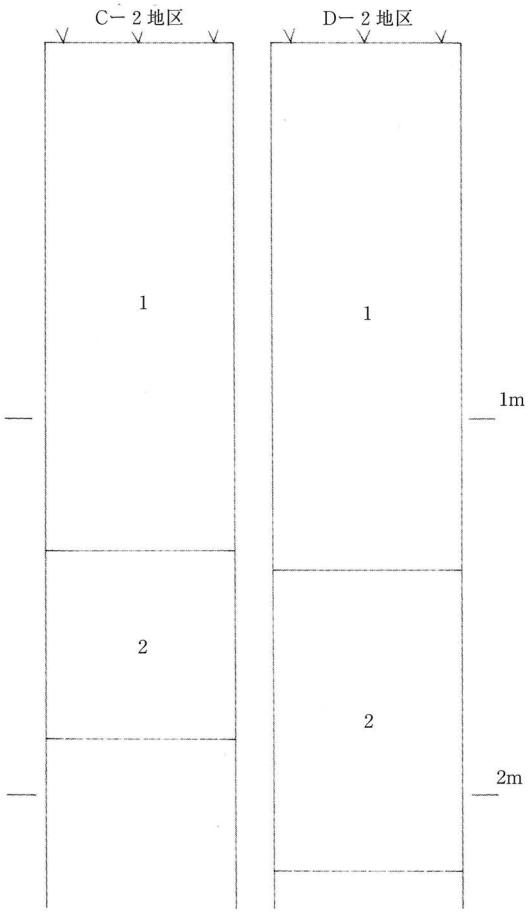
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第31章　中垣内（なかがいと）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第５工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市善根寺町4丁目 310-2～315-5、338-5～339-3他
3	調 査 面 積	348㎡
4	調 査 期 間	平成14年10月17日～11月14日（延べ８日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は大阪外環状線（国道170号線）と旧国道170号線の間である。当地点は中垣内遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ384mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/5000）



土層断面柱状図

C－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　オリーブ黒色(5Y3/1)礫混じり粗粒砂。

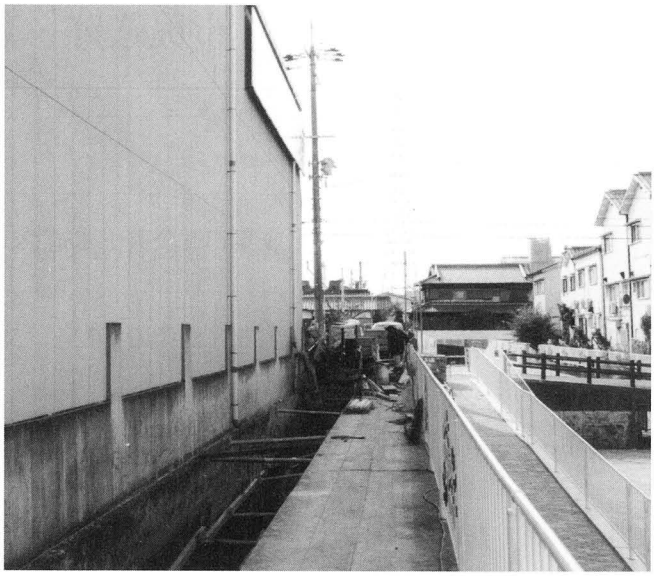
D－２地区の層序

第１層　盛土。

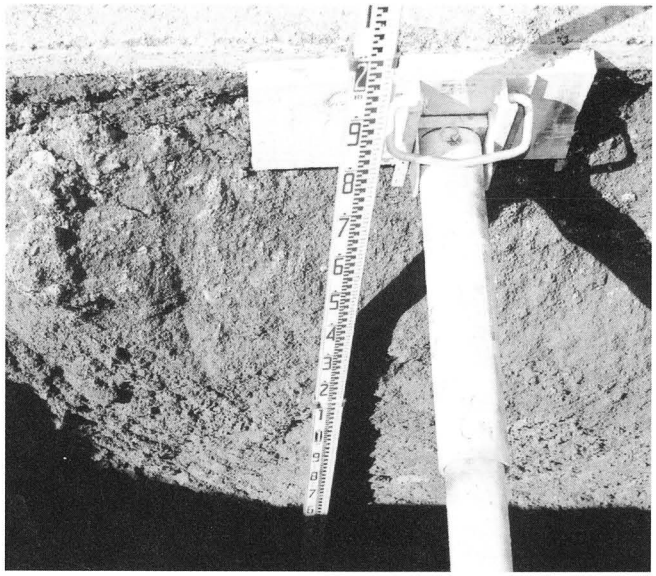
第２層　明青灰色(5BG7/1)シルト。

２．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。



調査地遠景

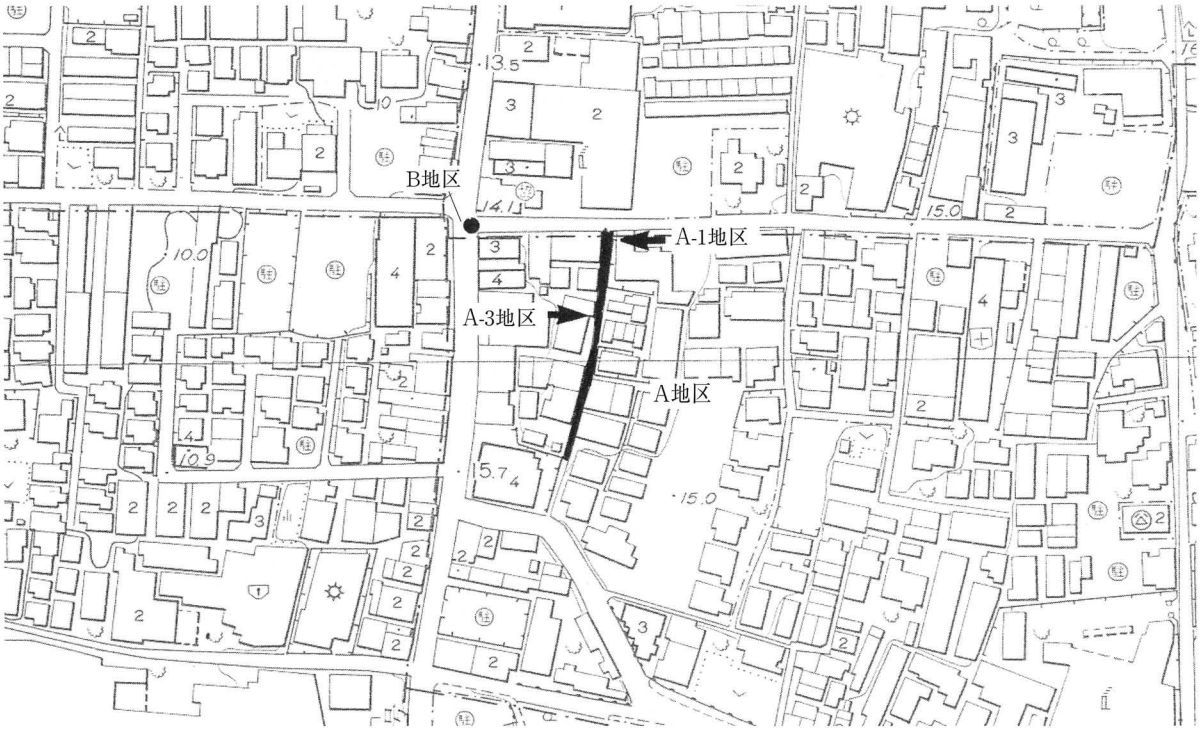


C－２地区土層断面

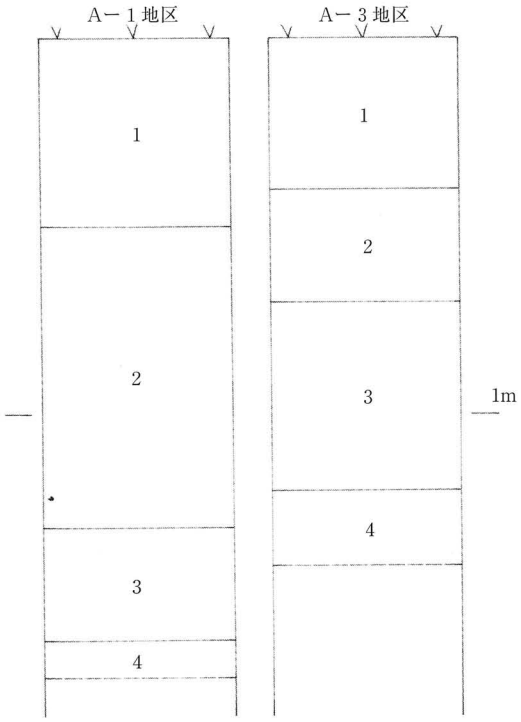
D－２地区土層断面

第32章　市尻遺跡（しじり）・東高野街道（ひがしこうや）の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成年13度公共下水道第57工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市四条町 602-2、587-1～591-1
3	調 査 面 積	64㎡
4	調 査 期 間	平成14年11月26日～12月７日（延べ７日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線瓢箪山駅の南である。当地点は市尻遺跡・東高野街道内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ73mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(10Y3/1)粘質シルト。

第3層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土。

第4層　黒色(2.5Y2/1)粘土。

A－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト～粗粒砂。

第3層　黒色(10Y2/1)粗粒砂混じりシルト。

第4層　黒色(N/21)粘土。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

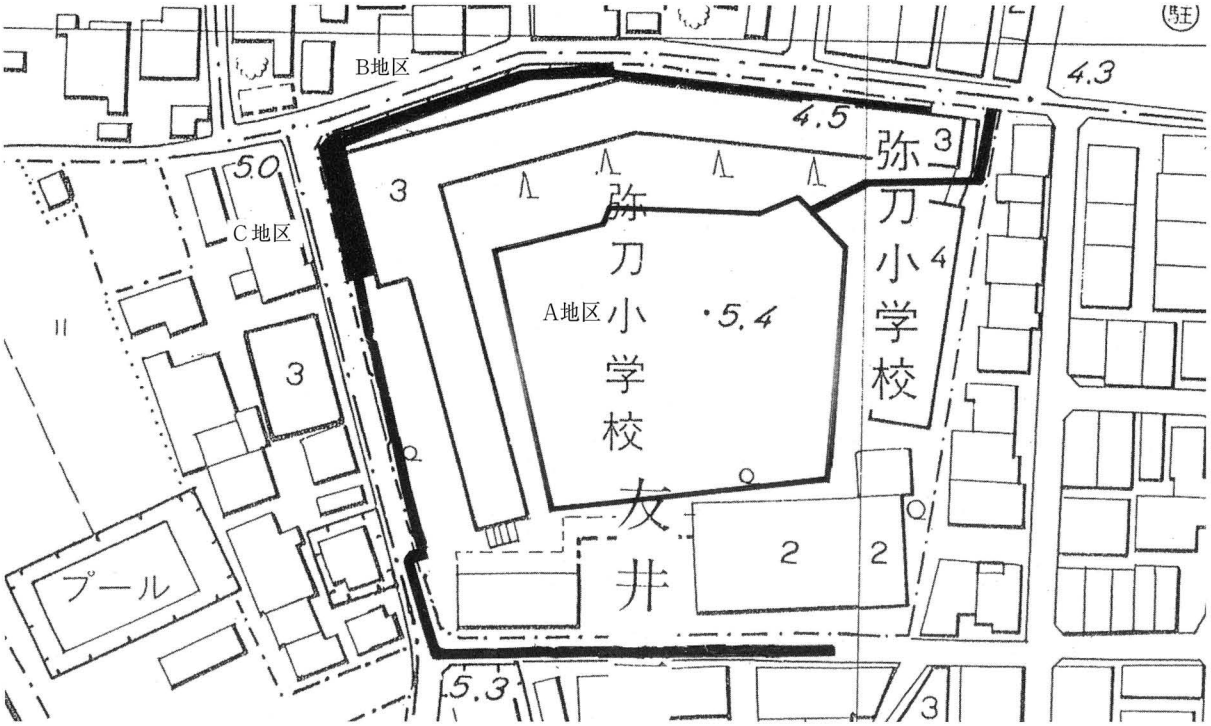
調査地遠景

A－1地区土層断面

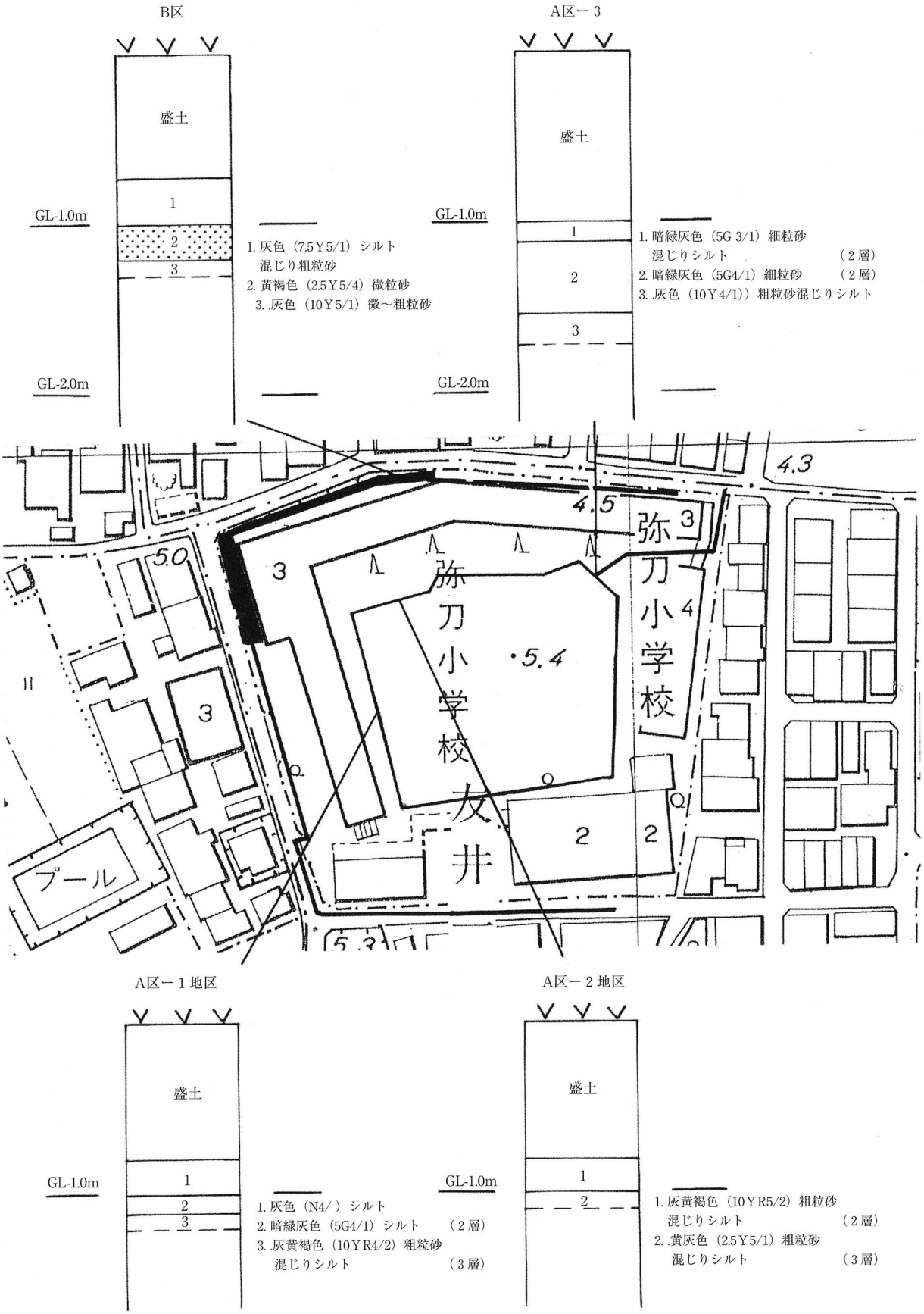
A－3地区土層断面

第33章　弥刀（みと）遺跡の第９次調査

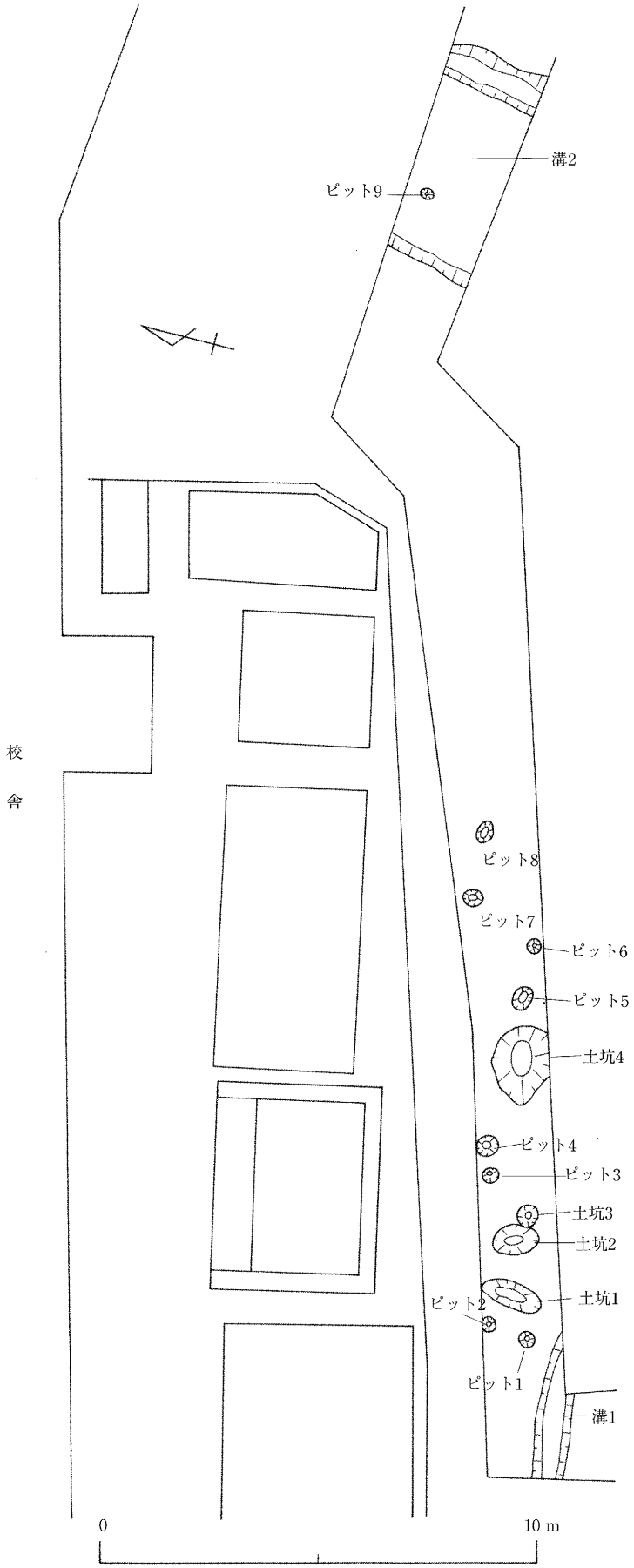
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度弥刀小学校雨水貯留事業
2	調 査 地 点	東大阪市友井1丁目64、78-5～11
3	調 査 面 積	336㎡
4	調 査 期 間	平成14年７月22日～12月９日（延べ21日）
5	報 告 担 当	木村
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は弥刀小学校とその周辺である。当地点は弥刀遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、北側のボックス埋設部分を発掘調査、他を立会調査することになった。工事範囲は幅約0.9～2.3mで長さ280mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/1250）


B区
盛土
1
2
3
GL-1.0m
GL-2.0m
1. 灰色（7.5Y5/1）シルト
混じり粗粒砂
2. 黄褐色（2.5Y5/4）微粒砂
3. 灰色（10Y5/1）微～粗粒砂
A区－3
盛土
1
2
3
GL-1.0m
GL-2.0m
1. 暗緑灰色（5G 3/1）細粒砂
混じりシルト （2層）
2. 暗緑灰色（5G4/1）細粒砂 （2層）
3. 灰色（10Y4/1））粗粒砂混じりシルト
4.3
4.5
5.0
5.4
弥刀小学校
弥刀小学校
友井
プール
A区－1地区
盛土
1
2
3
GL-1.0m
1. 灰色（N4/ ）シルト
2. 暗緑灰色（5G4/1）シルト （2層）
3. 灰黄褐色（10YR4/2）粗粒砂
混じりシルト （3層）
A区－2地区
盛土
1
2
GL-1.0m
1. 灰黄褐色（10YR5/2）粗粒砂
混じりシルト （2層）
2. 黄灰色（2.5Y5/1）粗粒砂
混じりシルト （3層）

土層断面柱状図



A区遺構平面図

1．調査の概要

弥刀遺跡では今回で9次に及ぶ調査を実施している。これまでに弥生時代及び中世の遺構と遺物が確認されている。調査地は弥刀小学校の校庭内及び校舎の外周で行われた。校庭内は掘削深度が浅いため立会調査、校舎の外周は掘削深度が深くなるため発掘調査を実施することとなった。校庭内をA区、校舎外周は2回にわけて調査を行ったので、校舎の北側をB区、西側をC区として調査を行った。

2．調査の成果

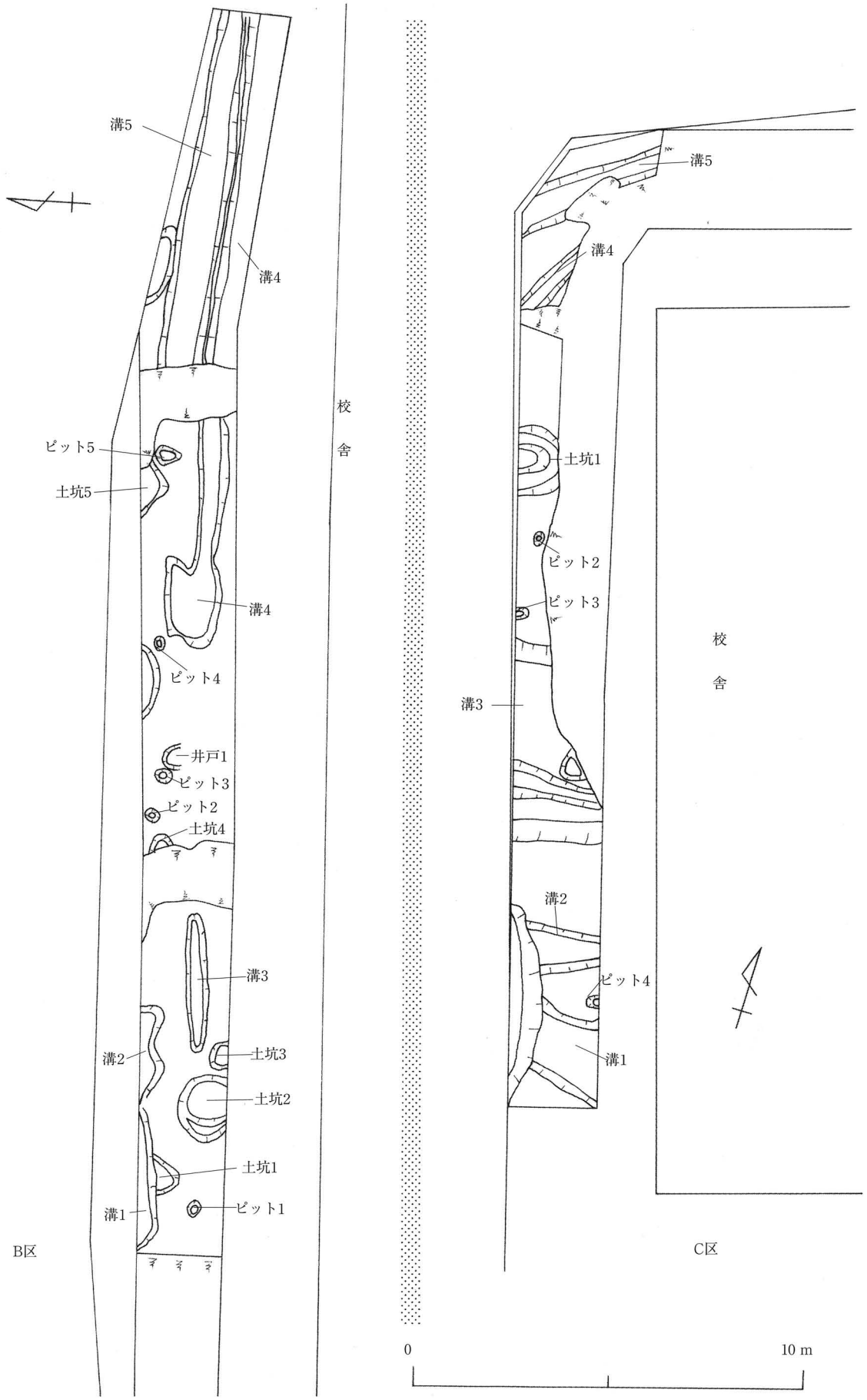
1）遺構

A区の遺構　校庭内の西側は遺構面まで掘削が及ばず、包含層上面で収まったため遺物を採集したにとどまった。北側については立会中に遺構が確認できたため、急遽遺構の掘削を行い、平板実測による測量を行った。東側及び南側については、2層が非常に厚く堆積しており遺構は確認できなかった。地形が大きく落ち込んでいる可能性も考えられる。

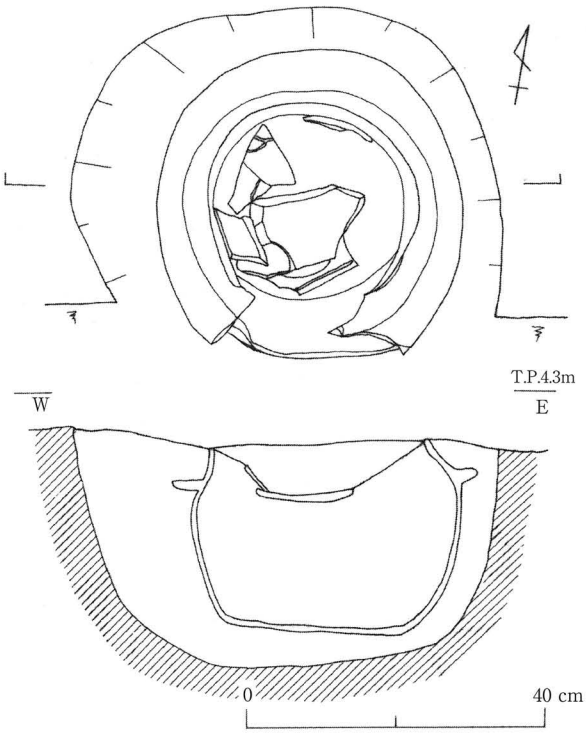
溝、土坑、ピットなどを検出したが、調査面積が限られていたため性格などは不明である。検出した遺構の内、遺物が出土したもののみ以下に概要を述べる。

溝1　長さ3.5m、幅0.8m、深さ4cm。土師器、瓦器、白磁、瓦質土器が出土した。

溝2　長さ2.5m、幅4.5m、


溝5
溝4
校
舎
ピット5
土坑5
溝4
ピット4
井戸1
ピット3
ピット2
土坑4
溝3
溝2
土坑3
土坑2
土坑1
溝1
ピット1
B区
溝5
溝4
土坑1
ピット2
ピット3
校
舎
溝3
溝2
ピット4
溝1
C区
0
10 m

B・C区遺構平面図



B区井戸1平・断面図

深さ12cmの幅広の溝。土師器、黒色土器、緑釉陶器、土師質土器、瓦器が出土した。

土坑１　長径0.6m、短径0.5m、深さ8cm。土師器が出土した。

土坑２　長径1.0m、短径0.7m、深さ11cm。土師器、黒色土器、陶器が出土した。

土坑４　長径1.6m、短径1.3m、深さ20cm。土師器、黒色土器、瓦器、須恵器、陶器が出土した。

ピット６　直径30～35cm、深さ16cm。黒色土器、土師器が出土した。

ピット７　直径20～25cm、深さ７cm。黒色土器が出土した。

ピット８　直径40～50cm、深さ10cm。土師器が出土した。

Ｂ区の遺構

Ｂ区では溝、土坑、ピット、井戸を検出した。

溝１　長さ3.5m、幅0.5m、深さ10cm。土師器、瓦器が出土した。

溝４　長さ16.0m、幅0.8m、深さ20cm。土師器、瓦器、須恵器が出土した。

土坑２　長径1.7m、短径1.3m、深さ50cm。黒色土器、土師器が出土した。井戸枠は無かったが、素掘りの井戸である可能性もある。

土坑５　長径1.5m、短径0.7m、深さ10cm。土師器、瓦器、須恵器が出土した。

ピット５　長径0.7m、短径0.5m、深さ10cm。土師器が出土した。

井戸１　試掘坑に南肩を切られているため、長径0.7m、短径0.5m、深さ30cmを測る。中には土師質羽釜が１個入れられており、底が抜かれていたため井戸と判断した。原位置を留めていたのは一個体だけであったが、内側にもう一個体分がおちこんでおり、最低２段は積まれていたものと考えられる。中からは他に完形の土師皿が一枚出土している。

Ｃ区の遺構

Ｃ区では溝、土坑、ピットを検出した。

溝１　長さ1.6m、幅1.8m、深さ20cm。土師器、瓦器、須恵器が出土した。

溝２　長さ1.6m、幅1.2m、深さ15cm。土師器が出土した。

溝３　長さ2.5m、幅5.0m、深さ30cm。瓦器が出土した。

溝４　長さ2.2m、幅0.5m、深さ20cm。土師器が出土した。

土坑１　長径1.8m、短径1.0m、深さ70cm。土師器、瓦器、須恵器が出土した。井戸枠は無かったが、素掘りの井戸である可能性も考えられる。

ピット３　直径0.3m、深さ10cm。土師器が出土した。

２）出土遺物

遺物の記述については（『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編　1995、森田勉・横田賢次郎「大宰府出土の輸入陶磁器について『九州歴史資料館研究論集　４集』1978、『和泉陶邑窯出土

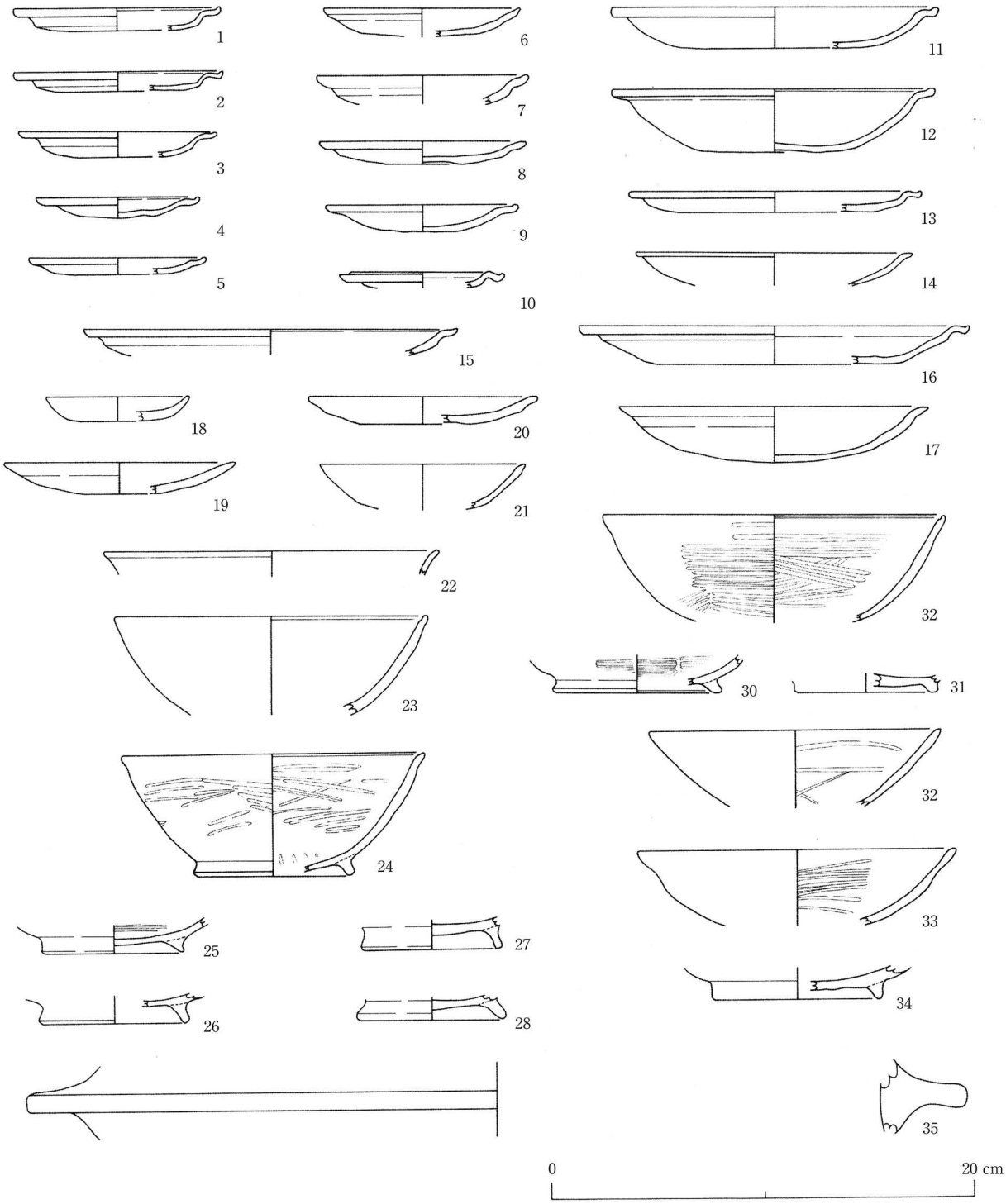
須恵器の型式編年』　中村　浩　2001.2　芙蓉書房出版）を参考にした。

A区

遺構出土の遺物（1～51）

溝2出土遺物（1～35・96）　35点を図示した。土師皿、黒色土器椀、緑釉陶器碗、土師質羽釜、瓦器椀である。瓦器椀以外は10世紀～11世紀にかけての時期に収まるものであるため、瓦器椀は上層の遺物が混入したものと思われる。

土師皿（1～21）　1～17がいわゆる「て」の字状口縁のもので、18～21は口縁を丸くおさめる



A区溝2出土遺物実測図

形態のものである。「て」の字状のものでも口縁端部をつまみあげるもの（1～6・9～13・15～17）と丸くおさめてつまみあげないもの（7・8・14）がある。また口縁の屈曲が強いものと弱いもの、つくりの薄いものとやや分厚いものなどさまざまな差異が存在する。

1は口径10.0cm、器高1.1cm。2は口径10.2cm、器高0.9cm。内面に煤付着。3は口径9.6cm、器高1.2cm。4は口径8.0cm、器高1.0cm。5は口径8.8cm、器高0.8cm。6は口径9.6cm、器高1.4cm。7は口径10.2cm、器高1.4cm。8は口径10.2cm、器高1.1cm。9は口径9.2cm、器高1.3cm。10は口径8.0cm、残存器高0.8cm。11は口径15.8cm、器高2.0cm。12は口径15.6cm、器高3.0cm。13は口径14.2cm、器高1.0cm。14は口径13.4cm、残存器高1.6cm。15は口径18.2cm、残存器高1.3cm。16は口径19.0cm、器高1.9cm。17は口径15.0cm、器高2.8cm。18は口径9.0cm、器高1.2cm。19は口径11.2cm、器高1.5cm。20は口径11.2cm、器高1.3cm。非常に扁平なものである。21は口径10.0cm、残存器高2.2cm。17は口径15.0cm、器高2.8cm。

緑釉陶器碗（22・96）　22は口径16.4cm、残存器高1.2cm。小片のため確実ではないがB1類になると思われる。口縁端部は微妙に外側が肥厚している。96は22と同一個体と思われる体部片である。ともに軟質焼成で、濃い緑色の釉が内外面にかかる。

黒色土器椀（23～31）　A類とB類がある。

A類（23～28）　23は口径15.0cm、残存器高4.8cm。24は口径14.0cm、器高5.7cm。23・24ともに口縁内面に一条の沈線を施す。23は不明であるが、24は内外面ともにミガキが施されている。25は底径6.4cm、残存器高1.6cm。断面三角形の高く突出する高台である。26は底径6.7cm、残存器高1.3cm。27は底径6.3cm、残存器高1.4cm。28は底径6.7cm、残存器高1.1cm。26～28は高く突出する断面台形の高台であり、28は大きく外側に開く。25～28のいずれも内面にミガキが施されているようではあるが、摩滅のため不明瞭である。

B類（29～31）　29は口径16.6cm、残存器高5.2cm。口縁内面に一条の沈線を施し、内外面とも密なミガキが施されている。30は底径7.9cm、残存器高1.9cm。31は底径6.8cm、残存器高0.9cm。ともに断面台形の高台であるが31はやや低くなっている。

瓦器椀（32～34）　32は口径13.5cm、残存器高3.6cm。33は口径14.6cm、残存器高3.5cm。ともに和泉型で内面に粗いミガキが施されており、Ⅲ－3期からⅣ－1期であろう。34は底径7.8cm、残存器高1.5cm。断面が丸みをおびた三角形状の高台である。

土師質羽釜（35）　35は鍔部のみの残存で鍔径44.0cm、残存器高3.7cm。鍔に煤が付着する。

土坑2出土遺物（36～40）　5点を図示した。土師皿、黒色土器である。

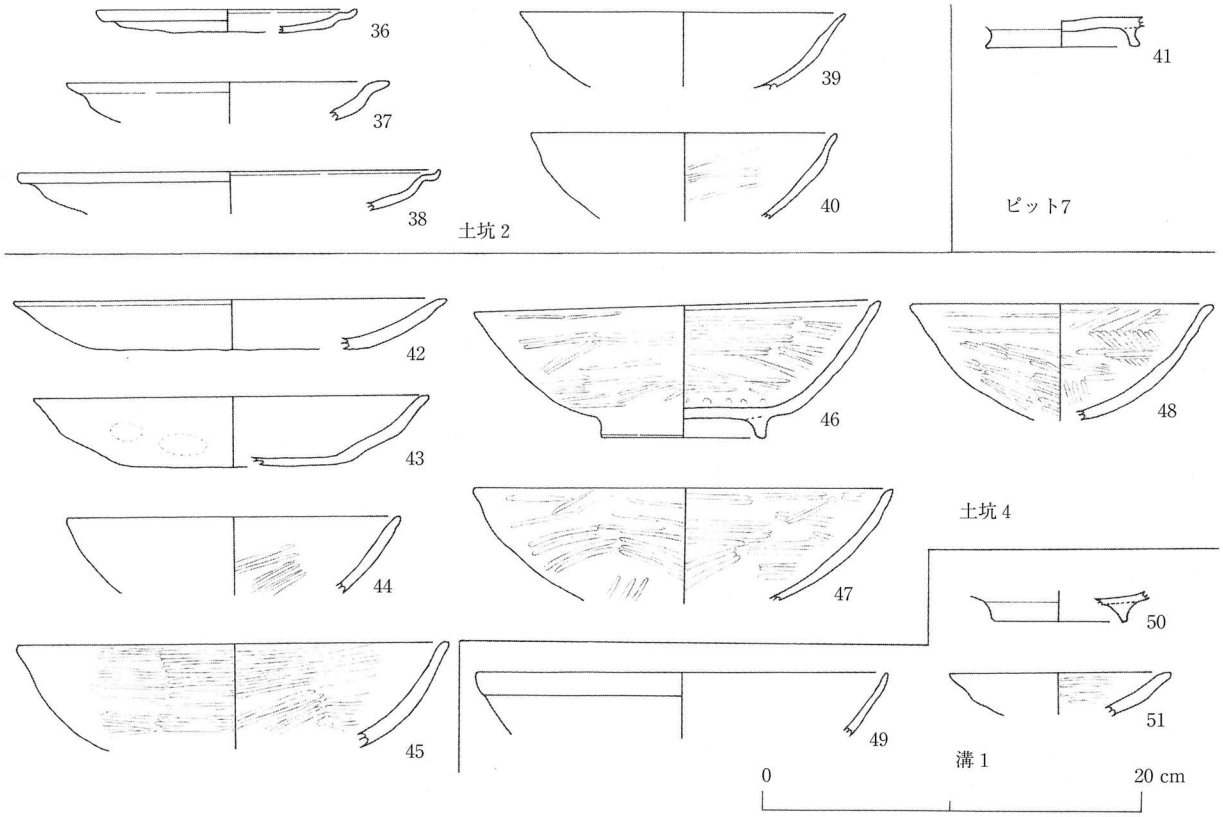
土師皿（36～38）　いずれも「て」の字状口縁のものである。36・38は口縁端部を上方につまみあげるが、37は丸くおさめる。36は口径10.2cm、器高0.9cm。37は口径12.8cm、残存器高1.6cm。38は口径16.6cm、残存器高1.7cm。

黒色土器（39・40）　39・40ともにA類で口縁端部は丸くおさめる。39は口径12.8cm、残存器高3.0cm。40は口径12.0cm、残存器高3.5cm、内面に粗いミガキを施す。

ピット7出土遺物（41）　1点を図示した。黒色土器A類の底部である。底径5.8cm、残存器高1.2cm。高い断面台形状の高台である。

土坑4出土遺物（42～48・97・98）　7点を図示した。土師皿、黒色土器、瓦器である。また写真のみではあるが灰釉陶器（97）と須恵器（98）がある。瓦器椀の年代から12世紀初め頃と考えられる。

土師皿（42・43）　ともに端部を丸くおさめるものである。大皿で器壁が分厚くなっている。



A区遺構出土遺物実測図

42は口径17.0cm、器高2.0cm。43は口径15.6cm、器高2.8cm。体部下半に指頭圧痕が残る。

黒色土器椀（44）　44は口径13.0cm、残存器高4.1cm。A類で端部は丸くおさめ、内面に粗いミガキを施す。

瓦器椀（45～48）　いずれも和泉型で内外面とも密なミガキを施す。Ⅰ－3期～Ⅱ－1期のものであろう。45は口径17.2cm、残存器高4.2cm。46は口径15.8cm、器高5.3cm。内面見込みに平行線ミガキを施す。断面台形の高い高台である。47は口径16.5cm、残存器高4.5cm。48は口径12.0cm、残存器高4.6cmであるが、器形がゆがんでいる可能性もある。また色調も土師器のようであるが、胎土は精良で内外面とも非常に細かく密なミガキが施されている。とりあえず瓦器椀としておくが土師器椀など他の種類である可能性も考えられる。

灰釉陶器（96）　写真のみの掲載であるが碗である。ＯＳ53窯式２型式のもので、口縁端部はわずかに外反し、体部下半はかなり厚手である。内外面とも釉がかかる。

須恵器（97）　写真のみの掲載であるが甕の体部である。外面調整タタキ、内面には青海波の当て具痕が残る。

溝１出土遺物　３点を図示した。白磁碗、瓦器椀、瓦器皿である。11世紀～12世紀頃と思われる。

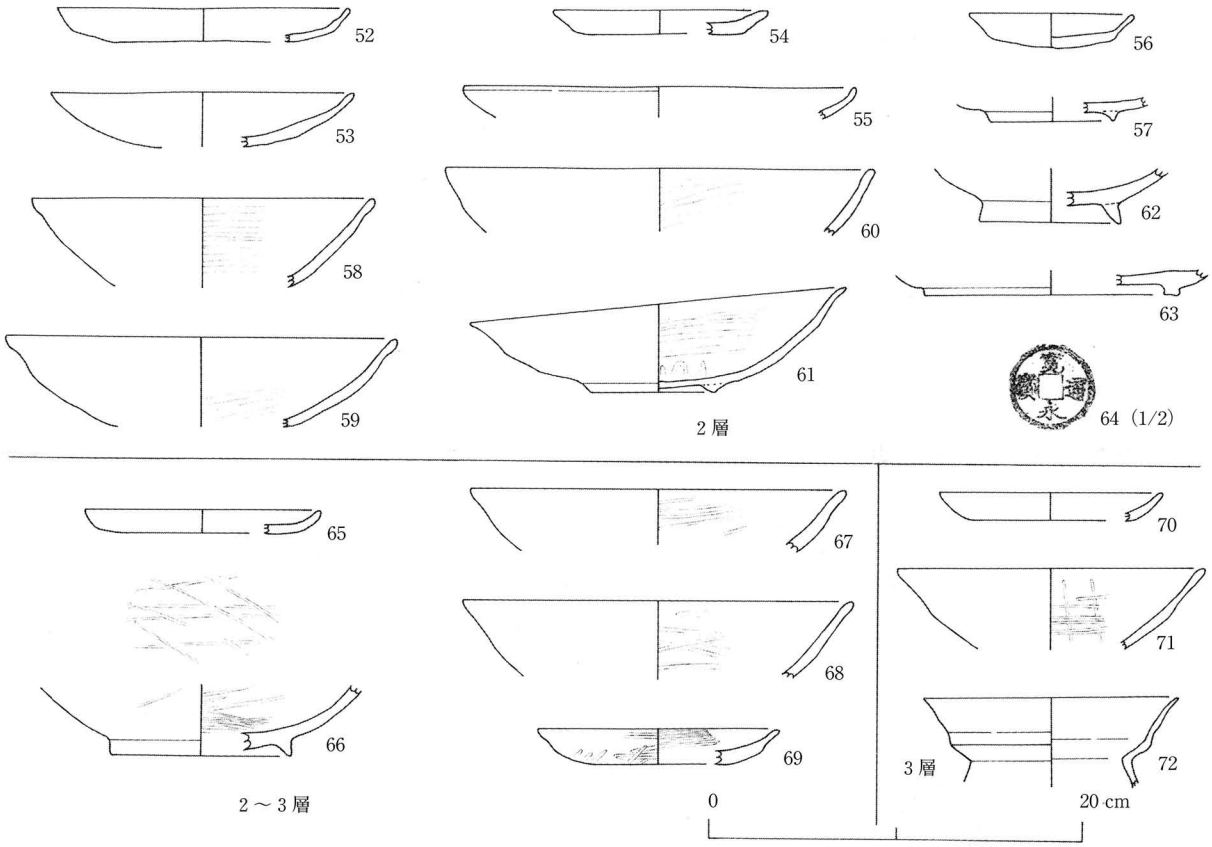
白磁碗（49）　49は口径16.2cm、残存器高2.5cm。口縁部にかすかな玉縁をもつ。釉は内外面ともにかかる。森田・横田分類白磁碗Ⅱ類またはⅢ類であろう。

瓦器（50・51）　50は瓦器椀で底径5.0cm、残存器高1.2cm。高い断面三角形の高台である。51は瓦器皿で口径8.6cm、残存器高1.7cm。内面に粗いミガキが施される。

細片のため図化できなかったため写真のみ掲載のものに土師皿（99）、瓦質三足（100）がある。

包含層出土の遺物（52～72）

近世の堆積土と考えられる２層、中世のものと考えられる遺構直上の３層からの出土遺物を掲載し



A区包含層出土遺物

ている。2層からは近世の染付も出土しているが、中世の遺物を主に選び出して掲載した。2～3層としているものは層位が特定できなかったものである。

2層出土遺物（52～64）　13点を図示した。土師皿、瓦器皿、瓦器椀、灰釉陶器碗、須恵器杯、銭貨である。

土師皿（52～55）　いずれも口縁端部を丸くおさめるものである。52は口径11.5cm、器高1.4cm。53は口径12.0cm、残存器高2.2cm。丸底に近い形態のようである。54は口径8.4cm、器高1.0cm。小型で厚手のものである。55は口径15.6cm、残存器高1.2cm。口縁端部をわずかにつまみあげる。

瓦器（56～61）　56は皿、それ以外は椀であり、全体的に摩滅しているため確かではないが、内面にはミガキが施されているが、外面に認められるものが無いのでおそらく和泉型Ⅲ－2期～Ⅲ－3期頃であろう。56は口径6.6cm、器高1.3cm。57は底径5.0cm、残存器高1.0cm。断面三角形の高台である。58は口径13.5cm、残存器高3.6cm。59は口径15.4cm、残存器高3.6cm。60は口径17.0cm、残存器高2.6cm。61は口径15.0cm、器高3.5～4.3cm。見込みのミガキは平行線状である。

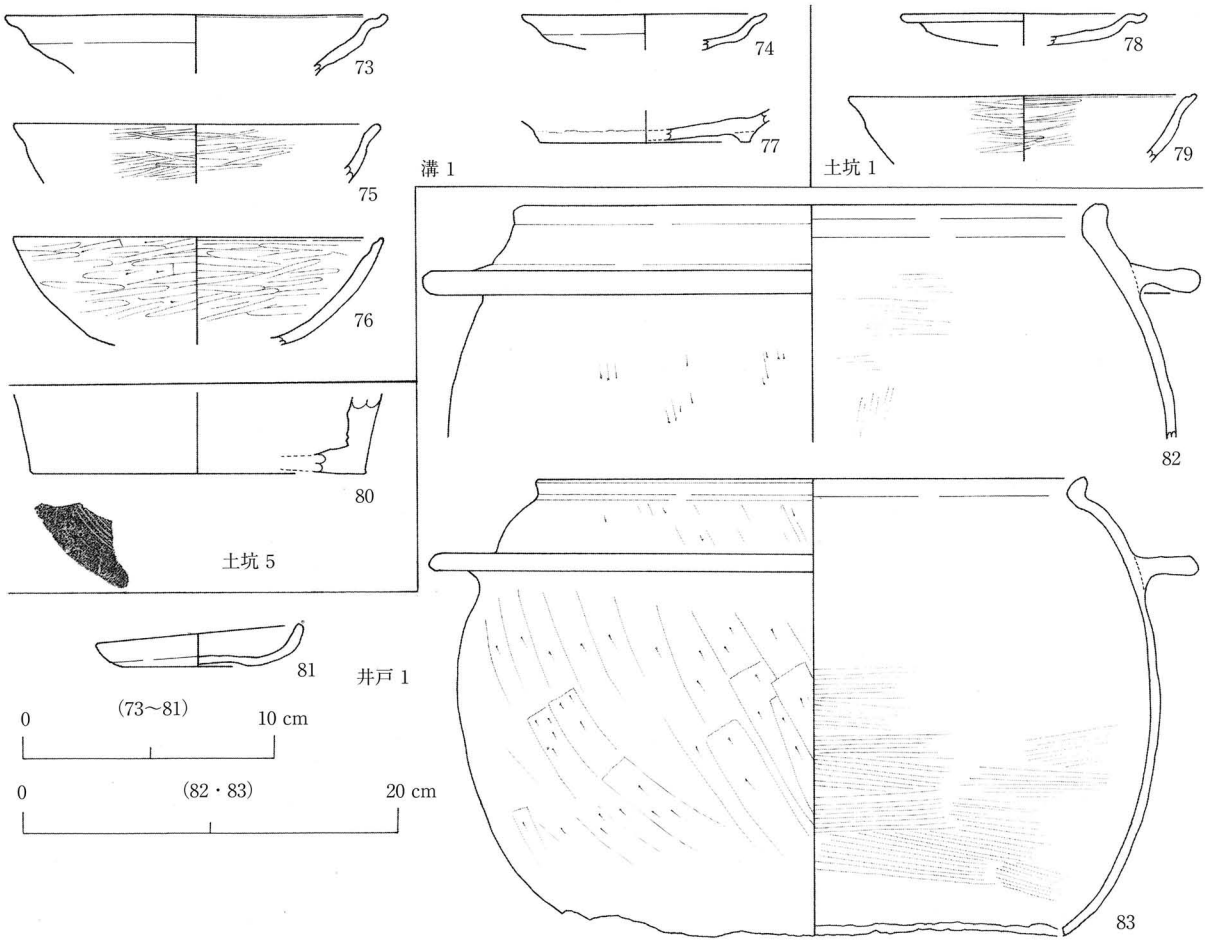
灰釉陶器碗（62）　62は底径5.6cm、残存器高2.2cm。断面三角形でやや外に開く高台である。内面のみ釉が認められる。百代寺窯式1型式のものであろう。

須恵器杯（63）　63は底径10.2cm、残存器高1.0cm。断面台形の高台である。他のものより古くおそらく中村編年Ⅳ型式のものと思われる。

土師質羽釜（101）　鍔の部分で写真のみの掲載である。

銭貨（64）　64は寛永通寶である。寛永通寶3期のもので、初鋳年は元禄10（1967）年である。2層はそれ以降の堆積である可能性が高い。直径2.6cm。

2～3層出土遺物（65～69・102）　5点を図示した。土師皿、瓦器椀、瓦器皿である。



B・C区遺構出土遺物実測図

土師皿（65）　65は口径9.2cm、器高0.9cm。扁平なもので、口縁端部は丸くおさめる。

瓦器（66～69）　66～68は椀、69は皿である。いずれも和泉型Ⅱ－３期～Ⅲ－１期と考えられる。椀はいずれも内面にミガキが施される。66は底径7.0cm、残存器高2.9cm。断面三角形の高台で、見込みに斜格子のミガキが施される。67は口径15.0cm、残存器高3.5cm。68は口径15.5cm、残存器高3.1cm。69は口径9.6cm、器高1.5cm。内外面に密なミガキが施される。

土師質羽釜（102）　写真のみの掲載である。口縁端部が外方へ拡張されるものである。

３層出土遺物（70～72）　３点を図示した。瓦器皿、瓦器椀、土師器小型丸底壺である。

瓦器（70・71）　70は皿、71は椀である。70は口径8.8cm、器高1.1cm。71は口径12.2cm、残存器高3.2cm。内面にミガキが施されているが、横方向のもののほかに縦方向のものが認められる。和泉型Ⅱ－３期～Ⅲ－１期であろう。

土師器　72は小型丸底壺で、口径10.2cm、残存器高3.6cm。非常に薄いもので頸部の途中に段を持つ。内外面ともナデ調整である。

Ｂ・Ｃ区遺構出土遺物（73～83）

Ｂ区土坑５出土遺物（80）　１点を図示した。須恵器壺の底部である。底径13.2cm、残存器高3.2cm。内外面調整ナデ。底面に糸切り痕が認められる。

Ｂ区井戸１出土遺物（81～83）　３点を図示した。土師皿及び土師質土器羽釜である。

土師皿（81）　81は口径8.0cm、残存器高1.7cm。調整は口縁部がヨコナデ、それ以外はナデ。

土師質羽釜（82・83）　82は口径30.2cm、残存器高12.7cm。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部

ケズリ、内面調整ヨコハケ一部タテハケ。外面に煤付着。83は口径28.9cm、残存器高24.5cm。外面調整ケズリ、内面調整ヨコハケ。底は井戸枠として使用するために打ちかかれている。外面に煤付着。河内B1d型である。12世紀末～13世紀初頭であろう。

C区溝1出土遺物（73～77）　5点を図示した。土師皿、瓦器椀、黒色土器椀である。10～11世紀頃のものである。

土師皿（73・74）　ともに「て」の字状のものであり、調整は口縁部がヨコナデ、それ以外はナデ。73は口径15.0cm、残存器高2.4cm。口縁部は強く屈曲し、端部は上方につまみあげられる。74は口径9.7cm、残存器高1.4cm。口縁部の屈曲はそれほど強くなく、外方へひらく程度である。

瓦器椀（75）　75は口径14.4cm、残存器高2.4cm。内外面とも密なミガキが施される。口縁部はやや外方へひらく。和泉型Ⅰ期である。

黒色土器椀（76・77）　ともにA類である。76は口径14.6cm、残存器高4.3cm。内外面とも密なミガキが施される。口縁端部内面に沈線が一条施される。77は底径8.4cm、残存器高1.3cm。摩滅が著しく調整不明。断面台形の高台である。

C区土坑1出土遺物（78・79）　2点を図示した。土師皿、瓦器椀である。10～11世紀頃のものである。

土師皿（78）　78は「て」の字状のもので、口径9.6cm、器高1.3cm。口縁部は強く屈曲し、端部は若干上方につまみあげられる。調整は口縁部がヨコナデ、それ以外はナデ。

瓦器椀（79）　79は口径13.6cm。残存器高2.7cm。内外面とも密なミガキが施される。口縁端部内面に沈線が一条施される。大和型Ⅰ期である。

B区・C区包含層出土遺物（84～95）

B区2層出土遺物（84・85）　2点を図示した。須恵器壺、瓦器椀である。

須恵器壺（84）　84は底径8.2cm、残存器高2.3cm。内外面調整回転ナデ。断面台形の高台である。

瓦器椀（85）　85は口径11.0cm、残存器高2.6cm。内外面調整ナデ、内面に粗いミガキを施す。和泉型Ⅳ－3期である。

B区3層出土遺物（86～88）　3点を図示した。いずれも須恵器で杯、鉢、小壺である。

須恵器杯（86）　86は口径13.8cm、残存器高1.6cm。内外面調整回転ナデ。

須恵器鉢（87）　87は東播系鉢で口径32.0cm、残存器高7.9cm。外面調整回転ナデ及びナデ、内面調整ナデ。口縁端部はほとんど拡張されない。森田編年第Ⅰ期第2段階のものである。

須恵器小壺（88）　88は小壺で、口径7.0cm、器高7.0cm。調整は底部が回転ケズリ、それ以外は回転ナデ。体部上半にヘラ記号を施す。

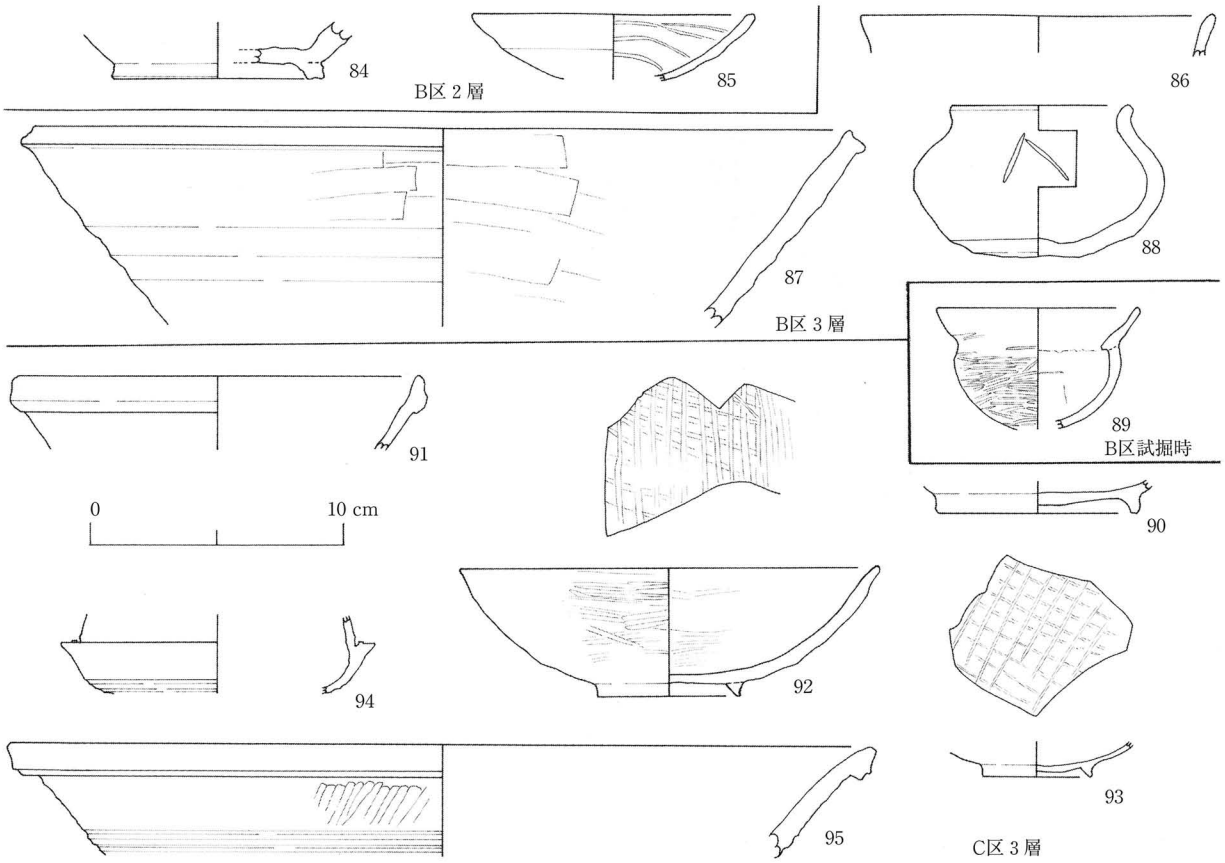
B区試掘時出土遺物（89）　89は土師器小型丸底壺である。口径7.9cm、器高4.8cm。外面調整ミガキ、内面調整口縁部ヨコナデ、体部イタナデ。72と比べると小型である。

C区3層出土遺物（90～95）　6点を図示した。黒色土器椀、白磁碗、瓦器椀、須恵器杯身、須恵器甕である。

黒色土器椀（90）90は底径7.8cm、残存器高1.3cm。内外面とも摩滅が著しく調整不明。断面台形の高台である。

白磁碗（91）　91は口径15.8cm、残存器高2.9cm。内外面とも施釉される。森田・横田分類の白磁碗Ⅳ類である。

瓦器椀（92・93）　92は口径16.4cm、器高5.1cm。内面は密なミガキ、外面はやや粗いミガキが施される。見込みに格子状の暗文が施される。断面三角形の高台である。和泉型Ⅱ－1期。93は底径



B・C区包含層出土遺物実測図

4.3cm、残存器高1.4cm。見込みに格子状の暗文を施す。断面三角形状の高台である。

須恵器杯身（94）　94は残存器高3.1cm。外面調整底部は回転ケズリ、上部は回転ナデ、内面調整回転ナデ。受け部に重ね焼きの痕跡と思われる溶着痕が見られる。

須恵器甕（95）　口径33.8cm、残存器高4.4cm。口縁端部は外方へ拡張し、沈線を一条施す。残存している下部にも沈線二条を施す。工具による文様が施されている。内面調整回転ナデ。

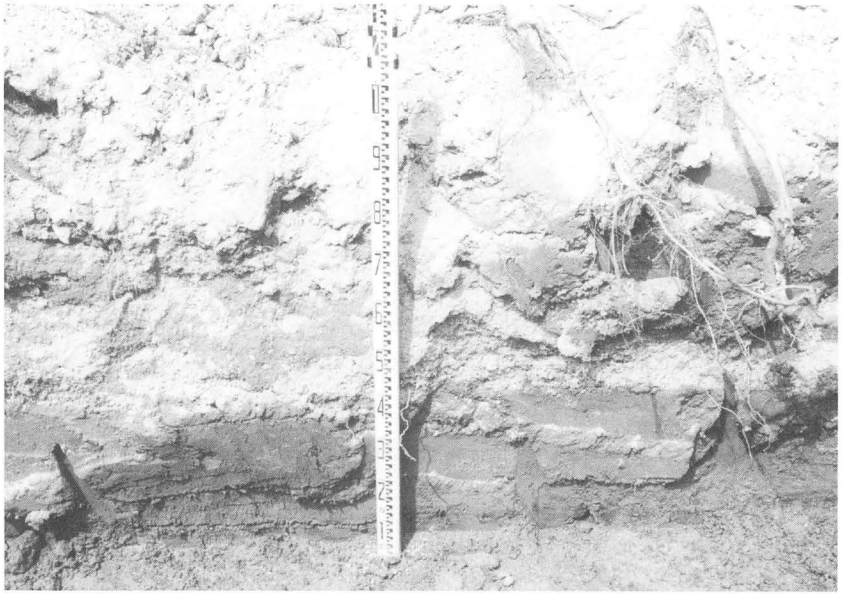
３．まとめ

今回の調査では小学校の敷地の北西で遺構、遺物を検出した。Ｂ区で羽釜の井戸１基を検出しているが、据えた状態では一段分しか残っておらず内部にもう一段分が落ち込んでいたことから、中世の地表面はかなりの削平を受けているようである。そのため井戸などの掘削深度が深い遺構以外はほとんど残っていないと思われる。

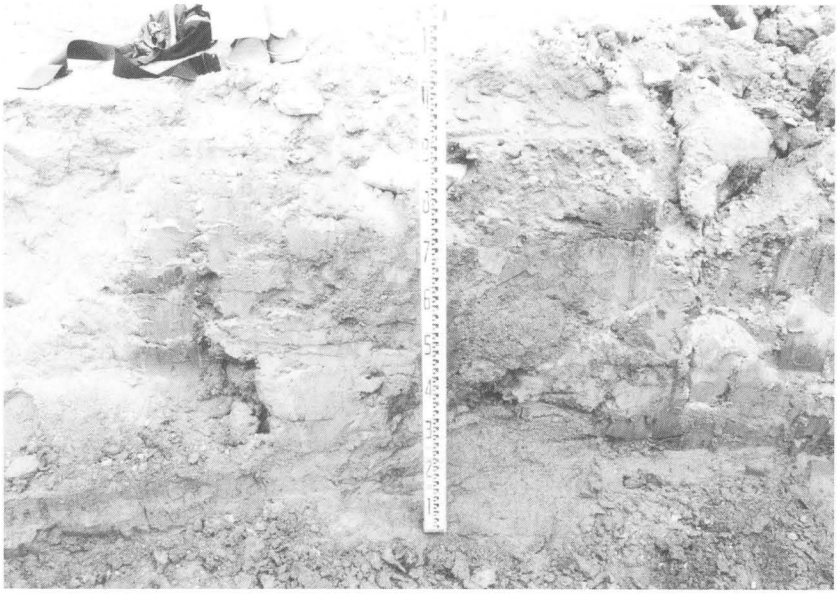
出土した遺物は10世紀～13世紀の中世のものが多数を占めている。その大半が土師皿、黒色土器、瓦器椀であり、陶磁器類はほとんど認められない。磁器は白磁２点、陶器は緑釉１点、灰釉２点である。調査範囲が非常に限られたものであるのは確かであるが、その他の種類に比べるとその割合は著しく低いように思われる。

また古墳時代前期・中期、及び奈良時代の遺物がいずれも細片ながら出土していることは注目され、削平によって消滅している可能性もあるが、周辺にその時期の遺構が存在している可能性もある。

A区調査地遠景



A区土層断面



A区土層断面

A区調査地全景（西から）

A区溝２（東から）

B区試掘土層断面

B区遺構全景（西から）

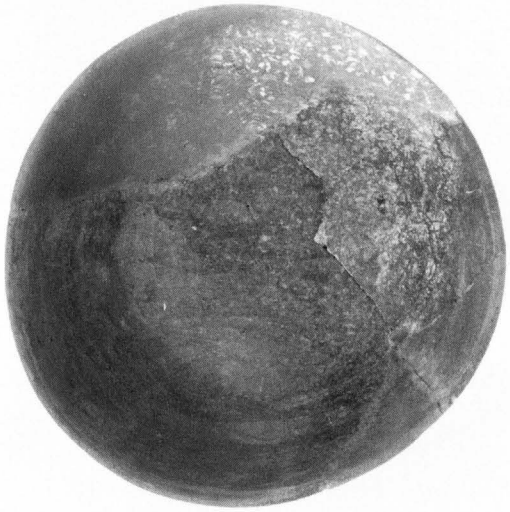
B区遺構全景（西から）

B区井戸１検出状況

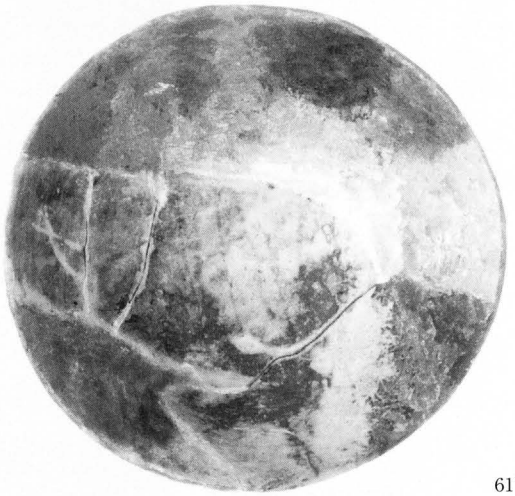
B区井戸１完掘状況

C区遺構全景（南から）

C区遺構全景（南から）

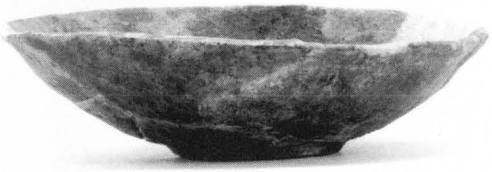


46'



61'

46



61

9

12

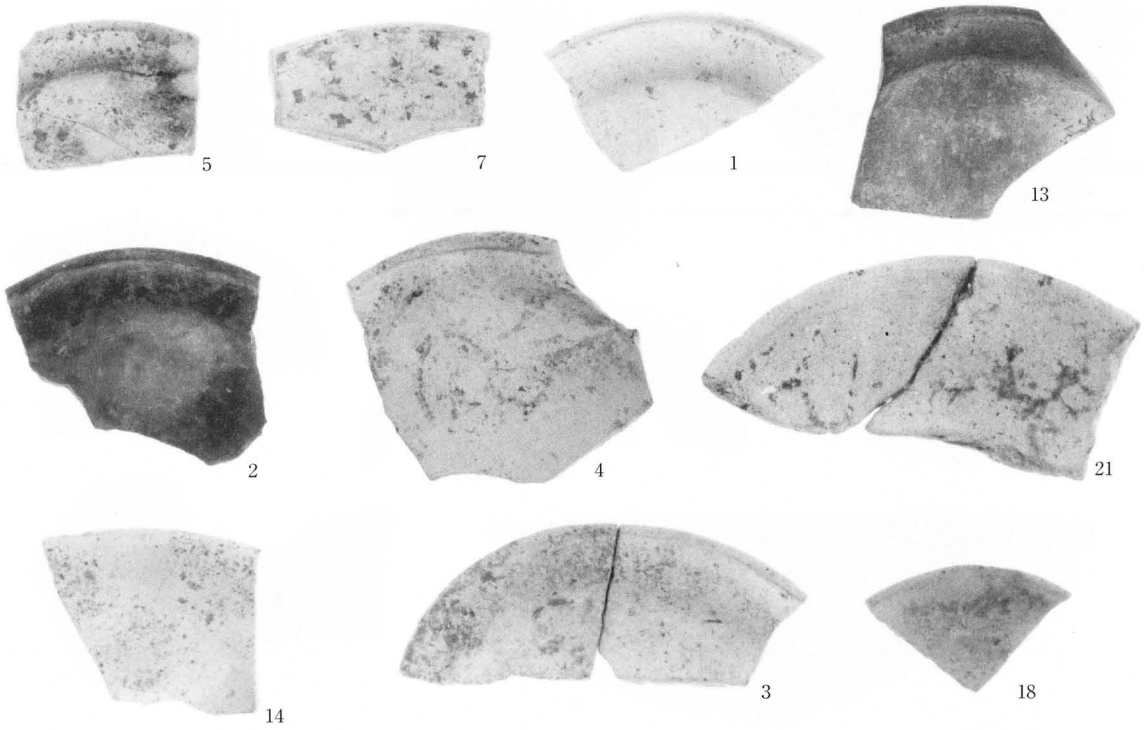
83

20

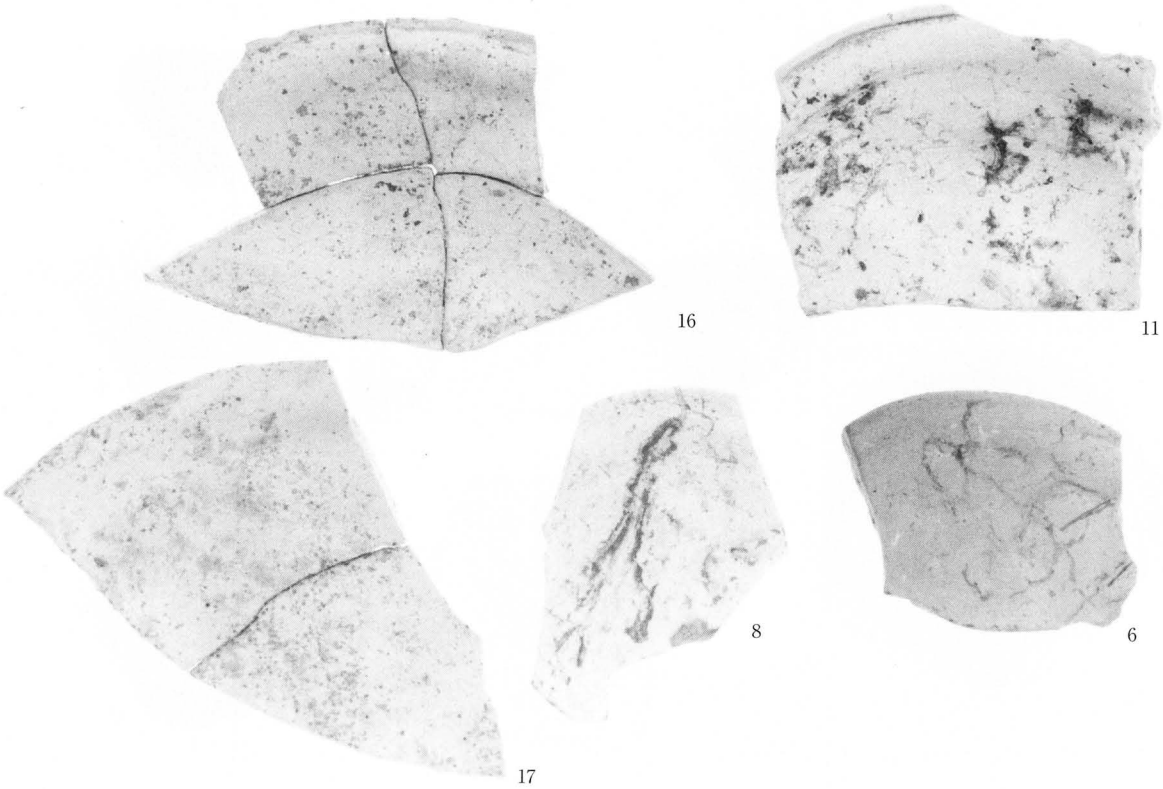
81

88

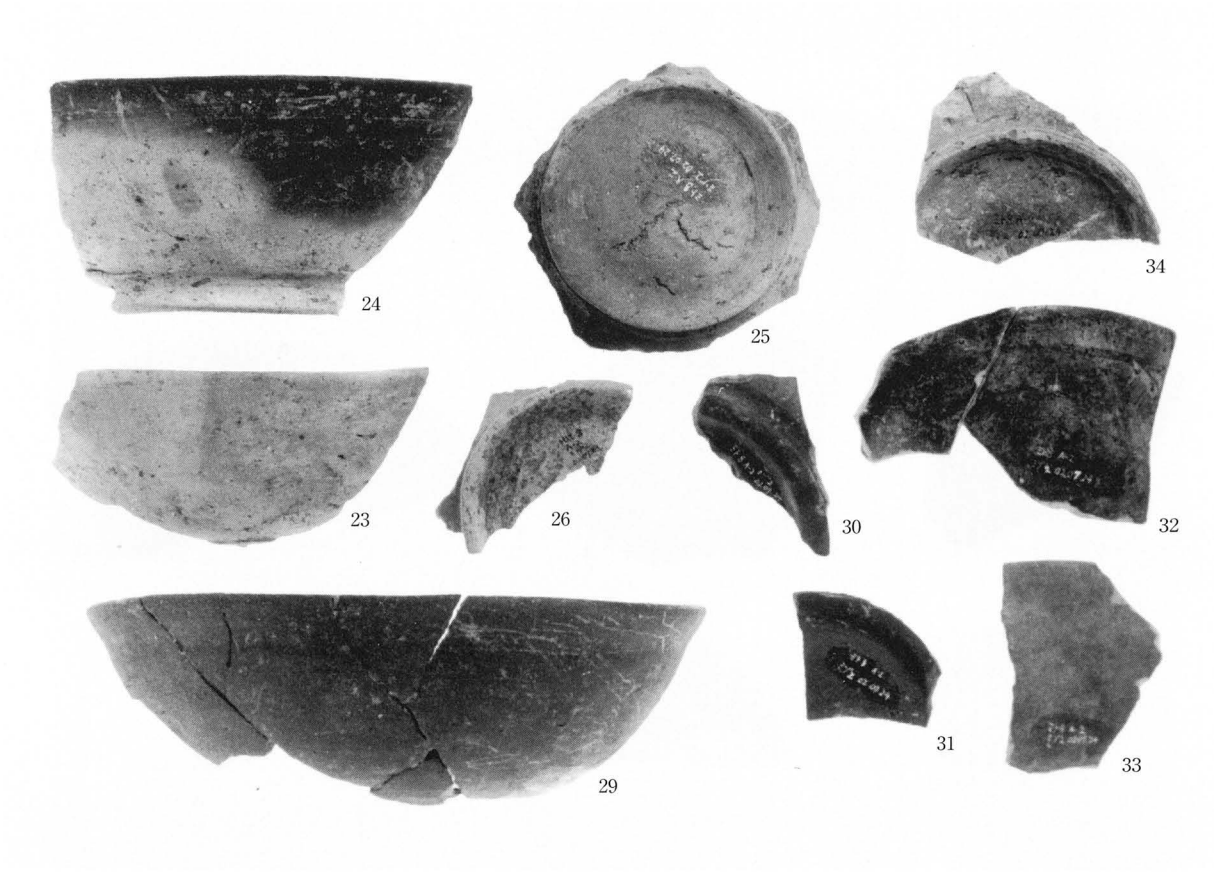
出土遺物（瓦器・土師器・土師質土器・須恵器）



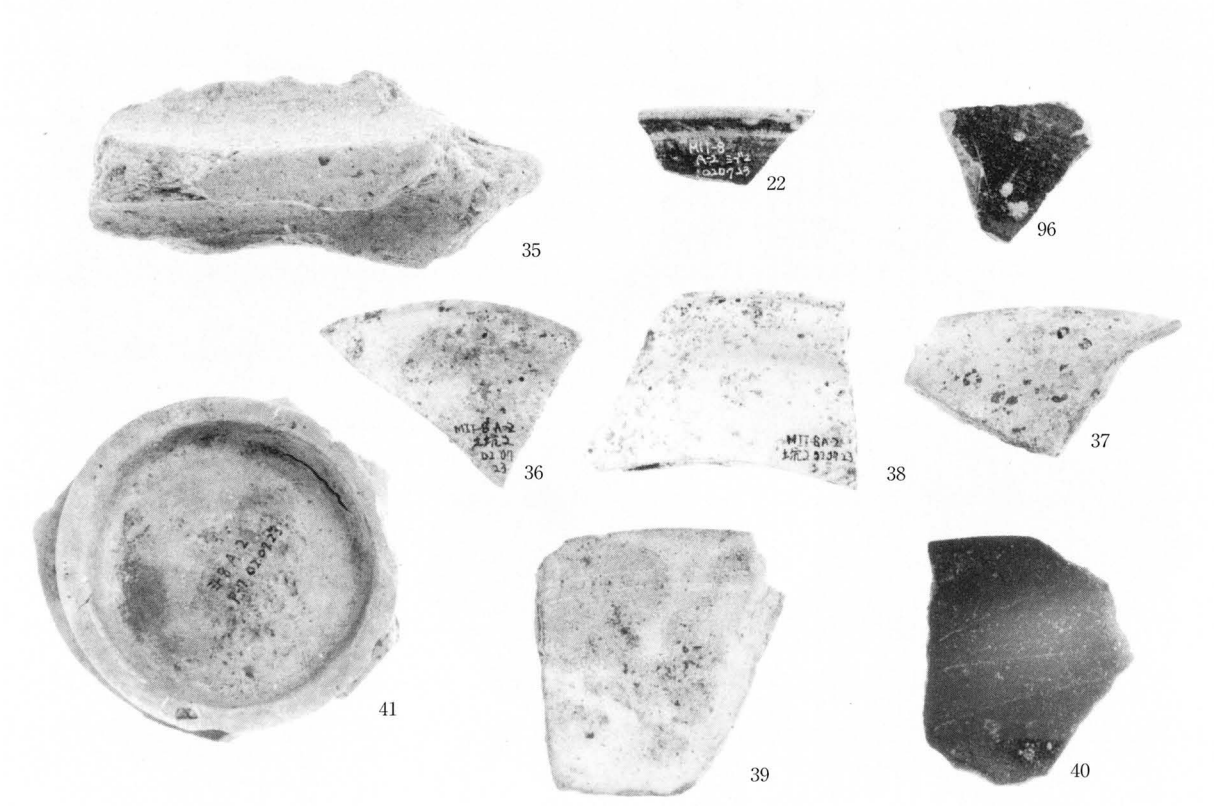
出土遺物（土師器）



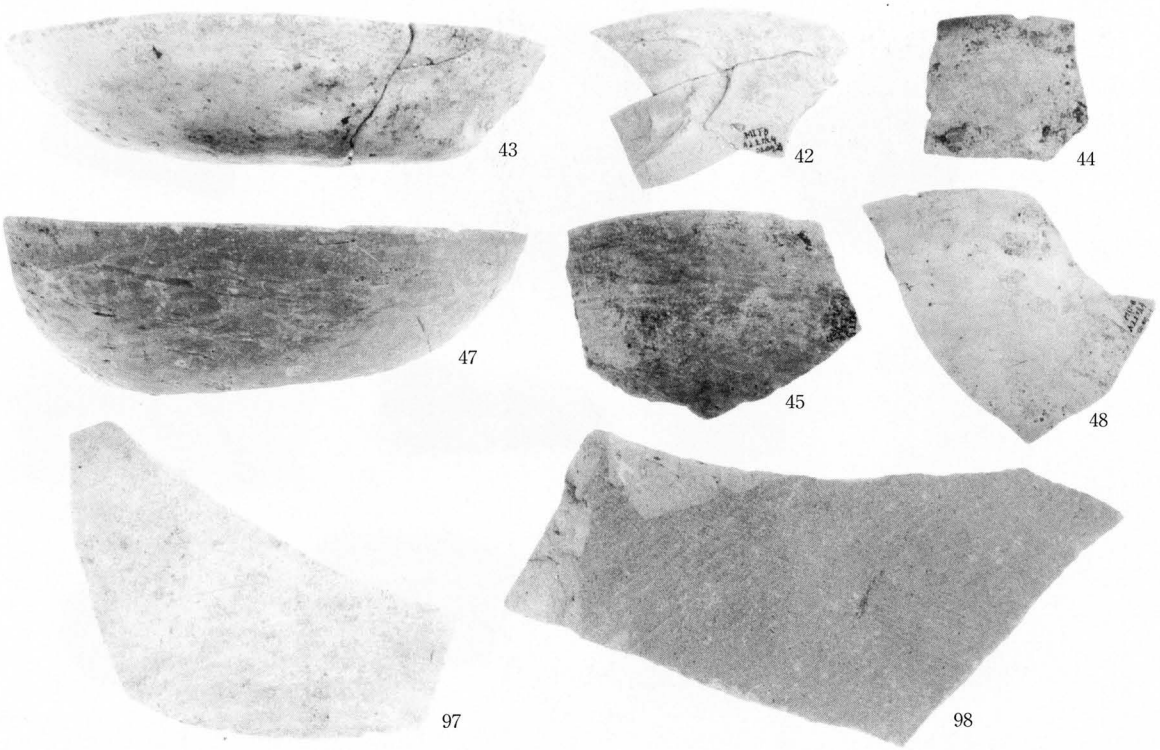
出土遺物（土師器）



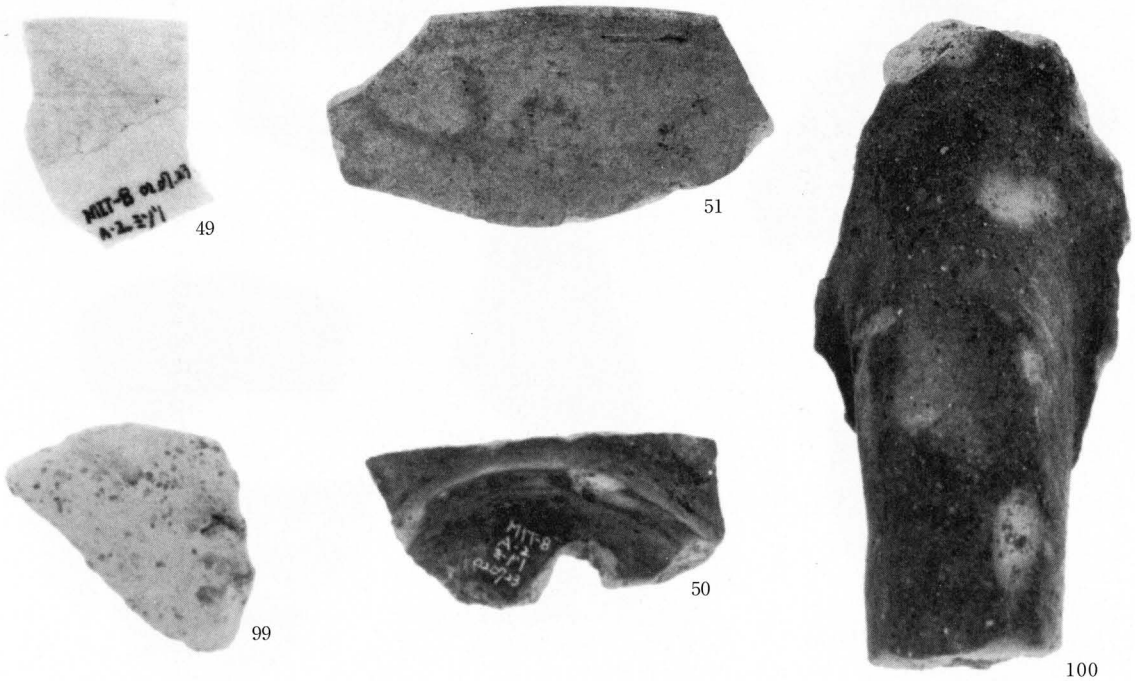
出土遺物（黒色土器）



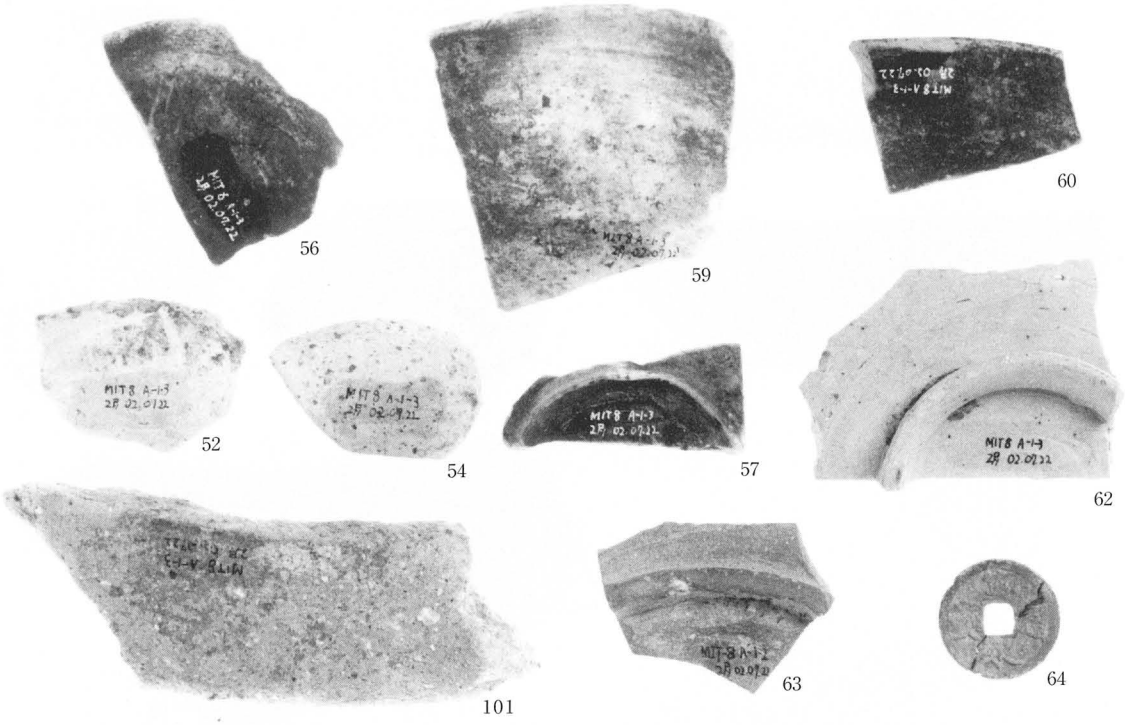
出土遺物（土師器・土師質土器・黒色土器・緑釉陶器）



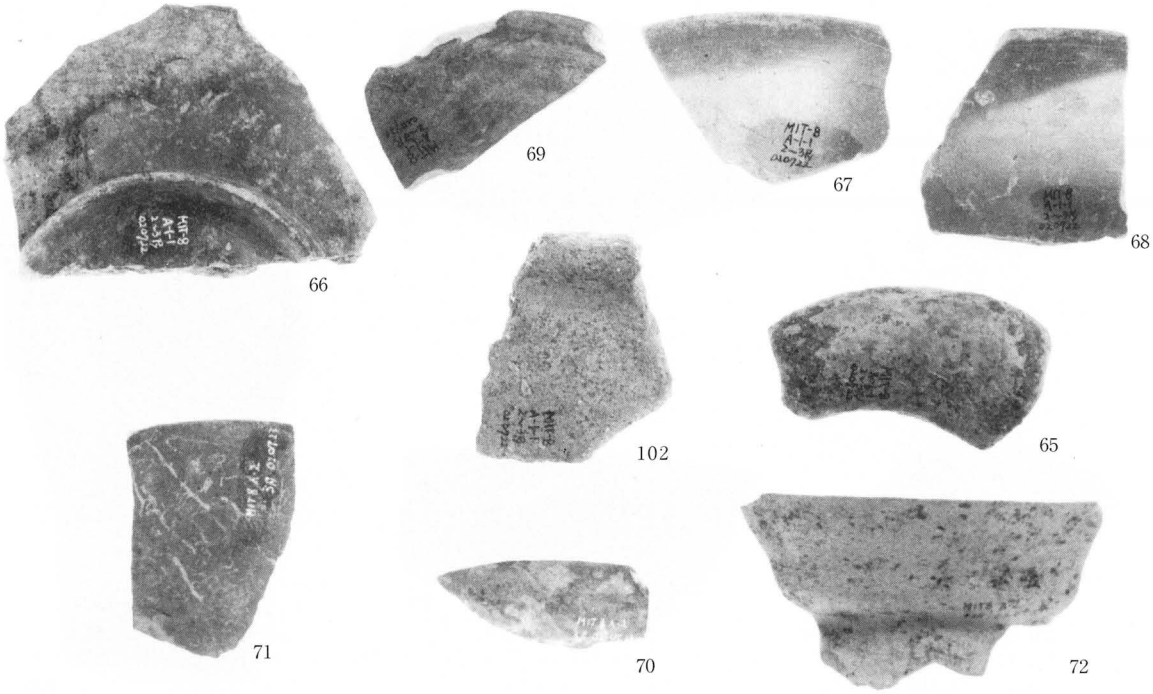
出土遺物（土師器・瓦器・灰釉陶器・須恵器・黒色土器）



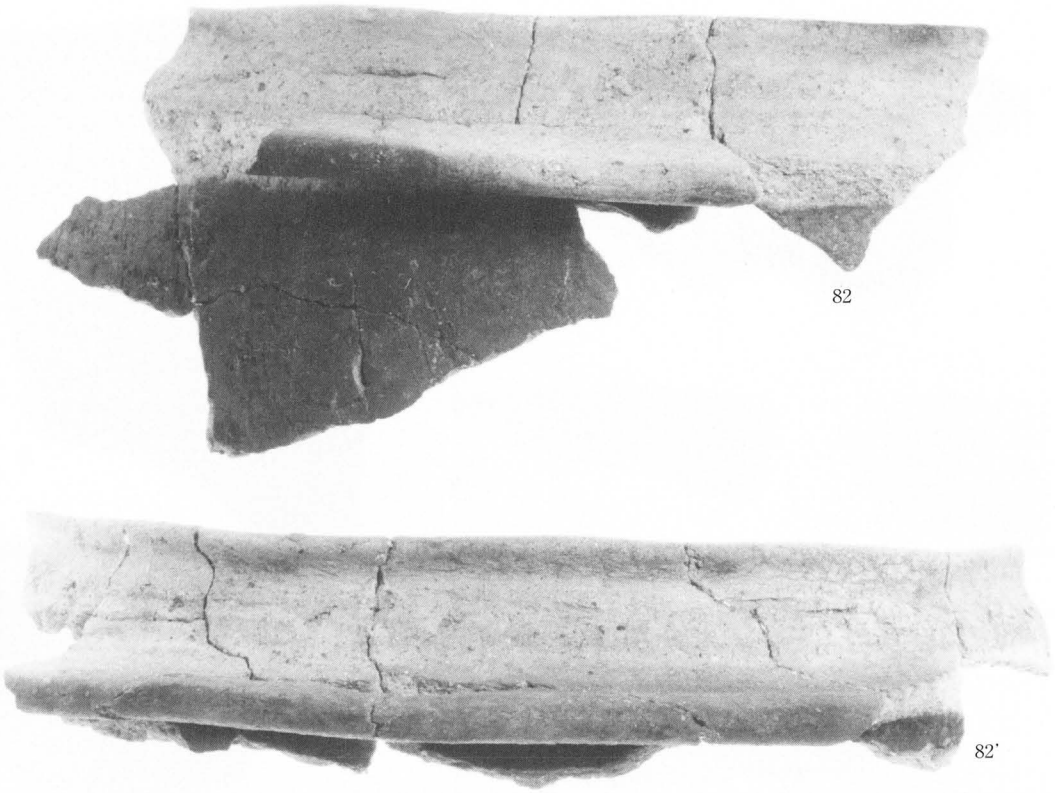
出土遺物（磁器・土師器・瓦器・瓦質土器）



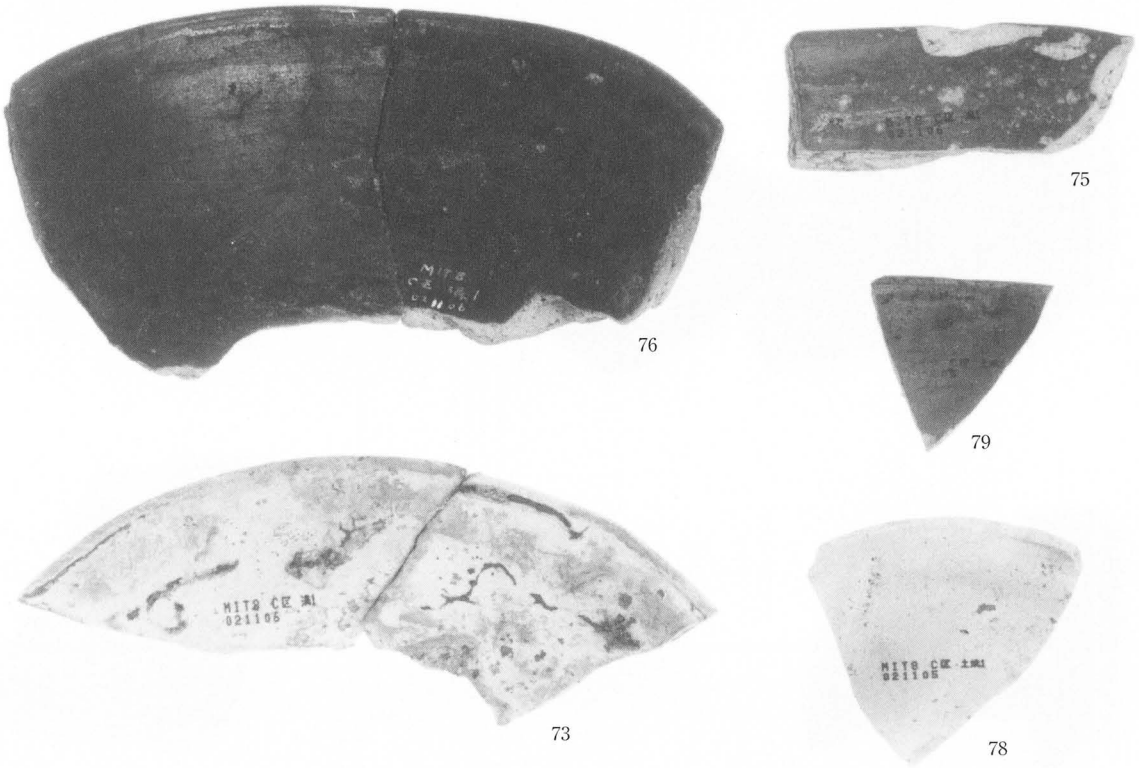
出土遺物（土師器・瓦器・灰釉陶器・土師質土器・須恵器・銭貨）



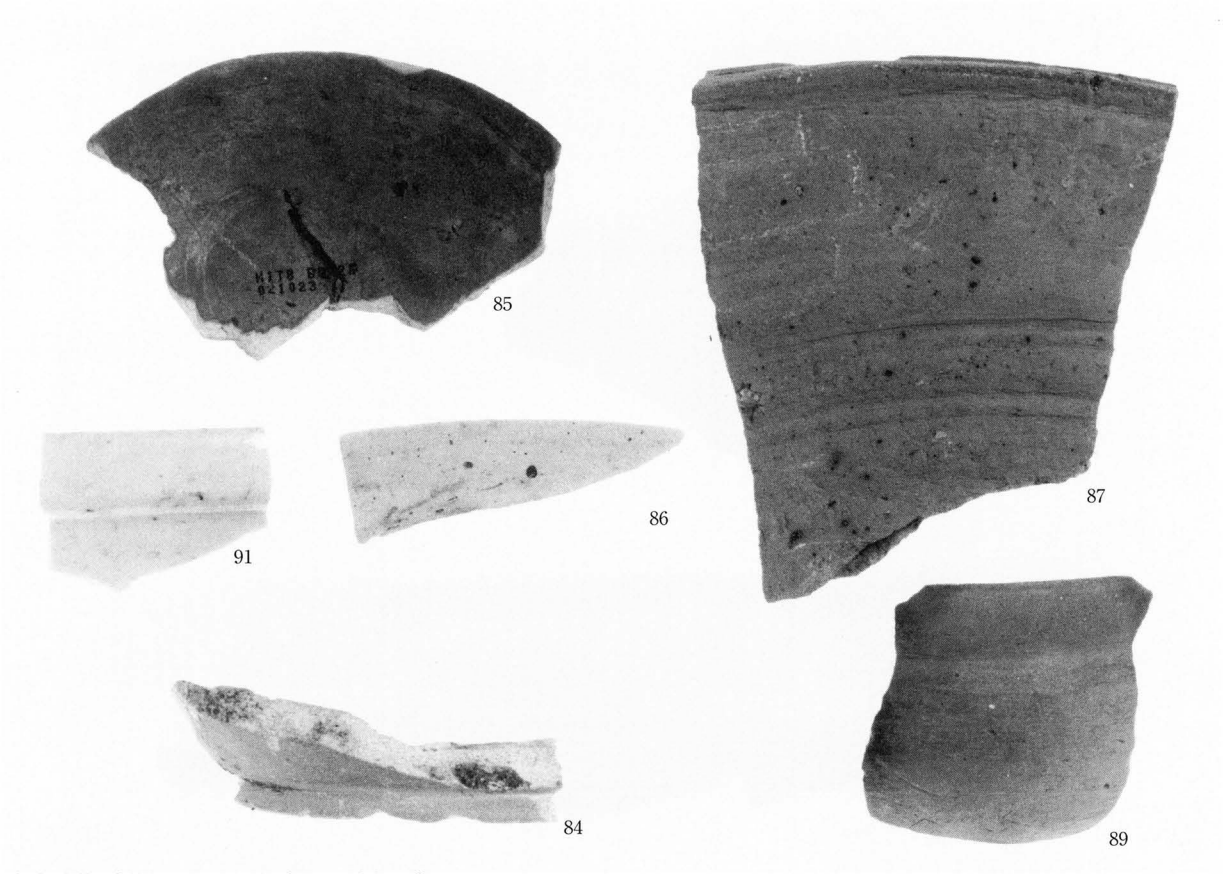
出土遺物（瓦器・土師器・土師質土器）



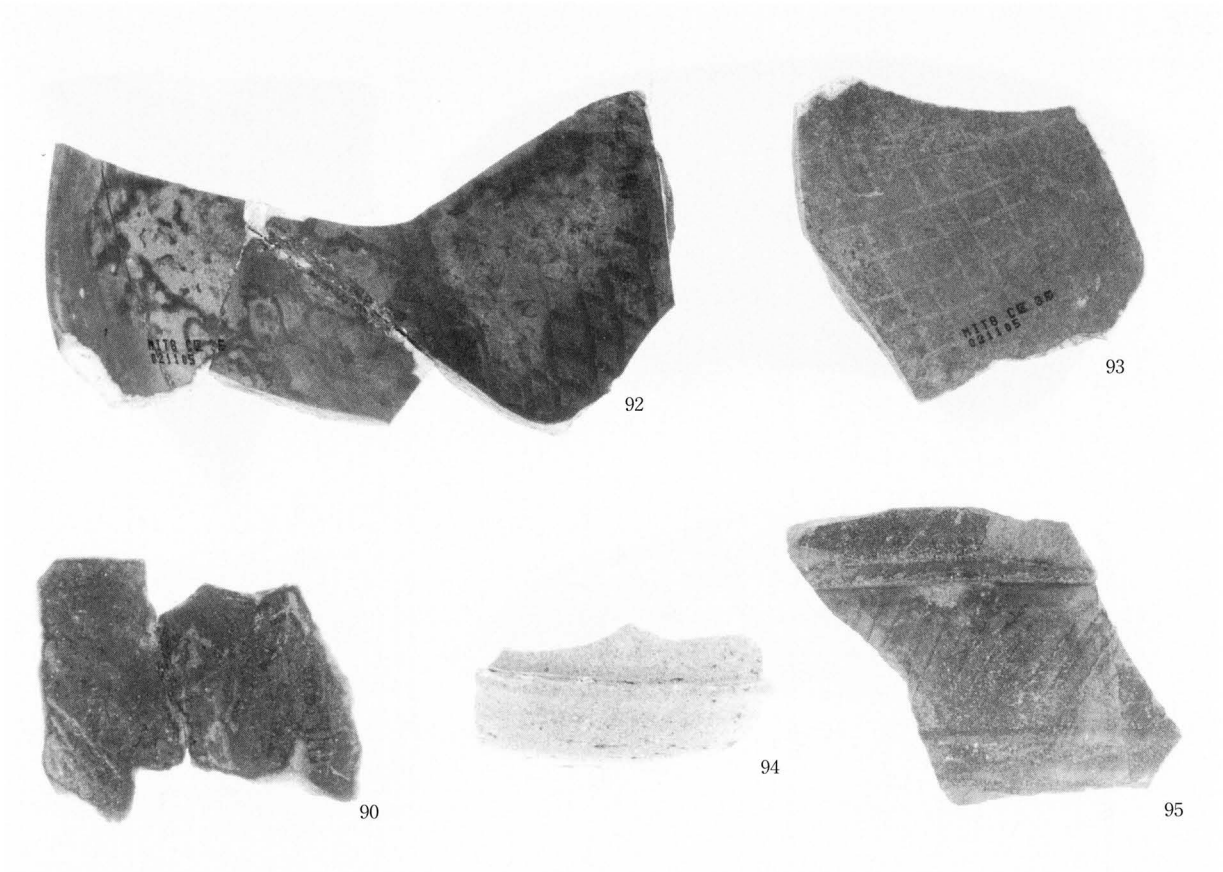
出土遺物（土師質土器）



出土遺物（瓦器・土師器）



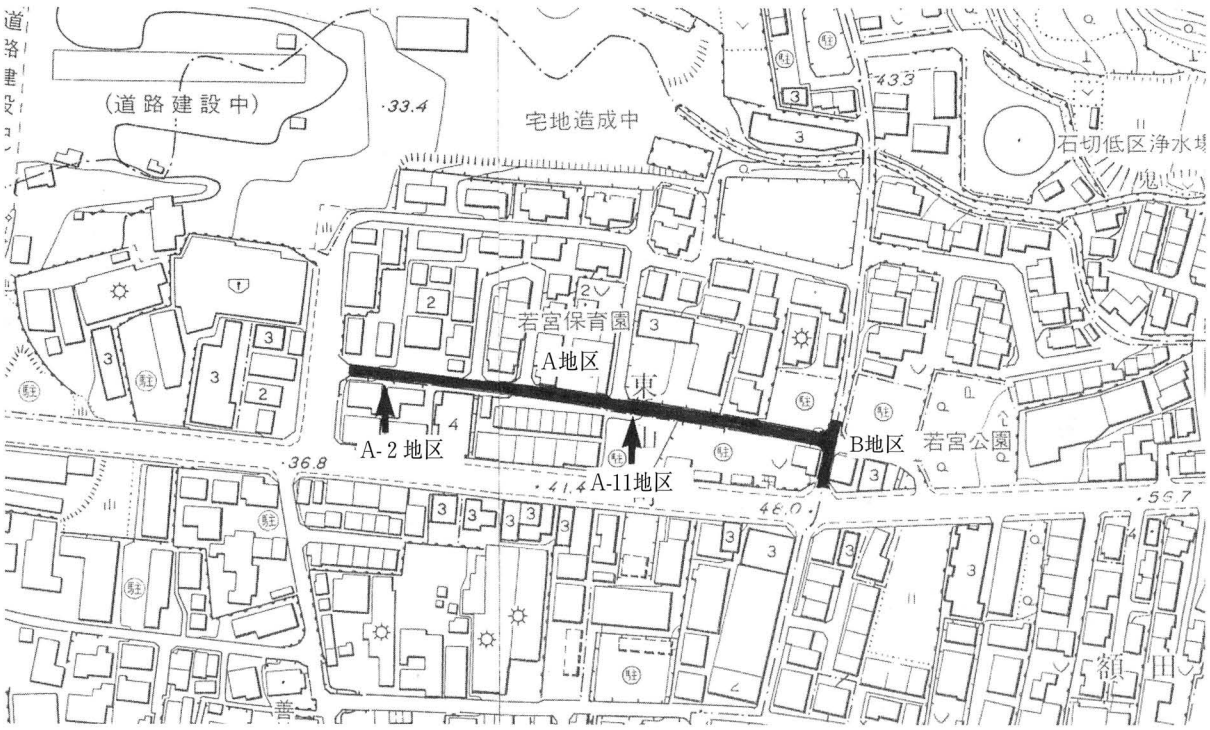
出土遺物（磁器・瓦器・須恵器・土師器）



出土遺物（黒色土器・瓦器・須恵器）

第34章　神並（こうなみ）遺跡・若宮（わかみや）古墳群の調査

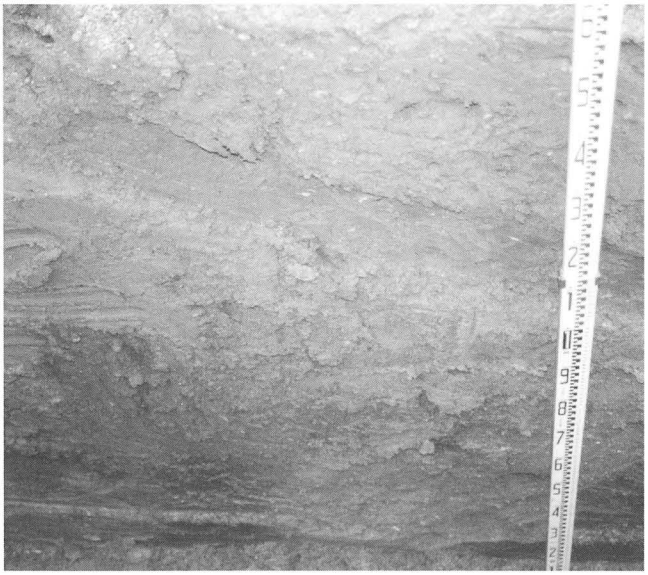
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第６工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市東山町 1113-1～1124-2、1125-4～1149-2
3	調査面積	282㎡
4	調査期間	平成14年11月27日～12月17日（延べ14日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は若宮保育園の南である。当地点は神並遺跡・若宮古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ336mの間であり、開削工法である。



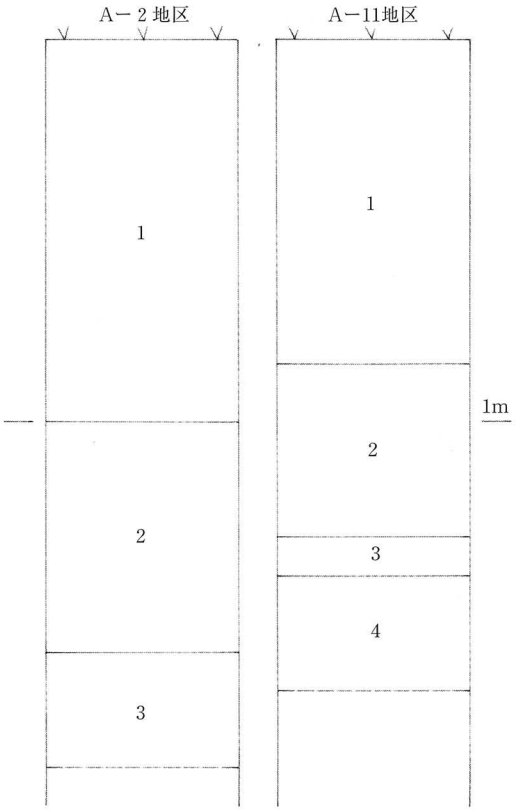
調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景

A－2地区土層断面



A－11地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～粘土。

第3層　黒褐色(10YR3/2)シルト～粘土。

A－11地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(7.5Y3/2)粘土質シルト。

第3層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)細礫混じり粘土。

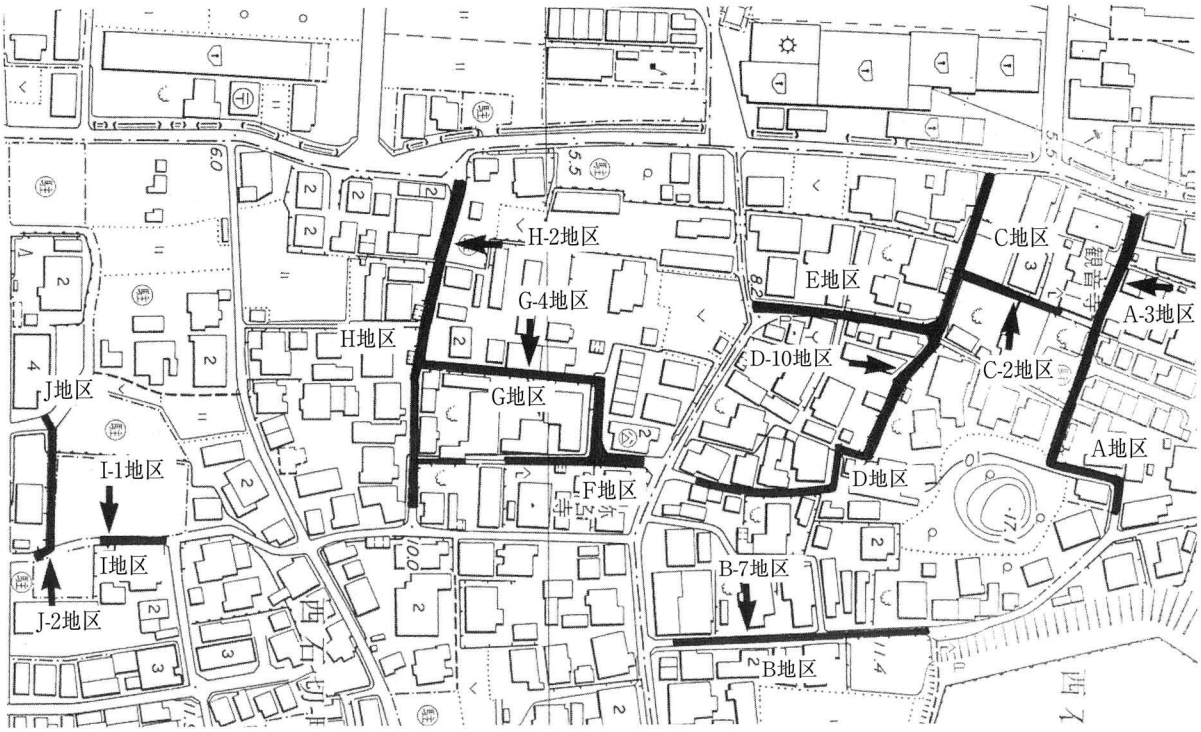
第4層　暗灰黄色(2.5Y4/2)微粒砂混じり粘土質シルト。

2．まとめ

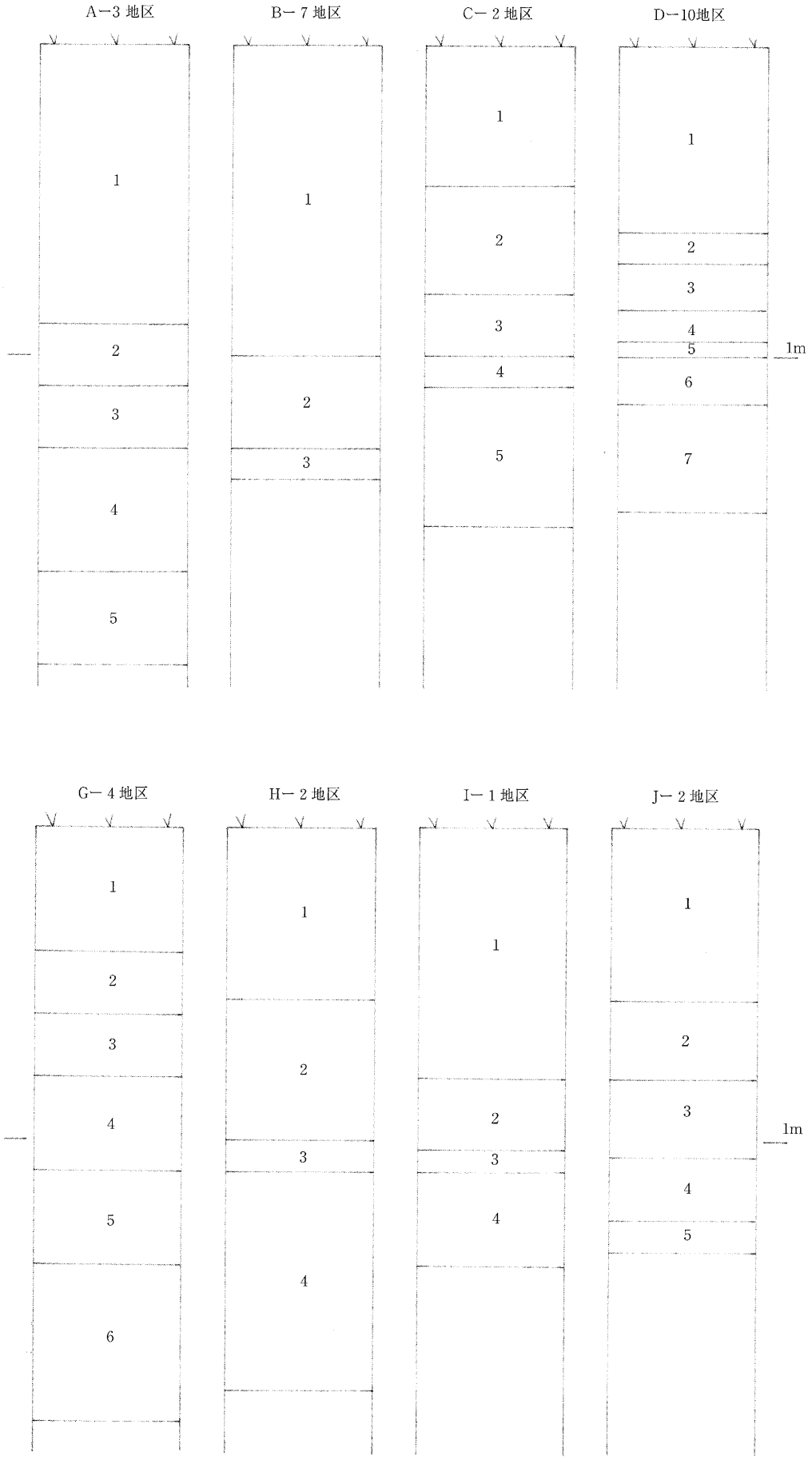
立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第35章　植附（うえつけ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第209工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市西石切町 2･3丁目283-1～291-2、281～278、243-1～258、246-1～249、225～229、227～229、207-1～220、123-2、158-1～126-1
3	調査面積	695㎡
4	調査期間	平成14年５月14日～12月19日（延べ71日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の北である。当地点は植附遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ828mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト。

第3層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘土。

第4層　暗オリーブ色(5Y4/3)粗粒砂混じりシルト。

第5層　暗緑灰色(5G4/1)粘土。

B－7地区の層序

第1層　盛土。

第2層　明黄褐色(10YR6/8)粘土。

第3層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ色(5Y4/4)粘質土。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/1)微粒砂混じりシルト。

第4層　灰黄褐色(10YR4/2)粘土～シルト。

第5層　黒褐色(2.5Y3/1)粘土～シルト。

D－10地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ褐色(2.5Y4/4)粘質シルト。

第3層　黒褐色(10YR3/2)粘質シルト。

第4層　にぶい黄色(2.5Y6/4)微粒砂。

第5層　黒褐色(10YR2/2)粘土。

第6層　灰オリーブ色(5Y4/2)粘土。

第7層　灰色(7.5Y5/1)微～粗粒砂混じりシルト。

G－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄色(2.5Y6/3)粘質シルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)粘土。

第4層　黒色(10YR2/1)粗粒砂混じりシルト。

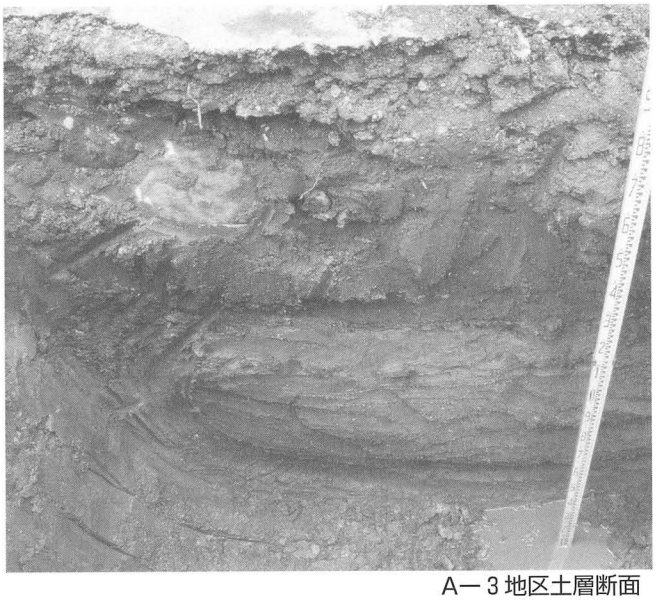
第5層　黒褐色(2.5Y3/2)シルト。

第6層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト。

H－2地区の層序

調査地遠景

調査状況



A－3地区土層断面

C－2地区土層断面

D－10地区土層断面

G－4地区土層断面

第1層　盛土。

第2層　黄褐色(2.5Y5/3)粘土～シルト。

第3層　黒褐色(7.5YR3/2)微粒砂混じり粘土。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)微粒砂混じりシルト。

Ｉ－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

第4層　黒褐色(2.5Y3/1)粘質シルト。

Ｊ－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/2)粗粒砂～中礫。

第3層　暗褐色(10YR3/3)細礫混じり粘土質シルト。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂～細礫。

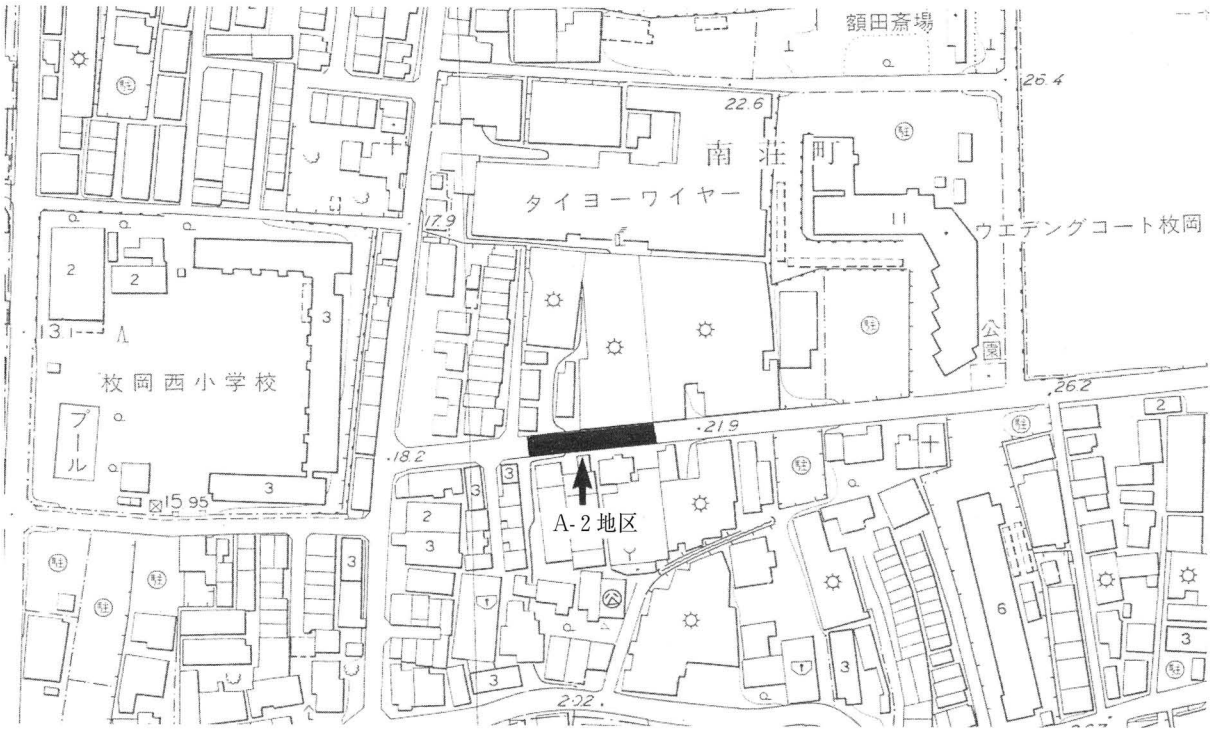
第5層　黄褐色(2.5Y5/3)シルト。

2．まとめ

立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。

第36章　鬼塚（おにづか）遺跡の調査

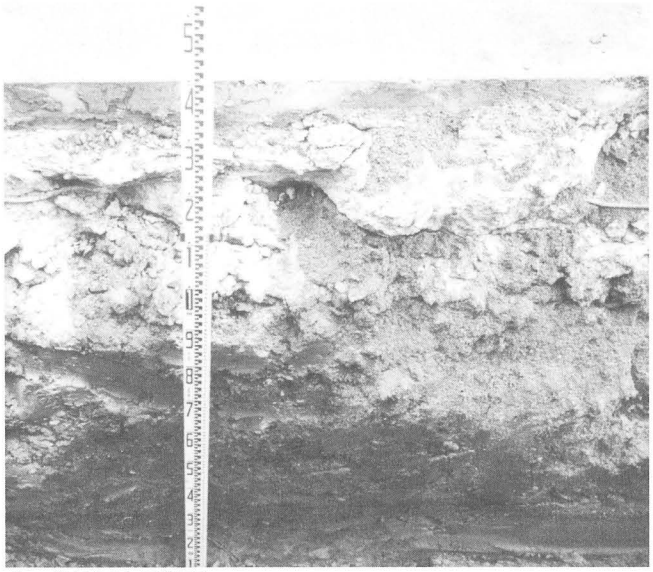
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道13－６工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市南荘町～立花町 1806-7～293-4
3	調査面積	76㎡
4	調査期間	平成14年12月27日（延べ１日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡西小学校の東である。当地点は鬼塚遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ89mの間であり、開削工法である。



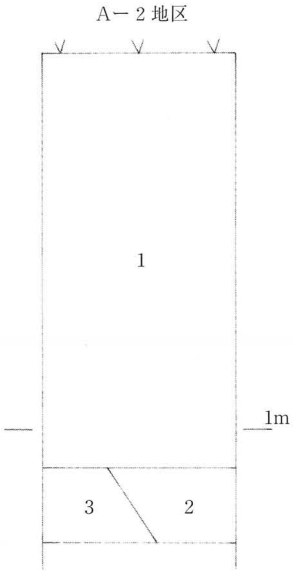
調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景

調査状況



A－2地区土層断面



土層断面柱状図

1．調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(5Y4/1)粘質シルト。

第3層　にぶい黄色(2.5Y6/3)粘質シルト。

2．まとめ

立会調査を実施したが、工事は既設管の入替であり遺構・遺物などは検出できなかった。

東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告
－平成 14 年度－
平成 15 年 3 月 31 日
発行所　東大阪市教育委員会
印刷所　ミヤビプリント社